

2022/05/30(月)11:56

授業科目名	キャリアビジョン（デベロップメント）3年生以上対象（集中講義）		
担当教員氏名	原田 淳		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	特に時間帯を定めない（事前にメールか電話で連絡し面談の予約をすること）。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	Zoomミーティングによるオンライン形式で実施する予定。授業日程に従って、講義形式と演習形式の授業を併用して進める。毎回の授業毎に受講レポートに要約、演習や実習による気づきを記すことを求める。		
単位数（時間数）	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科3年生以上対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア形成, ストレスマネジメント, マインドフルネス		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目の目標は、自分自身のキャリアを形成するうえで必要不可欠となる適切にストレスをコントロールする方法について理解することである。そして、心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を実習することにより、自分自身の身体感覚や呼吸に集中し、意識を“いま、ここ”に向けるマインドフルネスを習得する。		
授業の内容	心理・社会的なストレスの特徴について解説し、ストレスマネジメントの方向性について示す。対処法のひとつとして、心身相関的アプローチによる実践的なストレスマネジメントの技法を紹介する。また、ストレスとなる事象に直面したときに生じる心の動きについて説明し、過去の体験の振り返りを行うことにより望ましい認知のあり方について考える。加えて、学内の教員が仕事におけるストレスとの向き合い方について講話する。		
成績評価の方法	講義中の演習50%、レポート課題20%、期末レポート30%で評価する。		
テキスト	テキスト（教科書）は特に指定しない。		
参考文献	参考文献は授業の進行に応じて適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	演習はグループワークを行うため（Zoomミーティングの際はブレイクアウトルームを用いる）、積極的な参加姿勢をもつことを期待する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 企業に勤務経験のある教員が、その経験をふまえて、社会や職場で必要となるストレスのコントロールについて解説する。		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション ・現代社会とストレス ・ストレスマネジメントの必要性 ・実習（呼吸を整える）		
第2回	ストレスとストレス反応 ・ストレスが身体におよぼす影響 ・ストレスが心におよぼす影響 ・ストレスが行動におよぼす影響 ・実習（微細な動きを意識する）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第3回	心理・社会的ストレスの特徴 ・心理・社会的ストレスのしくみ ・心理・社会的ストレスのパターン ・実習（ブリージング・エクササイズ）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第4回	瞑想的運動法 ・実習（ブリージングエクササイズ、アイソメトリック運動）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第5回	ストレスマネジメントの方向性 ・安定した心とは	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第6回	好き・嫌いの感情を克服する ・好き・嫌いが生じるしくみ ・『人間万事塞翁が馬』	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第7回	呼吸の意識化、呼吸法 ・実習（呼吸の意識化、呼吸法）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	

第8回	レジリエンス ・レジリエンスとは ・演習（ライフラインチャート）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第9回	環境調整の方法 ・実習（セクショナルブリージング、完全呼吸法）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第10回	“いま、ここ”を生きる ・マインドフルネス	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第11回	瞑想法 ・実習（リラクゼーション反応、ヴィパッサナー瞑想）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第12回	不安への対処 ・実習（オープンモニタリング瞑想）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第13回	執着・こだわりからの解放 ・実習（呼吸法、瞑想法）	講話に関するレポートを作成する。
第14回	仕事とストレス ・東洋思想の教える仕事への取り組み方	講話に関するレポートを作成する。
第15回	まとめ ・実習（アイソメトリック運動、呼吸法、瞑想法） ・授業評価アンケート ・受講レポート提出に関する説明	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	インターンシップ (Q1・Q2火曜ペア)		
担当教員氏名	学科教員		
研究室の場所	広島キャンパス		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時 (アポを取ってください)		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、週1回の授業を、主に講義形式及び演習形式で実施する。実習は原則として夏期休業中に2週間行う。学生は、事前学習、実習、事後学習の欠席・遅刻・早退は認められない。すべての授業への参加と2週間の実習が義務づけられる。		
単位数(時間数)	2.0	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科2・3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析, 進路選択, 就業体験, 職業選択, 職業適性, ビジネスマナー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、将来職業に就くために、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめようとする学生を対象にして、就業体験をさせる。本科目の目標は、履修学生に、多様な職場や職業に対する関心を持たせるとともに、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えさせることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とすることができる。本科目は、全学共通教育科目のキャリア科目の一つとして位置づけられている。		
授業の内容	企業、行政機関、福祉施設、各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、自己目標を明確にするグループ別発表・討論を行う。実習は原則として夏期休業期間中の1週間以上とする。 事後学習では、就業体験の発表を、グループ別発表・討論として行うとともに、学内外に公開する全体報告会としても実施する。さらに、実習報告書を作成し、提出させる。		
成績評価の方法	事前学習及び事後学習における課題、授業及び実習の出席、実習受入先の評価、実習報告書等を総合して評価する。課題等については第1回の授業において提示する。課題、報告書等の提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。		
テキスト	a. 教科書 なし		
参考文献	b. 参考文献 第1回の授業において印刷資料として提示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。 履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。正当な理由なく、履修の途中での放棄、事前学習、実習、事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。実習において必要となる費用は、原則として学生の個人負担とする。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では、企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては、実践的な研修を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回	受講ガイダンス①(授業概要の説明、注意事項の伝達)	これまで学んできたことをふまえて、自分の将来について考えて整理する。	
第2回	受講ガイダンス②(企業の選択など) a) 前年度履修生報告会 b) 企業の選択など	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の候補をいくつか決める。	
第3回	受講ガイダンス③: 外部講師講話(概要) 仕事をするとは、社会・会社で働く(役割を果たす)とはどういうことかを考え、インターンシップ生として社会に飛び込む“心構え”を持つ。 講師: ジョータツ株式会社 代表取締役社長 竹田和憲	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の候補をいくつか決める。	
第4回	受講ガイダンス④(一次マッチングにかかる学内申し込み状況の説明と学内調整)	前回の資料を振り返り、インターンシップにおける自己目標などをまとめる。	

第5回	プレゼンテーション講座① 講師：公益財団法人マツダ財団 事務局長 魚谷滋己	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の企業について調べる。
第6回	プレゼンテーション講座② 講師：公益財団法人マツダ財団 事務局長 魚谷滋己	前回の資料を振り返り、プレゼンテーションの課題に取り組む。
第7回	プレゼンテーション講座③ 講師：公益財団法人マツダ財団 事務局長 魚谷滋己	前回の資料を振り返り、プレゼンテーションの課題に取り組む。
第8回	ビジネスマナー講座① 講師：広島秘書学院 学院長 平野敏子	前回の資料を振り返り、プレゼンテーションの課題に取り組む。
第9回	ビジネスマナー講座② 講師：広島秘書学院 学院長 平野敏子	前回の資料を振り返り、ビジネスマナーの課題に取り組む。
第10回	社会人入門講座 講師：県立広島大学 特任教授 山根英幸	前回の資料を振り返り、ビジネスマナーの課題に取り組む。
第11回	ビジネスマナー講座③ 講師：広島秘書学院 学院長 平野敏子	前回の資料を振り返り、社会人としての心構えをまとめる。
第12回	受入先業種別グループ発表会・討論会（概要）事前に受入先の業界や企業の業務内容・課題等を調べ、目的意識を明確にすること。そのうえで、実習にかかる自己目標を設定すること。	前回の資料を振り返り、ビジネスマナーの課題に取り組む。インターンシップ先の企業について研究し、自己目標などをまとめる。
第13回	最終調整と諸注意の伝達（概要）注意事項の伝達、事故・トラブル等の発生等の対応と連絡体制、実習要項の最終確認（誓約書の作成、日報・報告書・礼状の作成、提出方法等の連絡）	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の企業について研究し、自己目標などをまとめる。
第14回	受入先業種別グループ報告会（在学生、教職員に公開）	受入先業種別グループ報告会に向けた準備を行う。
第15回	合同報告会	合同報告会に向けた準備を行う。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	ひろしま理解 (Q2)		
担当教員氏名	鈴木 康之 (代表)		
研究室の場所	広島キャンパス 1912研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィシアワー	研究室に在室中は基本的に対応可。事前にメール等で連絡することが望ましい。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面による講義形式の授業。広島キャンパス発信の遠隔授業。		
単位数 (時間数)	2.0		学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目			
キーワード	広島県、地域、歴史、文化、地理、産業、呉、尾道、世羅、大崎上島、宮島		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>全学共通教育科目の地域課題に位置づける選択科目である。</p> <p>地域への理解を深めるための導入に相当する科目として、最も身近な地域である広島県域を取り上げ、この地域を知解するための初歩的・基本的事項を学修する。</p> <p>具体的には、この地域に特徴的な歴史・文化・地理・産業などの基本的事項を多様な視点から学修することにより、地域の現状を立体的に理解する。これにより、地域課題を発見し、その解決に取り組むための基礎的知識を修得する。</p>		
授業の内容	専門分野の異なる3名の教員が、それぞれの研究分野から広島県域を理解するための方法を提示する。第1～5回を鈴木康之、第6～10回を和田崇、第11～15回を大知徳子が担当する。		
成績評価の方法	各教員がそれぞれ提示した課題に対するレポートを作成し、レポート3本の平均点によって、総合的に評価する。		
テキスト	授業時間に指示する。		
参考文献	岸田裕之 (編) 『広島県の歴史』 山川出版社 その他、授業時間に指示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を活かした実践的な教育について】 この科目では、教育委員会で文化財保護行政、博物館開設・経営の経験を有する教員が、地域の文化資源を理解し、活用する方策について指導する。		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンスーひろしまとはどのような場所？ー	広島県地域とは、どのような特徴をもつ場所なのか考えておく。	
第2回	ひろしまの歴史ー原始・古代ー	原始・古代の広島県地域のあゆみについて調べておく	
第3回	ひろしまの歴史ー中世ー	中世の広島県地域のあゆみについて調べておく。	
第4回	ひろしまの歴史ー近世ー	近世の広島県地域のあゆみについて調べておく。	
第5回	ひろしまの歴史ー近現代そして未来ー	近現代の広島県地域のあゆみについて調べるとともに、未来への展望について考えておく。	
第6回	水の都・広島	太田川沿いを歩いて感じたことをまとめておこう。	
第7回	海軍とカレーの街・呉	呉海軍カレーを食べて感じたことをまとめておこう。	
第8回	映画の街・尾道	大林監督について調べておこう。	
第9回	駅伝の町・世羅	世羅高校陸上競技部について調べておこう。	
第10回	レモンの島・大崎上島	ひろしま夢ばらざなどで瀬戸内レモン商品をチェックしておこう。	
第11回	厳島と宮島	宮島に関する情報を宮島観光協会等のHPで調べておきましょう。 宮島観光協会 https://www.miyajima.or.jp/	

第12回	厳島神社の宝物	厳島神社の文化財について調べておきましょう。
第13回	描かれた宮島	宮島を描いた作品について調べておきましょう。
第14回	厳島神社の絵馬	宮島VRツアーズを利用して豊国神社（千畳閣）の絵馬を見ておきましょう。 宮島VRツアーズ http://www.hiroshima-jp.com/vt/miyajima/
第15回	宮島の祭	宮島で執り行われる祭りの種類を調べておきましょう。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	地域情報発信論（前期集中）		
担当教員氏名	広谷大助, 藤井宣彰, 吉田倫子, 伊藤俊 他 (広島キャンパス主担当 広谷大助)		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業（状況によってはオンライン（リアルタイム）で実施） 前期集中講義（4日間。2022年8月29日（月）～9月1日（木）の予定） サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む		
単位数（時間数）	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	地域創生学科, 国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 2～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, デイバート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。 本科目は, 全学共通教育「広島と世界」(旧課程), 「地域課題」(新課程)に位置づけられる。		
授業の内容	新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み, 課題を設定した上で, 現地へ出向いて取材し, 意見交換を経て記事をまとめるなど, 地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに, グループで課題解決への提案をまとめ, ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。		
成績評価の方法	課題レポート(50%) グループ討議, ポスター発表を含む, 授業への参加度(50%) なお, 単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする		
テキスト	事前に配付される新聞を用いる		
参考文献	適宜紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は, 掲示により確認すること。 また, 本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため, 4日間全ての出席が必須となる。よって, 1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。 なお, フィールドワークにかかる費用及び試験期間中の新聞購読代金は自己負担となる。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により, 取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回			
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			

第15回	
第16回	
授業計画	<p>授業の流れは概ね次のとおり（一部変更の可能性あり）</p> <p>事前課題：試読期間（7月下旬）に配付された新聞を読み，記事を選んで概要をまとめ，意見を述べる</p> <p>第1日：オリエンテーション，事前課題の確認，新聞の読み方 第2日：取材計画，写真撮影・取材実習（フィールドワーク） 第3日：グループ討議，記事風レポート作成・発表 第4日：ポスター制作，ポスター発表，振り返り討議</p> <p>期間中の課題：翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む</p> <p>事後課題：授業で学び得たことを踏まえて，新たな課題を発見し，レポートをまとめる</p>
シラバス備考	
URLリンク1	
URLリンク2	
URLリンク3	

授業科目名	食と健康 Q3 (2019以前生活化学読替)		
担当教員氏名	長尾 則男		
研究室の場所	庄原キャンパス 4504研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面で授業を行う。新型コロナウイルスの影響で内容や方式が変わることがあります。 詳細は初回にて説明を行う(あるいは文書等で示す)。 授業及び資料配布、レポートのやりとり等は大学ポータルあるいはOffice365 Teams等を介して行う 予定なので各自確認・準備をしておくこと。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	生物資源科学部 1～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	食, 栄養, 健康, 調理, 加工, アレルギー, 生活習慣病		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	健康と食をとりまく状況について講義を展開し, 生物資源科学分野に必要な知識を理解できるよう, また, 今後学んでいく専門領域への橋渡しとなるよう, 基礎知識の充実を目的とし, 初年次生学生を想定して授業を進める。		
授業の内容	食と健康をとりまく諸問題について事例を紹介しながら, 食の栄養・生理機能について興味・関心を高め, 食の役割を理解し, 化学的, 生物学な思考ができるようになることを目指す。具体的には, 食の健康維持機能, 疾病との関連, 疾病予防等々について解説する。		
成績評価の方法	出席状況は重視する。5回以上の欠席は評価の対象外とする。 出席確認として毎回, 小テストを行う。 課題レポート・小テスト50%、定期試験50%の割合で評価する。 小テストの実施方法や課題の提出方法については, 授業時間内に指示する。		
テキスト	特定の教科書は用いない。プリント, スライド等を用いて講義する。		
参考文献	日経サイエンス編集部 (2020) 食と健康 (別冊日経サイエンス237) 日本経済新聞出版社 スティーブン・レ 著, 大沢 章子 翻訳 (2017) 食と健康の一億年史 亜紀書房		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	授業に関する連絡方法はその都度, 授業内での連絡で行う。 質問, 疑問等はメール経由時で随時受け付け対応する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 民間化学メーカーでの分析業務の勤務経験を生かし, 食品成分を定量分析する方法を取り上げる (第7回)。		

授業計画	準備学習	
第1回	食の必要性・意義について。 「食と健康」で取り扱う領域を説明する。	「食」とは何なのか。「食」の必要性や意義について考えます。シラバスで授業内容を理解しておいてください。
第2回	食と栄養 5大栄養素や栄養素を取り込む体のしくみについて学ぶ。	5大栄養素についてネットや図書館資料等を当たってみてください。
第3回	食とエネルギー 食品中に含まれるエネルギーについて説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第4回	味覚 5基本味について学ぶ。化学調味料を取り上げる。	取り上げる内容についてネットや書籍等で歴史や製造法について調べてみてください。
第5回	食欲 食欲、ヘルスケア、ダイエット等について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第6回	調理 調理理論、調理技術について学ぶ。	取り上げる内容についてネットや書籍等で原理や反応について調べてみてください。
第7回	食品加工 食品加工技術について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第8回	機能性食品成分 機能性食品成分について説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等で調べてみてください。
第9回	生体内酸化ストレス 生体内の酸化ストレスに対する食物成分の作用について	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。

	て学ぶ。	
第10回	食の安全性 食の安全、安心、品質保証について説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等で歴史や取り組みについて調べてみてください。
第11回	生活習慣病（糖尿病等代謝疾患）予防と食生活 糖尿病の食事による予防とコントロールについて説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第12回	生活習慣病予防(循環器疾患)と食生活 循環器疾患(動脈硬化等)と食事療法について説明する。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第13回	食物アレルギー 食物アレルギーの原因物質とそのしくみ、症状、さらにアレルギー表示について取り上げる。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第14回	高齢者の食 高齢者の「食」の問題 について説明する。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第15回	食を取り巻く問題点、健康と食生活のまとめ 「食と健康」で取り上げた内容を振り返る。	「食と健康」でこれまでに取り上げた内容で興味を持ったものについて、自分なりに調べて説明できるように準備してください。
第16回	定期試験	
授業計画		
シラバス備考	レポート作成を通じて知識を整理することでさらに理解が深まることを指向する「復習」として、単元ごとに各講義で取り上げる内容について自分なりに調べて、図示、図解して手書きレポートA4紙1枚としてまとめることを課す。	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	博物館概論 (Q3)		
担当教員氏名	鈴木 康之		
研究室の場所	広島キャンパス 1912研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィシアワー	研究室に在室中は基本的に対応可。事前にメール等で連絡することが望ましい。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業による講義形式。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	地域文化コース2年次対象		
免許等指定科目	学芸員資格に係る必修		
キーワード	博物館、学芸員、資料、展示、収集、保存、学習支援、法規		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	博物館学芸員資格取得のための必修科目。学芸員養成に関する諸科目の入門的な役割を果たす科目である。博物館の専門的業務に従事する学芸員をめざすうえで必要とされる、基礎的知識と能力を養う。 こうした授業の位置づけから、2年次で履修することが望ましい。		
授業の内容	博物館とは何か、学芸員はそこでどのような役割を担うのかを包括的に学習する。現在の博物館をとりまく状況を理解するなかから、自らのめざす学芸員像を思い描いて欲しい。 授業の中で、2～3本のレポート課題を提示する。実際に博物館・美術館・資料館などを見学し、その成果をレポートにまとめること。		
成績評価の方法	レポート(20%)と期末試験(80%)によって評価する。レポートによって自らのめざす学芸員像がイメージできているか、期末試験によって基礎知識の習得度を評価する。		
テキスト	特定のテキストは使用しない。プリントを配布する。		
参考文献	オノユウリ『美術館で働くということ』KADOKAWA/メディアファクトリー、倉田公裕ほか『博物館学』東京堂出版、神奈川県博物館協会編『学芸員の仕事』岩田書院、木下史青『博物館へ行こう』岩波書店		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	学芸員資格を取得するための入門に相当する授業です。 博物館について学ぶためには、まず博物館に行かなければ何も学べません。キャンパスメンバーズ制度を利用して、多くの博物館・美術館・資料館に行ってみてください。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 この科目では、公立博物館の開設・運営に関する実務経験を持つ教員が、博物館に関する基礎的な知識と、その専門職員である学芸員に求められる理論を実践的な事例にもとづいて指導する。		
授業計画	準備学習		
第1回	博物館学芸員とは	博物館において学芸員はどのような仕事をしているのかを考えてみる。	
第2回	博物館の歴史	現在のような博物館は、どのようにして形成されてきたのか、その歴史を考えてみる。	
第3回	博物館の定義と種類	動物園や水族館も博物館に含まれる。なぜだろう。どのような共通点があるのか。考えをまとめておく。	
第4回	博物館の目的と機能	博物館は何のために存在しているの、どのような役割を担っているのか、考えをまとめておく。	
第5回	博物館の組織と職員	博物館を機能させるためにはそのような運営組織が必要か、考えをまとめておく。	
第6回	博物館資料とその収集	魅力的な博物館のコレクションを形成するにはどうすればいいのか?考えをまとめておく。	
第7回	博物館資料の情報化	博物館と情報処理、どのような関係があるのか考えておく。	
第8回	展示	自分の行ったことのある博物館でどのような展示が行われていたかを思い出してみる。	
第9回	資料の保存	博物館資料はなぜ劣化するのか?それを防ぐためにはどうすればいいのか?考えをまとめておく。	

第10回	資料の取り扱い	博物館資料の取り扱いに際してどのような点に注意すべきか、考えをまとめておく。
第11回	学校教育と博物館	博物館は学校教育にどのような貢献ができるのか？考えをまとめておく。
第12回	生涯学習と博物館	教育と学習の違いについて考えをまとめておく。
第13回	地域社会とのコミュニケーション	博物館とそれが所在する地域とがどのような関係をもっているのか、考えをまとめておく。
第14回	博物館関連法規	博物館に関連する法律が果たす役割について考えておく。
第15回	空想展覧会（プレゼンテーション）	これまでの学習を踏まえ、自分が学芸員であったらどのような展覧会を企画・運営するのかをまとめておく。
第16回		
授業計画	博物館はなぜ存在するのか、そこではどのような事業が展開され、専門職員である学芸員はそのような役割を果たすのかを、新聞記事なども取り上げながら具体的に考察する。最終回の事業では、各自の学習成果を踏まえて、自分ならどのような展覧会や行事を企画するかを「空想展覧会」としてプレゼンテーションする。	
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2022/05/30(月)11:56

授業科目名	キャリアビジョン（デベロップメント）3年生以上対象（集中講義）		
担当教員氏名	原田 淳		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	特に時間帯を定めない（事前にメールか電話で連絡し面談の予約をすること）。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	Zoomミーティングによるオンライン形式で実施する予定。授業日程に従って、講義形式と演習形式の授業を併用して進める。毎回の授業毎に受講レポートに要約、演習や実習による気づきを記すことを求める。		
単位数（時間数）	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科3年生以上対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア形成, ストレスマネジメント, マインドフルネス		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目の目標は、自分自身のキャリアを形成するうえで必要不可欠となる適切にストレスをコントロールする方法について理解することである。そして、心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を実習することにより、自分自身の身体感覚や呼吸に集中し、意識を“いま、ここ”に向けるマインドフルネスを習得する。		
授業の内容	心理・社会的なストレスの特徴について解説し、ストレスマネジメントの方向性について示す。対処法のひとつとして、心身相関的アプローチによる実践的なストレスマネジメントの技法を紹介する。また、ストレスとなる事象に直面したときに生じる心の動きについて説明し、過去の体験の振り返りをすることにより望ましい認知のあり方について考える。加えて、学内の教員が仕事におけるストレスとの向き合い方について講話する。		
成績評価の方法	講義中の演習50%、レポート課題20%、期末レポート30%で評価する。		
テキスト	テキスト（教科書）は特に指定しない。		
参考文献	参考文献は授業の進行に応じて適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	演習はグループワークを行うため（Zoomミーティングの際はブレイクアウトルームを用いる）、積極的な参加姿勢をもつことを期待する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 企業に勤務経験のある教員が、その経験をふまえて、社会や職場で必要となるストレスのコントロールについて解説する。		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション ・現代社会とストレス ・ストレスマネジメントの必要性 ・実習（呼吸を整える）		
第2回	ストレスとストレス反応 ・ストレスが身体におよぼす影響 ・ストレスが心におよぼす影響 ・ストレスが行動におよぼす影響 ・実習（微細な動きを意識する）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第3回	心理・社会的ストレスの特徴 ・心理・社会的ストレスのしくみ ・心理・社会的ストレスのパターン ・実習（ブリージング・エクササイズ）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第4回	瞑想的運動法 ・実習（ブリージングエクササイズ、アイソメトリック運動）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第5回	ストレスマネジメントの方向性 ・安定した心とは	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第6回	好き・嫌いの感情を克服する ・好き・嫌いが生じるしくみ ・『人間万事塞翁が馬』	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第7回	呼吸の意識化、呼吸法 ・実習（呼吸の意識化、呼吸法）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	

第8回	レジリエンス ・レジリエンスとは ・演習（ライフラインチャート）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第9回	環境調整の方法 ・実習（セクショナルブリージング、完全呼吸法）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第10回	“いま、ここ”を生きる ・マインドフルネス	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第11回	瞑想法 ・実習（リラクゼーション反応、ヴィパッサナー瞑想）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第12回	不安への対処 ・実習（オープンモニタリング瞑想）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第13回	執着・こだわりからの解放 ・実習（呼吸法、瞑想法）	講話に関するレポートを作成する。
第14回	仕事とストレス ・東洋思想の教える仕事への取り組み方	講話に関するレポートを作成する。
第15回	まとめ ・実習（アイソメトリック運動、呼吸法、瞑想法） ・授業評価アンケート ・受講レポート提出に関する説明	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	インターンシップ (Q1・Q2火曜ペア)		
担当教員氏名	学科教員		
研究室の場所	広島キャンパス		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィシアワー	随時 (アポを取ってください)		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、週1回の授業を、主に講義形式及び演習形式で実施する。実習は原則として夏期休業中に2週間行う。学生は、事前学習、実習、事後学習の欠席・遅刻・早退は認められない。すべての授業への参加と2週間の実習が義務づけられる。		
単位数(時間数)	2.0	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科2・3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析, 進路選択, 就業体験, 職業選択, 職業適性, ビジネスマナー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、将来職業に就くために、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめようとする学生を対象にして、就業体験をさせる。本科目の目標は、履修学生に、多様な職場や職業に対する関心を持たせるとともに、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えさせることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とすることができる。本科目は、全学共通教育科目のキャリア科目の一つとして位置づけられている。		
授業の内容	企業、行政機関、福祉施設、各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、自己目標を明確にするグループ別発表・討論を行う。実習は原則として夏期休業期間中の1週間以上とする。 事後学習では、就業体験の発表を、グループ別発表・討論として行うとともに、学内外に公開する全体報告会としても実施する。さらに、実習報告書を作成し、提出させる。		
成績評価の方法	事前学習及び事後学習における課題、授業及び実習の出席、実習受入先の評価、実習報告書等を総合して評価する。課題等については第1回の授業において提示する。課題、報告書等の提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。		
テキスト	a. 教科書 なし		
参考文献	b. 参考文献 第1回の授業において印刷資料として提示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。 履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。正当な理由なく、履修の中途での放棄、事前学習、実習、事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。実習において必要となる費用は、原則として学生の個人負担とする。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では、企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては、実践的な研修を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回	受講ガイダンス①(授業概要の説明、注意事項の伝達)	これまで学んできたことをふまえて、自分の将来について考えて整理する。	
第2回	受講ガイダンス②(企業の選択など) a) 前年度履修生報告会 b) 企業の選択など	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の候補をいくつか決める。	
第3回	受講ガイダンス③: 外部講師講話(概要) 仕事をするとは、社会・会社で働く(役割を果たす)とはどういうことかを考え、インターンシップ生として社会に飛び込む“心構え”を持つ。 講師: ジョータツ株式会社 代表取締役社長 竹田和憲	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の候補をいくつか決める。	
第4回	受講ガイダンス④(一次マッチングにかかる学内申し込み状況の説明と学内調整)	前回の資料を振り返り、インターンシップにおける自己目標などをまとめる。	

第5回	プレゼンテーション講座① 講師：公益財団法人マツダ財団 事務局長 魚谷滋己	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の企業について調べる。
第6回	プレゼンテーション講座② 講師：公益財団法人マツダ財団 事務局長 魚谷滋己	前回の資料を振り返り、プレゼンテーションの課題に取り組む。
第7回	プレゼンテーション講座③ 講師：公益財団法人マツダ財団 事務局長 魚谷滋己	前回の資料を振り返り、プレゼンテーションの課題に取り組む。
第8回	ビジネスマナー講座① 講師：広島秘書学院 学院長 平野敏子	前回の資料を振り返り、プレゼンテーションの課題に取り組む。
第9回	ビジネスマナー講座② 講師：広島秘書学院 学院長 平野敏子	前回の資料を振り返り、ビジネスマナーの課題に取り組む。
第10回	社会人入門講座 講師：県立広島大学 特任教授 山根英幸	前回の資料を振り返り、ビジネスマナーの課題に取り組む。
第11回	ビジネスマナー講座③ 講師：広島秘書学院 学院長 平野敏子	前回の資料を振り返り、社会人としての心構えをまとめる。
第12回	受入先業種別グループ発表会・討論会（概要）事前に受入先の業界や企業の業務内容・課題等を調べ、目的意識を明確にすること。そのうえで、実習にかかる自己目標を設定すること。	前回の資料を振り返り、ビジネスマナーの課題に取り組む。インターンシップ先の企業について研究し、自己目標などをまとめる。
第13回	最終調整と諸注意の伝達（概要）注意事項の伝達、事故・トラブル等の発生等の対応と連絡体制、実習要項の最終確認（誓約書の作成、日報・報告書・礼状の作成、提出方法等の連絡）	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の企業について研究し、自己目標などをまとめる。
第14回	受入先業種別グループ報告会（在学生、教職員に公開）	受入先業種別グループ報告会に向けた準備を行う。
第15回	合同報告会	合同報告会に向けた準備を行う。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	ひろしま理解 (Q2)		
担当教員氏名	鈴木 康之 (代表)		
研究室の場所	広島キャンパス 1912研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィシアワー	研究室に在室中は基本的に対応可。事前にメール等で連絡することが望ましい。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面による講義形式の授業。広島キャンパス発信の遠隔授業。		
単位数 (時間数)	2.0		学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目			
キーワード	広島県、地域、歴史、文化、地理、産業、呉、尾道、世羅、大崎上島、宮島		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>全学共通教育科目の地域課題に位置づける選択科目である。</p> <p>地域への理解を深めるための導入に相当する科目として、最も身近な地域である広島県域を取り上げ、この地域を知解するための初歩的・基本的事項を学修する。</p> <p>具体的には、この地域に特徴的な歴史・文化・地理・産業などの基本的事項を多様な視点から学修することにより、地域の現状を立体的に理解する。これにより、地域課題を発見し、その解決に取り組むための基礎的知識を修得する。</p>		
授業の内容	専門分野の異なる3名の教員が、それぞれの研究分野から広島県域を理解するための方法を提示する。第1～5回を鈴木康之、第6～10回を和田崇、第11～15回を大知徳子が担当する。		
成績評価の方法	各教員がそれぞれ提示した課題に対するレポートを作成し、レポート3本の平均点によって、総合的に評価する。		
テキスト	授業時間に指示する。		
参考文献	岸田裕之 (編) 『広島県の歴史』 山川出版社 その他、授業時間に指示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を活かした実践的な教育について】 この科目では、教育委員会で文化財保護行政、博物館開設・経営の経験を有する教員が、地域の文化資源を理解し、活用する方策について指導する。		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンスーひろしまとはどのような場所？ー	広島県地域とは、どのような特徴をもつ場所なのか考えておく。	
第2回	ひろしまの歴史ー原始・古代ー	原始・古代の広島県地域のあゆみについて調べておく	
第3回	ひろしまの歴史ー中世ー	中世の広島県地域のあゆみについて調べておく。	
第4回	ひろしまの歴史ー近世ー	近世の広島県地域のあゆみについて調べておく。	
第5回	ひろしまの歴史ー近現代そして未来ー	近現代の広島県地域のあゆみについて調べるとともに、未来への展望について考えておく。	
第6回	水の都・広島	太田川沿いを歩いて感じたことをまとめておこう。	
第7回	海軍とカレーの街・呉	呉海軍カレーを食べて感じたことをまとめておこう。	
第8回	映画の街・尾道	大林監督について調べておこう。	
第9回	駅伝の町・世羅	世羅高校陸上競技部について調べておこう。	
第10回	レモンの島・大崎上島	ひろしま夢ばらざなどで瀬戸内レモン商品をチェックしておこう。	
第11回	厳島と宮島	宮島に関する情報を宮島観光協会等のHPで調べておきましょう。 宮島観光協会 https://www.miyajima.or.jp/	

第12回	厳島神社の宝物	厳島神社の文化財について調べておきましょう。
第13回	描かれた宮島	宮島を描いた作品について調べておきましょう。
第14回	厳島神社の絵馬	宮島VRツアーズを利用して豊国神社（千畳閣）の絵馬を見ておきましょう。 宮島VRツアーズ http://www.hiroshima-jp.com/vt/miyajima/
第15回	宮島の祭	宮島で執り行われる祭りの種類を調べておきましょう。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	地域情報発信論（前期集中）		
担当教員氏名	広谷大助, 藤井宣彰, 吉田倫子, 伊藤俊 他 (広島キャンパス主担当 広谷大助)		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業（状況によってはオンライン（リアルタイム）で実施） 前期集中講義（4日間。2022年8月29日（月）～9月1日（木）の予定） サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む		
単位数（時間数）	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	地域創生学科, 国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 2～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, デイバート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。 本科目は, 全学共通教育「広島と世界」(旧課程), 「地域課題」(新課程)に位置づけられる。		
授業の内容	新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み, 課題を設定した上で, 現地へ出向いて取材し, 意見交換を経て記事をまとめるなど, 地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに, グループで課題解決への提案をまとめ, ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。		
成績評価の方法	課題レポート(50%) グループ討議, ポスター発表を含む, 授業への参加度(50%) なお, 単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする		
テキスト	事前に配付される新聞を用いる		
参考文献	適宜紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は, 掲示により確認すること。 また, 本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため, 4日間全ての出席が必須となる。よって, 1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。 なお, フィールドワークにかかる費用及び試験期間中の新聞購読代金は自己負担となる。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により, 取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回			
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			

第15回	
第16回	
授業計画	<p>授業の流れは概ね次のとおり（一部変更の可能性あり）</p> <p>事前課題：試読期間（7月下旬）に配付された新聞を読み，記事を選んで概要をまとめ，意見を述べる</p> <p>第1日：オリエンテーション，事前課題の確認，新聞の読み方 第2日：取材計画，写真撮影・取材実習（フィールドワーク） 第3日：グループ討議，記事風レポート作成・発表 第4日：ポスター制作，ポスター発表，振り返り討議</p> <p>期間中の課題：翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む</p> <p>事後課題：授業で学び得たことを踏まえて，新たな課題を発見し，レポートをまとめる</p>
シラバス備考	
URLリンク1	
URLリンク2	
URLリンク3	

授業科目名	食と健康 Q3 (2019以前生活化学読替)		
担当教員氏名	長尾 則男		
研究室の場所	庄原キャンパス 4504研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面で授業を行う。新型コロナウイルスの影響で内容や方式が変わることがあります。 詳細は初回にて説明を行う(あるいは文書等で示す)。 授業及び資料配布、レポートのやりとり等は大学ポータルあるいはOffice365 Teams等を介して行う 予定なので各自確認・準備をしておくこと。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	生物資源科学部 1～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	食, 栄養, 健康, 調理, 加工, アレルギー, 生活習慣病		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	健康と食をとりまく状況について講義を展開し, 生物資源科学分野に必要な知識を理解できるよう, また, 今後学んでいく専門領域への橋渡しとなるよう, 基礎知識の充実を目的とし, 初年次生学生を想定して授業を進める。		
授業の内容	食と健康をとりまく諸問題について事例を紹介しながら, 食の栄養・生理機能について興味・関心を高め, 食の役割を理解し, 化学的, 生物学な思考ができるようになることを目指す。具体的には, 食の健康維持機能, 疾病との関連, 疾病予防等々について解説する。		
成績評価の方法	出席状況は重視する。5回以上の欠席は評価の対象外とする。 出席確認として毎回, 小テストを行う。 課題レポート・小テスト50%、定期試験50%の割合で評価する。 小テストの実施方法や課題の提出方法については, 授業時間内に指示する。		
テキスト	特定の教科書は用いない。プリント, スライド等を用いて講義する。		
参考文献	日経サイエンス編集部 (2020) 食と健康 (別冊日経サイエンス237) 日本経済新聞出版社 スティーブン・レ 著, 大沢 章子 翻訳 (2017) 食と健康の一億年史 亜紀書房		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	授業に関する連絡方法はその都度, 授業内での連絡で行う。 質問, 疑問等はメール経由時で随時受け付け対応する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 民間化学メーカーでの分析業務の勤務経験を生かし, 食品成分を定量分析する方法を取り上げる (第7回)。		

授業計画	準備学習	
第1回	食の必要性・意義について。 「食と健康」で取り扱う領域を説明する。	「食」とは何なのか。「食」の必要性や意義について考えます。シラバスで授業内容を理解しておいてください。
第2回	食と栄養 5大栄養素や栄養素を取り込む体のしくみについて学ぶ。	5大栄養素についてネットや図書館資料等を当たってみてください。
第3回	食とエネルギー 食品中に含まれるエネルギーについて説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第4回	味覚 5基本味について学ぶ。化学調味料を取り上げる。	取り上げる内容についてネットや書籍等で歴史や製造法について調べてみてください。
第5回	食欲 食欲、ヘルスケア、ダイエット等について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第6回	調理 調理理論、調理技術について学ぶ。	取り上げる内容についてネットや書籍等で原理や反応について調べてみてください。
第7回	食品加工 食品加工技術について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第8回	機能性食品成分 機能性食品成分について説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等で調べてみてください。
第9回	生体内酸化ストレス 生体内の酸化ストレスに対する食物成分の作用について	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。

	て学ぶ。	
第10回	食の安全性 食の安全、安心、品質保証について説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等で歴史や取り組みについて調べてみてください。
第11回	生活習慣病（糖尿病等代謝疾患）予防と食生活 糖尿病の食事による予防とコントロールについて説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第12回	生活習慣病予防(循環器疾患)と食生活 循環器疾患(動脈硬化等)と食事療法について説明する。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第13回	食物アレルギー 食物アレルギーの原因物質とそのしくみ、症状、さらにアレルギー表示について取り上げる。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第14回	高齢者の食 高齢者の「食」の問題 について説明する。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第15回	食を取り巻く問題点、健康と食生活のまとめ 「食と健康」で取り上げた内容を振り返る。	「食と健康」でこれまでに取り上げた内容で興味を持ったものについて、自分なりに調べて説明できるように準備してください。
第16回	定期試験	
授業計画		
シラバス備考	レポート作成を通じて知識を整理することでさらに理解が深まることを指向する「復習」として、単元ごとに各講義で取り上げる内容について自分なりに調べて、図示、図解して手書きレポートA4紙1枚としてまとめることを課す。	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	解剖学・病理学 I (Q3)		
担当教員氏名	北台 靖彦		
研究室の場所	広島キャンパス 1426 研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	月・木の午後		
E-mail/HP	kitadai@pu-hiroshima.ac.jp		
授業の形式・方式	対面授業の予定。新型コロナウイルス感染状況などを考慮してオンライン授業になる場合もある。 教員の指示に従うこと。 オンライン授業の場合、Teamsを使用して行うので、授業開始時間までに視聴準備をしておくこと。 出席も、Teamsを使って行う。受講者は案内があるので各自Teamsに登録しておくこと。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	地域創生学部地域創生学科健康科学コース 1年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	医学、医療、医の倫理、健康、病気の内因外因、炎症、腫瘍、診断学、剖検、解剖学、病理学、人体の構造と機能		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目の目標は人体の構造や機能を解剖学と病理学を通して、系統的に理解することである。 医学には、自然科学としての医学（基礎医学、臨床医学、予防医学と保健学、環境医学、産業医学、医療情報学）、社会科学としての医学（医療システム、福祉医療、医療経済学）があり、その特徴を理解する。医療においては、医師、看護師、コメディカルのチーム医療により質の高い医療行為がおこなわれ、さらに健康教育も実践し、予防においても重要な役割を演じていることを学ぶ。また医学の進歩と病気の成り立ちを理解する。本科目は、専門教育科目の関連科目に区分されている。管理栄養士養成施設のカリキュラムには、専門基礎分野の教育内容の一つとして「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」の規定があり、本科目は当該分野の一つとして位置づけられている。		
授業の内容	授業内容は医学概論と解剖学、病理学概論の三つから構成される。 ①医学概論：「医学とは何か」「それがどのような方向に発展しつつあるか」という医学の本質について、医学の歴史も学びながら理解・考察する。医学には、自然科学としての医学、社会科学としての医学があり、その特徴を理解する。 ②解剖学を通して、人体の構造や機能について理解を深める。具体的には、消化器系、循環器系、腎・尿路系、内分泌系、神経系、呼吸器系、運動器系、生殖器系、血液・リンパ・凝固系、の機能と構造を理解する。 ③病理学を通して、主要疾患の成因、病態、診断、治療等を理解する。		
成績評価の方法	成績は、中間試験、期末試験、課題レポート、出席で評価する。試験は対面で実施し、ノート、教科書持込み不可で実施する		
テキスト	栄養科学イラストレイテッド「解剖生理学」 羊土社		
参考文献	栄養科学イラストレイテッド演習版、「解剖生理学」 ノート 羊土社（教科書に沿った問題集のようなものです。） 臨床につながる 解剖学 イラストレイテッド 羊土社		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	医学の基礎である解剖学の講義を行う。本講義の内容を理解していないと、解剖学や臨床医学の講義内容が理解できない。教科書に沿って講義をするので、事前に教科書を読んでおくこと。		

授業計画		準備学習
第1回	医学概論 細胞と組織	教科書1章を予習
第2回	消化器系	教科書2章を予習
第3回	血液・リンパ・凝固系	教科書3章を予習
第4回	循環器系	教科書4章を予習
第5回	呼吸器系	教科書5章を予習
第6回	腎・尿路系	教科書6章を予習
第7回	生殖器系	教科書7章を予習

第8回	中間試験	これまでの授業の復習
第9回	筋・骨格系	教科書8～9章を予習
第10回	内分泌系	教科書10章を予習
第11回	神経系	教科書11章を予習
第12回	感覚器・皮膚組織、体温調節	教科書12・14章を予習
第13回	免疫系	教科書13章を予習
第14回	期末試験	これまでの授業の復習
第15回	期末試験 解答・解説	期末試験の問題を見直す
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2022/05/30(月)11:56

授業科目名	キャリアビジョン（デベロップメント）3年生以上対象（集中講義）		
担当教員氏名	原田 淳		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	特に時間帯を定めない（事前にメールか電話で連絡し面談の予約をすること）。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	Zoomミーティングによるオンライン形式で実施する予定。授業日程に従って、講義形式と演習形式の授業を併用して進める。毎回の授業毎に受講レポートに要約、演習や実習による気づきを記すことを求める。		
単位数（時間数）	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科3年生以上対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア形成, ストレスマネジメント, マインドフルネス		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目の目標は、自分自身のキャリアを形成するうえで必要不可欠となる適切にストレスをコントロールする方法について理解することである。そして、心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を実習することにより、自分自身の身体感覚や呼吸に集中し、意識を“いま、ここ”に向けるマインドフルネスを習得する。		
授業の内容	心理・社会的なストレスの特徴について解説し、ストレスマネジメントの方向性について示す。対処法のひとつとして、心身相関的アプローチによる実践的なストレスマネジメントの技法を紹介する。また、ストレスとなる事象に直面したときに生じる心の動きについて説明し、過去の体験の振り返りをすることにより望ましい認知のあり方について考える。加えて、学内の教員が仕事におけるストレスとの向き合い方について講話する。		
成績評価の方法	講義中の演習50%、レポート課題20%、期末レポート30%で評価する。		
テキスト	テキスト（教科書）は特に指定しない。		
参考文献	参考文献は授業の進行に応じて適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	演習はグループワークを行うため（Zoomミーティングの際はブレイクアウトルームを用いる）、積極的な参加姿勢をもつことを期待する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 企業に勤務経験のある教員が、その経験をふまえて、社会や職場で必要となるストレスのコントロールについて解説する。		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション ・現代社会とストレス ・ストレスマネジメントの必要性 ・実習（呼吸を整える）		
第2回	ストレスとストレス反応 ・ストレスが身体におよぼす影響 ・ストレスが心におよぼす影響 ・ストレスが行動におよぼす影響 ・実習（微細な動きを意識する）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第3回	心理・社会的ストレスの特徴 ・心理・社会的ストレスのしくみ ・心理・社会的ストレスのパターン ・実習（ブリージング・エクササイズ）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第4回	瞑想的運動法 ・実習（ブリージングエクササイズ、アイソメトリック運動）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第5回	ストレスマネジメントの方向性 ・安定した心とは	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第6回	好き・嫌いの感情を克服する ・好き・嫌いが生じるしくみ ・『人間万事塞翁が馬』	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第7回	呼吸の意識化、呼吸法 ・実習（呼吸の意識化、呼吸法）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	

第8回	レジリエンス ・レジリエンスとは ・演習（ライフラインチャート）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第9回	環境調整の方法 ・実習（セクショナルブリージング、完全呼吸法）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第10回	“いま、ここ”を生きる ・マインドフルネス	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第11回	瞑想法 ・実習（リラクゼーション反応、ヴィパッサナー瞑想）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第12回	不安への対処 ・実習（オープンモニタリング瞑想）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第13回	執着・こだわりからの解放 ・実習（呼吸法、瞑想法）	講話に関するレポートを作成する。
第14回	仕事とストレス ・東洋思想の教える仕事への取り組み方	講話に関するレポートを作成する。
第15回	まとめ ・実習（アイソメトリック運動、呼吸法、瞑想法） ・授業評価アンケート ・受講レポート提出に関する説明	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	インターンシップ (Q1・Q2火曜ペア)		
担当教員氏名	学科教員		
研究室の場所	広島キャンパス		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィシアワー	随時 (アポを取ってください)		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、週1回の授業を、主に講義形式及び演習形式で実施する。実習は原則として夏期休業中に2週間行う。学生は、事前学習、実習、事後学習の欠席・遅刻・早退は認められない。すべての授業への参加と2週間の実習が義務づけられる。		
単位数(時間数)	2.0	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科2・3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析, 進路選択, 就業体験, 職業選択, 職業適性, ビジネスマナー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、将来職業に就くために、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめようとする学生を対象にして、就業体験をさせる。本科目の目標は、履修学生に、多様な職場や職業に対する関心を持たせるとともに、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えさせることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とすることができる。本科目は、全学共通教育科目のキャリア科目の一つとして位置づけられている。		
授業の内容	企業、行政機関、福祉施設、各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、自己目標を明確にするグループ別発表・討論を行う。実習は原則として夏期休業期間中の1週間以上とする。 事後学習では、就業体験の発表を、グループ別発表・討論として行うとともに、学内外に公開する全体報告会としても実施する。さらに、実習報告書を作成し、提出させる。		
成績評価の方法	事前学習及び事後学習における課題、授業及び実習の出席、実習受入先の評価、実習報告書等を総合して評価する。課題等については第1回の授業において提示する。課題、報告書等の提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。		
テキスト	a. 教科書 なし		
参考文献	b. 参考文献 第1回の授業において印刷資料として提示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。 履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。正当な理由なく、履修の中途での放棄、事前学習、実習、事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。実習において必要となる費用は、原則として学生の個人負担とする。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では、企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては、実践的な研修を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回	受講ガイダンス①(授業概要の説明、注意事項の伝達)	これまで学んできたことをふまえて、自分の将来について考えて整理する。	
第2回	受講ガイダンス②(企業の選択など) a) 前年度履修生報告会 b) 企業の選択など	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の候補をいくつか決める。	
第3回	受講ガイダンス③: 外部講師講話(概要) 仕事をするとは、社会・会社で働く(役割を果たす)とはどういうことかを考え、インターンシップ生として社会に飛び込む“心構え”を持つ。 講師: ジョータツ株式会社 代表取締役社長 竹田和憲	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の候補をいくつか決める。	
第4回	受講ガイダンス④(一次マッチングにかかる学内申し込み状況の説明と学内調整)	前回の資料を振り返り、インターンシップにおける自己目標などをまとめる。	

第5回	プレゼンテーション講座① 講師：公益財団法人マツダ財団 事務局長 魚谷滋己	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の企業について調べる。
第6回	プレゼンテーション講座② 講師：公益財団法人マツダ財団 事務局長 魚谷滋己	前回の資料を振り返り、プレゼンテーションの課題に取り組む。
第7回	プレゼンテーション講座③ 講師：公益財団法人マツダ財団 事務局長 魚谷滋己	前回の資料を振り返り、プレゼンテーションの課題に取り組む。
第8回	ビジネスマナー講座① 講師：広島秘書学院 学院長 平野敏子	前回の資料を振り返り、プレゼンテーションの課題に取り組む。
第9回	ビジネスマナー講座② 講師：広島秘書学院 学院長 平野敏子	前回の資料を振り返り、ビジネスマナーの課題に取り組む。
第10回	社会人入門講座 講師：県立広島大学 特任教授 山根英幸	前回の資料を振り返り、ビジネスマナーの課題に取り組む。
第11回	ビジネスマナー講座③ 講師：広島秘書学院 学院長 平野敏子	前回の資料を振り返り、社会人としての心構えをまとめる。
第12回	受入先業種別グループ発表会・討論会（概要）事前に受入先の業界や企業の業務内容・課題等を調べ、目的意識を明確にすること。そのうえで、実習にかかる自己目標を設定すること。	前回の資料を振り返り、ビジネスマナーの課題に取り組む。インターンシップ先の企業について研究し、自己目標などをまとめる。
第13回	最終調整と諸注意の伝達（概要）注意事項の伝達、事故・トラブル等の発生等の対応と連絡体制、実習要項の最終確認（誓約書の作成、日報・報告書・礼状の作成、提出方法等の連絡）	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の企業について研究し、自己目標などをまとめる。
第14回	受入先業種別グループ報告会（在学生、教職員に公開）	受入先業種別グループ報告会に向けた準備を行う。
第15回	合同報告会	合同報告会に向けた準備を行う。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	ひろしま理解 (Q2)		
担当教員氏名	鈴木 康之 (代表)		
研究室の場所	広島キャンパス 1912研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィシアワー	研究室に在室中は基本的に対応可。事前にメール等で連絡することが望ましい。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面による講義形式の授業。広島キャンパス発信の遠隔授業。		
単位数 (時間数)	2.0		学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目			
キーワード	広島県、地域、歴史、文化、地理、産業、呉、尾道、世羅、大崎上島、宮島		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>全学共通教育科目の地域課題に位置づける選択科目である。</p> <p>地域への理解を深めるための導入に相当する科目として、最も身近な地域である広島県域を取り上げ、この地域を知解するための初歩的・基本的事項を学修する。</p> <p>具体的には、この地域に特徴的な歴史・文化・地理・産業などの基本的事項を多様な視点から学修することにより、地域の現状を立体的に理解する。これにより、地域課題を発見し、その解決に取り組むための基礎的知識を修得する。</p>		
授業の内容	専門分野の異なる3名の教員が、それぞれの研究分野から広島県域を理解するための方法を提示する。第1～5回を鈴木康之、第6～10回を和田崇、第11～15回を大知徳子が担当する。		
成績評価の方法	各教員がそれぞれ提示した課題に対するレポートを作成し、レポート3本の平均点によって、総合的に評価する。		
テキスト	授業時間に指示する。		
参考文献	岸田裕之 (編) 『広島県の歴史』 山川出版社 その他、授業時間に指示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を活かした実践的な教育について】 この科目では、教育委員会で文化財保護行政、博物館開設・経営の経験を有する教員が、地域の文化資源を理解し、活用する方策について指導する。		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンスーひろしまとはどのような場所？ー	広島県地域とは、どのような特徴をもつ場所なのか考えておく。	
第2回	ひろしまの歴史ー原始・古代ー	原始・古代の広島県地域のあゆみについて調べておく	
第3回	ひろしまの歴史ー中世ー	中世の広島県地域のあゆみについて調べておく。	
第4回	ひろしまの歴史ー近世ー	近世の広島県地域のあゆみについて調べておく。	
第5回	ひろしまの歴史ー近現代そして未来ー	近現代の広島県地域のあゆみについて調べるとともに、未来への展望について考えておく。	
第6回	水の都・広島	太田川沿いを歩いて感じたことをまとめておこう。	
第7回	海軍とカレーの街・呉	呉海軍カレーを食べて感じたことをまとめておこう。	
第8回	映画の街・尾道	大林監督について調べておこう。	
第9回	駅伝の町・世羅	世羅高校陸上競技部について調べておこう。	
第10回	レモンの島・大崎上島	ひろしま夢ばらざなどで瀬戸内レモン商品をチェックしておこう。	
第11回	厳島と宮島	宮島に関する情報を宮島観光協会等のHPで調べておきましょう。 宮島観光協会 https://www.miyajima.or.jp/	

第12回	厳島神社の宝物	厳島神社の文化財について調べておきましょう。
第13回	描かれた宮島	宮島を描いた作品について調べておきましょう。
第14回	厳島神社の絵馬	宮島VRツアーズを利用して豊国神社（千畳閣）の絵馬を見ておきましょう。 宮島VRツアーズ http://www.hiroshima-jp.com/vt/miyajima/
第15回	宮島の祭	宮島で執り行われる祭りの種類を調べておきましょう。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	地域情報発信論（前期集中）		
担当教員氏名	広谷大助, 藤井宣彰, 吉田倫子, 伊藤俊 他 (広島キャンパス主担当 広谷大助)		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業（状況によってはオンライン（リアルタイム）で実施） 前期集中講義（4日間。2022年8月29日（月）～9月1日（木）の予定） サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む		
単位数（時間数）	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	地域創生学科, 国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 2～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, デイバート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。 本科目は, 全学共通教育「広島と世界」（旧課程）, 「地域課題」（新課程）に位置づけられる。		
授業の内容	新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み, 課題を設定した上で, 現地へ出向いて取材し, 意見交換を経て記事をまとめるなど, 地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに, グループで課題解決への提案をまとめ, ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。		
成績評価の方法	課題レポート（50%） グループ討議, ポスター発表を含む, 授業への参加度（50%） なお, 単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする		
テキスト	事前に配付される新聞を用いる		
参考文献	適宜紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は, 掲示により確認すること。 また, 本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため, 4日間全ての出席が必須となる。よって, 1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。 なお, フィールドワークにかかる費用及び試験期間中の新聞購読代金は自己負担となる。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により, 取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回			
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			

第15回	
第16回	
授業計画	<p>授業の流れは概ね次のとおり（一部変更の可能性あり）</p> <p>事前課題：試読期間（7月下旬）に配付された新聞を読み，記事を選んで概要をまとめ，意見を述べる</p> <p>第1日：オリエンテーション，事前課題の確認，新聞の読み方 第2日：取材計画，写真撮影・取材実習（フィールドワーク） 第3日：グループ討議，記事風レポート作成・発表 第4日：ポスター制作，ポスター発表，振り返り討議</p> <p>期間中の課題：翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む</p> <p>事後課題：授業で学び得たことを踏まえて，新たな課題を発見し，レポートをまとめる</p>
シラバス備考	
URLリンク1	
URLリンク2	
URLリンク3	

授業科目名	食と健康 Q3 (2019以前生活化学読替)		
担当教員氏名	長尾 則男		
研究室の場所	庄原キャンパス 4504研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面で授業を行う。新型コロナウイルスの影響で内容や方式が変わることがあります。 詳細は初回にて説明を行う(あるいは文書等で示す)。 授業及び資料配布、レポートのやりとり等は大学ポータルあるいはOffice365 Teams等を介して行う 予定なので各自確認・準備をしておくこと。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	生物資源科学部 1～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	食, 栄養, 健康, 調理, 加工, アレルギー, 生活習慣病		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	健康と食をとりまく状況について講義を展開し, 生物資源科学分野に必要な知識を理解できるよう, また, 今後学んでいく専門領域への橋渡しとなるよう, 基礎知識の充実を目的とし, 初年次生学生を想定して授業を進める。		
授業の内容	食と健康をとりまく諸問題について事例を紹介しながら, 食の栄養・生理機能について興味・関心を高め, 食の役割を理解し, 化学的, 生物学な思考ができるようになることを目指す。具体的には, 食の健康維持機能, 疾病との関連, 疾病予防等々について解説する。		
成績評価の方法	出席状況は重視する。5回以上の欠席は評価の対象外とする。 出席確認として毎回, 小テストを行う。 課題レポート・小テスト50%、定期試験50%の割合で評価する。 小テストの実施方法や課題の提出方法については, 授業時間内に指示する。		
テキスト	特定の教科書は用いない。プリント, スライド等を用いて講義する。		
参考文献	日経サイエンス編集部 (2020) 食と健康 (別冊日経サイエンス237) 日本経済新聞出版社 スティーブン・レ 著, 大沢 章子 翻訳 (2017) 食と健康の一億年史 亜紀書房		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	授業に関する連絡方法はその都度, 授業内での連絡で行う。 質問, 疑問等はメール経由時で随時受け付け対応する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 民間化学メーカーでの分析業務の勤務経験を生かし, 食品成分を定量分析する方法を取り上げる (第7回)。		

授業計画	準備学習	
第1回	食の必要性・意義について。 「食と健康」で取り扱う領域を説明する。	「食」とは何なのか。「食」の必要性や意義について考えます。シラバスで授業内容を理解しておいてください。
第2回	食と栄養 5大栄養素や栄養素を取り込む体のしくみについて学ぶ。	5大栄養素についてネットや図書館資料等を当たってみてください。
第3回	食とエネルギー 食品中に含まれるエネルギーについて説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第4回	味覚 5基本味について学ぶ。化学調味料を取り上げる。	取り上げる内容についてネットや書籍等で歴史や製造法について調べてみてください。
第5回	食欲 食欲、ヘルスケア、ダイエット等について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第6回	調理 調理理論、調理技術について学ぶ。	取り上げる内容についてネットや書籍等で原理や反応について調べてみてください。
第7回	食品加工 食品加工技術について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第8回	機能性食品成分 機能性食品成分について説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等で調べてみてください。
第9回	生体内酸化ストレス 生体内の酸化ストレスに対する食物成分の作用について	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。

	て学ぶ。	
第10回	食の安全性 食の安全、安心、品質保証について説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等で歴史や取り組みについて調べてみてください。
第11回	生活習慣病（糖尿病等代謝疾患）予防と食生活 糖尿病の食事による予防とコントロールについて説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第12回	生活習慣病予防(循環器疾患)と食生活 循環器疾患(動脈硬化等)と食事療法について説明する。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第13回	食物アレルギー 食物アレルギーの原因物質とそのしくみ、症状、さらにアレルギー表示について取り上げる。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第14回	高齢者の食 高齢者の「食」の問題 について説明する。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第15回	食を取り巻く問題点、健康と食生活のまとめ 「食と健康」で取り上げた内容を振り返る。	「食と健康」でこれまでに取り上げた内容で興味を持ったものについて、自分なりに調べて説明できるように準備してください。
第16回	定期試験	
授業計画		
シラバス備考	レポート作成を通じて知識を整理することでさらに理解が深まることを指向する「復習」として、単元ごとに各講義で取り上げる内容について自分なりに調べて、図示、図解して手書きレポートA4紙1枚としてまとめることを課す。	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	技術マネジメント論 (Q3)		
担当教員氏名	魚谷 滋己		
研究室の場所			
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィシアワー			
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って講義形式を進めるが、適宜、全4回の宿題（レポート提出）を課し、次回の講義の開始時に提出。レポート内容と実際の企業での実践例を基にした討議を適宜実施する。学生は、授業に出席し、宿題のレポートを作成・提出すること、討議に参画することが義務付けられる。		
単位数（時間数）	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科, 経営情報学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	MOT,製品開発マネジメント、製品戦略、製品戦略策定プロセス、製品開発、製品開発プロセス、製品開発組織		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、技術経営（MOT）の基本的な概念・考え方を修得し、技術経営において基本的に抑えるべき視点を理解する事を目標とする。		
授業の内容	「製品開発」は企業競争力の源泉である。一方で、失敗するとリスクは甚大となる。そのマネジメントは企業経営そのものと言っても過言ではない。製品開発の上位にある製品戦略も含め技術経営の構成要素について、その基本的内容を解説し、自動車製造企業の実例を紹介しながら、企業の存続～成長には何が必要かを、受講生を中心とした討議を通して考察する。更に、仕上げとして、実際の企業見学を通じて、考察した内容につき技術経営の視点から受講生自ら確認する。		
成績評価の方法	授業期間を通して、適宜、合計4回のレポート提出を課す。また、講義の節目に5回程度、集中討議を実施する。評価は、レポート内容（70%）と、討議への参画度合・討議内容・積極性（30%）とで総合評価する。試験は実施しない。		
テキスト			
参考文献	延岡健太郎「製品開発の知識」日経文庫 日本経済新聞出版社 延岡健太郎「MOT[技術経営]入門」 日本経済新聞出版社		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	授業内容の理解のため事前に参考文献（特に「製品開発の知識」日経文庫）を一読する事を推奨する。 企業見学の日程等については変更する事があります。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 広島所在の自動車製造企業に長年勤務した教員が、その実務経験を活かして、自動車業界を中心とした日本の製造業の製品・技術開発の戦略～マネジメントの実態、最近の課題について講義する。		
授業計画	準備学習		
第1回	イントロダクション（講義の目的と考え方・講義の構成と流れ） 製品開発マネジメント	「製品開発の知識」第I章の事前購読	
第2回	製品開発マネジメント～製品戦略	「製品開発の知識」第III章の事前購読	
第3回	製品戦略	第2回に課したアサインメント提出 （製品戦略についての考察）	
第4回	製品戦略（企業での事例紹介と討議）	事前準備不要	
第5回	製品アーキテクチャー	事前準備不要	
第6回	製品開発プロセス	第5回に課したアサインメント提出 「製品開発の知識」第IV章の事前購読	
第7回	製品開発組織のデザイン	「製品開発の知識」第V章の事前購読	
第8回	製品開発プロセス～組織（企業での事例紹介と討議）	事前準備不要	
第9回	製品開発プロセスのマネジメント	「製品開発の知識」第VI章の事前購読	
第10回	自動車の商品開発事例とMOT	事前準備不要	
第11回	講義全体のまとめと講義全体を通しての討議・質疑応答。	講義で使用したPPTに再度目を通しておく事。	

第12回	企業見学についての説明および事前準備。	事前準備不要
第13回	企業見学	事前準備不要
第14回	企業見学	事前準備不要
第15回	まとめと総合討議	第13回～14回の企業見学でのアサインメント提出 (企業見学を終えての考察)
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2022/05/30(月)11:56

授業科目名	キャリアビジョン（デベロップメント）3年生以上対象（集中講義）		
担当教員氏名	原田 淳		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	特に時間帯を定めない（事前にメールか電話で連絡し面談の予約をすること）。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	Zoomミーティングによるオンライン形式で実施する予定。授業日程に従って、講義形式と演習形式の授業を併用して進める。毎回の授業毎に受講レポートに要約、演習や実習による気づきを記すことを求める。		
単位数（時間数）	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科3年生以上対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア形成, ストレスマネジメント, マインドフルネス		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目の目標は、自分自身のキャリアを形成するうえで必要不可欠となる適切にストレスをコントロールする方法について理解することである。そして、心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を実習することにより、自分自身の身体感覚や呼吸に集中し、意識を“いま、ここ”に向けるマインドフルネスを習得する。		
授業の内容	心理・社会的なストレスの特徴について解説し、ストレスマネジメントの方向性について示す。対処法のひとつとして、心身相関的アプローチによる実践的なストレスマネジメントの技法を紹介する。また、ストレスとなる事象に直面したときに生じる心の動きについて説明し、過去の体験の振り返りをすることにより望ましい認知のあり方について考える。加えて、学内の教員が仕事におけるストレスとの向き合い方について講話する。		
成績評価の方法	講義中の演習50%、レポート課題20%、期末レポート30%で評価する。		
テキスト	テキスト（教科書）は特に指定しない。		
参考文献	参考文献は授業の進行に応じて適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	演習はグループワークを行うため（Zoomミーティングの際はブレイクアウトルームを用いる）、積極的な参加姿勢をもつことを期待する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 企業に勤務経験のある教員が、その経験をふまえて、社会や職場で必要となるストレスのコントロールについて解説する。		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション ・現代社会とストレス ・ストレスマネジメントの必要性 ・実習（呼吸を整える）		
第2回	ストレスとストレス反応 ・ストレスが身体におよぼす影響 ・ストレスが心におよぼす影響 ・ストレスが行動におよぼす影響 ・実習（微細な動きを意識する）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第3回	心理・社会的ストレスの特徴 ・心理・社会的ストレスのしくみ ・心理・社会的ストレスのパターン ・実習（ブリージング・エクササイズ）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第4回	瞑想的運動法 ・実習（ブリージングエクササイズ、アイソメトリック運動）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第5回	ストレスマネジメントの方向性 ・安定した心とは	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第6回	好き・嫌いの感情を克服する ・好き・嫌いが生じるしくみ ・『人間万事塞翁が馬』	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第7回	呼吸の意識化、呼吸法 ・実習（呼吸の意識化、呼吸法）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	

第8回	レジリエンス ・レジリエンスとは ・演習（ライフラインチャート）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第9回	環境調整の方法 ・実習（セクショナルブリージング、完全呼吸法）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第10回	“いま、ここ”を生きる ・マインドフルネス	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第11回	瞑想法 ・実習（リラクゼーション反応、ヴィパッサナー瞑想）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第12回	不安への対処 ・実習（オープンモニタリング瞑想）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第13回	執着・こだわりからの解放 ・実習（呼吸法、瞑想法）	講話に関するレポートを作成する。
第14回	仕事とストレス ・東洋思想の教える仕事への取り組み方	講話に関するレポートを作成する。
第15回	まとめ ・実習（アイソメトリック運動、呼吸法、瞑想法） ・授業評価アンケート ・受講レポート提出に関する説明	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	インターンシップ (Q1・Q2火曜ペア)		
担当教員氏名	学科教員		
研究室の場所	広島キャンパス		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィシアワー	随時 (アポを取ってください)		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、週1回の授業を、主に講義形式及び演習形式で実施する。実習は原則として夏期休業中に2週間行う。学生は、事前学習、実習、事後学習の欠席・遅刻・早退は認められない。すべての授業への参加と2週間の実習が義務づけられる。		
単位数(時間数)	2.0	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科2・3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析, 進路選択, 就業体験, 職業選択, 職業適性, ビジネスマナー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、将来職業に就くために、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめようとする学生を対象にして、就業体験をさせる。本科目の目標は、履修学生に、多様な職場や職業に対する関心を持たせるとともに、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えさせることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とすることができる。本科目は、全学共通教育科目のキャリア科目の一つとして位置づけられている。		
授業の内容	企業、行政機関、福祉施設、各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、自己目標を明確にするグループ別発表・討論を行う。実習は原則として夏期休業期間中の1週間以上とする。 事後学習では、就業体験の発表を、グループ別発表・討論として行うとともに、学内外に公開する全体報告会としても実施する。さらに、実習報告書を作成し、提出させる。		
成績評価の方法	事前学習及び事後学習における課題、授業及び実習の出席、実習受入先の評価、実習報告書等を総合して評価する。課題等については第1回の授業において提示する。課題、報告書等の提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。		
テキスト	a. 教科書 なし		
参考文献	b. 参考文献 第1回の授業において印刷資料として提示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。 履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。正当な理由なく、履修の中途での放棄、事前学習、実習、事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。実習において必要となる費用は、原則として学生の個人負担とする。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では、企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては、実践的な研修を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回	受講ガイダンス①(授業概要の説明、注意事項の伝達)	これまで学んできたことをふまえて、自分の将来について考えて整理する。	
第2回	受講ガイダンス②(企業の選択など) a) 前年度履修生報告会 b) 企業の選択など	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の候補をいくつか決める。	
第3回	受講ガイダンス③: 外部講師講話(概要) 仕事をするとは、社会・会社で働く(役割を果たす)とはどういうことかを考え、インターンシップ生として社会に飛び込む“心構え”を持つ。 講師: ジョータツ株式会社 代表取締役社長 竹田和憲	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の候補をいくつか決める。	
第4回	受講ガイダンス④(一次マッチングにかかる学内申し込み状況の説明と学内調整)	前回の資料を振り返り、インターンシップにおける自己目標などをまとめる。	

第5回	プレゼンテーション講座① 講師：公益財団法人マツダ財団 事務局長 魚谷滋己	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の企業について調べる。
第6回	プレゼンテーション講座② 講師：公益財団法人マツダ財団 事務局長 魚谷滋己	前回の資料を振り返り、プレゼンテーションの課題に取り組む。
第7回	プレゼンテーション講座③ 講師：公益財団法人マツダ財団 事務局長 魚谷滋己	前回の資料を振り返り、プレゼンテーションの課題に取り組む。
第8回	ビジネスマナー講座① 講師：広島秘書学院 学院長 平野敏子	前回の資料を振り返り、プレゼンテーションの課題に取り組む。
第9回	ビジネスマナー講座② 講師：広島秘書学院 学院長 平野敏子	前回の資料を振り返り、ビジネスマナーの課題に取り組む。
第10回	社会人入門講座 講師：県立広島大学 特任教授 山根英幸	前回の資料を振り返り、ビジネスマナーの課題に取り組む。
第11回	ビジネスマナー講座③ 講師：広島秘書学院 学院長 平野敏子	前回の資料を振り返り、社会人としての心構えをまとめる。
第12回	受入先業種別グループ発表会・討論会（概要）事前に受入先の業界や企業の業務内容・課題等を調べ、目的意識を明確にすること。そのうえで、実習にかかる自己目標を設定すること。	前回の資料を振り返り、ビジネスマナーの課題に取り組む。インターンシップ先の企業について研究し、自己目標などをまとめる。
第13回	最終調整と諸注意の伝達（概要）注意事項の伝達、事故・トラブル等の発生等の対応と連絡体制、実習要項の最終確認（誓約書の作成、日報・報告書・礼状の作成、提出方法等の連絡）	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の企業について研究し、自己目標などをまとめる。
第14回	受入先業種別グループ報告会（在学生、教職員に公開）	受入先業種別グループ報告会に向けた準備を行う。
第15回	合同報告会	合同報告会に向けた準備を行う。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	ひろしま理解 (Q2)		
担当教員氏名	鈴木 康之 (代表)		
研究室の場所	広島キャンパス 1912研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィシアワー	研究室に在室中は基本的に対応可。事前にメール等で連絡することが望ましい。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面による講義形式の授業。広島キャンパス発信の遠隔授業。		
単位数 (時間数)	2.0		学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目			
キーワード	広島県、地域、歴史、文化、地理、産業、呉、尾道、世羅、大崎上島、宮島		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>全学共通教育科目の地域課題に位置づける選択科目である。</p> <p>地域への理解を深めるための導入に相当する科目として、最も身近な地域である広島県域を取り上げ、この地域を知解するための初歩的・基本的事項を学修する。</p> <p>具体的には、この地域に特徴的な歴史・文化・地理・産業などの基本的事項を多様な視点から学修することにより、地域の現状を立体的に理解する。これにより、地域課題を発見し、その解決に取り組むための基礎的知識を修得する。</p>		
授業の内容	専門分野の異なる3名の教員が、それぞれの研究分野から広島県域を理解するための方法を提示する。第1～5回を鈴木康之、第6～10回を和田崇、第11～15回を大知徳子が担当する。		
成績評価の方法	各教員がそれぞれ提示した課題に対するレポートを作成し、レポート3本の平均点によって、総合的に評価する。		
テキスト	授業時間に指示する。		
参考文献	岸田裕之 (編) 『広島県の歴史』 山川出版社 その他、授業時間に指示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を活かした実践的な教育について】 この科目では、教育委員会で文化財保護行政、博物館開設・経営の経験を有する教員が、地域の文化資源を理解し、活用する方策について指導する。		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンスーひろしまとはどのような場所？ー	広島県地域とは、どのような特徴をもつ場所なのか考えておく。	
第2回	ひろしまの歴史ー原始・古代ー	原始・古代の広島県地域のあゆみについて調べておく	
第3回	ひろしまの歴史ー中世ー	中世の広島県地域のあゆみについて調べておく。	
第4回	ひろしまの歴史ー近世ー	近世の広島県地域のあゆみについて調べておく。	
第5回	ひろしまの歴史ー近現代そして未来ー	近現代の広島県地域のあゆみについて調べるとともに、未来への展望について考えておく。	
第6回	水の都・広島	太田川沿いを歩いて感じたことをまとめておこう。	
第7回	海軍とカレーの街・呉	呉海軍カレーを食べて感じたことをまとめておこう。	
第8回	映画の街・尾道	大林監督について調べておこう。	
第9回	駅伝の町・世羅	世羅高校陸上競技部について調べておこう。	
第10回	レモンの島・大崎上島	ひろしま夢ばらざなどで瀬戸内レモン商品をチェックしておこう。	
第11回	厳島と宮島	宮島に関する情報を宮島観光協会等のHPで調べておきましょう。 宮島観光協会 https://www.miyajima.or.jp/	

第12回	厳島神社の宝物	厳島神社の文化財について調べておきましょう。
第13回	描かれた宮島	宮島を描いた作品について調べておきましょう。
第14回	厳島神社の絵馬	宮島VRツアーズを利用して豊国神社（千畳閣）の絵馬を見ておきましょう。 宮島VRツアーズ http://www.hiroshima-jp.com/vt/miyajima/
第15回	宮島の祭	宮島で執り行われる祭りの種類を調べておきましょう。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	地域情報発信論（前期集中）		
担当教員氏名	広谷大助, 藤井宣彰, 吉田倫子, 伊藤俊 他 (広島キャンパス主担当 広谷大助)		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業（状況によってはオンライン（リアルタイム）で実施） 前期集中講義（4日間。2022年8月29日（月）～9月1日（木）の予定） サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む		
単位数（時間数）	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	地域創生学科, 国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 2～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, デバート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。 本科目は, 全学共通教育「広島と世界」(旧課程), 「地域課題」(新課程)に位置づけられる。		
授業の内容	新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み, 課題を設定した上で, 現地へ出向いて取材し, 意見交換を経て記事をまとめるなど, 地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに, グループで課題解決への提案をまとめ, ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。		
成績評価の方法	課題レポート(50%) グループ討議, ポスター発表を含む, 授業への参加度(50%) なお, 単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする		
テキスト	事前に配付される新聞を用いる		
参考文献	適宜紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は, 掲示により確認すること。 また, 本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため, 4日間全ての出席が必須となる。よって, 1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。 なお, フィールドワークにかかる費用及び試験期間中の新聞購読代金は自己負担となる。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により, 取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回			
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			

第15回	
第16回	
授業計画	<p>授業の流れは概ね次のとおり（一部変更の可能性あり）</p> <p>事前課題：試読期間（7月下旬）に配付された新聞を読み，記事を選んで概要をまとめ，意見を述べる</p> <p>第1日：オリエンテーション，事前課題の確認，新聞の読み方 第2日：取材計画，写真撮影・取材実習（フィールドワーク） 第3日：グループ討議，記事風レポート作成・発表 第4日：ポスター制作，ポスター発表，振り返り討議</p> <p>期間中の課題：翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む</p> <p>事後課題：授業で学び得たことを踏まえて，新たな課題を発見し，レポートをまとめる</p>
シラバス備考	
URLリンク1	
URLリンク2	
URLリンク3	

授業科目名	食と健康 Q3 (2019以前生活化学読替)		
担当教員氏名	長尾 則男		
研究室の場所	庄原キャンパス 4504研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面で授業を行う。新型コロナウイルスの影響で内容や方式が変わることがあります。 詳細は初回にて説明を行う(あるいは文書等で示す)。 授業及び資料配布、レポートのやりとり等は大学ポータルあるいはOffice365 Teams等を介して行う 予定なので各自確認・準備をしておくこと。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	生物資源科学部 1～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	食, 栄養, 健康, 調理, 加工, アレルギー, 生活習慣病		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	健康と食をとりまく状況について講義を展開し, 生物資源科学分野に必要な知識を理解できるよう, また, 今後学んでいく専門領域への橋渡しとなるよう, 基礎知識の充実を目的とし, 初年次生学生を想定して授業を進める。		
授業の内容	食と健康をとりまく諸問題について事例を紹介しながら, 食の栄養・生理機能について興味・関心を高め, 食の役割を理解し, 化学的, 生物学な思考ができるようになることを目指す。具体的には, 食の健康維持機能, 疾病との関連, 疾病予防等々について解説する。		
成績評価の方法	出席状況は重視する。5回以上の欠席は評価の対象外とする。 出席確認として毎回, 小テストを行う。 課題レポート・小テスト50%、定期試験50%の割合で評価する。 小テストの実施方法や課題の提出方法については, 授業時間内に指示する。		
テキスト	特定の教科書は用いない。プリント, スライド等を用いて講義する。		
参考文献	日経サイエンス編集部 (2020) 食と健康 (別冊日経サイエンス237) 日本経済新聞出版社 スティーブン・レ 著, 大沢 章子 翻訳 (2017) 食と健康の一億年史 亜紀書房		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	授業に関する連絡方法はその都度, 授業内での連絡で行う。 質問, 疑問等はメール経由時で随時受け付け対応する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 民間化学メーカーでの分析業務の勤務経験を生かし, 食品成分を定量分析する方法を取り上げる (第7回)。		

授業計画	準備学習	
第1回	食の必要性・意義について。 「食と健康」で取り扱う領域を説明する。	「食」とは何なのか。「食」の必要性や意義について考えます。シラバスで授業内容を理解しておいてください。
第2回	食と栄養 5大栄養素や栄養素を取り込む体のしくみについて学ぶ。	5大栄養素についてネットや図書館資料等を当たってみてください。
第3回	食とエネルギー 食品中に含まれるエネルギーについて説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第4回	味覚 5基本味について学ぶ。化学調味料を取り上げる。	取り上げる内容についてネットや書籍等で歴史や製造法について調べてみてください。
第5回	食欲 食欲、ヘルスケア、ダイエット等について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第6回	調理 調理理論、調理技術について学ぶ。	取り上げる内容についてネットや書籍等で原理や反応について調べてみてください。
第7回	食品加工 食品加工技術について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第8回	機能性食品成分 機能性食品成分について説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等で調べてみてください。
第9回	生体内酸化ストレス 生体内の酸化ストレスに対する食物成分の作用について	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。

	て学ぶ。	
第10回	食の安全性 食の安全、安心、品質保証について説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等で歴史や取り組みについて調べてみてください。
第11回	生活習慣病（糖尿病等代謝疾患）予防と食生活 糖尿病の食事による予防とコントロールについて説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第12回	生活習慣病予防(循環器疾患)と食生活 循環器疾患(動脈硬化等)と食事療法について説明する。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第13回	食物アレルギー 食物アレルギーの原因物質とそのしくみ、症状、さらにアレルギー表示について取り上げる。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第14回	高齢者の食 高齢者の「食」の問題 について説明する。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第15回	食を取り巻く問題点、健康と食生活のまとめ 「食と健康」で取り上げた内容を振り返る。	「食と健康」でこれまでに取り上げた内容で興味を持ったものについて、自分なりに調べて説明できるように準備してください。
第16回	定期試験	
授業計画		
シラバス備考	レポート作成を通じて知識を整理することでさらに理解が深まることを指向する「復習」として、単元ごとに各講義で取り上げる内容について自分なりに調べて、図示、図解して手書きレポートA4紙1枚としてまとめることを課す。	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	画像情報処理 (Q2)		
担当教員氏名	肖 業貴		
研究室の場所	広島キャンパス 1563 研究室		
連絡先電話番号	電話：082-251-9731(直通)		
オフィスパワー	毎週月曜日9時から金曜日18時(在室のときはいつでも可)、場所は担当教員研究室		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業 授業日程に従って、主に下記の参考書および別途配布するプリント資料を用いて実施する。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 自由選択
履修要件	地域産業コース 3年次対象		
免許等指定科目	IoT・AI応用技術認定(中級)プログラム 選択科目		
キーワード	視覚情報処理, デジタル画像, 画像処理, 静止画, 動画, 3原色原理, カラー画像, 画像圧縮, Biometrics, 顔画像の処理, Matlab Programming		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目は、情報化において映像情報の活用が欠かせない現状を踏まえて、情報科学の重要な分野として、視覚情報処理・画像処理の基礎、特にデジタル画像に関する基礎知識を習得させるために実施するものである。デジタル画像の基礎知識を習得させるとともに、演習を通して画像処理の基本技法を体験する。		
授業の内容	デジタル画像情報は、生産、電気電子、機械、交通、気象、農水産業、宇宙といった様々な分野にとどまらず、我々の社会生活、日常生活においても活用されるようになっている。特に、IoT・AI応用技術の発展においてはその利活用が欠かせない。本科目をコースの基礎専門科目と位置づけ、デジタル画像情報処理の基礎知識や技術を身につけることを目的とする。具体的には、①デジタル画像の生成(空間サンプリング、量子化、CG生成)、②デジタル画像の基本処理技術(幾何学処理、各種空間フィルタリング)、③画像圧縮技術(静止画と動画の圧縮)、④画像処理基本技術演習、を主な授業内容とする。授業後半にMATLABを用いて演習を行い、画像情報の基本処理技術への理解を深める。		
成績評価の方法	4回以上の欠席は評価の対象外とする。演習課題と期末試験または最終レポートは70%、演習への取り組みは30%の割合で、出席状況も考慮して、総合的に評価する。		
テキスト	特に指定しないが、授業関係プリントをまとめて、TEAMSにてpdf配信する。		
参考文献	参考書：酒井『デジタル画像処理入門』コロナ社、1997。平井『視覚と記憶の情報処理』倍風館、1995。藤岡 他『画像処理の基礎』昭晃堂、2002。田村『コンピュータ画像処理』オーム社、2002。谷口『画像処理工学』共立出版、1996。鳥脇『パターン認識と画像処理』朝倉書店、1997。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を活かした実践的な教育について】 大学教員になる前にIT業界で情報システムの開発に従事していた。特にコンピュータ配電自動化システムの開発プロジェクトに参加し、機能設計、プログラム設計、試験設計等に加え、プログラム作成や現地試験にも参加した。教員になってからも幾度も企業との共同研究開発を長年にわたって行った。そういった実務経験を授業に活かすためには、画像処理理論のみならずその実用における活用現状、あり方、利用拡大の可能性等についても言及し、多くの実例や例題を通して学生の興味や自ら考える・学ぶ姿勢を引き出しながら授業内容への理解の深化を図ることにしている。		
授業計画	準備学習		
第1回	①授業計画の説明、②序論：人と計算機はどう違うか？なぜ人の情報処理を解明する必要があるか？	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと	
第2回	脳における情報処理：①大脳皮質における情報処理、②神経細胞の構造・機能、③神経インパルスの発生と伝達	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと	
第3回	①視覚情報処理の流れ、②網膜における情報処理、③受光細胞、④双極細胞、⑤神経細胞、	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと	
第4回	①デジタル画像処理の歴史、②デジタル画像処理の応用分野、③デジタル画像処理の基本課題	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと	

第5回	デジタル画像の基礎（1）： ①デジタル画像の生成（空間サンプリング、量子化）、②画像の空間解像度、③輝度分解能	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第6回	デジタル画像の基礎（2）： ①色彩の基本、②3原色原理、③カラー画像	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第7回	画像の基本処理（1）： ①画像の拡大・縮小、②画像の回転、③画像の濃度変換	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第8回	画像の基本処理（2）： ①空間フィルタリング手法、②平滑化フィルタ、③特徴抽出フィルタ、④鮮鋭化フィルタ	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第9回	静止画の圧縮： ①情報保存型圧縮（Huffman coding, ARによるPredictive coding）、②情報非保存型圧縮（直交変換2-D DCTなどを用いた圧縮、ベクトル量子化による圧縮（Vector quantization (VQ)））	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第10回	動画の圧縮： 動きベクトルの検出（Motion estimation）による圧縮	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第11回	画像処理演習（Matlab使用）準備： ①Matlabのコマンド、②Matlabプログラム形式、③Matlabでの画像読み込みと書き込み	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第12回	画像処理演習（1）： デジタル画像の拡大・縮小（プログラム作成と処理画像による確認）	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第13回	画像処理演習（2）： デジタル画像のフィルタリング（エッジ検出プログラムの作成とエッジ画像による確認）	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第14回	画像処理演習（3）： 静止画の圧縮（2-D DCTを用いた圧縮と画質の確認）	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第15回	①（時間があれば）顔画像による個人識別の技術、②授業統括（予備日）	ノートや参考書などを読んで講義内容を復習し、期末試験または最終レポート作成に向けて勉強すること。
第16回	期末試験か、最終レポート提出。	ノートや参考書などを読んで講義内容を復習し、期末試験または最終レポート作成に向けて勉強すること。
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2022/05/30(月)11:56

授業科目名	キャリアビジョン（デベロップメント）3年生以上対象（集中講義）		
担当教員氏名	原田 淳		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	特に時間帯を定めない（事前にメールか電話で連絡し面談の予約をすること）。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	Zoomミーティングによるオンライン形式で実施する予定。授業日程に従って、講義形式と演習形式の授業を併用して進める。毎回の授業毎に受講レポートに要約、演習や実習による気づきを記すことを求める。		
単位数（時間数）	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科3年生以上対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア形成, ストレスマネジメント, マインドフルネス		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目の目標は、自分自身のキャリアを形成するうえで必要不可欠となる適切にストレスをコントロールする方法について理解することである。そして、心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を実習することにより、自分自身の身体感覚や呼吸に集中し、意識を“いま、ここ”に向けるマインドフルネスを習得する。		
授業の内容	心理・社会的なストレスの特徴について解説し、ストレスマネジメントの方向性について示す。対処法のひとつとして、心身相関的アプローチによる実践的なストレスマネジメントの技法を紹介する。また、ストレスとなる事象に直面したときに生じる心の動きについて説明し、過去の体験の振り返りを行うことにより望ましい認知のあり方について考える。加えて、学内の教員が仕事におけるストレスとの向き合い方について講話する。		
成績評価の方法	講義中の演習50%、レポート課題20%、期末レポート30%で評価する。		
テキスト	テキスト（教科書）は特に指定しない。		
参考文献	参考文献は授業の進行に応じて適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	演習はグループワークを行うため（Zoomミーティングの際はブレイクアウトルームを用いる）、積極的な参加姿勢をもつことを期待する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 企業に勤務経験のある教員が、その経験をふまえて、社会や職場で必要となるストレスのコントロールについて解説する。		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション ・現代社会とストレス ・ストレスマネジメントの必要性 ・実習（呼吸を整える）		
第2回	ストレスとストレス反応 ・ストレスが身体におよぼす影響 ・ストレスが心におよぼす影響 ・ストレスが行動におよぼす影響 ・実習（微細な動きを意識する）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第3回	心理・社会的ストレスの特徴 ・心理・社会的ストレスのしくみ ・心理・社会的ストレスのパターン ・実習（ブリージング・エクササイズ）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第4回	瞑想的運動法 ・実習（ブリージングエクササイズ、アイソメトリック運動）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第5回	ストレスマネジメントの方向性 ・安定した心とは	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第6回	好き・嫌いの感情を克服する ・好き・嫌いが生じるしくみ ・『人間万事塞翁が馬』	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第7回	呼吸の意識化、呼吸法 ・実習（呼吸の意識化、呼吸法）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	

第8回	レジリエンス ・レジリエンスとは ・演習（ライフラインチャート）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第9回	環境調整の方法 ・実習（セクショナルブリージング、完全呼吸法）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第10回	“いま、ここ”を生きる ・マインドフルネス	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第11回	瞑想法 ・実習（リラクゼーション反応、ヴィパッサナー瞑想）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第12回	不安への対処 ・実習（オープンモニタリング瞑想）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第13回	執着・こだわりからの解放 ・実習（呼吸法、瞑想法）	講話に関するレポートを作成する。
第14回	仕事とストレス ・東洋思想の教える仕事への取り組み方	講話に関するレポートを作成する。
第15回	まとめ ・実習（アイソメトリック運動、呼吸法、瞑想法） ・授業評価アンケート ・受講レポート提出に関する説明	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	インターンシップ		
担当教員氏名	学部教員, 原田 淳 (大学教育実践センター/キャリアセンター)		
研究室の場所			
連絡先電話番号			
オフィシアワー			
E-mail/HP			
授業の形式・方式	対面授業。通年集中講義。 事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、主に講義形式及び演習形式で実施する。実習は原則として夏期休業中に行う。学生は、原則として、事前学習、実習、事後学習の欠席・遅刻・早退は認められない。すべての授業への参加と実習が義務づけられる。		
単位数(時間数)	2.0	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	知己資源開発学科, 生命環境学科 2・3・4年次対象 生命科学科, 環境科学科 2・3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析, 就業体験, 職業選択, 職業適性, ビジネスマナー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、将来職業に就くために、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめようとする学生を対象にして、就業体験をさせる。 本科目の目標は、履修学生に、多様な職場や職業に対して関心を持たせるとともに、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えさせることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とすることができる。 本科目は、全学共通教育科目の一つとして位置づけられている。また、学生の進路選択を支援する大学の学生支援プログラムの一部を担うものである。		
授業の内容	企業、行政機関、福祉施設、各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。 事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、自己目標を明確にするグループ別発表・討論等を行う。実習は原則として夏期休業期間中の2週間程度とする。 事後学習では、就業体験の発表を、グループ別発表・討論として行うとともに、全体報告会としても実施する。さらに、実習報告書を作成し、提出させる。		
成績評価の方法	事前学習及び事後学習における課題遂行、実習受入先の評価、実習報告書等を総合して評価する。課題等については第1回の授業において提示する。課題、報告書等の提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。		
テキスト	必要に応じて配布する。		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。 授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。正当な理由なく、履修の途中で放棄、事前学習、実習、事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では、企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては、実践的な研修を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンス	シラバス・コースカタログを事前に目とあわせること	
第2回	応募手続き等の説明	ガイダンスの内容をよく理解すること	
第3回	応募手続きとビジネスマナー等事前学習	前回の復習および就業体験に関する情報を収集すること	
第4回	事前学習、グループワーク	就業体験先企業等の情報を得ておくこと	
第5回	就業体験	就業体験先企業等について理解をはかり、これまでの復習をしておくこと	
第6回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと	

第7回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第8回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第9回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第10回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第11回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第12回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第13回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第14回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第15回	事後学習および成果発表準備	就業体験時の記録をまとめておくこと
第16回	事後学習および成果発表	就業体験時の記録をまとめておくこと
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	ひろしま理解 (Q2)		
担当教員氏名	鈴木 康之 (代表)		
研究室の場所	広島キャンパス 1912研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィリアワー	研究室に在室中は基本的に対応可。事前にメール等で連絡することが望ましい。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面による講義形式の授業。広島キャンパス発信の遠隔授業。		
単位数 (時間数)	2.0		学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目			
キーワード	広島県、地域、歴史、文化、地理、産業、呉、尾道、世羅、大崎上島、宮島		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>全学共通教育科目の地域課題に位置づける選択科目である。</p> <p>地域への理解を深めるための導入に相当する科目として、最も身近な地域である広島県域を取り上げ、この地域を知解するための初歩的・基本的事項を学修する。</p> <p>具体的には、この地域に特徴的な歴史・文化・地理・産業などの基本的事項を多様な視点から学修することにより、地域の現状を立体的に理解する。これにより、地域課題を発見し、その解決に取り組むための基礎的知識を修得する。</p>		
授業の内容	専門分野の異なる3名の教員が、それぞれの研究分野から広島県域を理解するための方法を提示する。第1～5回を鈴木康之、第6～10回を和田崇、第11～15回を大知徳子が担当する。		
成績評価の方法	各教員がそれぞれ提示した課題に対するレポートを作成し、レポート3本の平均点によって、総合的に評価する。		
テキスト	授業時間に指示する。		
参考文献	岸田裕之 (編) 『広島県の歴史』 山川出版社 その他、授業時間に指示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を活かした実践的な教育について】 この科目では、教育委員会で文化財保護行政、博物館開設・経営の経験を有する教員が、地域の文化資源を理解し、活用する方策について指導する。		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンスーひろしまとはどのような場所？ー	広島県地域とは、どのような特徴をもつ場所なのか考えておく。	
第2回	ひろしまの歴史ー原始・古代ー	原始・古代の広島県地域のあゆみについて調べておく	
第3回	ひろしまの歴史ー中世ー	中世の広島県地域のあゆみについて調べておく。	
第4回	ひろしまの歴史ー近世ー	近世の広島県地域のあゆみについて調べておく。	
第5回	ひろしまの歴史ー近現代そして未来ー	近現代の広島県地域のあゆみについて調べるとともに、未来への展望について考えておく。	
第6回	水の都・広島	太田川沿いを歩いて感じたことをまとめておこう。	
第7回	海軍とカレーの街・呉	呉海軍カレーを食べて感じたことをまとめておこう。	
第8回	映画の街・尾道	大林監督について調べておこう。	
第9回	駅伝の町・世羅	世羅高校陸上競技部について調べておこう。	
第10回	レモンの島・大崎上島	ひろしま夢ばらざなどで瀬戸内レモン商品をチェックしておこう。	
第11回	厳島と宮島	宮島に関する情報を宮島観光協会等のHPで調べておきましょう。 宮島観光協会 https://www.miyajima.or.jp/	

第12回	厳島神社の宝物	厳島神社の文化財について調べておきましょう。
第13回	描かれた宮島	宮島を描いた作品について調べておきましょう。
第14回	厳島神社の絵馬	宮島VRツアーズを利用して豊国神社（千畳閣）の絵馬を見ておきましょう。 宮島VRツアーズ http://www.hiroshima-jp.com/vt/miyajima/
第15回	宮島の祭	宮島で執り行われる祭りの種類を調べておきましょう。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	地域情報発信論（前期集中）		
担当教員氏名	広谷大助, 藤井宣彰, 吉田倫子, 伊藤俊 他 (広島キャンパス主担当 広谷大助)		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業（状況によってはオンライン（リアルタイム）で実施） 前期集中講義（4日間。2022年8月29日（月）～9月1日（木）の予定） サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む		
単位数（時間数）	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	地域創生学科, 国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 2～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, デイバート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。 本科目は, 全学共通教育「広島と世界」(旧課程), 「地域課題」(新課程)に位置づけられる。		
授業の内容	新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み, 課題を設定した上で, 現地へ出向いて取材し, 意見交換を経て記事をまとめるなど, 地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに, グループで課題解決への提案をまとめ, ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。		
成績評価の方法	課題レポート(50%) グループ討議, ポスター発表を含む, 授業への参加度(50%) なお, 単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする		
テキスト	事前に配付される新聞を用いる		
参考文献	適宜紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は, 掲示により確認すること。 また, 本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため, 4日間全ての出席が必須となる。よって, 1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。 なお, フィールドワークにかかる費用及び試験期間中の新聞購読代金は自己負担となる。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により, 取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回			
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			

第15回	
第16回	
授業計画	<p>授業の流れは概ね次のとおり（一部変更の可能性あり）</p> <p>事前課題：試読期間（7月下旬）に配付された新聞を読み，記事を選んで概要をまとめ，意見を述べる</p> <p>第1日：オリエンテーション，事前課題の確認，新聞の読み方 第2日：取材計画，写真撮影・取材実習（フィールドワーク） 第3日：グループ討議，記事風レポート作成・発表 第4日：ポスター制作，ポスター発表，振り返り討議</p> <p>期間中の課題：翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む</p> <p>事後課題：授業で学び得たことを踏まえて，新たな課題を発見し，レポートをまとめる</p>
シラバス備考	
URLリンク1	
URLリンク2	
URLリンク3	

授業科目名	食と健康 Q3 (2019以前生活化学読替)		
担当教員氏名	長尾 則男		
研究室の場所	庄原キャンパス 4504研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面で授業を行う。新型コロナウイルスの影響で内容や方式が変わることがあります。 詳細は初回にて説明を行う(あるいは文書等で示す)。 授業及び資料配布、レポートのやりとり等は大学ポータルあるいはOffice365 Teams等を介して行う 予定なので各自確認・準備をしておくこと。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	生物資源科学部 1～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	食, 栄養, 健康, 調理, 加工, アレルギー, 生活習慣病		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	健康と食をとりまく状況について講義を展開し, 生物資源科学分野に必要な知識を理解できるよう, また, 今後学んでいく専門領域への橋渡しとなるよう, 基礎知識の充実を目的とし, 初年次生学生を想定して授業を進める。		
授業の内容	食と健康をとりまく諸問題について事例を紹介しながら, 食の栄養・生理機能について興味・関心を高め, 食の役割を理解し, 化学的, 生物学な思考ができるようになることを目指す。具体的には, 食の健康維持機能, 疾病との関連, 疾病予防等々について解説する。		
成績評価の方法	出席状況は重視する。5回以上の欠席は評価の対象外とする。 出席確認として毎回, 小テストを行う。 課題レポート・小テスト50%、定期試験50%の割合で評価する。 小テストの実施方法や課題の提出方法については, 授業時間内に指示する。		
テキスト	特定の教科書は用いない。プリント, スライド等を用いて講義する。		
参考文献	日経サイエンス編集部 (2020) 食と健康 (別冊日経サイエンス237) 日本経済新聞出版社 ステイブン・レ 著, 大沢 章子 翻訳 (2017) 食と健康の一億年史 亜紀書房		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	授業に関する連絡方法はその都度, 授業内での連絡で行う。 質問, 疑問等はメール経由時で随時受け付け対応する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 民間化学メーカーでの分析業務の勤務経験を生かし, 食品成分を定量分析する方法を取り上げる (第7回)。		

授業計画	準備学習	
第1回	食の必要性・意義について。 「食と健康」で取り扱う領域を説明する。	「食」とは何なのか。「食」の必要性や意義について考えます。シラバスで授業内容を理解しておいてください。
第2回	食と栄養 5大栄養素や栄養素を取り込む体のしくみについて学ぶ。	5大栄養素についてネットや図書館資料等を当たってみてください。
第3回	食とエネルギー 食品中に含まれるエネルギーについて説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第4回	味覚 5基本味について学ぶ。化学調味料を取り上げる。	取り上げる内容についてネットや書籍等で歴史や製造法について調べてみてください。
第5回	食欲 食欲、ヘルスケア、ダイエット等について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第6回	調理 調理理論、調理技術について学ぶ。	取り上げる内容についてネットや書籍等で原理や反応について調べてみてください。
第7回	食品加工 食品加工技術について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第8回	機能性食品成分 機能性食品成分について説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等で調べてみてください。
第9回	生体内酸化ストレス 生体内の酸化ストレスに対する食物成分の作用について	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。

	て学ぶ。	
第10回	食の安全性 食の安全、安心、品質保証について説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等で歴史や取り組みについて調べてみてください。
第11回	生活習慣病（糖尿病等代謝疾患）予防と食生活 糖尿病の食事による予防とコントロールについて説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第12回	生活習慣病予防(循環器疾患)と食生活 循環器疾患(動脈硬化等)と食事療法について説明する。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第13回	食物アレルギー 食物アレルギーの原因物質とそのしくみ、症状、さらにアレルギー表示について取り上げる。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第14回	高齢者の食 高齢者の「食」の問題 について説明する。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第15回	食を取り巻く問題点、健康と食生活のまとめ 「食と健康」で取り上げた内容を振り返る。	「食と健康」でこれまでに取り上げた内容で興味を持ったものについて、自分なりに調べて説明できるように準備してください。
第16回	定期試験	
授業計画		
シラバス備考	レポート作成を通じて知識を整理することでさらに理解が深まることを指向する「復習」として、単元ごとに各講義で取り上げる内容について自分なりに調べて、図示、図解して手書きレポートA4紙1枚としてまとめることを課す。	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	フィールド科学 Q3		
担当教員氏名	地域資源開発学科教員		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	<p>1回目から7回目は現在大講義室からの対面講義を予定している。期間限定でオンデマンド動画配信を行う場合は別途指示する。</p> <p>8回目は中間とりまとめと今後の取組み解説、9週目以降は対面授業およびTeams等を活用したディスカッションおよびグループワークを行い、最終的にグループ毎にプレゼンテーションを行う。</p> <p>実績として各回のFormsで収集した質問や提案を、講義後半で教材に活用して議論を深めると共に、庄原市役所をはじめとした外部講師の方々に「学生の声」として実際にフィードバックする仕組みを整備している。したがって各回を真剣に考えた積極的な回答が望まれる。</p>		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 学生便覧参照
履修要件	<p>地域資源開発学科(必修)、生命環境学科(選択) 1年次対象</p> <p>*本科目は、3、4年次配当の地域課題解決型研究における生物資源科学部独自の履修要件として調整される予定である。</p>		
免許等指定科目			
キーワード	フィールド、中山間地域、地域振興、地域資源、地域自然、食文化、環境保全、6次産業		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>専門教育科目の学科基礎(その他)であり、入門的内容である。</p> <p>フィールド科学実習 I および II と共に地域社会の課題を学修することができる。</p> <p>授業の目標</p> <p>1.地域(特に備北地域)の行政、自然、文化、産業等についての概要を説明できる。</p> <p>2.自らの得た知識を生かして地域課題解決のアイデアを提案できる。</p>		
授業の内容	別途掲示等で指示する。		
成績評価の方法	<p>原則として第1週から4週目(1-8回目)の講義に関しては、毎回Formsで地域課題に対する考察を提出する(60%)。後半9回目以降は提出済みの考察から地域課題の解決方法をグループ毎に調査・KJ法等を活用して取りまとめ、プレゼンテーションで提案する(40%)。</p> <p>詳細は別途指示する。</p>		
テキスト	教科書は定めない。配信される動画等は本講義の学修のみに活用し、コピーや二次加工、転送などはしないこと。		
参考文献	講義の中で随時紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>日頃より地域の自然に親しみ、地域の文化や社会状況に関心を持つこと。</p> <p>地域との交流事業などに積極的に参加し、地域理解に努めること。</p> <p>講義には積極的に参加すること。1、2限連続した講義となるため、出席には十分留意すること。</p> <p>地域資源開発学科の学生は、本講義の単位修得が必須である。</p> <p>種々のアナウンスおよびレポート提出はWeb上で行うため、配信されるメール連絡や掲示は必ず確認すること。</p> <p>【実務経験を活かした実践的な教育について】</p> <p>地域課題の解決にかかる研究を実施している本学の教員、または、関連する地域の専門家、行政担当者等を外部講師として講義を行う。また、実際に地域の課題に対して解決手段を調査・考察・発表することにより、地域課題解決の実践力をつけるための基礎を指導する。</p>		
授業計画			準備学習
第1回	ガイダンス(講義取りまとめ代表教員) 庄原市 全体について(外部講師1)		シラバス、コースカタログを熟読し、どのような科目なのかを理解して初回に臨むこと。

	1週目 1限	
第2回	庄原市 行政について（外部講師2） 1週目 2限 【対面】	ホームページで、庄原市についてみておくこと。
第3回	庄原市の産業に関する内容（外部講師3） 2週目 1限	庄原市の産業に関わること（商工会議所、他）、インターネットなどで調べてくること。
第4回	庄原市の産学官等の活動内容の紹介（外部講師4） 2週目 2限	産官学連携やスマート農業、6次産業等について調べてくること。
第5回	庄原（備北地域）の活性化に関する内容（外部講師5） 3週目 1限	地域活性化対策の例について調べてくること。
第6回	庄原（備北地域）の観光や自然環境に関する内容（外部講師6） 3週目 2限	庄原市観光協会や自然について調べてくること。
第7回	庄原（備北地域）に関する内容。OB/OG地方での起業（外部講師7） 4週目 1限	これまでの講義を参考に庄原（備北地域）について調べてくること。特に6回目の内容も考慮すること。別途指示する。
第8回	中間とりまとめおよび今後の説明（講義取りまとめ代表教員） 4週目 2限	これまでFormsで回答した全員分の質問や考察をフィードバックするので、これらを集計、取りまとめる。
第9回	実践実習（グループワーク1） 5週目 1限	これまでFormsで回答した全員分の質問や考察をフィードバックするので、これらを集計、取りまとめる。
第10回	実践実習（グループワーク2） 5週目 2限	これまでFormsで回答した全員分の質問や考察をフィードバックするので、これらを集計、取りまとめる。
第11回	実践実習（グループワーク3） 6週目 1限	グループ毎にプレゼンテーションを取りまとめて評価を行う。
第12回	実践実習（グループワーク4） 6週目 2限	グループ毎にプレゼンテーションを取りまとめて評価を行う。
第13回	フィールド実践実習（プレゼン発表） 7週目 1限 【対面】	各班で設定した地域課題に対して、その解決方法を提案するプレゼンテーションを行う。
第14回	フィールド実践実習（プレゼン発表） 7週目 2限 【対面】	各班で設定した地域課題に対して、その解決方法を提案するプレゼンテーションを行う。
第15回	フィールド科学の総まとめ 8週目 1限 【対面】	フィールド科学の講義内容を振り返ると共に、今後の地域課題解決型研究などについて考察する。
第16回		
授業計画		
シラバス備考	本講義は外部講師によるオムニバス形式を主としたものであるため、講師の人选や講義の詳細な内容、については、上記の授業計画から変更となる場合がある。 詳細は事前の掲示および1回目のガイダンスで説明するので、必ず出席すること。	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2022/05/30(月)11:56

授業科目名	キャリアビジョン（デベロップメント）3年生以上対象（集中講義）		
担当教員氏名	原田 淳		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	特に時間帯を定めない（事前にメールか電話で連絡し面談の予約をすること）。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	Zoomミーティングによるオンライン形式で実施する予定。授業日程に従って、講義形式と演習形式の授業を併用して進める。毎回の授業毎に受講レポートに要約、演習や実習による気づきを記すことを求める。		
単位数（時間数）	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科3年生以上対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア形成, ストレスマネジメント, マインドフルネス		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目の目標は、自分自身のキャリアを形成するうえで必要不可欠となる適切にストレスをコントロールする方法について理解することである。そして、心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を実習することにより、自分自身の身体感覚や呼吸に集中し、意識を“いま、ここ”に向けるマインドフルネスを習得する。		
授業の内容	心理・社会的なストレスの特徴について解説し、ストレスマネジメントの方向性について示す。対処法のひとつとして、心身相関的アプローチによる実践的なストレスマネジメントの技法を紹介する。また、ストレスとなる事象に直面したときに生じる心の動きについて説明し、過去の体験の振り返りをすることにより望ましい認知のあり方について考える。加えて、学内の教員が仕事におけるストレスとの向き合い方について講話する。		
成績評価の方法	講義中の演習50%、レポート課題20%、期末レポート30%で評価する。		
テキスト	テキスト（教科書）は特に指定しない。		
参考文献	参考文献は授業の進行に応じて適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	演習はグループワークを行うため（Zoomミーティングの際はブレイクアウトルームを用いる）、積極的な参加姿勢をもつことを期待する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 企業に勤務経験のある教員が、その経験をふまえて、社会や職場で必要となるストレスのコントロールについて解説する。		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション ・現代社会とストレス ・ストレスマネジメントの必要性 ・実習（呼吸を整える）		
第2回	ストレスとストレス反応 ・ストレスが身体におよぼす影響 ・ストレスが心におよぼす影響 ・ストレスが行動におよぼす影響 ・実習（微細な動きを意識する）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第3回	心理・社会的ストレスの特徴 ・心理・社会的ストレスのしくみ ・心理・社会的ストレスのパターン ・実習（ブリージング・エクササイズ）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第4回	瞑想的運動法 ・実習（ブリージングエクササイズ、アイソメトリック運動）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第5回	ストレスマネジメントの方向性 ・安定した心とは	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第6回	好き・嫌いの感情を克服する ・好き・嫌いが生じるしくみ ・『人間万事塞翁が馬』	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第7回	呼吸の意識化、呼吸法 ・実習（呼吸の意識化、呼吸法）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	

第8回	レジリエンス ・レジリエンスとは ・演習（ライフラインチャート）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第9回	環境調整の方法 ・実習（セクショナルブリージング、完全呼吸法）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第10回	“いま、ここ”を生きる ・マインドフルネス	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第11回	瞑想法 ・実習（リラクゼーション反応、ヴィパッサナー瞑想）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第12回	不安への対処 ・実習（オープンモニタリング瞑想）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第13回	執着・こだわりからの解放 ・実習（呼吸法、瞑想法）	講話に関するレポートを作成する。
第14回	仕事とストレス ・東洋思想の教える仕事への取り組み方	講話に関するレポートを作成する。
第15回	まとめ ・実習（アイソメトリック運動、呼吸法、瞑想法） ・授業評価アンケート ・受講レポート提出に関する説明	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	インターンシップ		
担当教員氏名	学部教員, 原田 淳 (大学教育実践センター/キャリアセンター)		
研究室の場所			
連絡先電話番号			
オフィシアワー			
E-mail/HP			
授業の形式・方式	対面授業。通年集中講義。 事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、主に講義形式及び演習形式で実施する。実習は原則として夏期休業中に行う。学生は、原則として、事前学習、実習、事後学習の欠席・遅刻・早退は認められない。すべての授業への参加と実習が義務づけられる。		
単位数(時間数)	2.0	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	知己資源開発学科, 生命環境学科 2・3・4年次対象 生命科学科, 環境科学科 2・3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析, 就業体験, 職業選択, 職業適性, ビジネスマナー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、将来職業に就くために、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめようとする学生を対象にして、就業体験をさせる。 本科目の目標は、履修学生に、多様な職場や職業に対して関心を持たせるとともに、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えさせることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とすることができる。 本科目は、全学共通教育科目の一つとして位置づけられている。また、学生の進路選択を支援する大学の学生支援プログラムの一部を担うものである。		
授業の内容	企業、行政機関、福祉施設、各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。 事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、自己目標を明確にするグループ別発表・討論等を行う。実習は原則として夏期休業期間中の2週間程度とする。 事後学習では、就業体験の発表を、グループ別発表・討論として行うとともに、全体報告会としても実施する。さらに、実習報告書を作成し、提出させる。		
成績評価の方法	事前学習及び事後学習における課題遂行、実習受入先の評価、実習報告書等を総合して評価する。課題等については第1回の授業において提示する。課題、報告書等の提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。		
テキスト	必要に応じて配布する。		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。 授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。正当な理由なく、履修の途中で放棄、事前学習、実習、事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では、企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては、実践的な研修を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンス	シラバス・コースカタログを事前に目とあわせること	
第2回	応募手続き等の説明	ガイダンスの内容をよく理解すること	
第3回	応募手続きとビジネスマナー等事前学習	前回の復習および就業体験に関する情報を収集すること	
第4回	事前学習、グループワーク	就業体験先企業等の情報を得ておくこと	
第5回	就業体験	就業体験先企業等について理解をはかり、これまでの復習をしておくこと	
第6回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと	

第7回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第8回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第9回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第10回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第11回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第12回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第13回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第14回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第15回	事後学習および成果発表準備	就業体験時の記録をまとめておくこと
第16回	事後学習および成果発表	就業体験時の記録をまとめておくこと
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	ひろしま理解 (Q2)		
担当教員氏名	鈴木 康之 (代表)		
研究室の場所	広島キャンパス 1912研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィリアワー	研究室に在室中は基本的に対応可。事前にメール等で連絡することが望ましい。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面による講義形式の授業。広島キャンパス発信の遠隔授業。		
単位数 (時間数)	2.0		学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目			
キーワード	広島県、地域、歴史、文化、地理、産業、呉、尾道、世羅、大崎上島、宮島		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>全学共通教育科目の地域課題に位置づける選択科目である。</p> <p>地域への理解を深めるための導入に相当する科目として、最も身近な地域である広島県域を取り上げ、この地域を知解するための初歩的・基本的事項を学修する。</p> <p>具体的には、この地域に特徴的な歴史・文化・地理・産業などの基本的事項を多様な視点から学修することにより、地域の現状を立体的に理解する。これにより、地域課題を発見し、その解決に取り組むための基礎的知識を修得する。</p>		
授業の内容	専門分野の異なる3名の教員が、それぞれの研究分野から広島県域を理解するための方法を提示する。第1～5回を鈴木康之、第6～10回を和田崇、第11～15回を大知徳子が担当する。		
成績評価の方法	各教員がそれぞれ提示した課題に対するレポートを作成し、レポート3本の平均点によって、総合的に評価する。		
テキスト	授業時間に指示する。		
参考文献	岸田裕之 (編) 『広島県の歴史』 山川出版社 その他、授業時間に指示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を活かした実践的な教育について】 この科目では、教育委員会で文化財保護行政、博物館開設・経営の経験を有する教員が、地域の文化資源を理解し、活用する方策について指導する。		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンスーひろしまとはどのような場所？ー	広島県地域とは、どのような特徴をもつ場所なのか考えておく。	
第2回	ひろしまの歴史ー原始・古代ー	原始・古代の広島県地域のあゆみについて調べておく	
第3回	ひろしまの歴史ー中世ー	中世の広島県地域のあゆみについて調べておく。	
第4回	ひろしまの歴史ー近世ー	近世の広島県地域のあゆみについて調べておく。	
第5回	ひろしまの歴史ー近現代そして未来ー	近現代の広島県地域のあゆみについて調べるとともに、未来への展望について考えておく。	
第6回	水の都・広島	太田川沿いを歩いて感じたことをまとめておこう。	
第7回	海軍とカレーの街・呉	呉海軍カレーを食べて感じたことをまとめておこう。	
第8回	映画の街・尾道	大林監督について調べておこう。	
第9回	駅伝の町・世羅	世羅高校陸上競技部について調べておこう。	
第10回	レモンの島・大崎上島	ひろしま夢ばらざなどで瀬戸内レモン商品をチェックしておこう。	
第11回	厳島と宮島	宮島に関する情報を宮島観光協会等のHPで調べておきましょう。 宮島観光協会 https://www.miyajima.or.jp/	

第12回	厳島神社の宝物	厳島神社の文化財について調べておきましょう。
第13回	描かれた宮島	宮島を描いた作品について調べておきましょう。
第14回	厳島神社の絵馬	宮島VRツアーズを利用して豊国神社（千畳閣）の絵馬を見ておきましょう。 宮島VRツアーズ http://www.hiroshima-jp.com/vt/miyajima/
第15回	宮島の祭	宮島で執り行われる祭りの種類を調べておきましょう。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	地域情報発信論（前期集中）		
担当教員氏名	広谷大助, 藤井宣彰, 吉田倫子, 伊藤俊 他 (広島キャンパス主担当 広谷大助)		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業（状況によってはオンライン（リアルタイム）で実施） 前期集中講義（4日間。2022年8月29日（月）～9月1日（木）の予定） サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む		
単位数（時間数）	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	地域創生学科, 国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 2～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, デイバート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。 本科目は, 全学共通教育「広島と世界」（旧課程）, 「地域課題」（新課程）に位置づけられる。		
授業の内容	新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み, 課題を設定した上で, 現地へ出向いて取材し, 意見交換を経て記事をまとめるなど, 地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに, グループで課題解決への提案をまとめ, ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。		
成績評価の方法	課題レポート（50%） グループ討議, ポスター発表を含む, 授業への参加度（50%） なお, 単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする		
テキスト	事前に配付される新聞を用いる		
参考文献	適宜紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は, 掲示により確認すること。 また, 本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため, 4日間全ての出席が必須となる。よって, 1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。 なお, フィールドワークにかかる費用及び試験期間中の新聞購読代金は自己負担となる。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により, 取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回			
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			

第15回	
第16回	
授業計画	<p>授業の流れは概ね次のとおり（一部変更の可能性あり）</p> <p>事前課題：試読期間（7月下旬）に配付された新聞を読み，記事を選んで概要をまとめ，意見を述べる</p> <p>第1日：オリエンテーション，事前課題の確認，新聞の読み方 第2日：取材計画，写真撮影・取材実習（フィールドワーク） 第3日：グループ討議，記事風レポート作成・発表 第4日：ポスター制作，ポスター発表，振り返り討議</p> <p>期間中の課題：翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む</p> <p>事後課題：授業で学び得たことを踏まえて，新たな課題を発見し，レポートをまとめる</p>
シラバス備考	
URLリンク1	
URLリンク2	
URLリンク3	

授業科目名	食と健康 Q3 (2019以前生活化学読替)		
担当教員氏名	長尾 則男		
研究室の場所	庄原キャンパス 4504研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面で授業を行う。新型コロナウイルスの影響で内容や方式が変わることがあります。 詳細は初回にて説明を行う(あるいは文書等で示す)。 授業及び資料配布、レポートのやりとり等は大学ポータルあるいはOffice365 Teams等を介して行う 予定なので各自確認・準備をしておくこと。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	生物資源科学部 1～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	食, 栄養, 健康, 調理, 加工, アレルギー, 生活習慣病		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	健康と食をとりまく状況について講義を展開し, 生物資源科学分野に必要な知識を理解できるよう, また, 今後学んでいく専門領域への橋渡しとなるよう, 基礎知識の充実を目的とし, 初年次生学生を想定して授業を進める。		
授業の内容	食と健康をとりまく諸問題について事例を紹介しながら, 食の栄養・生理機能について興味・関心を高め, 食の役割を理解し, 化学的, 生物学な思考ができるようになることを目指す。具体的には, 食の健康維持機能, 疾病との関連, 疾病予防等々について解説する。		
成績評価の方法	出席状況は重視する。5回以上の欠席は評価の対象外とする。 出席確認として毎回, 小テストを行う。 課題レポート・小テスト50%、定期試験50%の割合で評価する。 小テストの実施方法や課題の提出方法については, 授業時間内に指示する。		
テキスト	特定の教科書は用いない。プリント, スライド等を用いて講義する。		
参考文献	日経サイエンス編集部 (2020) 食と健康 (別冊日経サイエンス237) 日本経済新聞出版社 スティーブン・レ 著, 大沢 章子 翻訳 (2017) 食と健康の一億年史 亜紀書房		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	授業に関する連絡方法はその都度, 授業内での連絡で行う。 質問, 疑問等はメール経由時で随時受け付け対応する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 民間化学メーカーでの分析業務の勤務経験を生かし, 食品成分を定量分析する方法を取り上げる (第7回)。		

授業計画	準備学習	
第1回	食の必要性・意義について。 「食と健康」で取り扱う領域を説明する。	「食」とは何なのか。「食」の必要性や意義について考えます。シラバスで授業内容を理解しておいてください。
第2回	食と栄養 5大栄養素や栄養素を取り込む体のしくみについて学ぶ。	5大栄養素についてネットや図書館資料等を当たってみてください。
第3回	食とエネルギー 食品中に含まれるエネルギーについて説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第4回	味覚 5基本味について学ぶ。化学調味料を取り上げる。	取り上げる内容についてネットや書籍等で歴史や製造法について調べてみてください。
第5回	食欲 食欲、ヘルスケア、ダイエット等について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第6回	調理 調理理論、調理技術について学ぶ。	取り上げる内容についてネットや書籍等で原理や反応について調べてみてください。
第7回	食品加工 食品加工技術について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第8回	機能性食品成分 機能性食品成分について説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等で調べてみてください。
第9回	生体内酸化ストレス 生体内の酸化ストレスに対する食物成分の作用について	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。

	て学ぶ。	
第10回	食の安全性 食の安全、安心、品質保証について説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等で歴史や取り組みについて調べてみてください。
第11回	生活習慣病（糖尿病等代謝疾患）予防と食生活 糖尿病の食事による予防とコントロールについて説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第12回	生活習慣病予防(循環器疾患)と食生活 循環器疾患(動脈硬化等)と食事療法について説明する。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第13回	食物アレルギー 食物アレルギーの原因物質とそのしくみ、症状、さらにアレルギー表示について取り上げる。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第14回	高齢者の食 高齢者の「食」の問題 について説明する。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第15回	食を取り巻く問題点、健康と食生活のまとめ 「食と健康」で取り上げた内容を振り返る。	「食と健康」でこれまでに取り上げた内容で興味を持ったものについて、自分なりに調べて説明できるように準備してください。
第16回	定期試験	
授業計画		
シラバス備考	レポート作成を通じて知識を整理することでさらに理解が深まることを指向する「復習」として、単元ごとに各講義で取り上げる内容について自分なりに調べて、図示、図解して手書きレポートA4紙1枚としてまとめることを課す。	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	フィールド科学 Q3		
担当教員氏名	地域資源開発学科教員		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	<p>1回目から7回目は現在大講義室からの対面講義を予定している。期間限定でオンデマンド動画配信を行う場合は別途指示する。</p> <p>8回目は中間とりまとめと今後の取組み解説、9週目以降は対面授業およびTeams等を活用したディスカッションおよびグループワークを行い、最終的にグループ毎にプレゼンテーションを行う。</p> <p>実績として各回のFormsで収集した質問や提案を、講義後半で教材に活用して議論を深めると共に、庄原市役所をはじめとした外部講師の方々に「学生の声」として実際にフィードバックする仕組みを整備している。したがって各回を真剣に考えた積極的な回答が望まれる。</p>		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 学生便覧参照
履修要件	<p>地域資源開発学科(必修)、生命環境学科(選択) 1年次対象</p> <p>*本科目は、3、4年次配当の地域課題解決型研究における生物資源科学部独自の履修要件として調整される予定である。</p>		
免許等指定科目			
キーワード	フィールド、中山間地域、地域振興、地域資源、地域自然、食文化、環境保全、6次産業		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>専門教育科目の学科基礎(その他)であり、入門的内容である。</p> <p>フィールド科学実習 I および II と共に地域社会の課題を学修することができる。</p> <p>授業の目標</p> <p>1.地域(特に備北地域)の行政、自然、文化、産業等についての概要を説明できる。</p> <p>2.自らの得た知識を生かして地域課題解決のアイデアを提案できる。</p>		
授業の内容	別途掲示等で指示する。		
成績評価の方法	<p>原則として第1週から4週目(1-8回目)の講義に関しては、毎回Formsで地域課題に対する考察を提出する(60%)。後半9回目以降は提出済みの考察から地域課題の解決方法をグループ毎に調査・KJ法等を活用して取りまとめ、プレゼンテーションで提案する(40%)。</p> <p>詳細は別途指示する。</p>		
テキスト	教科書は定めない。配信される動画等は本講義の学修のみに活用し、コピーや二次加工、転送などはしないこと。		
参考文献	講義の中で随時紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>日頃より地域の自然に親しみ、地域の文化や社会状況に関心を持つこと。</p> <p>地域との交流事業などに積極的に参加し、地域理解に努めること。</p> <p>講義には積極的に参加すること。1、2限連続した講義となるため、出席には十分留意すること。</p> <p>地域資源開発学科の学生は、本講義の単位修得が必須である。</p> <p>種々のアナウンスおよびレポート提出はWeb上で行うため、配信されるメール連絡や掲示は必ず確認すること。</p> <p>【実務経験を活かした実践的な教育について】</p> <p>地域課題の解決にかかる研究を実施している本学の教員、または、関連する地域の専門家、行政担当者等を外部講師として講義を行う。また、実際に地域の課題に対して解決手段を調査・考察・発表することにより、地域課題解決の実践力をつけるための基礎を指導する。</p>		
授業計画			準備学習
第1回	ガイダンス(講義取りまとめ代表教員) 庄原市 全体について(外部講師1)		シラバス、コースカタログを熟読し、どのような科目なのかを理解して初回に臨むこと。

	1週目 1限	
第2回	庄原市 行政について（外部講師2） 1週目 2限 【対面】	ホームページで、庄原市についてみておくこと。
第3回	庄原市の産業に関する内容（外部講師3） 2週目 1限	庄原市の産業に関わること（商工会議所、他）、インターネットなどで調べてくること。
第4回	庄原市の産学官等の活動内容の紹介（外部講師4） 2週目 2限	産官学連携やスマート農業、6次産業等について調べてくること。
第5回	庄原（備北地域）の活性化に関する内容（外部講師5） 3週目 1限	地域活性化対策の例について調べてくること。
第6回	庄原（備北地域）の観光や自然環境に関する内容（外部講師6） 3週目 2限	庄原市観光協会や自然について調べてくること。
第7回	庄原（備北地域）に関する内容。OB/OG地方での起業（外部講師7） 4週目 1限	これまでの講義を参考に庄原（備北地域）について調べてくること。特に6回目の内容も考慮すること。別途指示する。
第8回	中間とりまとめおよび今後の説明（講義取りまとめ代表教員） 4週目 2限	これまでFormsで回答した全員分の質問や考察をフィードバックするので、これらを集計、取りまとめる。
第9回	実践実習（グループワーク1） 5週目 1限	これまでFormsで回答した全員分の質問や考察をフィードバックするので、これらを集計、取りまとめる。
第10回	実践実習（グループワーク2） 5週目 2限	これまでFormsで回答した全員分の質問や考察をフィードバックするので、これらを集計、取りまとめる。
第11回	実践実習（グループワーク3） 6週目 1限	グループ毎にプレゼンテーションを取りまとめて評価を行う。
第12回	実践実習（グループワーク4） 6週目 2限	グループ毎にプレゼンテーションを取りまとめて評価を行う。
第13回	フィールド実践実習（プレゼン発表） 7週目 1限 【対面】	各班で設定した地域課題に対して、その解決方法を提案するプレゼンテーションを行う。
第14回	フィールド実践実習（プレゼン発表） 7週目 2限 【対面】	各班で設定した地域課題に対して、その解決方法を提案するプレゼンテーションを行う。
第15回	フィールド科学の総まとめ 8週目 1限 【対面】	フィールド科学の講義内容を振り返ると共に、今後の地域課題解決型研究などについて考察する。
第16回		
授業計画		
シラバス備考	本講義は外部講師によるオムニバス形式を主としたものであるため、講師の人选や講義の詳細な内容、については、上記の授業計画から変更となる場合がある。 詳細は事前の掲示および1回目のガイダンスで説明するので、必ず出席すること。	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2022/05/30(月)11:56

授業科目名	キャリアビジョン（デベロップメント）3年生以上対象（集中講義）		
担当教員氏名	原田 淳		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	特に時間帯を定めない（事前にメールか電話で連絡し面談の予約をすること）。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	Zoomミーティングによるオンライン形式で実施する予定。授業日程に従って、講義形式と演習形式の授業を併用して進める。毎回の授業毎に受講レポートに要約、演習や実習による気づきを記すことを求める。		
単位数（時間数）	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科3年生以上対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア形成, ストレスマネジメント, マインドフルネス		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目の目標は、自分自身のキャリアを形成するうえで必要不可欠となる適切にストレスをコントロールする方法について理解することである。そして、心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を実習することにより、自分自身の身体感覚や呼吸に集中し、意識を“いま、ここ”に向けるマインドフルネスを習得する。		
授業の内容	心理・社会的なストレスの特徴について解説し、ストレスマネジメントの方向性について示す。対処法のひとつとして、心身相関的アプローチによる実践的なストレスマネジメントの技法を紹介する。また、ストレスとなる事象に直面したときに生じる心の動きについて説明し、過去の体験の振り返りをすることにより望ましい認知のあり方について考える。加えて、学内の教員が仕事におけるストレスとの向き合い方について講話する。		
成績評価の方法	講義中の演習50%、レポート課題20%、期末レポート30%で評価する。		
テキスト	テキスト（教科書）は特に指定しない。		
参考文献	参考文献は授業の進行に応じて適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	演習はグループワークを行うため（Zoomミーティングの際はブレイクアウトルームを用いる）、積極的な参加姿勢をもつことを期待する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 企業に勤務経験のある教員が、その経験をふまえて、社会や職場で必要となるストレスのコントロールについて解説する。		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション ・現代社会とストレス ・ストレスマネジメントの必要性 ・実習（呼吸を整える）		
第2回	ストレスとストレス反応 ・ストレスが身体におよぼす影響 ・ストレスが心におよぼす影響 ・ストレスが行動におよぼす影響 ・実習（微細な動きを意識する）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第3回	心理・社会的ストレスの特徴 ・心理・社会的ストレスのしくみ ・心理・社会的ストレスのパターン ・実習（ブリージング・エクササイズ）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第4回	瞑想的運動法 ・実習（ブリージングエクササイズ、アイソメトリック運動）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第5回	ストレスマネジメントの方向性 ・安定した心とは	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第6回	好き・嫌いの感情を克服する ・好き・嫌いが生じるしくみ ・『人間万事塞翁が馬』	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第7回	呼吸の意識化、呼吸法 ・実習（呼吸の意識化、呼吸法）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	

第8回	レジリエンス ・レジリエンスとは ・演習（ライフラインチャート）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第9回	環境調整の方法 ・実習（セクショナルブリージング、完全呼吸法）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第10回	“いま、ここ”を生きる ・マインドフルネス	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第11回	瞑想法 ・実習（リラクゼーション反応、ヴィパッサナー瞑想）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第12回	不安への対処 ・実習（オープンモニタリング瞑想）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第13回	執着・こだわりからの解放 ・実習（呼吸法、瞑想法）	講話に関するレポートを作成する。
第14回	仕事とストレス ・東洋思想の教える仕事への取り組み方	講話に関するレポートを作成する。
第15回	まとめ ・実習（アイソメトリック運動、呼吸法、瞑想法） ・授業評価アンケート ・受講レポート提出に関する説明	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	インターンシップ (Q4)		
担当教員氏名	学部教員, 原田淳 (大学教育実践センター/キャリアセンター)		
研究室の場所	広島キャンパス キャリアセンター		
連絡先電話番号			
オフィシアワー			
E-mail/HP			
授業の形式・方式	対面授業。通年集中講義。 事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、主に講義形式及び演習形式で実施する。実習は原則として夏期休業中に行う。学生は、原則として、事前学習、実習、事後学習の欠席・遅刻・早退は認められない。すべての授業への参加と実習が義務づけられる。		
単位数(時間数)	2.0	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	保健福祉学科2年次対象 保健福祉学部3年生対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析, 就業体験, 職業選択, 職業適性, ビジネスマナー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、将来職業に就くために、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめようとする学生を対象にして、就業体験をさせる。 本科目の目標は、履修学生に、多様な職場や職業に対して関心を持たせるとともに、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えさせることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とすることができる。 本科目は、全学共通教育科目の一つとして位置づけられている。また、学生の進路選択を支援する大学の学生支援プログラムの一部を担うものである。		
授業の内容	企業、行政機関、福祉施設、各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。 事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、自己目標を明確にするグループ別発表・討論等を行う。実習は原則として夏期休業期間中の2週間程度とする。 事後学習では、就業体験の発表を、グループ別発表・討論として行うとともに、全体報告会としても実施する。さらに、実習報告書を作成し、提出させる。		
成績評価の方法	事前学習及び事後学習における課題遂行、実習受入先の評価、実習報告書等を総合して評価する。課題等については第1回の授業において提示する。課題、報告書等の提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。		
テキスト	必要に応じて配布する。		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。 授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。正当な理由なく、履修の途中で放棄、事前学習、実習、事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では、企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては、実践的な研修を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンス	シラバス・コースカタログを事前に目とあわせること	
第2回	応募手続き等の説明	ガイダンスの内容をよく理解すること	
第3回	応募手続きとビジネスマナー等事前学習	前回の復習および就業体験に関する情報を収集すること	
第4回	事前学習、グループワーク	就業体験先企業等の情報を得ておくこと	
第5回	就業体験	就業体験先企業等について理解をはかり、これまでの復習をしておくこと	

第6回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第7回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第8回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第9回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第10回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第11回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第12回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第13回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第14回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第15回	事後学習および成果発表準備	就業体験時の記録をまとめておくこと
第16回	事後学習および成果発表	就業体験時の記録をまとめておくこと
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	ひろしま理解 (Q2)		
担当教員氏名	鈴木 康之 (代表)		
研究室の場所	広島キャンパス 1912研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィシアワー	研究室に在室中は基本的に対応可。事前にメール等で連絡することが望ましい。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面による講義形式の授業。広島キャンパス発信の遠隔授業。		
単位数 (時間数)	2.0		学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目			
キーワード	広島県、地域、歴史、文化、地理、産業、呉、尾道、世羅、大崎上島、宮島		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>全学共通教育科目の地域課題に位置づける選択科目である。</p> <p>地域への理解を深めるための導入に相当する科目として、最も身近な地域である広島県域を取り上げ、この地域を知解するための初歩的・基本的事項を学修する。</p> <p>具体的には、この地域に特徴的な歴史・文化・地理・産業などの基本的事項を多様な視点から学修することにより、地域の現状を立体的に理解する。これにより、地域課題を発見し、その解決に取り組むための基礎的知識を修得する。</p>		
授業の内容	専門分野の異なる3名の教員が、それぞれの研究分野から広島県域を理解するための方法を提示する。第1～5回を鈴木康之、第6～10回を和田崇、第11～15回を大知徳子が担当する。		
成績評価の方法	各教員がそれぞれ提示した課題に対するレポートを作成し、レポート3本の平均点によって、総合的に評価する。		
テキスト	授業時間に指示する。		
参考文献	岸田裕之 (編) 『広島県の歴史』 山川出版社 その他、授業時間に指示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を活かした実践的な教育について】 この科目では、教育委員会で文化財保護行政、博物館開設・経営の経験を有する教員が、地域の文化資源を理解し、活用する方策について指導する。		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンスーひろしまとはどのような場所？ー	広島県地域とは、どのような特徴をもつ場所なのか考えておく。	
第2回	ひろしまの歴史ー原始・古代ー	原始・古代の広島県地域のあゆみについて調べておく	
第3回	ひろしまの歴史ー中世ー	中世の広島県地域のあゆみについて調べておく。	
第4回	ひろしまの歴史ー近世ー	近世の広島県地域のあゆみについて調べておく。	
第5回	ひろしまの歴史ー近現代そして未来ー	近現代の広島県地域のあゆみについて調べるとともに、未来への展望について考えておく。	
第6回	水の都・広島	太田川沿いを歩いて感じたことをまとめておこう。	
第7回	海軍とカレーの街・呉	呉海軍カレーを食べて感じたことをまとめておこう。	
第8回	映画の街・尾道	大林監督について調べておこう。	
第9回	駅伝の町・世羅	世羅高校陸上競技部について調べておこう。	
第10回	レモンの島・大崎上島	ひろしま夢ばらざなどで瀬戸内レモン商品をチェックしておこう。	
第11回	厳島と宮島	宮島に関する情報を宮島観光協会等のHPで調べておきましょう。 宮島観光協会 https://www.miyajima.or.jp/	

第12回	厳島神社の宝物	厳島神社の文化財について調べておきましょう。
第13回	描かれた宮島	宮島を描いた作品について調べておきましょう。
第14回	厳島神社の絵馬	宮島VRツアーズを利用して豊国神社（千畳閣）の絵馬を見ておきましょう。 宮島VRツアーズ http://www.hiroshima-jp.com/vt/miyajima/
第15回	宮島の祭	宮島で執り行われる祭りの種類を調べておきましょう。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	地域情報発信論（前期集中）		
担当教員氏名	広谷大助, 藤井宣彰, 吉田倫子, 伊藤俊 他 (広島キャンパス主担当 広谷大助)		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業（状況によってはオンライン（リアルタイム）で実施） 前期集中講義（4日間。2022年8月29日（月）～9月1日（木）の予定） サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む		
単位数（時間数）	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	地域創生学科, 国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 2～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, デイバート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。 本科目は, 全学共通教育「広島と世界」(旧課程), 「地域課題」(新課程)に位置づけられる。		
授業の内容	新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み, 課題を設定した上で, 現地へ出向いて取材し, 意見交換を経て記事をまとめるなど, 地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに, グループで課題解決への提案をまとめ, ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。		
成績評価の方法	課題レポート(50%) グループ討議, ポスター発表を含む, 授業への参加度(50%) なお, 単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする		
テキスト	事前に配付される新聞を用いる		
参考文献	適宜紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は, 掲示により確認すること。 また, 本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため, 4日間全ての出席が必須となる。よって, 1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。 なお, フィールドワークにかかる費用及び試験期間中の新聞購読代金は自己負担となる。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により, 取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回			
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			

第15回	
第16回	
授業計画	<p>授業の流れは概ね次のとおり（一部変更の可能性あり）</p> <p>事前課題：試読期間（7月下旬）に配付された新聞を読み，記事を選んで概要をまとめ，意見を述べる</p> <p>第1日：オリエンテーション，事前課題の確認，新聞の読み方 第2日：取材計画，写真撮影・取材実習（フィールドワーク） 第3日：グループ討議，記事風レポート作成・発表 第4日：ポスター制作，ポスター発表，振り返り討議</p> <p>期間中の課題：翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む</p> <p>事後課題：授業で学び得たことを踏まえて，新たな課題を発見し，レポートをまとめる</p>
シラバス備考	
URLリンク1	
URLリンク2	
URLリンク3	

授業科目名	食と健康 Q3 (2019以前生活化学読替)		
担当教員氏名	長尾 則男		
研究室の場所	庄原キャンパス 4504研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面で授業を行う。新型コロナウイルスの影響で内容や方式が変わることがあります。 詳細は初回にて説明を行う(あるいは文書等で示す)。 授業及び資料配布、レポートのやりとり等は大学ポータルあるいはOffice365 Teams等を介して行う 予定なので各自確認・準備をしておくこと。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	生物資源科学部 1～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	食, 栄養, 健康, 調理, 加工, アレルギー, 生活習慣病		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	健康と食をとりまく状況について講義を展開し, 生物資源科学分野に必要な知識を理解できるよう, また, 今後学んでいく専門領域への橋渡しとなるよう, 基礎知識の充実を目的とし, 初年次生学生を想定して授業を進める。		
授業の内容	食と健康をとりまく諸問題について事例を紹介しながら, 食の栄養・生理機能について興味・関心を高め, 食の役割を理解し, 化学的, 生物学な思考ができるようになることを目指す。具体的には, 食の健康維持機能, 疾病との関連, 疾病予防等々について解説する。		
成績評価の方法	出席状況は重視する。5回以上の欠席は評価の対象外とする。 出席確認として毎回, 小テストを行う。 課題レポート・小テスト50%、定期試験50%の割合で評価する。 小テストの実施方法や課題の提出方法については, 授業時間内に指示する。		
テキスト	特定の教科書は用いない。プリント, スライド等を用いて講義する。		
参考文献	日経サイエンス編集部 (2020) 食と健康 (別冊日経サイエンス237) 日本経済新聞出版社 ステーブン・レ 著, 大沢 章子 翻訳 (2017) 食と健康の一億年史 亜紀書房		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	授業に関する連絡方法はその都度, 授業内での連絡で行う。 質問, 疑問等はメール経由時で随時受け付け対応する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 民間化学メーカーでの分析業務の勤務経験を生かし, 食品成分を定量分析する方法を取り上げる (第7回)。		

授業計画	準備学習	
第1回	食の必要性・意義について。 「食と健康」で取り扱う領域を説明する。	「食」とは何なのか。「食」の必要性や意義について考えます。シラバスで授業内容を理解しておいてください。
第2回	食と栄養 5大栄養素や栄養素を取り込む体のしくみについて学ぶ。	5大栄養素についてネットや図書館資料等を当たってみてください。
第3回	食とエネルギー 食品中に含まれるエネルギーについて説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第4回	味覚 5基本味について学ぶ。化学調味料を取り上げる。	取り上げる内容についてネットや書籍等で歴史や製造法について調べてみてください。
第5回	食欲 食欲、ヘルスケア、ダイエット等について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第6回	調理 調理理論、調理技術について学ぶ。	取り上げる内容についてネットや書籍等で原理や反応について調べてみてください。
第7回	食品加工 食品加工技術について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第8回	機能性食品成分 機能性食品成分について説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等で調べてみてください。
第9回	生体内酸化ストレス 生体内の酸化ストレスに対する食物成分の作用について	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。

	て学ぶ。	
第10回	食の安全性 食の安全、安心、品質保証について説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等で歴史や取り組みについて調べてみてください。
第11回	生活習慣病（糖尿病等代謝疾患）予防と食生活 糖尿病の食事による予防とコントロールについて説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第12回	生活習慣病予防(循環器疾患)と食生活 循環器疾患(動脈硬化等)と食事療法について説明する。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第13回	食物アレルギー 食物アレルギーの原因物質とそのしくみ、症状、さらにアレルギー表示について取り上げる。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第14回	高齢者の食 高齢者の「食」の問題 について説明する。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第15回	食を取り巻く問題点、健康と食生活のまとめ 「食と健康」で取り上げた内容を振り返る。	「食と健康」でこれまでに取り上げた内容で興味を持ったものについて、自分なりに調べて説明できるように準備してください。
第16回	定期試験	
授業計画		
シラバス備考	レポート作成を通じて知識を整理することでさらに理解が深まることを指向する「復習」として、単元ごとに各講義で取り上げる内容について自分なりに調べて、図示、図解して手書きレポートA4紙1枚としてまとめることを課す。	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	チーム医療福祉論 (Q2)		
担当教員氏名	吉川ひろみ, 黒田寿美恵, 島谷康司, 坊岡峰子, 永野なおみ		
研究室の場所	吉川 (3404), 黒田 (3509), 島谷 (4429), 坊岡 (2514), 永野 (4524)		
連絡先電話番号	学生便覧を参照		
オフィスアワー	月曜日5限		
E-mail/HP	吉川<yosikawa@pu-hiroshima.ac.jp>, 黒田<kuroda@pu-hiroshima.ac.jp>, 島谷<shimatani@pu-hiroshima.ac.jp>, 坊岡<bouoka@pu-hiroshima.ac.jp>, 永野<nagano@pu-hiroshima.ac.jp> ,		
授業の形式・方式	対面授業, グループワーク		
単位数 (時間数)	1.0	15	学科または専攻毎の必修・選択の別 全コース必修
履修要件	1年次必修科目		
免許等指定科目			
キーワード	ヘルスケア専門職, ヘルスサポーターマインド, チームアプローチ, 患者中心医療, 利用者主体のサービス, リハビリテーション, 倫理		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>【授業の目標】</p> <p>異なる専門領域の学生が共に学ぶ機会を得ることにより, お互いを尊重する姿勢を学ぶ。ケアチームの概念, チームワークの難しさと効果, リーダーシップ, 組織管理について学習する。事例を通して連携の方法論とグループダイナミクスについて考察する。将来よりよいチームアプローチを実践するための基礎を培う。</p> <p>【科目の位置づけ】</p> <p>「地域包括ケアシステムを発展させる科目」群に位置づけられている。</p>		
授業の内容	学科横断的に編成するグループで, チーム医療福祉の事例についてディスカッションする。医療福祉における効果的なチームのあり方について学修する。		
成績評価の方法	発表20%, クイズ30%, レポート50%の割合で評価する。欠席遅刻は減点対象とする。		
テキスト	吉川ひろみ, 上野哲『倫理でスッキリ医療従事者のモヤモヤ解消法』(シービーアール)		
参考文献	別途指示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>コース選択枠で入学した学生は, 必ず履修すること</p> <p>【実務経験を生かした実践的な教育について】</p> <p>医療福祉現場において実務経験を有する教員が, 多職種連携アプローチの実際について紹介し, 学生はよりよいチーム医療福祉について考える。</p>		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第2回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第3回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第4回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第5回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第6回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第7回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第8回	まとめ	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			

第15回		
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク 1		
URLリンク 2		
URLリンク 3		

授業科目名	チーム医療福祉演習（登録用）		
担当教員氏名	古山 千佳子 ほか		
研究室の場所	三原キャンパス 3405研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	担当教員ごとに後日指定する。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	各学科の横断的小グループによる演習形式の授業。講義、小グループでのディスカッション、資料の作成および発表。状況に応じてグループディスカッションおよび発表をオンライン（リアルタイム）で行う場合がある。		
単位数（時間数）	1.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	全学科4年次対象		
免許等指定科目	看護師・保健師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	主体的学習, 討論, 学習方法		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>これまでに学んできた専門知識・技術や実習での経験にもとづき、学科横断的な小グループにより事例を中心に多面的に討論検討する。これを通して各専門職がどのように連携しチーム医療を支えるべきか、専門職としての役割は何かを考えるとともに患者・障害者のための保健医療およびチーム医療のあり方を理解し、説明することができる。</p> <p>尚、本科目は地域包括ケアシステムを発展させる科目の必須科目として位置づけられており、これまで学んできた専門知識や技術にもとづき、学生主導で行われる。</p>		
授業の内容	<p>学内・現場実習終了後の学生を対象として、学科横断的に編成するチームによって、ロールプレイを用いて具体的なチームによるアプローチを経験する。専門職種相互の理解を深め、相互の専門性を認め、共通の専門用語を駆使して、患者の要求に応えることのできる専門職を養成することを目的とする。</p> <p>尚、本科目は地域包括ケアシステムを発展させる科目の必須科目として位置づけられており、これまで学んできた専門知識や技術にもとづき、学生主導で行われる。</p>		
成績評価の方法	参加, 学習態度, 提出物を総合して評価する。		
テキスト	吉川ひろみ, 上野 哲 著『倫理ですっきり 医療従事者のモヤモヤ解消法』（シービーアール）2020		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>【実務経験を生かした実践的な教育について】</p> <p>学生は、具体的な事例について多職種連携アプローチをディスカッションし、考える。医療福祉現場の実務経験を有する教員が指導する。</p> <p>これまでの講義、学内実験・実習、臨床実習で学んだことを思い起こし、グループでよく議論すること。</p> <p>初日に手引きを配布するので、そのスケジュールに従って行動する。</p>		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション3事例（医学的事例）の紹介	所属学科の特性について復習する。	
第2回	各グループ（G）で医学的事例（3事例）の情報をしっかり読み込む。授業時間中（12時前後）に各班の担当事例が公表される	所属学科の特性について復習する。	
第3回	各学科実習室で、見学・説明とデモンストレーション	デモンストレーションの準備。チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する	
第4回	各学科実習室で、見学・説明とデモンストレーション	デモンストレーションの準備。チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する	
第5回	各グループで事例検討	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第6回	各グループで事例検討および発表資料作成	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第7回	各グループで事例検討および発表資料作成	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第8回	中グループで発表（医学的事例）	発表の準備。チーム医療福祉に関わる各専門職	

		の役割と機能について復習する。
第9回	各グループで倫理事例または地域事例の検討	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第10回	各グループで倫理事例または地域事例の検討	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第11回	倫理事例検討の続きと発表資料作成と発表方法の打合せ、グループにより当事者からサービスを受けた経験を聞く場合がある	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第12回	倫理事例検討の続きと発表資料作成と発表方法の打合せ、グループにより当事者からサービスを受けた経験を聞く場合がある	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第13回	倫理事例検討の続きと発表資料作成と発表方法の打合せ、グループにより当事者からサービスを受けた経験を聞く場合がある	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第14回	中グループで発表（倫理事例または地域事例）	発表の準備。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第15回	チーム医療福祉演習全体のまとめと振り返り	これまでの学習を振り返る。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	基礎看護実習Ⅱ (Q4)		
担当教員氏名	吉田 和美, 三宅由希子, 青井聡美, 池田ひろみ		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時 (要予約)		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	臨地実習		
単位数 (時間数)	2.0	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学コース2年次対象		
免許等指定科目	看護師・保健師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	援助的人間関係 健康障害をもつ対象者の看護 看護過程 看護診断 看護計画 看護援助 SOAP 記録 個人情報保護 守秘義務 プライバシーの保護 健康状態のアセスメント バイタルサイン測定		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	取り巻く環境との相互作用をもちながら生活者として生きている, 健康障害がある対象の全体像を理解し, 看護過程にそって計画, 実施, 評価することを通して, 根拠に基づいた看護を計画的に提供する基礎的能力および態度を養う。		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> 健康障害をもつ対象の多様な価値観や生活背景を尊重しながら, 看護者として必要とされる倫理的態度と姿勢に基づき, 対象の気持ちに寄り添い, 信頼関係を形成し援助的人間関係を築くよう関わることができる。 健康障害をもち治療や検査を受ける対象の身体および, 心理社会的側面の全体像を理解し, 対象の看護上の問題の解決に向けて, 看護過程にそって計画, 実施, 評価することを通して, 根拠ある看護実践をおこなうことができる。 安全なケア環境の提供をめざして, チームの一員として協働できる。 看護専門職として学修し続け成長していくために適切な姿勢・態度で行動できる。 対象に提供した自らの看護を振り返り, より良い看護の実現に向けて, 看護の専門性を考察し, 専門職としての成長していくための自己の課題を明らかにできる。 		
成績評価の方法	基礎看護実習Ⅱルーブリックに基づき評価する。目標への到達度 (90%), レポート (10%) とする。		
テキスト	臨地実習要綱, 基礎看護実習Ⅱ実習要綱		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>【実務経験を活かした実践的な教育について】看護師経験のある教員が臨地において病棟看護師と連携し看護実践の指導を行う。</p> <p>看護学概論, 日常生活援助方法論Ⅰ・Ⅱ, 診療に伴う看護方法論, フィジカルアセスメント, 看護理論と実践, 慢性期看護論, 急性期看護論で学修した内容を復習して実習に臨むこと。</p> <p>基礎看護実習技術ノートに手順等を記載し持参すること。</p> <p>実習日数が不足した場合は記録提出にかかわらず再履修となるので, 健康管理には十分留意すること。</p> <p>インフルエンザ感染症流行期であるため, 実習前に必ずワクチンを接種し, 実習に臨むこと。</p>		
授業計画	準備学習		
第1回	「基礎看護実習Ⅱ」実習要綱参照		
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			

第13回		
第14回		
第15回		
第16回		
第17回		
第18回		
第19回		
第20回		
第21回		
第22回		
第23回		
第24回		
第25回		
第26回		
第27回		
第28回		
第29回		
第30回		
第31回		
第32回		
授業計画	基礎看護実習Ⅱ実習要綱参照	
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	保健医療福祉行政論 (Q2)		
担当教員氏名	安武 繁, 俵 志江		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィシアワー			
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	<p>★重要★</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの担当教員の授業など、この科目の、すべての授業の日程や授業参加方法などについて、通知などを参考にして、よく確認してください。 講義方法や成績評価の方法などは、担当する教員によって異なりますので、本学ポータルサイト「ユニバ」・メールなどで通達される指示に従ってください。 新型コロナウイルス感染症の状況などに応じて、「授業の形式・方式」などを変更する可能性があります。 <p>Teams (チームス) を使うオンライン授業の場合では、チーム名は、「科目「保健医療福祉行政論」(2022年度)」です。</p> <p>いつも県立広島大学ポータルサイトの「ユニバ」による連絡などを確認してください。</p> <p>★</p> <p>【担当教員の安武について】</p> <p>担当教員の安武は、この科目の、すべての授業を対面授業で実施する予定です。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の状況などに応じて、「Teams (チームス) を使うオンライン授業」などに変更するなど、「授業の形式・方式」などを変更する可能性があります。</p> <p>Teams (チームス) を使うオンライン授業の場合では、チーム名は、「科目「保健医療福祉行政論」(2022年度)」です。</p> <p>いつも県立広島大学ポータルサイトの「ユニバ」による連絡などを確認してください。</p> <p>担当教員の安武が担当する日程は、「7月5日、7月12日、7月19日、7月26日、8月2日」の予定です。</p> <p>俵 先生が担当する授業については、俵 先生の指示に従ってください。</p> <p>★</p> <ul style="list-style-type: none"> 俵の授業担当予定の日程予定は、「6月14日(1回目)、6月21日(2回目)、6月28日(3回目)」です。 対面を基本とします。感染症の状況によっては、Teamsにてオンライン授業(講義はオンデマンド、小テストはリアルタイムで実施)を行います。 担当する2・3回目授業では最初に前回授業内容の小テストを実施します。小テストは授業開始時から実施します。3回目授業はレポートで評価します。評価は小テストとレポートで実施します。 		
単位数(時間数)	1.0	15	<p>学科または専攻毎の必修・選択の別</p> <p>看護(選択。保健師課程の必修科目で、保健師課程以外の学生も履修できる。)、理学(選択)、作業(選択)、コミュ(選択)、人福(選択)</p> <p>各学科の必修・選択の別について、よく確認してください。</p>
履修要件	<ul style="list-style-type: none"> 主として、「R2入学生 3年次開講」 保健師課程の必修科目で、保健師課程以外の学生も履修できる。 		
免許等指定科目	<ul style="list-style-type: none"> 保健師課程の必修科目で、保健師課程以外の学生も履修できる。 免許等指定科目については、確認してください。 		
キーワード	多職種連携 保健福祉行政 地方分権 健康日本21		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	1 保健福祉行政の仕組みと課題について理解する。2 多職種連携による地域医療と保健福祉の連携システムについて理解する。3 在宅医療に必要とされる要件について学ぶ。		
授業の内容	1 地方分権の推進に伴う地域保健福祉の課題 2 地域保健福祉行政 3 多職種連携による在宅医療 4 地域リハビリテーションの実践 5 健康日本21の推進と保健福祉計画 6 精神保健福祉と行政 7 母子保健福祉と行政 8 地域医療と保健福祉との連携		
成績評価の方法	<p>★</p> <p>【担当教員の安武について】</p>		

	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の成績評価は、「レポート」の提出で行います。このレポートについては、県立広島大学ポータルサイトの「ユニバ」の「アンケート」のところで示す予定です。 ・いつも県立広島大学ポータルサイトの「ユニバ」による連絡などを確認してください。 <p>★</p> <ul style="list-style-type: none"> ・依の担当する授業の成績評価は、小テスト及びレポートとします。担当回の2・3回では最初に前回授業内容の小テストを実施します。3回目の授業はレポートで評価します。 <p>★</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は、安武の担当分が60%、依の担当分が40%の予定。
--	---

テキスト	指定テキストは特にありません（予定）。
------	---------------------

参考文献	<p><参考文献></p> <ul style="list-style-type: none"> ・藤内修二ほか：標準保健師講座別巻1，保健医療福祉行政論（最新版），医学書院。 ・野村陽子ほか：保健学講座 保健医療福祉行政論（最新版），メヂカルフレンド社。 ・医療情報科学研究所編集：公衆衛生がみえる（最新版），メディックメディア。 <p>・担当教員の安武では、「保健所研修ノート」（医歯薬出版、安武 繁 [著]）を持っている場合は、それを参考にしてください。</p>
------	---

備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>★重要★</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの担当教員の授業日程の予定に、ご注意ください。 ・いつも県立広島大学ポータルサイトの「ユニバ」による連絡などを確認してください。 <p>★</p> <p>それぞれの担当教員の授業など、この科目の、すべての授業の日程や授業参加方法などについて、通知などを参考にして、よく確認してください。</p> <p>それぞれの担当教員の「授業計画」，「準備学習」を参考してください。</p> <p>【担当教員の実務経験を活かした実践的な教育について】</p> <p>担当教員の安武は以前、広島県の保健所や福祉保健センターなどに勤務したことがある。地域の保健医療計画，市町村の保健計画の作成，福祉行政，母子保健，精神保健福祉，学校保健，感染症対策など多くの分野における保健医療福祉活動の実務や企画などに指導助言を行った経験を生かし，本科目「保健医療福祉行政論」において実践的な教育を行う。</p> <p>今後、この科目では、さらに幅広い学習も必要です。そのため、今後、この科目の“標準的なテキスト”や、この科目で学習すべき内容全体を簡潔にまとめた“国家試験対策本（最新版）”なども活用して、この科目で学習すべき内容全体を学習してください。</p>
---------------------	---

授業計画	準備学習
第1回 保健医療福祉行政の変遷 保健医療福祉の財政 母子保健事業と地域支援活動 (依) 【対面】（予定）	自身の生活と法律との関係、これまでのライフサイクルの中での健康と法律の関りについて参考文献などを読んで考えてみましょう。
第2回 成人保健事業 高齢者保健事業，介護保険制度 (依) 【対面】（予定）	1回目の授業の復習（小テスト対象）
第3回 障害者に関する保健福祉施策と地域支援体制 難病対策と地域ケアシステム (依) 【対面】（予定）	2回目の授業の復習（小テスト対象）
第4回 保健福祉サービスの行政体系総論，市町村および都道府県の役割，精神保健福祉行政など <担当教員は，安武> 【対面】（予定）	準備学習として，参考図書など，厚生労働省や自治体の公式ホームページなどを勉強することが望ましいです。
第5回 学校保健行政，労働衛生行政，労働者のメンタルヘルス対策など <担当教員は，安武> 【対面】（予定）	準備学習として，参考図書など，厚生労働省や自治体の公式ホームページなどを勉強することが望ましいです。
第6回 感染症対策と行政，感染症法，災害対策，災害支援活動など	準備学習として，参考図書など，厚生労働省や自治体の公式ホームページなどを勉強することが望ましいです。

	<担当教員は，安武> 【対面】（予定）	
第7回	住民参画による地域の健康づくり体制の構築について 現状と課題，健やか親子21，健康日本21，地域における生活習慣病予防対策，保健福祉計画，地域包括ケア，多職種連携，在宅医療など <担当教員は，安武> 【対面】（予定）	準備学習として，参考図書など，厚生労働省や自治体の公式ホームページなどを勉強することが望ましいです。
第8回	これまでの学習のまとめ <担当教員は，安武> 【対面】（予定）	これまでの学習の全体のまとめの学習をする。
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		
第16回		
授業計画		
シラバス備考	今後，この科目では，さらに幅広い学習も必要です。そのため，今後，この科目の“標準的なテキスト”や，この科目で学習すべき内容全体を簡潔にまとめた“国家試験対策本（最新版）”なども活用して，この科目で学習すべき内容全体を学習してください。	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2022/05/30(月)11:56

授業科目名	キャリアビジョン（デベロップメント）3年生以上対象（集中講義）		
担当教員氏名	原田 淳		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	特に時間帯を定めない（事前にメールか電話で連絡し面談の予約をすること）。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	Zoomミーティングによるオンライン形式で実施する予定。授業日程に従って、講義形式と演習形式の授業を併用して進める。毎回の授業毎に受講レポートに要約、演習や実習による気づきを記すことを求める。		
単位数（時間数）	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科3年生以上対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア形成, ストレスマネジメント, マインドフルネス		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目の目標は、自分自身のキャリアを形成するうえで必要不可欠となる適切にストレスをコントロールする方法について理解することである。そして、心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を実習することにより、自分自身の身体感覚や呼吸に集中し、意識を“いま、ここ”に向けるマインドフルネスを習得する。		
授業の内容	心理・社会的なストレスの特徴について解説し、ストレスマネジメントの方向性について示す。対処法のひとつとして、心身相関的アプローチによる実践的なストレスマネジメントの技法を紹介する。また、ストレスとなる事象に直面したときに生じる心の動きについて説明し、過去の体験の振り返りを行うことにより望ましい認知のあり方について考える。加えて、学内の教員が仕事におけるストレスとの向き合い方について講話する。		
成績評価の方法	講義中の演習50%、レポート課題20%、期末レポート30%で評価する。		
テキスト	テキスト（教科書）は特に指定しない。		
参考文献	参考文献は授業の進行に応じて適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	演習はグループワークを行うため（Zoomミーティングの際はブレイクアウトルームを用いる）、積極的な参加姿勢をもつことを期待する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 企業に勤務経験のある教員が、その経験をふまえて、社会や職場で必要となるストレスのコントロールについて解説する。		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション ・現代社会とストレス ・ストレスマネジメントの必要性 ・実習（呼吸を整える）		
第2回	ストレスとストレス反応 ・ストレスが身体におよぼす影響 ・ストレスが心におよぼす影響 ・ストレスが行動におよぼす影響 ・実習（微細な動きを意識する）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第3回	心理・社会的ストレスの特徴 ・心理・社会的ストレスのしくみ ・心理・社会的ストレスのパターン ・実習（ブリージング・エクササイズ）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第4回	瞑想的運動法 ・実習（ブリージングエクササイズ、アイソメトリック運動）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第5回	ストレスマネジメントの方向性 ・安定した心とは	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第6回	好き・嫌いの感情を克服する ・好き・嫌いが生じるしくみ ・『人間万事塞翁が馬』	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第7回	呼吸の意識化、呼吸法 ・実習（呼吸の意識化、呼吸法）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	

第8回	レジリエンス ・レジリエンスとは ・演習（ライフラインチャート）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第9回	環境調整の方法 ・実習（セクショナルブリージング、完全呼吸法）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第10回	“いま、ここ”を生きる ・マインドフルネス	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第11回	瞑想法 ・実習（リラクゼーション反応、ヴィパッサナー瞑想）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第12回	不安への対処 ・実習（オープンモニタリング瞑想）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第13回	執着・こだわりからの解放 ・実習（呼吸法、瞑想法）	講話に関するレポートを作成する。
第14回	仕事とストレス ・東洋思想の教える仕事への取り組み方	講話に関するレポートを作成する。
第15回	まとめ ・実習（アイソメトリック運動、呼吸法、瞑想法） ・授業評価アンケート ・受講レポート提出に関する説明	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	インターンシップ (Q4)		
担当教員氏名	学部教員, 原田淳 (大学教育実践センター/キャリアセンター)		
研究室の場所	広島キャンパス キャリアセンター		
連絡先電話番号			
オフィシアワー			
E-mail/HP			
授業の形式・方式	対面授業。通年集中講義。 事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、主に講義形式及び演習形式で実施する。実習は原則として夏期休業中に行う。学生は、原則として、事前学習、実習、事後学習の欠席・遅刻・早退は認められない。すべての授業への参加と実習が義務づけられる。		
単位数(時間数)	2.0	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	保健福祉学科2年次対象 保健福祉学部3年生対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析, 就業体験, 職業選択, 職業適性, ビジネスマナー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、将来職業に就くために、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめようとする学生を対象にして、就業体験をさせる。 本科目の目標は、履修学生に、多様な職場や職業に対して関心を持たせるとともに、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えさせることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とすることができる。 本科目は、全学共通教育科目の一つとして位置づけられている。また、学生の進路選択を支援する大学の学生支援プログラムの一部を担うものである。		
授業の内容	企業、行政機関、福祉施設、各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。 事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、自己目標を明確にするグループ別発表・討論等を行う。実習は原則として夏期休業期間中の2週間程度とする。 事後学習では、就業体験の発表を、グループ別発表・討論として行うとともに、全体報告会としても実施する。さらに、実習報告書を作成し、提出させる。		
成績評価の方法	事前学習及び事後学習における課題遂行、実習受入先の評価、実習報告書等を総合して評価する。課題等については第1回の授業において提示する。課題、報告書等の提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。		
テキスト	必要に応じて配布する。		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。 授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。正当な理由なく、履修の途中で放棄、事前学習、実習、事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では、企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては、実践的な研修を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンス	シラバス・コースカタログを事前に目とのおすこと	
第2回	応募手続き等の説明	ガイダンスの内容をよく理解すること	
第3回	応募手続きとビジネスマナー等事前学習	前回の復習および就業体験に関する情報を収集すること	
第4回	事前学習、グループワーク	就業体験先企業等の情報を得ておくこと	
第5回	就業体験	就業体験先企業等について理解をはかり、これまでの復習をしておくこと	

第6回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第7回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第8回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第9回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第10回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第11回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第12回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第13回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第14回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第15回	事後学習および成果発表準備	就業体験時の記録をまとめておくこと
第16回	事後学習および成果発表	就業体験時の記録をまとめておくこと
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	ひろしま理解 (Q2)		
担当教員氏名	鈴木 康之 (代表)		
研究室の場所	広島キャンパス 1912研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィリアワー	研究室に在室中は基本的に対応可。事前にメール等で連絡することが望ましい。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面による講義形式の授業。広島キャンパス発信の遠隔授業。		
単位数 (時間数)	2.0		学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目			
キーワード	広島県、地域、歴史、文化、地理、産業、呉、尾道、世羅、大崎上島、宮島		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>全学共通教育科目の地域課題に位置づける選択科目である。</p> <p>地域への理解を深めるための導入に相当する科目として、最も身近な地域である広島県域を取り上げ、この地域を知解するための初歩的・基本的事項を学修する。</p> <p>具体的には、この地域に特徴的な歴史・文化・地理・産業などの基本的事項を多様な視点から学修することにより、地域の現状を立体的に理解する。これにより、地域課題を発見し、その解決に取り組むための基礎的知識を修得する。</p>		
授業の内容	専門分野の異なる3名の教員が、それぞれの研究分野から広島県域を理解するための方法を提示する。第1～5回を鈴木康之、第6～10回を和田崇、第11～15回を大知徳子が担当する。		
成績評価の方法	各教員がそれぞれ提示した課題に対するレポートを作成し、レポート3本の平均点によって、総合的に評価する。		
テキスト	授業時間に指示する。		
参考文献	岸田裕之 (編) 『広島県の歴史』 山川出版社 その他、授業時間に指示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を活かした実践的な教育について】 この科目では、教育委員会で文化財保護行政、博物館開設・経営の経験を有する教員が、地域の文化資源を理解し、活用する方策について指導する。		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンス—ひろしまとはどのような場所?—	広島県地域とは、どのような特徴をもつ場所なのか考えておく。	
第2回	ひろしまの歴史—原始・古代—	原始・古代の広島県地域のあゆみについて調べておく	
第3回	ひろしまの歴史—中世—	中世の広島県地域のあゆみについて調べておく。	
第4回	ひろしまの歴史—近世—	近世の広島県地域のあゆみについて調べておく。	
第5回	ひろしまの歴史—近現代そして未来—	近現代の広島県地域のあゆみについて調べるとともに、未来への展望について考えておく。	
第6回	水の都・広島	太田川沿いを歩いて感じたことをまとめておこう。	
第7回	海軍とカレーの街・呉	呉海軍カレーを食べて感じたことをまとめておこう。	
第8回	映画の街・尾道	大林監督について調べておこう。	
第9回	駅伝の町・世羅	世羅高校陸上競技部について調べておこう。	
第10回	レモンの島・大崎上島	ひろしま夢ばらざなどで瀬戸内レモン商品をチェックしておこう。	
第11回	厳島と宮島	宮島に関する情報を宮島観光協会等のHPで調べておきましょう。 宮島観光協会 https://www.miyajima.or.jp/	

第12回	厳島神社の宝物	厳島神社の文化財について調べておきましょう。
第13回	描かれた宮島	宮島を描いた作品について調べておきましょう。
第14回	厳島神社の絵馬	宮島VRツアーズを利用して豊国神社（千畳閣）の絵馬を見ておきましょう。 宮島VRツアーズ http://www.hiroshima-jp.com/vt/miyajima/
第15回	宮島の祭	宮島で執り行われる祭りの種類を調べておきましょう。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	地域情報発信論（前期集中）		
担当教員氏名	広谷大助, 藤井宣彰, 吉田倫子, 伊藤俊 他 (広島キャンパス主担当 広谷大助)		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業（状況によってはオンライン（リアルタイム）で実施） 前期集中講義（4日間。2022年8月29日（月）～9月1日（木）の予定） サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む		
単位数（時間数）	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	地域創生学科, 国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 2～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, デイバート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。 本科目は, 全学共通教育「広島と世界」（旧課程）, 「地域課題」（新課程）に位置づけられる。		
授業の内容	新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み, 課題を設定した上で, 現地へ出向いて取材し, 意見交換を経て記事をまとめるなど, 地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに, グループで課題解決への提案をまとめ, ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。		
成績評価の方法	課題レポート（50%） グループ討議, ポスター発表を含む, 授業への参加度（50%） なお, 単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする		
テキスト	事前に配付される新聞を用いる		
参考文献	適宜紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は, 掲示により確認すること。 また, 本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため, 4日間全ての出席が必須となる。よって, 1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。 なお, フィールドワークにかかる費用及び試験期間中の新聞購読代金は自己負担となる。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により, 取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回			
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			

第15回	
第16回	
授業計画	<p>授業の流れは概ね次のとおり（一部変更の可能性あり）</p> <p>事前課題：試読期間（7月下旬）に配付された新聞を読み，記事を選んで概要をまとめ，意見を述べる</p> <p>第1日：オリエンテーション，事前課題の確認，新聞の読み方 第2日：取材計画，写真撮影・取材実習（フィールドワーク） 第3日：グループ討議，記事風レポート作成・発表 第4日：ポスター制作，ポスター発表，振り返り討議</p> <p>期間中の課題：翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む</p> <p>事後課題：授業で学び得たことを踏まえて，新たな課題を発見し，レポートをまとめる</p>
シラバス備考	
URLリンク1	
URLリンク2	
URLリンク3	

授業科目名	食と健康 Q3 (2019以前生活化学読替)		
担当教員氏名	長尾 則男		
研究室の場所	庄原キャンパス 4504研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面で授業を行う。新型コロナウイルスの影響で内容や方式が変わることがあります。 詳細は初回にて説明を行う(あるいは文書等で示す)。 授業及び資料配布、レポートのやりとり等は大学ポータルあるいはOffice365 Teams等を介して行う 予定なので各自確認・準備をしておくこと。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	生物資源科学部 1～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	食, 栄養, 健康, 調理, 加工, アレルギー, 生活習慣病		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	健康と食をとりまく状況について講義を展開し, 生物資源科学分野に必要な知識を理解できるよう, また, 今後学んでいく専門領域への橋渡しとなるよう, 基礎知識の充実を目的とし, 初年次生学生を想定して授業を進める。		
授業の内容	食と健康をとりまく諸問題について事例を紹介しながら, 食の栄養・生理機能について興味・関心を高め, 食の役割を理解し, 化学的, 生物学な思考ができるようになることを目指す。具体的には, 食の健康維持機能, 疾病との関連, 疾病予防等々について解説する。		
成績評価の方法	出席状況は重視する。5回以上の欠席は評価の対象外とする。 出席確認として毎回, 小テストを行う。 課題レポート・小テスト50%、定期試験50%の割合で評価する。 小テストの実施方法や課題の提出方法については, 授業時間内に指示する。		
テキスト	特定の教科書は用いない。プリント, スライド等を用いて講義する。		
参考文献	日経サイエンス編集部 (2020) 食と健康 (別冊日経サイエンス237) 日本経済新聞出版社 スティーブン・レ 著, 大沢 章子 翻訳 (2017) 食と健康の一億年史 亜紀書房		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	授業に関する連絡方法はその都度, 授業内での連絡で行う。 質問, 疑問等はメール経由時で随時受け付け対応する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 民間化学メーカーでの分析業務の勤務経験を生かし, 食品成分を定量分析する方法を取り上げる (第7回)。		

授業計画	準備学習	
第1回	食の必要性・意義について。 「食と健康」で取り扱う領域を説明する。	「食」とは何なのか。「食」の必要性や意義について考えます。シラバスで授業内容を理解しておいてください。
第2回	食と栄養 5大栄養素や栄養素を取り込む体のしくみについて学ぶ。	5大栄養素についてネットや図書館資料等を当たってみてください。
第3回	食とエネルギー 食品中に含まれるエネルギーについて説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第4回	味覚 5基本味について学ぶ。化学調味料を取り上げる。	取り上げる内容についてネットや書籍等で歴史や製造法について調べてみてください。
第5回	食欲 食欲、ヘルスケア、ダイエット等について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第6回	調理 調理理論、調理技術について学ぶ。	取り上げる内容についてネットや書籍等で原理や反応について調べてみてください。
第7回	食品加工 食品加工技術について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第8回	機能性食品成分 機能性食品成分について説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等で調べてみてください。
第9回	生体内酸化ストレス 生体内の酸化ストレスに対する食物成分の作用について	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。

	て学ぶ。	
第10回	食の安全性 食の安全、安心、品質保証について説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等で歴史や取り組みについて調べてみてください。
第11回	生活習慣病（糖尿病等代謝疾患）予防と食生活 糖尿病の食事による予防とコントロールについて説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第12回	生活習慣病予防(循環器疾患)と食生活 循環器疾患(動脈硬化等)と食事療法について説明する。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第13回	食物アレルギー 食物アレルギーの原因物質とそのしくみ、症状、さらにアレルギー表示について取り上げる。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第14回	高齢者の食 高齢者の「食」の問題 について説明する。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第15回	食を取り巻く問題点、健康と食生活のまとめ 「食と健康」で取り上げた内容を振り返る。	「食と健康」でこれまでに取り上げた内容で興味を持ったものについて、自分なりに調べて説明できるように準備してください。
第16回	定期試験	
授業計画		
シラバス備考	レポート作成を通じて知識を整理することでさらに理解が深まることを指向する「復習」として、単元ごとに各講義で取り上げる内容について自分なりに調べて、図示、図解して手書きレポートA4紙1枚としてまとめることを課す。	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	チーム医療福祉論 (Q2)		
担当教員氏名	吉川ひろみ, 黒田寿美恵, 島谷康司, 坊岡峰子, 永野なおみ		
研究室の場所	吉川 (3404), 黒田 (3509), 島谷 (4429), 坊岡 (2514), 永野 (4524)		
連絡先電話番号	学生便覧を参照		
オフィスアワー	月曜日5限		
E-mail/HP	吉川<yosikawa@pu-hiroshima.ac.jp>, 黒田<kuroda@pu-hiroshima.ac.jp>, 島谷<shimatani@pu-hiroshima.ac.jp>, 坊岡<bouoka@pu-hiroshima.ac.jp>, 永野<nagano@pu-hiroshima.ac.jp>		
授業の形式・方式	対面授業, グループワーク		
単位数 (時間数)	1.0	15	学科または専攻毎の必修・選択の別 全コース必修
履修要件	1年次必修科目		
免許等指定科目			
キーワード	ヘルスケア専門職, ヘルスサポーターマインド, チームアプローチ, 患者中心医療, 利用者主体のサービス, リハビリテーション, 倫理		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>【授業の目標】</p> <p>異なる専門領域の学生が共に学ぶ機会を得ることにより, お互いを尊重する姿勢を学ぶ。ケアチームの概念, チームワークの難しさと効果, リーダーシップ, 組織管理について学習する。事例を通して連携の方法論とグループダイナミクスについて考察する。将来よりよいチームアプローチを実践するための基礎を培う。</p> <p>【科目の位置づけ】</p> <p>「地域包括ケアシステムを発展させる科目」群に位置づけられている。</p>		
授業の内容	学科横断的に編成するグループで, チーム医療福祉の事例についてディスカッションする。医療福祉における効果的なチームのあり方について学修する。		
成績評価の方法	発表20%, クイズ30%, レポート50%の割合で評価する。欠席遅刻は減点対象とする。		
テキスト	吉川ひろみ, 上野哲『倫理でスッキリ医療従事者のモヤモヤ解消法』(シービーアール)		
参考文献	別途指示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>コース選択枠で入学した学生は, 必ず履修すること</p> <p>【実務経験を生かした実践的な教育について】</p> <p>医療福祉現場において実務経験を有する教員が, 多職種連携アプローチの実際について紹介し, 学生はよりよいチーム医療福祉について考える。</p>		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第2回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第3回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第4回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第5回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第6回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第7回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第8回	まとめ	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			

第15回		
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク 1		
URLリンク 2		
URLリンク 3		

授業科目名	チーム医療福祉演習（登録用）		
担当教員氏名	古山 千佳子 ほか		
研究室の場所	三原キャンパス 3405研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	担当教員ごとに後日指定する。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	各学科の横断的小グループによる演習形式の授業。講義、小グループでのディスカッション、資料の作成および発表。状況に応じてグループディスカッションおよび発表をオンライン（リアルタイム）で行う場合がある。		
単位数（時間数）	1.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	全学科4年次対象		
免許等指定科目	看護師・保健師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	主体的学習, 討論, 学習方法		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	これまでで学んできた専門知識・技術や実習での経験にもとづき、学科横断的な小グループにより事例を中心に多面的に討論検討する。これを通して各専門職がどのように連携しチーム医療を支えるべきか、専門職としての役割は何かを考えるとともに患者・障害者のための保健医療およびチーム医療のあり方を理解し、説明することができる。 尚、本科目は地域包括ケアシステムを発展させる科目の必須科目として位置づけられており、これまで学んできた専門知識や技術にもとづき、学生主導で行われる。		
授業の内容	学内・現場実習終了後の学生を対象として、学科横断的に編成するチームによって、ロールプレイを用いて具体的なチームによるアプローチを経験する。専門職種相互の理解を深め、相互の専門性を認め、共通の専門用語を駆使して、患者の要求に応えることのできる専門職を養成することを目的とする。 尚、本科目は地域包括ケアシステムを発展させる科目の必須科目として位置づけられており、これまで学んできた専門知識や技術にもとづき、学生主導で行われる。		
成績評価の方法	参加、学習態度、提出物を総合して評価する。		
テキスト	吉川ひろみ, 上野 哲 著『倫理ですっきり 医療従事者のモヤモヤ解消法』（シービーアール）2020		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を生かした実践的な教育について】 学生は、具体的な事例について多職種連携アプローチをディスカッションし、考える。医療福祉現場の実務経験を有する教員が指導する。 これまでの講義、学内実験・実習、臨床実習で学んだことを思い起こし、グループでよく議論すること。 初日に手引きを配布するので、そのスケジュールに従って行動する。		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション3事例（医学的事例）の紹介	所属学科の特性について復習する。	
第2回	各グループ（G）で医学的事例（3事例）の情報をしっかり読み込む。授業時間中（12時前後）に各班の担当事例が公表される	所属学科の特性について復習する。	
第3回	各学科実習室で、見学・説明とデモンストレーション	デモンストレーションの準備。チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する	
第4回	各学科実習室で、見学・説明とデモンストレーション	デモンストレーションの準備。チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する	
第5回	各グループで事例検討	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第6回	各グループで事例検討および発表資料作成	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第7回	各グループで事例検討および発表資料作成	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第8回	中グループで発表（医学的事例）	発表の準備。チーム医療福祉に関わる各専門職	

		の役割と機能について復習する。
第9回	各グループで倫理事例または地域事例の検討	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第10回	各グループで倫理事例または地域事例の検討	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第11回	倫理的事例検討の続きと発表資料作成と発表方法の打合せ、グループにより当事者からサービスを受けた経験を聞く場合がある	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第12回	倫理的事例検討の続きと発表資料作成と発表方法の打合せ、グループにより当事者からサービスを受けた経験を聞く場合がある	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第13回	倫理的事例検討の続きと発表資料作成と発表方法の打合せ、グループにより当事者からサービスを受けた経験を聞く場合がある	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第14回	中グループで発表（倫理的事例または地域事例）	発表の準備。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第15回	チーム医療福祉演習全体のまとめと振り返り	これまでの学習を振り返る。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	基礎臨床実習 I (理学) (Q2)		
担当教員氏名	島谷康司, 西上智彦, 長谷川正哉, 積山和加子, 佐藤勇太, 岡村和典, 小野武也, 梅井凡子, 金井秀作, 田中聡, 高宮尚美, 金指美帆		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号			
オフィスパワー	各教員により異なるので事前に調整し予約をすること。		
E-mail/HP			
授業の形式・方式	学外臨床実習施設の臨床実習指導者の指導下での臨床実習を実施する。 新型コロナウイルス感染拡大防止のために学内実習もしくはオンライン実習に変更する場合があります。		
単位数(時間数)	1.0	45	学科または専攻毎の必修・選択の別 理学療法学コース必修
履修要件	理学療法学コース2年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	総合リハビリテーション, 医学的リハビリテーション, リハビリテーション医学, チーム医療, 理学療法士, 運動療法, 物理療法		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	基礎臨床実習 I では, 医療現場における理学療法の位置付けと理学療法業務の概要を実際の臨床場面を見学させることによって把握させる。また, 実習指導者の指導・監督の下で, 患者とのコミュニケーションを図ったり, 患者の移動を補助的に行ったりすることで医療人としての責任感の育成や動機付けの向上を目指す。 理学療法学コース専門領域特有の科目であり, 臨床実習に位置付けられる。		
授業の内容	臨床実習施設にて5日間, 実習指導者の下で臨床実習を実施する。 以下の内容を実習目標とする。 1) 実習施設の概要を理解する。2) 他の医療職の臨床を見学し, 理学療法部門を含めたチーム医療としての各部門の位置付けを理解する。3) 処方から退院までの理学療法業務の流れを理解する。4) 情報収集の実践を行い, 処方箋, カルテの読み方から問診の取り方, 関節可動域測定法などを理解する。5) 実習指導者の指導や他部門からの情報収集, 患者への問診などを通じ医療人としての適切な倫理観と態度を身に付ける。		
成績評価の方法	実習指導者の評価と出席状況, 実習後に課す実習レポートの提出と内容によって総合的に評価する。 無断欠席を行うとその時点で実習が中止になることがある。正当な理由なく欠席が実習日数の1/5を超えた場合は, 評価の対象とみなさない。		
テキスト			
参考文献	実習地での経験に応じ, 各自が他の教科の教科書や参考文献を用意すること。 豊田輝/編『症例動画でわかる理学療法臨床推論 統合と解釈実践テキスト』(羊土社) 鶴見隆正編『標準理学療法学・臨床実習とケーススタディー・第3版』(医学書院)		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を活かした実践的な教育について】 理学療法士として必要な基礎的能力を身に付けるため, 理学療法の臨床現場において実際に理学療法を実施している場面を医療機関等にて見学する。理学療法士としての経験が5年以上である実習指導者の指導の下, 対象者からの情報収集を経験する。		
授業計画	準備学習		
第1回	基礎臨床実習 I では, 医療現場における理学療法の位置付けと理学療法業務の概要を, 実際の臨床場面を見学させることによって把握させる。また, 実習指導者の指導・監督の下で, 患者とのコミュニケーションを図ったり, 患者の移動を補助的に行ったりすることで, 医療人としての責任感の育成や動機付けの向上を目指す。	学内で学修した事項を整理しておくこと。 臨床実習施設の概要について確認しておくこと。 体調管理に努めること。	
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			

第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		
第16回		
第17回		
第18回		
第19回		
第20回		
第21回		
第22回		
第23回		
第24回		
第25回		
第26回		
第27回		
第28回		
第29回		
第30回		
第31回		
第32回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	基礎臨床実習Ⅱ (Q4)		
担当教員氏名	梅井凡子, 金井秀作, 小野武也, 田中聡, 島谷康司, 西上智彦, 長谷川正哉, 積山和加子, 高宮尚美, 金指美帆, 佐藤勇太, 岡村和典, 飯田忠行		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号			
オフィスパワー	各教員により異なるので事前に調整し予約をすること。		
E-mail/HP			
授業の形式・方式	学外臨床実習施設の臨床実習指導者の指導下での臨床実習を実施する。 新型コロナウイルス感染拡大防止のために学内実習もしくはオンライン実習に変更する場合があります。		
単位数(時間数)	4.0	180	学科または専攻毎の必修・選択の別 理学療法学科必修
履修要件	理学療法学科3年次生対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	総合リハビリテーション, 医学的リハビリテーション, リハビリテーション医学, チーム医療, 理学療法士, 運動療法, 物理療法。		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	基礎臨床実習Ⅱでは, 臨床実習場面で実習指導者の指導・監督の下に, とくに理学療法評価に関する実習を行います。学内での講義や実技実習で学んだ各種の評価手技を対象の方(患者)に適用する場合の注意点や反応の実際について学びます。 理学療法学科専門領域特有の科目であり, 臨床実習に位置付けられる。		
授業の内容	基礎臨床実習Ⅱの実習は, 同一の臨床実習施設において20日間以上行われます。 その内容は, 各施設における実習指導者の指導・監督の下, 実際の対象の方(患者)に対して理学療法評価を行い, その結果の解釈・統合・検証, さらに治療計画の立案までを経験するものです。 学内においては実習前オリエンテーションを, 実習終了後には報告会を行い, 次の総合臨床実習に繋がっていきます。		
成績評価の方法	実習前の知識・技能評価, 出席と実習指導者による報告書, 実習後の課題等により総合的に評定する。無断欠席を行うとその時点で実習が中止になることがある。 正当な理由なく欠席が実習日数の1/5を超えた場合は, 評価の対象とみなさない。		
テキスト	鶴見隆正編『標準理学療法学・臨床実習とケーススタディー・第2版』(医学書院)		
参考文献	実習地で担当した症例に応じ, 各自が他の教科の教科書や参考文献を用意すること。 豊田輝/編『症例動画でわかる理学療法臨床推論 統合と解釈実践テキスト』(羊土社)		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を活かした実践的な教育について】 学外臨床実習施設において理学療法士としての実務経験が5年以上かつ臨床実習指導者要件を満たしている臨床実習指導者のもとで理学療法業務を経験する。基礎臨床実習Ⅱにおいては理学療法プロセスにおける検査測定を中心とした実際の理学療法を経験する。		
授業計画	準備学習		
第1回	基礎臨床実習Ⅱでは, 臨床実習場面で実習指導者の指導・監督の下に, 特に理学療法評価に関する実習を行う。学内の講義・実習で学んだ各種の評価手技を患者に適用する場合の注意点や患者の反応の実際について学ぶ。		
第2回	学内で学修した事項を整理しておくこと。 臨床実習施設の概要について確認しておくこと。 体調管理に努めること。		
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			

第14回		
第15回		
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	地域臨床実習 (Q4)		
担当教員氏名	島谷康司, 西上智彦, 長谷川正哉, 積山和加子, 岡村和典, 佐藤勇太, 梅井凡子, 田中聡, 小野武也, 金井秀作, 高宮尚美, 金指美帆		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号			
オフィシアワー	各教員により異なるので事前相談し予約をすること		
E-mail/HP			
授業の形式・方式	学外臨床実習施設の臨床実習指導者の指導下での臨床実習を実施する。 新型コロナウイルス感染拡大防止のために学内実習もしくはオンライン実習に変更する場合があります。		
単位数(時間数)	1.0	45	学科または専攻毎の必修・選択の別 理学療法学科必修
履修要件	理学療法学科3年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	総合リハビリテーション, 医学的リハビリテーション, リハビリテーション医学, チーム医療, 理学療法士, 運動療法, 物理療法, 地域理学療法		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>地域臨床実習では, 理学療法対象者に対する理学療法アプローチの見学, 一部を補助・体験することを目的とします。</p> <p>実際には, 通所リハビリテーション, 訪問リハビリテーション利用者に対する理学療法やケアプランの立案過程を見学します。</p> <p>本実習を通して, 対象者が地域で生活するために, 「活動」と「参加」の結びつきを基軸とした「心身機能」「背景因子」も含めた包括的な理学療法の学修を目指しています。</p> <p>本科目は理学療法学科専門領域特有の科目であり臨床実習に位置付けられます。</p>		
授業の内容	<p>実習施設にて5日間, 臨床実習指導者の下で臨床実習を実施する。</p> <p>以下の内容を実習目標とする。</p> <p>1) 施設および通所・訪問リハビリテーション等の概要を理解する。2) 主治医の指示書やケアプラン等の各種記録物の閲覧, 本人・家族や関連職種から可能な範囲で必要な情報を聴取し, 情報収集の必要性を理解する。3) バイタルサインの測定, 心身機能の評価, 自覚症状の訴え等, 通所・訪問リハビリテーションを実施する上で必要なリスク管理に関する評価方法の習得と対応の重要性を理解する。4) 急変時の連絡・連携方法, 理学療法士が行うべき救急処置等を理解する。5) 通所・訪問リハビリテーション利用者に対する理学療法やケアプランの立案過程を理解する。6) 対象者の生活に根ざした包括的な理学療法を理解する。7) 一連の体験を通じ, 理学療法士としての適切な倫理観と態度を身に付ける。</p>		
成績評価の方法	<p>実習指導者の評価と出席状況, 実習後に課す実習レポートの提出と内容によって総合的に評価する。</p> <p>無断欠席を行うとその時点で実習が中止になることがある。</p> <p>正当な理由なく欠席が実習日数の1/5を超えた場合は, 評価の対象とみなさない。</p>		
テキスト	細田多穂/監『シンプル理学療法学シリーズ地域リハビリテーション学テキスト』(南江堂)		
参考文献	<p>実習地での経験に応じ, 各自が他の教科の教科書や参考文献を用意すること。</p> <p>鶴見隆正/編『標準理学療法学・臨床実習とケーススタディー・第2版』(医学書院)</p> <p>豊田輝/編『症例動画でわかる理学療法臨床推論 統合と解釈実践テキスト』(羊土社)</p>		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を活かした実践的な教育について】 理学療法士として必要な基礎的能力を身に付けるため, 理学療法の臨床現場において実際に理学療法を実施している場面を医療機関等にて見学する。理学療法士としての経験が5年以上である実習指導者の指導の下, 対象者からの情報収集を経験する。		
授業計画	準備学習		
第1回	<p>地域臨床実習では, 通所・訪問リハビリテーションにおける理学療法の位置付けと理学療法業務の概要を, 実際の臨床場面を見学・一部補助や体験させることによって把握させる。また, 実習指導者の指導・監督の下で, 対象者とのコミュニケーションを図ったり, 対象者の移動を補助的に行ったりすることで, 医療人としての責任感の育成や動機づけの向上を目指す。</p>	<p>学内で学修した事項を整理しておくこと。</p> <p>臨床実習施設の概要について確認しておくこと。</p> <p>体調管理に努めること。</p>	

第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		
第16回		
第17回		
第18回		
第19回		
第20回		
第21回		
第22回		
第23回		
第24回		
第25回		
第26回		
第27回		
第28回		
第29回		
第30回		
第31回		
第32回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2022/05/30(月)11:56

授業科目名	キャリアビジョン（デベロップメント）3年生以上対象（集中講義）		
担当教員氏名	原田 淳		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	特に時間帯を定めない（事前にメールか電話で連絡し面談の予約をすること）。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	Zoomミーティングによるオンライン形式で実施する予定。授業日程に従って、講義形式と演習形式の授業を併用して進める。毎回の授業毎に受講レポートに要約、演習や実習による気づきを記すことを求める。		
単位数（時間数）	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科3年生以上対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア形成, ストレスマネジメント, マインドフルネス		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目の目標は、自分自身のキャリアを形成するうえで必要不可欠となる適切にストレスをコントロールする方法について理解することである。そして、心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を実習することにより、自分自身の身体感覚や呼吸に集中し、意識を“いま、ここ”に向けるマインドフルネスを習得する。		
授業の内容	心理・社会的なストレスの特徴について解説し、ストレスマネジメントの方向性について示す。対処法のひとつとして、心身相関的アプローチによる実践的なストレスマネジメントの技法を紹介する。また、ストレスとなる事象に直面したときに生じる心の動きについて説明し、過去の体験の振り返りを行うことにより望ましい認知のあり方について考える。加えて、学内の教員が仕事におけるストレスとの向き合い方について講話する。		
成績評価の方法	講義中の演習50%、レポート課題20%、期末レポート30%で評価する。		
テキスト	テキスト（教科書）は特に指定しない。		
参考文献	参考文献は授業の進行に応じて適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	演習はグループワークを行うため（Zoomミーティングの際はブレイクアウトルームを用いる）、積極的な参加姿勢をもつことを期待する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 企業に勤務経験のある教員が、その経験をふまえて、社会や職場で必要となるストレスのコントロールについて解説する。		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション ・現代社会とストレス ・ストレスマネジメントの必要性 ・実習（呼吸を整える）		
第2回	ストレスとストレス反応 ・ストレスが身体におよぼす影響 ・ストレスが心におよぼす影響 ・ストレスが行動におよぼす影響 ・実習（微細な動きを意識する）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第3回	心理・社会的ストレスの特徴 ・心理・社会的ストレスのしくみ ・心理・社会的ストレスのパターン ・実習（ブリージング・エクササイズ）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第4回	瞑想的運動法 ・実習（ブリージングエクササイズ、アイソメトリック運動）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第5回	ストレスマネジメントの方向性 ・安定した心とは	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第6回	好き・嫌いの感情を克服する ・好き・嫌いが生じるしくみ ・『人間万事塞翁が馬』	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第7回	呼吸の意識化、呼吸法 ・実習（呼吸の意識化、呼吸法）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	

第8回	レジリエンス ・レジリエンスとは ・演習（ライフラインチャート）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第9回	環境調整の方法 ・実習（セクショナルブリージング、完全呼吸法）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第10回	“いま、ここ”を生きる ・マインドフルネス	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第11回	瞑想法 ・実習（リラクゼーション反応、ヴィパッサナー瞑想）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第12回	不安への対処 ・実習（オープンモニタリング瞑想）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第13回	執着・こだわりからの解放 ・実習（呼吸法、瞑想法）	講話に関するレポートを作成する。
第14回	仕事とストレス ・東洋思想の教える仕事への取り組み方	講話に関するレポートを作成する。
第15回	まとめ ・実習（アイソメトリック運動、呼吸法、瞑想法） ・授業評価アンケート ・受講レポート提出に関する説明	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	インターンシップ (Q4)		
担当教員氏名	学部教員, 原田淳 (大学教育実践センター/キャリアセンター)		
研究室の場所	広島キャンパス キャリアセンター		
連絡先電話番号			
オフィシアワー			
E-mail/HP			
授業の形式・方式	対面授業。通年集中講義。 事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、主に講義形式及び演習形式で実施する。実習は原則として夏期休業中に行う。学生は、原則として、事前学習、実習、事後学習の欠席・遅刻・早退は認められない。すべての授業への参加と実習が義務づけられる。		
単位数(時間数)	2.0	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	保健福祉学科2年次対象 保健福祉学部3年生対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析, 就業体験, 職業選択, 職業適性, ビジネスマナー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、将来職業に就くために、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめようとする学生を対象にして、就業体験をさせる。 本科目の目標は、履修学生に、多様な職場や職業に対して関心を持たせるとともに、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えさせることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とすることができる。 本科目は、全学共通教育科目の一つとして位置づけられている。また、学生の進路選択を支援する大学の学生支援プログラムの一部を担うものである。		
授業の内容	企業、行政機関、福祉施設、各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。 事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、自己目標を明確にするグループ別発表・討論等を行う。実習は原則として夏期休業期間中の2週間程度とする。 事後学習では、就業体験の発表を、グループ別発表・討論として行うとともに、全体報告会としても実施する。さらに、実習報告書を作成し、提出させる。		
成績評価の方法	事前学習及び事後学習における課題遂行、実習受入先の評価、実習報告書等を総合して評価する。課題等については第1回の授業において提示する。課題、報告書等の提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。		
テキスト	必要に応じて配布する。		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。 授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。正当な理由なく、履修の途中で放棄、事前学習、実習、事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では、企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては、実践的な研修を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンス	シラバス・コースカタログを事前に目とのおすこと	
第2回	応募手続き等の説明	ガイダンスの内容をよく理解すること	
第3回	応募手続きとビジネスマナー等事前学習	前回の復習および就業体験に関する情報を収集すること	
第4回	事前学習、グループワーク	就業体験先企業等の情報を得ておくこと	
第5回	就業体験	就業体験先企業等について理解をはかり、これまでの復習をしておくこと	

第6回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第7回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第8回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第9回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第10回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第11回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第12回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第13回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第14回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第15回	事後学習および成果発表準備	就業体験時の記録をまとめておくこと
第16回	事後学習および成果発表	就業体験時の記録をまとめておくこと
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	ひろしま理解 (Q2)		
担当教員氏名	鈴木 康之 (代表)		
研究室の場所	広島キャンパス 1912研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィシアワー	研究室に在室中は基本的に対応可。事前にメール等で連絡することが望ましい。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面による講義形式の授業。広島キャンパス発信の遠隔授業。		
単位数 (時間数)	2.0		学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目			
キーワード	広島県、地域、歴史、文化、地理、産業、呉、尾道、世羅、大崎上島、宮島		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>全学共通教育科目の地域課題に位置づける選択科目である。</p> <p>地域への理解を深めるための導入に相当する科目として、最も身近な地域である広島県域を取り上げ、この地域を知解するための初歩的・基本的事項を学修する。</p> <p>具体的には、この地域に特徴的な歴史・文化・地理・産業などの基本的事項を多様な視点から学修することにより、地域の現状を立体的に理解する。これにより、地域課題を発見し、その解決に取り組むための基礎的知識を修得する。</p>		
授業の内容	専門分野の異なる3名の教員が、それぞれの研究分野から広島県域を理解するための方法を提示する。第1～5回を鈴木康之、第6～10回を和田崇、第11～15回を大知徳子が担当する。		
成績評価の方法	各教員がそれぞれ提示した課題に対するレポートを作成し、レポート3本の平均点によって、総合的に評価する。		
テキスト	授業時間に指示する。		
参考文献	岸田裕之 (編) 『広島県の歴史』 山川出版社 その他、授業時間に指示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を活かした実践的な教育について】 この科目では、教育委員会で文化財保護行政、博物館開設・経営の経験を有する教員が、地域の文化資源を理解し、活用する方策について指導する。		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンスーひろしまとはどのような場所？ー	広島県地域とは、どのような特徴をもつ場所なのか考えておく。	
第2回	ひろしまの歴史ー原始・古代ー	原始・古代の広島県地域のあゆみについて調べておく	
第3回	ひろしまの歴史ー中世ー	中世の広島県地域のあゆみについて調べておく。	
第4回	ひろしまの歴史ー近世ー	近世の広島県地域のあゆみについて調べておく。	
第5回	ひろしまの歴史ー近現代そして未来ー	近現代の広島県地域のあゆみについて調べるとともに、未来への展望について考えておく。	
第6回	水の都・広島	太田川沿いを歩いて感じたことをまとめておこう。	
第7回	海軍とカレーの街・呉	呉海軍カレーを食べて感じたことをまとめておこう。	
第8回	映画の街・尾道	大林監督について調べておこう。	
第9回	駅伝の町・世羅	世羅高校陸上競技部について調べておこう。	
第10回	レモンの島・大崎上島	ひろしま夢ばらざなどで瀬戸内レモン商品をチェックしておこう。	
第11回	厳島と宮島	宮島に関する情報を宮島観光協会等のHPで調べておきましょう。 宮島観光協会 https://www.miyajima.or.jp/	

第12回	厳島神社の宝物	厳島神社の文化財について調べておきましょう。
第13回	描かれた宮島	宮島を描いた作品について調べておきましょう。
第14回	厳島神社の絵馬	宮島VRツアーズを利用して豊国神社（千畳閣）の絵馬を見ておきましょう。 宮島VRツアーズ http://www.hiroshima-jp.com/vt/miyajima/
第15回	宮島の祭	宮島で執り行われる祭りの種類を調べておきましょう。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	地域情報発信論（前期集中）		
担当教員氏名	広谷大助, 藤井宣彰, 吉田倫子, 伊藤俊 他 (広島キャンパス主担当 広谷大助)		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業（状況によってはオンライン（リアルタイム）で実施） 前期集中講義（4日間。2022年8月29日（月）～9月1日（木）の予定） サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む		
単位数（時間数）	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	地域創生学科, 国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 2～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, デイバート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。 本科目は, 全学共通教育「広島と世界」(旧課程), 「地域課題」(新課程)に位置づけられる。		
授業の内容	新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み, 課題を設定した上で, 現地へ出向いて取材し, 意見交換を経て記事をまとめるなど, 地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに, グループで課題解決への提案をまとめ, ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。		
成績評価の方法	課題レポート(50%) グループ討議, ポスター発表を含む, 授業への参加度(50%) なお, 単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする		
テキスト	事前に配付される新聞を用いる		
参考文献	適宜紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は, 掲示により確認すること。 また, 本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため, 4日間全ての出席が必須となる。よって, 1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。 なお, フィールドワークにかかる費用及び試験期間中の新聞購読代金は自己負担となる。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により, 取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回			
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			

第15回	
第16回	
授業計画	<p>授業の流れは概ね次のとおり（一部変更の可能性あり）</p> <p>事前課題：試読期間（7月下旬）に配付された新聞を読み，記事を選んで概要をまとめ，意見を述べる</p> <p>第1日：オリエンテーション，事前課題の確認，新聞の読み方 第2日：取材計画，写真撮影・取材実習（フィールドワーク） 第3日：グループ討議，記事風レポート作成・発表 第4日：ポスター制作，ポスター発表，振り返り討議</p> <p>期間中の課題：翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む</p> <p>事後課題：授業で学び得たことを踏まえて，新たな課題を発見し，レポートをまとめる</p>
シラバス備考	
URLリンク1	
URLリンク2	
URLリンク3	

授業科目名	食と健康 Q3 (2019以前生活化学読替)		
担当教員氏名	長尾 則男		
研究室の場所	庄原キャンパス 4504研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面で授業を行う。新型コロナウイルスの影響で内容や方式が変わることがあります。 詳細は初回にて説明を行う(あるいは文書等で示す)。 授業及び資料配布、レポートのやりとり等は大学ポータルあるいはOffice365 Teams等を介して行う 予定なので各自確認・準備をしておくこと。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	生物資源科学部 1～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	食, 栄養, 健康, 調理, 加工, アレルギー, 生活習慣病		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	健康と食をとりまく状況について講義を展開し, 生物資源科学分野に必要な知識を理解できるよう, また, 今後学んでいく専門領域への橋渡しとなるよう, 基礎知識の充実を目的とし, 初年次生学生を想定して授業を進める。		
授業の内容	食と健康をとりまく諸問題について事例を紹介しながら, 食の栄養・生理機能について興味・関心を高め, 食の役割を理解し, 化学的, 生物学な思考ができるようになることを目指す。具体的には, 食の健康維持機能, 疾病との関連, 疾病予防等々について解説する。		
成績評価の方法	出席状況は重視する。5回以上の欠席は評価の対象外とする。 出席確認として毎回, 小テストを行う。 課題レポート・小テスト50%、定期試験50%の割合で評価する。 小テストの実施方法や課題の提出方法については, 授業時間内に指示する。		
テキスト	特定の教科書は用いない。プリント, スライド等を用いて講義する。		
参考文献	日経サイエンス編集部 (2020) 食と健康 (別冊日経サイエンス237) 日本経済新聞出版社 ステイブン・レ 著, 大沢 章子 翻訳 (2017) 食と健康の一億年史 亜紀書房		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	授業に関する連絡方法はその都度, 授業内での連絡で行う。 質問, 疑問等はメール経由時で随時受け付け対応する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 民間化学メーカーでの分析業務の勤務経験を生かし, 食品成分を定量分析する方法を取り上げる (第7回)。		

授業計画	準備学習	
第1回	食の必要性・意義について。 「食と健康」で取り扱う領域を説明する。	「食」とは何なのか。「食」の必要性や意義について考えます。シラバスで授業内容を理解しておいてください。
第2回	食と栄養 5大栄養素や栄養素を取り込む体のしくみについて学ぶ。	5大栄養素についてネットや図書館資料等を当たってみてください。
第3回	食とエネルギー 食品中に含まれるエネルギーについて説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第4回	味覚 5基本味について学ぶ。化学調味料を取り上げる。	取り上げる内容についてネットや書籍等で歴史や製造法について調べてみてください。
第5回	食欲 食欲、ヘルスケア、ダイエット等について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第6回	調理 調理理論、調理技術について学ぶ。	取り上げる内容についてネットや書籍等で原理や反応について調べてみてください。
第7回	食品加工 食品加工技術について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第8回	機能性食品成分 機能性食品成分について説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等で調べてみてください。
第9回	生体内酸化ストレス 生体内の酸化ストレスに対する食物成分の作用について	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。

	て学ぶ。	
第10回	食の安全性 食の安全、安心、品質保証について説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等で歴史や取り組みについて調べてみてください。
第11回	生活習慣病（糖尿病等代謝疾患）予防と食生活 糖尿病の食事による予防とコントロールについて説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第12回	生活習慣病予防(循環器疾患)と食生活 循環器疾患(動脈硬化等)と食事療法について説明する。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第13回	食物アレルギー 食物アレルギーの原因物質とそのしくみ、症状、さらにアレルギー表示について取り上げる。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第14回	高齢者の食 高齢者の「食」の問題 について説明する。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第15回	食を取り巻く問題点、健康と食生活のまとめ 「食と健康」で取り上げた内容を振り返る。	「食と健康」でこれまでに取り上げた内容で興味を持ったものについて、自分なりに調べて説明できるように準備してください。
第16回	定期試験	
授業計画		
シラバス備考	レポート作成を通じて知識を整理することでさらに理解が深まることを指向する「復習」として、単元ごとに各講義で取り上げる内容について自分なりに調べて、図示、図解して手書きレポートA4紙1枚としてまとめることを課す。	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	チーム医療福祉論 (Q2)		
担当教員氏名	吉川ひろみ, 黒田寿美恵, 島谷康司, 坊岡峰子, 永野なおみ		
研究室の場所	吉川 (3404), 黒田 (3509), 島谷 (4429), 坊岡 (2514), 永野 (4524)		
連絡先電話番号	学生便覧を参照		
オフィスアワー	月曜日5限		
E-mail/HP	吉川<yosikawa@pu-hiroshima.ac.jp>, 黒田<kuroda@pu-hiroshima.ac.jp>, 島谷<shimatani@pu-hiroshima.ac.jp>, 坊岡<bouoka@pu-hiroshima.ac.jp>, 永野<nagano@pu-hiroshima.ac.jp>		
授業の形式・方式	対面授業, グループワーク		
単位数 (時間数)	1.0	15	学科または専攻毎の必修・選択の別 全コース必修
履修要件	1年次必修科目		
免許等指定科目			
キーワード	ヘルスケア専門職, ヘルスサポーターマインド, チームアプローチ, 患者中心医療, 利用者主体のサービス, リハビリテーション, 倫理		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>【授業の目標】</p> <p>異なる専門領域の学生が共に学ぶ機会を得ることにより, お互いを尊重する姿勢を学ぶ。ケアチームの概念, チームワークの難しさと効果, リーダーシップ, 組織管理について学習する。事例を通して連携の方法論とグループダイナミクスについて考察する。将来よりよいチームアプローチを実践するための基礎を培う。</p> <p>【科目の位置づけ】</p> <p>「地域包括ケアシステムを発展させる科目」群に位置づけられている。</p>		
授業の内容	学科横断的に編成するグループで, チーム医療福祉の事例についてディスカッションする。医療福祉における効果的なチームのあり方について学修する。		
成績評価の方法	発表20%, クイズ30%, レポート50%の割合で評価する。欠席遅刻は減点対象とする。		
テキスト	吉川ひろみ, 上野哲『倫理でスッキリ医療従事者のモヤモヤ解消法』(シービーアール)		
参考文献	別途指示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>コース選択枠で入学した学生は, 必ず履修すること</p> <p>【実務経験を生かした実践的な教育について】</p> <p>医療福祉現場において実務経験を有する教員が, 多職種連携アプローチの実際について紹介し, 学生はよりよいチーム医療福祉について考える。</p>		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第2回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第3回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第4回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第5回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第6回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第7回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第8回	まとめ	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			

第15回		
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク 1		
URLリンク 2		
URLリンク 3		

授業科目名	チーム医療福祉演習（登録用）		
担当教員氏名	古山 千佳子 ほか		
研究室の場所	三原キャンパス 3405研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	担当教員ごとに後日指定する。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	各学科の横断的小グループによる演習形式の授業。講義、小グループでのディスカッション、資料の作成および発表。状況に応じてグループディスカッションおよび発表をオンライン（リアルタイム）で行う場合がある。		
単位数（時間数）	1.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	全学科4年次対象		
免許等指定科目	看護師・保健師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	主体的学習, 討論, 学習方法		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>これまでに学んできた専門知識・技術や実習での経験にもとづき、学科横断的な小グループにより事例を中心に多面的に討論検討する。これを通して各専門職がどのように連携しチーム医療を支えるべきか、専門職としての役割は何かを考えるとともに患者・障害者のための保健医療およびチーム医療のあり方を理解し、説明することができる。</p> <p>尚、本科目は地域包括ケアシステムを発展させる科目の必須科目として位置づけられており、これまで学んできた専門知識や技術にもとづき、学生主導で行われる。</p>		
授業の内容	<p>学内・現場実習終了後の学生を対象として、学科横断的に編成するチームによって、ロールプレイを用いて具体的なチームによるアプローチを経験する。専門職種相互の理解を深め、相互の専門性を認め、共通の専門用語を駆使して、患者の要求に応えることのできる専門職を養成することを目的とする。</p> <p>尚、本科目は地域包括ケアシステムを発展させる科目の必須科目として位置づけられており、これまで学んできた専門知識や技術にもとづき、学生主導で行われる。</p>		
成績評価の方法	参加, 学習態度, 提出物を総合して評価する。		
テキスト	吉川ひろみ, 上野 哲 著『倫理ですっきり 医療従事者のモヤモヤ解消法』（シービーアール）2020		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>【実務経験を生かした実践的な教育について】</p> <p>学生は、具体的な事例について多職種連携アプローチをディスカッションし、考える。医療福祉現場の実務経験を有する教員が指導する。</p> <p>これまでの講義、学内実験・実習、臨床実習で学んだことを思い起こし、グループでよく議論すること。</p> <p>初日に手引きを配布するので、そのスケジュールに従って行動する。</p>		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション3事例（医学的事例）の紹介	所属学科の特性について復習する。	
第2回	各グループ（G）で医学的事例（3事例）の情報をしっかり読み込む。授業時間中（12時前後）に各班の担当事例が公表される	所属学科の特性について復習する。	
第3回	各学科実習室で、見学・説明とデモンストレーション	デモンストレーションの準備。チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する	
第4回	各学科実習室で、見学・説明とデモンストレーション	デモンストレーションの準備。チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する	
第5回	各グループで事例検討	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第6回	各グループで事例検討および発表資料作成	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第7回	各グループで事例検討および発表資料作成	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第8回	中グループで発表（医学的事例）	発表の準備。チーム医療福祉に関わる各専門職	

		の役割と機能について復習する。
第9回	各グループで倫理事例または地域事例の検討	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第10回	各グループで倫理事例または地域事例の検討	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第11回	倫理的事例検討の続きと発表資料作成と発表方法の打合せ、グループにより当事者からサービスを受けた経験を聞く場合がある	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第12回	倫理的事例検討の続きと発表資料作成と発表方法の打合せ、グループにより当事者からサービスを受けた経験を聞く場合がある	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第13回	倫理的事例検討の続きと発表資料作成と発表方法の打合せ、グループにより当事者からサービスを受けた経験を聞く場合がある	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第14回	中グループで発表（倫理的事例または地域事例）	発表の準備。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第15回	チーム医療福祉演習全体のまとめと振り返り	これまでの学習を振り返る。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	総合臨床実習 I (作業)		
担当教員氏名	小池好久, 田中睦英, 久野真矢, 織田靖史, 西田征治, 吉川ひろみ, 古山千佳子, 高木雅之, 助川文子, 池内克馬, 坂本千晶, 増田久美子		
研究室の場所	3406助教室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー			
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	臨床実習施設における実習。作業療法士の臨床実習指導者の下で9週間の臨床実習を行う。実習終了後、学内において事例報告書作成および発表を行う。※状況によって学外実習の代替として学内演習・オンラインで行う場合がある。		
単位数(時間数)	9.0	405	学科または専攻毎の必修・選択の別 必須
履修要件	作業療法学科4年次生対象		
免許等指定科目	作業療法士国家試験の受験資格に係る必修科目		
キーワード	臨床実習, 診療(作業療法)参加型実習, 作業療法評価, 作業療法計画立案, 作業療法介入, 事例報告		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>【目的】 総合臨床実習では、評価により収集した情報から適切な作業療法計画を立案し、実施した結果を再評価によって確認するという作業療法過程を経験し、クライアントを中心としたチームアプローチの中で作業療法士の役割を理解することを目的とする。</p> <p>【一般目標】 臨床実習指導者の指導・監督のもとで、典型的な障害特性を呈するクライアントに対して、以下のことができるようになることを一般目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.作業療法士としての倫理観や基本的態度を身につける。 2.許容される臨床技能を実践できる。 3.臨床実習指導者の作業療法の臨床思考過程(クリニカルリーズニング)を説明し、作業療法の計画立案ができる。 <p>【カリキュラム上の位置付け】 「専門領域特有の科目」の「臨床実習」に位置する。</p> <p>【実務経験を活かした実践的な教育について】 学外の臨床実習施設において作業療法士としての実務経験が5年以上の実習指導者のもとで診療(作業療法)参加型実習形態に基づいて実践的教育を行う。また、科目担当教員も作業療法士としての実務経験が5年以上であり、臨床実習指導者と連携する。実習終了後は事例報告書および発表に関して実践的教育を行う。</p>		
授業の内容	医療機関等に身を置き、診療(作業療法)参加型実習に基づいた臨床実習指導者の指導のもとでクライアントに接し、学内で学んだ作業療法理論に関する知識と技能および態度を身につける。実習終了後、学内において事例報告書を作成し、実習セミナーにおいて発表する。 ※新型コロナウイルス感染状況に関連して、学内臨床演習による実施方法をとる場合がある。		
成績評価の方法	総合臨床実習報告書, 臨床実習録(デイレクターノート), 事例報告書(または経験報告書), 自己学習ポートフォリオ, 実習セミナーにおける出席・報告, その他の提出課題に対して総合的に評価する。		
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県立広島大学保健福祉学部作業療法学科: 総合臨床実習の手引き。 ・ 吉川ひろみ, 齋藤さわ子: 作業療法がわかるCOPM・AMPS実践ガイド。医学書院, 2014。 		
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本作業療法士協会: 作業療法臨床実習指針(2018)・作業療法臨床実習の手引き(2018)。 		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>実習施設では職員の一員という心構えで臨むことと、社会人としての対応に逸脱がないよう真摯に実習に取り組むことが必要である。</p> <p>実習中は、守秘義務を遵守すること。また、自己の健康管理にも十分に配慮すること。</p> <p>何かあった場合には、施設担当教員または科目担当教員に連絡を取るようすること。</p> <p>※実習の領域は1期・2期で合わせて検討し配置決めをしている。</p>		
授業計画	準備学習		
第1回	臨床実習ガイダンス(学内)【対面、場合によってはオンライン】	3年次までに学習した専門基礎科目, 専門科目の復習を行っておくこと。	
第2回	第1週目	臨床実習指導者より提示された課題について学	

	作業療法過程を診療（作業療法）・参加型実習により学ぶ（学外：臨床実習施設） ※場合によって学内・オンラインに変更	修すること。
第3回	第2週目 作業療法過程を診療（作業療法）・参加型実習により学ぶ（学外：臨床実習施設） ※場合によって学内・オンラインに変更	実習を通して経験できたこと、学んだこと、調べたことをディリーノート、ポートフォリオとして作成してゆくこと。
第4回	第3週目 作業療法過程を診療（作業療法）・参加型実習により学ぶ（学外：臨床実習施設） ※場合によって学内・オンラインに変更	実習を通して経験できたこと、学んだこと、調べたことをディリーノート、ポートフォリオとして作成してゆくこと。
第5回	第4週目 作業療法過程を診療（作業療法）・参加型実習により学ぶ（学外：臨床実習施設） ※場合によって学内・オンラインに変更	実習を通して経験できたこと、学んだこと、調べたことをディリーノート、ポートフォリオとして作成してゆくこと。
第6回	第5週目 作業療法過程を診療（作業療法）・参加型実習により学ぶ（学外：臨床実習施設） ※場合によって学内・オンラインに変更	実習を通して経験できたこと、学んだこと、調べたことをディリーノート、ポートフォリオとして作成してゆくこと。
第7回	第6週目 作業療法過程を診療（作業療法）・参加型実習により学ぶ（学外：臨床実習施設） ※場合によって学内・オンラインに変更	実習を通して経験できたこと、学んだこと、調べたことをディリーノート、ポートフォリオとして作成してゆくこと。
第8回	第7週目 作業療法過程を診療（作業療法）・参加型実習により学ぶ（学外：臨床実習施設） ※場合によって学内・オンラインに変更	実習を通して経験できたこと、学んだこと、調べたことをディリーノート、ポートフォリオとして作成してゆくこと。
第9回	第8週目 作業療法過程を診療（作業療法）・参加型実習により学ぶ（学外：臨床実習施設） ※場合によって学内・オンラインに変更	実習を通して経験できたこと、学んだこと、調べたことをディリーノート、ポートフォリオとして作成してゆくこと。
第10回	第9週目 作業療法過程を診療（作業療法）・参加型実習により学ぶ（学外：臨床実習施設） ※場合によって学内・オンラインに変更	実習を通して経験できたこと、学んだこと、調べたことをディリーノート、ポートフォリオとして作成してゆくこと。
第11回	10週目 その1 施設担当教員の指導のもと事例報告書（レジュメ）を作成する（学内） ※場合によってオンラインで行う	実習を通して経過を追うことができた事例を選択し、ディリーノート、ポートフォリオから事例の情報をまとめておくこと。 また、実習の手引きに掲載されている事例報告書作成指針やサンプルを読んでおくこと。
第12回	10週目 その2 パワーポイント使用・口述発表による事例報告を行う（学内：実習後セミナー） ※場合によってオンラインで行う	事例発表に関する規定を順守してパワーポイントや口述発表の準備を行っていくこと。
第13回		
第14回		
第15回		
第16回		
第17回		
第18回		
第19回		
第20回		
第21回		
第22回		
第23回		
第24回		
第25回		
第26回		

第27回		
第28回		
第29回		
第30回		
第31回		
第32回		
授業計画	<p>臨床実習施設における実施期間：9週間</p> <p>※実習前のオリエンテーションやガイダンス、実習後のセミナー発表等は、本科目に含まれる内容であるので、必ず出席・発表すること。</p> <p>※実習期間中は、実習施設の勤務体系に合わせた臨床実習を行う。</p>	
シラバス備考		
URLリンク1	<p>日本作業療法士協会：作業療法臨床実習指針（2018）・作業療法臨床実習の手引き（2018）<http://www.jaot.or.jp/wp-content/uploads/2013/12/shishin-tebiki20181.pdf></p>	
URLリンク2		
URLリンク3		

2022/05/30(月)11:56

授業科目名	キャリアビジョン（デベロップメント）3年生以上対象（集中講義）		
担当教員氏名	原田 淳		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	特に時間帯を定めない（事前にメールか電話で連絡し面談の予約をすること）。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	Zoomミーティングによるオンライン形式で実施する予定。授業日程に従って、講義形式と演習形式の授業を併用して進める。毎回の授業毎に受講レポートに要約、演習や実習による気づきを記すことを求める。		
単位数（時間数）	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科3年生以上対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア形成, ストレスマネジメント, マインドフルネス		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目の目標は、自分自身のキャリアを形成するうえで必要不可欠となる適切にストレスをコントロールする方法について理解することである。そして、心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を実習することにより、自分自身の身体感覚や呼吸に集中し、意識を“いま、ここ”に向けるマインドフルネスを習得する。		
授業の内容	心理・社会的なストレスの特徴について解説し、ストレスマネジメントの方向性について示す。対処法のひとつとして、心身相関的アプローチによる実践的なストレスマネジメントの技法を紹介する。また、ストレスとなる事象に直面したときに生じる心の動きについて説明し、過去の体験の振り返りをすることにより望ましい認知のあり方について考える。加えて、学内の教員が仕事におけるストレスとの向き合い方について講話する。		
成績評価の方法	講義中の演習50%、レポート課題20%、期末レポート30%で評価する。		
テキスト	テキスト（教科書）は特に指定しない。		
参考文献	参考文献は授業の進行に応じて適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	演習はグループワークを行うため（Zoomミーティングの際はブレイクアウトルームを用いる）、積極的な参加姿勢をもつことを期待する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 企業に勤務経験のある教員が、その経験をふまえて、社会や職場で必要となるストレスのコントロールについて解説する。		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション ・現代社会とストレス ・ストレスマネジメントの必要性 ・実習（呼吸を整える）		
第2回	ストレスとストレス反応 ・ストレスが身体におよぼす影響 ・ストレスが心におよぼす影響 ・ストレスが行動におよぼす影響 ・実習（微細な動きを意識する）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第3回	心理・社会的ストレスの特徴 ・心理・社会的ストレスのしくみ ・心理・社会的ストレスのパターン ・実習（ブリージング・エクササイズ）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第4回	瞑想的運動法 ・実習（ブリージングエクササイズ、アイソメトリック運動）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第5回	ストレスマネジメントの方向性 ・安定した心とは	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第6回	好き・嫌いの感情を克服する ・好き・嫌いが生じるしくみ ・『人間万事塞翁が馬』	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第7回	呼吸の意識化、呼吸法 ・実習（呼吸の意識化、呼吸法）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	

第8回	レジリエンス ・レジリエンスとは ・演習（ライフラインチャート）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第9回	環境調整の方法 ・実習（セクショナルブリージング、完全呼吸法）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第10回	“いま、ここ”を生きる ・マインドフルネス	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第11回	瞑想法 ・実習（リラクゼーション反応、ヴィパッサナー瞑想）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第12回	不安への対処 ・実習（オープンモニタリング瞑想）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第13回	執着・こだわりからの解放 ・実習（呼吸法、瞑想法）	講話に関するレポートを作成する。
第14回	仕事とストレス ・東洋思想の教える仕事への取り組み方	講話に関するレポートを作成する。
第15回	まとめ ・実習（アイソメトリック運動、呼吸法、瞑想法） ・授業評価アンケート ・受講レポート提出に関する説明	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	インターンシップ (Q4)		
担当教員氏名	学部教員, 原田淳 (大学教育実践センター/キャリアセンター)		
研究室の場所	広島キャンパス キャリアセンター		
連絡先電話番号			
オフィスパワー			
E-mail/HP			
授業の形式・方式	対面授業。通年集中講義。 事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、主に講義形式及び演習形式で実施する。実習は原則として夏期休業中に行う。学生は、原則として、事前学習、実習、事後学習の欠席・遅刻・早退は認められない。すべての授業への参加と実習が義務づけられる。		
単位数(時間数)	2.0	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	保健福祉学科2年次対象 保健福祉学部3年生対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析, 就業体験, 職業選択, 職業適性, ビジネスマナー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、将来職業に就くために、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめようとする学生を対象にして、就業体験をさせる。 本科目の目標は、履修学生に、多様な職場や職業に対して関心を持たせるとともに、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えさせることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とすることができる。 本科目は、全学共通教育科目の一つとして位置づけられている。また、学生の進路選択を支援する大学の学生支援プログラムの一部を担うものである。		
授業の内容	企業、行政機関、福祉施設、各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。 事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、自己目標を明確にするグループ別発表・討論等を行う。実習は原則として夏期休業期間中の2週間程度とする。 事後学習では、就業体験の発表を、グループ別発表・討論として行うとともに、全体報告会としても実施する。さらに、実習報告書を作成し、提出させる。		
成績評価の方法	事前学習及び事後学習における課題遂行、実習受入先の評価、実習報告書等を総合して評価する。課題等については第1回の授業において提示する。課題、報告書等の提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。		
テキスト	必要に応じて配布する。		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。 授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。正当な理由なく、履修の途中で放棄、事前学習、実習、事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では、企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては、実践的な研修を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンス	シラバス・コースカタログを事前に目とのおすこと	
第2回	応募手続き等の説明	ガイダンスの内容をよく理解すること	
第3回	応募手続きとビジネスマナー等事前学習	前回の復習および就業体験に関する情報を収集すること	
第4回	事前学習、グループワーク	就業体験先企業等の情報を得ておくこと	
第5回	就業体験	就業体験先企業等について理解をはかり、これまでの復習をしておくこと	

第6回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第7回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第8回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第9回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第10回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第11回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第12回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第13回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第14回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第15回	事後学習および成果発表準備	就業体験時の記録をまとめておくこと
第16回	事後学習および成果発表	就業体験時の記録をまとめておくこと
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	ひろしま理解 (Q2)		
担当教員氏名	鈴木 康之 (代表)		
研究室の場所	広島キャンパス 1912研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィリアワー	研究室に在室中は基本的に対応可。事前にメール等で連絡することが望ましい。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面による講義形式の授業。広島キャンパス発信の遠隔授業。		
単位数 (時間数)	2.0		学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目			
キーワード	広島県、地域、歴史、文化、地理、産業、呉、尾道、世羅、大崎上島、宮島		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>全学共通教育科目の地域課題に位置づける選択科目である。</p> <p>地域への理解を深めるための導入に相当する科目として、最も身近な地域である広島県域を取り上げ、この地域を知解するための初歩的・基本的事項を学修する。</p> <p>具体的には、この地域に特徴的な歴史・文化・地理・産業などの基本的事項を多様な視点から学修することにより、地域の現状を立体的に理解する。これにより、地域課題を発見し、その解決に取り組むための基礎的知識を修得する。</p>		
授業の内容	専門分野の異なる3名の教員が、それぞれの研究分野から広島県域を理解するための方法を提示する。第1～5回を鈴木康之、第6～10回を和田崇、第11～15回を大知徳子が担当する。		
成績評価の方法	各教員がそれぞれ提示した課題に対するレポートを作成し、レポート3本の平均点によって、総合的に評価する。		
テキスト	授業時間に指示する。		
参考文献	岸田裕之 (編) 『広島県の歴史』 山川出版社 その他、授業時間に指示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を活かした実践的な教育について】 この科目では、教育委員会で文化財保護行政、博物館開設・経営の経験を有する教員が、地域の文化資源を理解し、活用する方策について指導する。		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンスーひろしまとはどのような場所？ー	広島県地域とは、どのような特徴をもつ場所なのか考えておく。	
第2回	ひろしまの歴史ー原始・古代ー	原始・古代の広島県地域のあゆみについて調べておく	
第3回	ひろしまの歴史ー中世ー	中世の広島県地域のあゆみについて調べておく。	
第4回	ひろしまの歴史ー近世ー	近世の広島県地域のあゆみについて調べておく。	
第5回	ひろしまの歴史ー近現代そして未来ー	近現代の広島県地域のあゆみについて調べるとともに、未来への展望について考えておく。	
第6回	水の都・広島	太田川沿いを歩いて感じたことをまとめておこう。	
第7回	海軍とカレーの街・呉	呉海軍カレーを食べて感じたことをまとめておこう。	
第8回	映画の街・尾道	大林監督について調べておこう。	
第9回	駅伝の町・世羅	世羅高校陸上競技部について調べておこう。	
第10回	レモンの島・大崎上島	ひろしま夢ばらざなどで瀬戸内レモン商品をチェックしておこう。	
第11回	厳島と宮島	宮島に関する情報を宮島観光協会等のHPで調べておきましょう。 宮島観光協会 https://www.miyajima.or.jp/	

第12回	厳島神社の宝物	厳島神社の文化財について調べておきましょう。
第13回	描かれた宮島	宮島を描いた作品について調べておきましょう。
第14回	厳島神社の絵馬	宮島VRツアーズを利用して豊国神社（千畳閣）の絵馬を見ておきましょう。 宮島VRツアーズ http://www.hiroshima-jp.com/vt/miyajima/
第15回	宮島の祭	宮島で執り行われる祭りの種類を調べておきましょう。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	地域情報発信論（前期集中）		
担当教員氏名	広谷大助, 藤井宣彰, 吉田倫子, 伊藤俊 他 (広島キャンパス主担当 広谷大助)		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業（状況によってはオンライン（リアルタイム）で実施） 前期集中講義（4日間。2022年8月29日（月）～9月1日（木）の予定） サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む		
単位数（時間数）	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	地域創生学科, 国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 2～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, ディベート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。 本科目は, 全学共通教育「広島と世界」(旧課程), 「地域課題」(新課程)に位置づけられる。		
授業の内容	新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み, 課題を設定した上で, 現地へ出向いて取材し, 意見交換を経て記事をまとめるなど, 地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに, グループで課題解決への提案をまとめ, ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。		
成績評価の方法	課題レポート(50%) グループ討議, ポスター発表を含む, 授業への参加度(50%) なお, 単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする		
テキスト	事前に配付される新聞を用いる		
参考文献	適宜紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は, 掲示により確認すること。 また, 本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため, 4日間全ての出席が必須となる。よって, 1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。 なお, フィールドワークにかかる費用及び試験期間中の新聞購読代金は自己負担となる。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により, 取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回			
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			

第15回	
第16回	
授業計画	<p>授業の流れは概ね次のとおり（一部変更の可能性あり）</p> <p>事前課題：試読期間（7月下旬）に配付された新聞を読み，記事を選んで概要をまとめ，意見を述べる</p> <p>第1日：オリエンテーション，事前課題の確認，新聞の読み方 第2日：取材計画，写真撮影・取材実習（フィールドワーク） 第3日：グループ討議，記事風レポート作成・発表 第4日：ポスター制作，ポスター発表，振り返り討議</p> <p>期間中の課題：翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む</p> <p>事後課題：授業で学び得たことを踏まえて，新たな課題を発見し，レポートをまとめる</p>
シラバス備考	
URLリンク1	
URLリンク2	
URLリンク3	

授業科目名	食と健康 Q3 (2019以前生活化学読替)		
担当教員氏名	長尾 則男		
研究室の場所	庄原キャンパス 4504研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面で授業を行う。新型コロナウイルスの影響で内容や方式が変わることがあります。 詳細は初回にて説明を行う(あるいは文書等で示す)。 授業及び資料配布、レポートのやりとり等は大学ポータルあるいはOffice365 Teams等を介して行う 予定なので各自確認・準備をしておくこと。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	生物資源科学部 1～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	食, 栄養, 健康, 調理, 加工, アレルギー, 生活習慣病		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	健康と食をとりまく状況について講義を展開し, 生物資源科学分野に必要な知識を理解できるよう, また, 今後学んでいく専門領域への橋渡しとなるよう, 基礎知識の充実を目的とし, 初年次生学生を想定して授業を進める。		
授業の内容	食と健康をとりまく諸問題について事例を紹介しながら, 食の栄養・生理機能について興味・関心を高め, 食の役割を理解し, 化学的, 生物学な思考ができるようになることを目指す。具体的には, 食の健康維持機能, 疾病との関連, 疾病予防等々について解説する。		
成績評価の方法	出席状況は重視する。5回以上の欠席は評価の対象外とする。 出席確認として毎回, 小テストを行う。 課題レポート・小テスト50%、定期試験50%の割合で評価する。 小テストの実施方法や課題の提出方法については, 授業時間内に指示する。		
テキスト	特定の教科書は用いない。プリント, スライド等を用いて講義する。		
参考文献	日経サイエンス編集部 (2020) 食と健康 (別冊日経サイエンス237) 日本経済新聞出版社 ステイブン・レ 著, 大沢 章子 翻訳 (2017) 食と健康の一億年史 亜紀書房		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	授業に関する連絡方法はその都度, 授業内での連絡で行う。 質問, 疑問等はメール経由時で随時受け付け対応する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 民間化学メーカーでの分析業務の勤務経験を生かし, 食品成分を定量分析する方法を取り上げる (第7回)。		

授業計画	準備学習	
第1回	食の必要性・意義について。 「食と健康」で取り扱う領域を説明する。	「食」とは何なのか。「食」の必要性や意義について考えます。シラバスで授業内容を理解しておいてください。
第2回	食と栄養 5大栄養素や栄養素を取り込む体のしくみについて学ぶ。	5大栄養素についてネットや図書館資料等を当たってみてください。
第3回	食とエネルギー 食品中に含まれるエネルギーについて説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第4回	味覚 5基本味について学ぶ。化学調味料を取り上げる。	取り上げる内容についてネットや書籍等で歴史や製造法について調べてみてください。
第5回	食欲 食欲、ヘルスケア、ダイエット等について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第6回	調理 調理理論、調理技術について学ぶ。	取り上げる内容についてネットや書籍等で原理や反応について調べてみてください。
第7回	食品加工 食品加工技術について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第8回	機能性食品成分 機能性食品成分について説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等で調べてみてください。
第9回	生体内酸化ストレス 生体内の酸化ストレスに対する食物成分の作用について	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。

	て学ぶ。	
第10回	食の安全性 食の安全、安心、品質保証について説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等で歴史や取り組みについて調べてみてください。
第11回	生活習慣病（糖尿病等代謝疾患）予防と食生活 糖尿病の食事による予防とコントロールについて説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第12回	生活習慣病予防(循環器疾患)と食生活 循環器疾患(動脈硬化等)と食事療法について説明する。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第13回	食物アレルギー 食物アレルギーの原因物質とそのしくみ、症状、さらにアレルギー表示について取り上げる。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第14回	高齢者の食 高齢者の「食」の問題 について説明する。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第15回	食を取り巻く問題点、健康と食生活のまとめ 「食と健康」で取り上げた内容を振り返る。	「食と健康」でこれまでに取り上げた内容で興味を持ったものについて、自分なりに調べて説明できるように準備してください。
第16回	定期試験	
授業計画		
シラバス備考	レポート作成を通じて知識を整理することでさらに理解が深まることを指向する「復習」として、単元ごとに各講義で取り上げる内容について自分なりに調べて、図示、図解して手書きレポートA4紙1枚としてまとめることを課す。	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	チーム医療福祉論 (Q2)		
担当教員氏名	吉川ひろみ, 黒田寿美恵, 島谷康司, 坊岡峰子, 永野なおみ		
研究室の場所	吉川 (3404), 黒田 (3509), 島谷 (4429), 坊岡 (2514), 永野 (4524)		
連絡先電話番号	学生便覧を参照		
オフィスアワー	月曜日5限		
E-mail/HP	吉川<yosikawa@pu-hiroshima.ac.jp>, 黒田<kuroda@pu-hiroshima.ac.jp>, 島谷<shimatani@pu-hiroshima.ac.jp>, 坊岡<bouoka@pu-hiroshima.ac.jp>, 永野<nagano@pu-hiroshima.ac.jp> ,		
授業の形式・方式	対面授業, グループワーク		
単位数 (時間数)	1.0	15	学科または専攻毎の必修・選択の別 全コース必修
履修要件	1年次必修科目		
免許等指定科目			
キーワード	ヘルスケア専門職, ヘルスサポーターマインド, チームアプローチ, 患者中心医療, 利用者主体のサービス, リハビリテーション, 倫理		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>【授業の目標】 異なる専門領域の学生が共に学ぶ機会を得ることにより, お互いを尊重する姿勢を学ぶ。ケアチームの概念, チームワークの難しさと効果, リーダーシップ, 組織管理について学習する。事例を通して連携の方法論とグループダイナミクスについて考察する。将来よりよいチームアプローチを実践するための基礎を培う。</p> <p>【科目の位置づけ】 「地域包括ケアシステムを発展させる科目」群に位置づけられている。</p>		
授業の内容	学科横断的に編成するグループで, チーム医療福祉の事例についてディスカッションする。医療福祉における効果的なチームのあり方について学修する。		
成績評価の方法	発表20%, クイズ30%, レポート50%の割合で評価する。欠席遅刻は減点対象とする。		
テキスト	吉川ひろみ, 上野哲『倫理でスッキリ医療従事者のモヤモヤ解消法』(シービーアール)		
参考文献	別途指示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>コース選択枠で入学した学生は, 必ず履修すること</p> <p>【実務経験を生かした実践的な教育について】 医療福祉現場において実務経験を有する教員が, 多職種連携アプローチの実際について紹介し, 学生はよりよいチーム医療福祉について考える。</p>		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第2回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第3回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第4回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第5回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第6回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第7回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第8回	まとめ	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			

第15回		
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク 1		
URLリンク 2		
URLリンク 3		

授業科目名	チーム医療福祉演習（登録用）		
担当教員氏名	古山 千佳子 ほか		
研究室の場所	三原キャンパス 3405研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	担当教員ごとに後日指定する。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	各学科の横断的小グループによる演習形式の授業。講義、小グループでのディスカッション、資料の作成および発表。状況に応じてグループディスカッションおよび発表をオンライン（リアルタイム）で行う場合がある。		
単位数（時間数）	1.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	全学科4年次対象		
免許等指定科目	看護師・保健師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	主体的学習, 討論, 学習方法		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>これまでに学んできた専門知識・技術や実習での経験にもとづき、学科横断的な小グループにより事例を中心に多面的に討論検討する。これを通して各専門職がどのように連携しチーム医療を支えるべきか、専門職としての役割は何かを考えるとともに患者・障害者のための保健医療およびチーム医療のあり方を理解し、説明することができる。</p> <p>尚、本科目は地域包括ケアシステムを発展させる科目の必須科目として位置づけられており、これまで学んできた専門知識や技術にもとづき、学生主導で行われる。</p>		
授業の内容	<p>学内・現場実習終了後の学生を対象として、学科横断的に編成するチームによって、ロールプレイを用いて具体的なチームによるアプローチを経験する。専門職種相互の理解を深め、相互の専門性を認め、共通の専門用語を駆使して、患者の要求に応えることのできる専門職を養成することを目的とする。</p> <p>尚、本科目は地域包括ケアシステムを発展させる科目の必須科目として位置づけられており、これまで学んできた専門知識や技術にもとづき、学生主導で行われる。</p>		
成績評価の方法	参加、学習態度、提出物を総合して評価する。		
テキスト	吉川ひろみ, 上野 哲 著『倫理ですっきり 医療従事者のモヤモヤ解消法』（シービーアール）2020		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>【実務経験を生かした実践的な教育について】</p> <p>学生は、具体的な事例について多職種連携アプローチをディスカッションし、考える。医療福祉現場の実務経験を有する教員が指導する。</p> <p>これまでの講義、学内実験・実習、臨床実習で学んだことを思い起こし、グループでよく議論すること。</p> <p>初日に手引きを配布するので、そのスケジュールに従って行動する。</p>		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション3事例（医学的事例）の紹介	所属学科の特性について復習する。	
第2回	各グループ（G）で医学的事例（3事例）の情報をしっかり読み込む。授業時間中（12時前後）に各班の担当事例が公表される	所属学科の特性について復習する。	
第3回	各学科実習室で、見学・説明とデモンストレーション	デモンストレーションの準備。チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する	
第4回	各学科実習室で、見学・説明とデモンストレーション	デモンストレーションの準備。チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する	
第5回	各グループで事例検討	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第6回	各グループで事例検討および発表資料作成	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第7回	各グループで事例検討および発表資料作成	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第8回	中グループで発表（医学的事例）	発表の準備。チーム医療福祉に関わる各専門職	

		の役割と機能について復習する。
第9回	各グループで倫理事例または地域事例の検討	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第10回	各グループで倫理事例または地域事例の検討	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第11回	倫理事例検討の続きと発表資料作成と発表方法の打合せ、グループにより当事者からサービスを受けた経験を聞く場合がある	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第12回	倫理事例検討の続きと発表資料作成と発表方法の打合せ、グループにより当事者からサービスを受けた経験を聞く場合がある	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第13回	倫理事例検討の続きと発表資料作成と発表方法の打合せ、グループにより当事者からサービスを受けた経験を聞く場合がある	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第14回	中グループで発表（倫理事例または地域事例）	発表の準備。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第15回	チーム医療福祉演習全体のまとめと振り返り	これまでの学習を振り返る。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	臨床実習Ⅲ（コミュ）		
担当教員氏名	坊岡 峰子ほか		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	各担当教員と要予約		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	集中実習		
単位数（時間数）	4.0	160	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	コミュニケーション障害学科4年次対象		
免許等指定科目	言語聴覚士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	言語聴覚療法、言語聴覚士の役割、臨床体験、チームアプローチ		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	臨床実習Ⅰ・Ⅱで学んだコミュニケーション障害の臨床に関する知識や技能を臨床のなかで実践し、応用するための総合的な能力を身につけることを目標とする。コミュニケーション障害をもつ人を、一人の人として全人的にとらえ対応する能力を身につける。コミュニケーション障害の臨床や関連する領域の臨床業務を理解し、保健・福祉・医療を担う一員としての言語聴覚士の機能や役割を認識し、コミュニケーション障害の臨床を行う能力を身につける。		
授業の内容	本学学内の附属診療センターおよび学外の種類の異なる医療施設や福祉施設において、実習指導者の指導監督のもとに、言語聴覚療法の現場でしか学べない内容を深め、さらに言語聴覚士のあり方も考えていく。 さらに、附属診療センターでの診察場面の見学も含め、関連職種との連携や患者さん本人、ご家族なども含むチーム・アプローチの実際も学ぶ。		
成績評価の方法	実習指導者の報告、実習レポート、実習報告会の発表等により総合的に評価する。		
テキスト	実習指導者の指示に従う。		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	臨床実習の総まとめとして、能動的に学習してほしい。出席日数が不足した場合は単位認定ができないため、健康管理に注意してほしい。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 言語聴覚士としての実務経験を有する教員および学外医療福祉施設指導者が担当中のケースを対象とした臨床実習（見学、検査、評価、訓練計画立案、訓練実施）を計画し、言語聴覚療法の実践について学修する。		
授業計画	準備学習		
第1回	これまでの学習の整理および、3年次の臨床実習の見直しなどにより準備をすすめる。	事前開催する臨床実習オリエンテーションにおいて、実習に対する心構や準備について理解する。 学外実習にむけて、これまでの学習内容の整理、検査実施練習も行っておく。	
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

第16回	
授業計画	臨床実習に関する資料を配布し、講義および演習によるオリエンテーションを行ったうえで、学内実習、学外実習を実施する。コミュニケーション障害学科「臨床実習の手引き」参照。 準備学習については、各実習指導者の指示を仰ぐこと。
シラバス備考	
URLリンク1	
URLリンク2	
URLリンク3	

2022/05/30(月)11:56

授業科目名	キャリアビジョン（デベロップメント）3年生以上対象（集中講義）		
担当教員氏名	原田 淳		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	特に時間帯を定めない（事前にメールか電話で連絡し面談の予約をすること）。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	Zoomミーティングによるオンライン形式で実施する予定。授業日程に従って、講義形式と演習形式の授業を併用して進める。毎回の授業毎に受講レポートに要約、演習や実習による気づきを記すことを求める。		
単位数（時間数）	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科3年生以上対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア形成, ストレスマネジメント, マインドフルネス		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目の目標は、自分自身のキャリアを形成するうえで必要不可欠となる適切にストレスをコントロールする方法について理解することである。そして、心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を実習することにより、自分自身の身体感覚や呼吸に集中し、意識を“いま、ここ”に向けるマインドフルネスを習得する。		
授業の内容	心理・社会的なストレスの特徴について解説し、ストレスマネジメントの方向性について示す。対処法のひとつとして、心身相関的アプローチによる実践的なストレスマネジメントの技法を紹介する。また、ストレスとなる事象に直面したときに生じる心の動きについて説明し、過去の体験の振り返りを行うことにより望ましい認知のあり方について考える。加えて、学内の教員が仕事におけるストレスとの向き合い方について講話する。		
成績評価の方法	講義中の演習50%、レポート課題20%、期末レポート30%で評価する。		
テキスト	テキスト（教科書）は特に指定しない。		
参考文献	参考文献は授業の進行に応じて適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	演習はグループワークを行うため（Zoomミーティングの際はブレイクアウトルームを用いる）、積極的な参加姿勢をもつことを期待する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 企業に勤務経験のある教員が、その経験をふまえて、社会や職場で必要となるストレスのコントロールについて解説する。		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション ・現代社会とストレス ・ストレスマネジメントの必要性 ・実習（呼吸を整える）		
第2回	ストレスとストレス反応 ・ストレスが身体におよぼす影響 ・ストレスが心におよぼす影響 ・ストレスが行動におよぼす影響 ・実習（微細な動きを意識する）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第3回	心理・社会的ストレスの特徴 ・心理・社会的ストレスのしくみ ・心理・社会的ストレスのパターン ・実習（ブリージング・エクササイズ）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第4回	瞑想的運動法 ・実習（ブリージングエクササイズ、アイソメトリック運動）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第5回	ストレスマネジメントの方向性 ・安定した心とは	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第6回	好き・嫌いの感情を克服する ・好き・嫌いが生じるしくみ ・『人間万事塞翁が馬』	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第7回	呼吸の意識化、呼吸法 ・実習（呼吸の意識化、呼吸法）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	

第8回	レジリエンス ・レジリエンスとは ・演習（ライフラインチャート）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第9回	環境調整の方法 ・実習（セクショナルブリージング、完全呼吸法）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第10回	“いま、ここ”を生きる ・マインドフルネス	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第11回	瞑想法 ・実習（リラクゼーション反応、ヴィパッサナー瞑想）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第12回	不安への対処 ・実習（オープンモニタリング瞑想）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第13回	執着・こだわりからの解放 ・実習（呼吸法、瞑想法）	講話に関するレポートを作成する。
第14回	仕事とストレス ・東洋思想の教える仕事への取り組み方	講話に関するレポートを作成する。
第15回	まとめ ・実習（アイソメトリック運動、呼吸法、瞑想法） ・授業評価アンケート ・受講レポート提出に関する説明	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	インターンシップ (Q4)		
担当教員氏名	学部教員, 原田淳 (大学教育実践センター/キャリアセンター)		
研究室の場所	広島キャンパス キャリアセンター		
連絡先電話番号			
オフィシアワー			
E-mail/HP			
授業の形式・方式	対面授業。通年集中講義。 事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、主に講義形式及び演習形式で実施する。実習は原則として夏期休業中に行う。学生は、原則として、事前学習、実習、事後学習の欠席・遅刻・早退は認められない。すべての授業への参加と実習が義務づけられる。		
単位数(時間数)	2.0	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	保健福祉学科2年次対象 保健福祉学部3年生対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析, 就業体験, 職業選択, 職業適性, ビジネスマナー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、将来職業に就くために、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめようとする学生を対象にして、就業体験をさせる。 本科目の目標は、履修学生に、多様な職場や職業に対して関心を持たせるとともに、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えさせることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とすることができる。 本科目は、全学共通教育科目の一つとして位置づけられている。また、学生の進路選択を支援する大学の学生支援プログラムの一部を担うものである。		
授業の内容	企業、行政機関、福祉施設、各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。 事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、自己目標を明確にするグループ別発表・討論等を行う。実習は原則として夏期休業期間中の2週間程度とする。 事後学習では、就業体験の発表を、グループ別発表・討論として行うとともに、全体報告会としても実施する。さらに、実習報告書を作成し、提出させる。		
成績評価の方法	事前学習及び事後学習における課題遂行、実習受入先の評価、実習報告書等を総合して評価する。課題等については第1回の授業において提示する。課題、報告書等の提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。		
テキスト	必要に応じて配布する。		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。 授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。正当な理由なく、履修の途中で放棄、事前学習、実習、事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では、企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては、実践的な研修を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンス	シラバス・コースカタログを事前に目とのおすこと	
第2回	応募手続き等の説明	ガイダンスの内容をよく理解すること	
第3回	応募手続きとビジネスマナー等事前学習	前回の復習および就業体験に関する情報を収集すること	
第4回	事前学習、グループワーク	就業体験先企業等の情報を得ておくこと	
第5回	就業体験	就業体験先企業等について理解をはかり、これまでの復習をしておくこと	

第6回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第7回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第8回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第9回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第10回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第11回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第12回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第13回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第14回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第15回	事後学習および成果発表準備	就業体験時の記録をまとめておくこと
第16回	事後学習および成果発表	就業体験時の記録をまとめておくこと
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	ひろしま理解 (Q2)		
担当教員氏名	鈴木 康之 (代表)		
研究室の場所	広島キャンパス 1912研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィシアワー	研究室に在室中は基本的に対応可。事前にメール等で連絡することが望ましい。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面による講義形式の授業。広島キャンパス発信の遠隔授業。		
単位数 (時間数)	2.0		学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目			
キーワード	広島県、地域、歴史、文化、地理、産業、呉、尾道、世羅、大崎上島、宮島		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>全学共通教育科目の地域課題に位置づける選択科目である。</p> <p>地域への理解を深めるための導入に相当する科目として、最も身近な地域である広島県域を取り上げ、この地域を知解するための初歩的・基本的事項を学修する。</p> <p>具体的には、この地域に特徴的な歴史・文化・地理・産業などの基本的事項を多様な視点から学修することにより、地域の現状を立体的に理解する。これにより、地域課題を発見し、その解決に取り組むための基礎的知識を修得する。</p>		
授業の内容	専門分野の異なる3名の教員が、それぞれの研究分野から広島県域を理解するための方法を提示する。第1～5回を鈴木康之、第6～10回を和田崇、第11～15回を大知徳子が担当する。		
成績評価の方法	各教員がそれぞれ提示した課題に対するレポートを作成し、レポート3本の平均点によって、総合的に評価する。		
テキスト	授業時間に指示する。		
参考文献	岸田裕之 (編) 『広島県の歴史』 山川出版社 その他、授業時間に指示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を活かした実践的な教育について】 この科目では、教育委員会で文化財保護行政、博物館開設・経営の経験を有する教員が、地域の文化資源を理解し、活用する方策について指導する。		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンスーひろしまとはどのような場所？ー	広島県地域とは、どのような特徴をもつ場所なのか考えておく。	
第2回	ひろしまの歴史ー原始・古代ー	原始・古代の広島県地域のあゆみについて調べておく	
第3回	ひろしまの歴史ー中世ー	中世の広島県地域のあゆみについて調べておく。	
第4回	ひろしまの歴史ー近世ー	近世の広島県地域のあゆみについて調べておく。	
第5回	ひろしまの歴史ー近現代そして未来ー	近現代の広島県地域のあゆみについて調べるとともに、未来への展望について考えておく。	
第6回	水の都・広島	太田川沿いを歩いて感じたことをまとめておこう。	
第7回	海軍とカレーの街・呉	呉海軍カレーを食べて感じたことをまとめておこう。	
第8回	映画の街・尾道	大林監督について調べておこう。	
第9回	駅伝の町・世羅	世羅高校陸上競技部について調べておこう。	
第10回	レモンの島・大崎上島	ひろしま夢ばらざなどで瀬戸内レモン商品をチェックしておこう。	
第11回	厳島と宮島	宮島に関する情報を宮島観光協会等のHPで調べておきましょう。 宮島観光協会 https://www.miyajima.or.jp/	

第12回	厳島神社の宝物	厳島神社の文化財について調べておきましょう。
第13回	描かれた宮島	宮島を描いた作品について調べておきましょう。
第14回	厳島神社の絵馬	宮島VRツアーズを利用して豊国神社（千畳閣）の絵馬を見ておきましょう。 宮島VRツアーズ http://www.hiroshima-jp.com/vt/miyajima/
第15回	宮島の祭	宮島で執り行われる祭りの種類を調べておきましょう。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	地域情報発信論（前期集中）		
担当教員氏名	広谷大助, 藤井宣彰, 吉田倫子, 伊藤俊 他 (広島キャンパス主担当 広谷大助)		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業（状況によってはオンライン（リアルタイム）で実施） 前期集中講義（4日間。2022年8月29日（月）～9月1日（木）の予定） サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む		
単位数（時間数）	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	地域創生学科, 国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 2～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, デイバート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。 本科目は, 全学共通教育「広島と世界」(旧課程), 「地域課題」(新課程)に位置づけられる。		
授業の内容	新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み, 課題を設定した上で, 現地へ出向いて取材し, 意見交換を経て記事をまとめるなど, 地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに, グループで課題解決への提案をまとめ, ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。		
成績評価の方法	課題レポート(50%) グループ討議, ポスター発表を含む, 授業への参加度(50%) なお, 単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする		
テキスト	事前に配付される新聞を用いる		
参考文献	適宜紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は, 掲示により確認すること。 また, 本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため, 4日間全ての出席が必須となる。よって, 1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。 なお, フィールドワークにかかる費用及び試験期間中の新聞購読代金は自己負担となる。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により, 取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回			
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			

第15回	
第16回	
授業計画	<p>授業の流れは概ね次のとおり（一部変更の可能性あり）</p> <p>事前課題：試読期間（7月下旬）に配付された新聞を読み，記事を選んで概要をまとめ，意見を述べる</p> <p>第1日：オリエンテーション，事前課題の確認，新聞の読み方 第2日：取材計画，写真撮影・取材実習（フィールドワーク） 第3日：グループ討議，記事風レポート作成・発表 第4日：ポスター制作，ポスター発表，振り返り討議</p> <p>期間中の課題：翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む</p> <p>事後課題：授業で学び得たことを踏まえて，新たな課題を発見し，レポートをまとめる</p>
シラバス備考	
URLリンク1	
URLリンク2	
URLリンク3	

授業科目名	食と健康 Q3 (2019以前生活化学読替)		
担当教員氏名	長尾 則男		
研究室の場所	庄原キャンパス 4504研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面で授業を行う。新型コロナウイルスの影響で内容や方式が変わることがあります。 詳細は初回にて説明を行う(あるいは文書等で示す)。 授業及び資料配布、レポートのやりとり等は大学ポータルあるいはOffice365 Teams等を介して行う 予定なので各自確認・準備をしておくこと。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	生物資源科学部 1～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	食, 栄養, 健康, 調理, 加工, アレルギー, 生活習慣病		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	健康と食をとりまく状況について講義を展開し, 生物資源科学分野に必要な知識を理解できるよう, また, 今後学んでいく専門領域への橋渡しとなるよう, 基礎知識の充実を目的とし, 初年次生学生を想定して授業を進める。		
授業の内容	食と健康をとりまく諸問題について事例を紹介しながら, 食の栄養・生理機能について興味・関心を高め, 食の役割を理解し, 化学的, 生物学な思考ができるようになることを目指す。具体的には, 食の健康維持機能, 疾病との関連, 疾病予防等々について解説する。		
成績評価の方法	出席状況は重視する。5回以上の欠席は評価の対象外とする。 出席確認として毎回, 小テストを行う。 課題レポート・小テスト50%、定期試験50%の割合で評価する。 小テストの実施方法や課題の提出方法については, 授業時間内に指示する。		
テキスト	特定の教科書は用いない。プリント, スライド等を用いて講義する。		
参考文献	日経サイエンス編集部 (2020) 食と健康 (別冊日経サイエンス237) 日本経済新聞出版社 ステーブン・レ 著, 大沢 章子 翻訳 (2017) 食と健康の一億年史 亜紀書房		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	授業に関する連絡方法はその都度, 授業内での連絡で行う。 質問, 疑問等はメール経由時で随時受け付け対応する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 民間化学メーカーでの分析業務の勤務経験を生かし, 食品成分を定量分析する方法を取り上げる (第7回)。		

授業計画	準備学習	
第1回	食の必要性・意義について。 「食と健康」で取り扱う領域を説明する。	「食」とは何なのか。「食」の必要性や意義について考えます。シラバスで授業内容を理解しておいてください。
第2回	食と栄養 5大栄養素や栄養素を取り込む体のしくみについて学ぶ。	5大栄養素についてネットや図書館資料等を当たってみてください。
第3回	食とエネルギー 食品中に含まれるエネルギーについて説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第4回	味覚 5基本味について学ぶ。化学調味料を取り上げる。	取り上げる内容についてネットや書籍等で歴史や製造法について調べてみてください。
第5回	食欲 食欲、ヘルスケア、ダイエット等について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第6回	調理 調理理論、調理技術について学ぶ。	取り上げる内容についてネットや書籍等で原理や反応について調べてみてください。
第7回	食品加工 食品加工技術について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第8回	機能性食品成分 機能性食品成分について説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等で調べてみてください。
第9回	生体内酸化ストレス 生体内の酸化ストレスに対する食物成分の作用について	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。

	て学ぶ。	
第10回	食の安全性 食の安全、安心、品質保証について説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等で歴史や取り組みについて調べてみてください。
第11回	生活習慣病（糖尿病等代謝疾患）予防と食生活 糖尿病の食事による予防とコントロールについて説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第12回	生活習慣病予防(循環器疾患)と食生活 循環器疾患(動脈硬化等)と食事療法について説明する。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第13回	食物アレルギー 食物アレルギーの原因物質とそのしくみ、症状、さらにアレルギー表示について取り上げる。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第14回	高齢者の食 高齢者の「食」の問題 について説明する。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第15回	食を取り巻く問題点、健康と食生活のまとめ 「食と健康」で取り上げた内容を振り返る。	「食と健康」でこれまでに取り上げた内容で興味を持ったものについて、自分なりに調べて説明できるように準備してください。
第16回	定期試験	
授業計画		
シラバス備考	レポート作成を通じて知識を整理することでさらに理解が深まることを指向する「復習」として、単元ごとに各講義で取り上げる内容について自分なりに調べて、図示、図解して手書きレポートA4紙1枚としてまとめることを課す。	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	チーム医療福祉論 (Q2)		
担当教員氏名	吉川ひろみ, 黒田寿美恵, 島谷康司, 坊岡峰子, 永野なおみ		
研究室の場所	吉川 (3404), 黒田 (3509), 島谷 (4429), 坊岡 (2514), 永野 (4524)		
連絡先電話番号	学生便覧を参照		
オフィスアワー	月曜日5限		
E-mail/HP	吉川<yosikawa@pu-hiroshima.ac.jp>, 黒田<kuroda@pu-hiroshima.ac.jp>, 島谷<shimatani@pu-hiroshima.ac.jp>, 坊岡<bouoka@pu-hiroshima.ac.jp>, 永野<nagano@pu-hiroshima.ac.jp>		
授業の形式・方式	対面授業, グループワーク		
単位数 (時間数)	1.0	15	学科または専攻毎の必修・選択の別 全コース必修
履修要件	1年次必修科目		
免許等指定科目			
キーワード	ヘルスケア専門職, ヘルスサポーターマインド, チームアプローチ, 患者中心医療, 利用者主体のサービス, リハビリテーション, 倫理		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>【授業の目標】</p> <p>異なる専門領域の学生が共に学ぶ機会を得ることにより, お互いを尊重する姿勢を学ぶ。ケアチームの概念, チームワークの難しさと効果, リーダーシップ, 組織管理について学習する。事例を通して連携の方法論とグループダイナミクスについて考察する。将来よりよいチームアプローチを実践するための基礎を培う。</p> <p>【科目の位置づけ】</p> <p>「地域包括ケアシステムを発展させる科目」群に位置づけられている。</p>		
授業の内容	学科横断的に編成するグループで, チーム医療福祉の事例についてディスカッションする。医療福祉における効果的なチームのあり方について学修する。		
成績評価の方法	発表20%, クイズ30%, レポート50%の割合で評価する。欠席遅刻は減点対象とする。		
テキスト	吉川ひろみ, 上野哲『倫理でスッキリ医療従事者のモヤモヤ解消法』(シービーアール)		
参考文献	別途指示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>コース選択枠で入学した学生は, 必ず履修すること</p> <p>【実務経験を生かした実践的な教育について】</p> <p>医療福祉現場において実務経験を有する教員が, 多職種連携アプローチの実際について紹介し, 学生はよりよいチーム医療福祉について考える。</p>		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第2回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第3回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第4回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第5回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第6回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第7回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第8回	まとめ	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			

第15回		
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク 1		
URLリンク 2		
URLリンク 3		

授業科目名	チーム医療福祉演習（登録用）		
担当教員氏名	古山 千佳子 ほか		
研究室の場所	三原キャンパス 3405研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	担当教員ごとに後日指定する。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	各学科の横断的小グループによる演習形式の授業。講義、小グループでのディスカッション、資料の作成および発表。状況に応じてグループディスカッションおよび発表をオンライン（リアルタイム）で行う場合がある。		
単位数（時間数）	1.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	全学科4年次対象		
免許等指定科目	看護師・保健師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	主体的学習, 討論, 学習方法		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>これまでに学んできた専門知識・技術や実習での経験にもとづき、学科横断的な小グループにより事例を中心に多面的に討論検討する。これを通して各専門職がどのように連携しチーム医療を支えるべきか、専門職としての役割は何かを考えるとともに患者・障害者のための保健医療およびチーム医療のあり方を理解し、説明することができる。</p> <p>尚、本科目は地域包括ケアシステムを発展させる科目の必須科目として位置づけられており、これまで学んできた専門知識や技術にもとづき、学生主導で行われる。</p>		
授業の内容	<p>学内・現場実習終了後の学生を対象として、学科横断的に編成するチームによって、ロールプレイを用いて具体的なチームによるアプローチを経験する。専門職種相互の理解を深め、相互の専門性を認め、共通の専門用語を駆使して、患者の要求に応えることのできる専門職を養成することを目的とする。</p> <p>尚、本科目は地域包括ケアシステムを発展させる科目の必須科目として位置づけられており、これまで学んできた専門知識や技術にもとづき、学生主導で行われる。</p>		
成績評価の方法	参加、学習態度、提出物を総合して評価する。		
テキスト	吉川ひろみ, 上野 哲 著『倫理ですっきり 医療従事者のモヤモヤ解消法』（シービーアール）2020		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>【実務経験を生かした実践的な教育について】</p> <p>学生は、具体的な事例について多職種連携アプローチをディスカッションし、考える。医療福祉現場の実務経験を有する教員が指導する。</p> <p>これまでの講義、学内実験・実習、臨床実習で学んだことを思い起こし、グループでよく議論すること。</p> <p>初日に手引きを配布するので、そのスケジュールに従って行動する。</p>		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション3事例（医学的事例）の紹介	所属学科の特性について復習する。	
第2回	各グループ（G）で医学的事例（3事例）の情報をしっかり読み込む。授業時間中（12時前後）に各班の担当事例が公表される	所属学科の特性について復習する。	
第3回	各学科実習室で、見学・説明とデモンストレーション	デモンストレーションの準備。チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する	
第4回	各学科実習室で、見学・説明とデモンストレーション	デモンストレーションの準備。チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する	
第5回	各グループで事例検討	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第6回	各グループで事例検討および発表資料作成	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第7回	各グループで事例検討および発表資料作成	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第8回	中グループで発表（医学的事例）	発表の準備。チーム医療福祉に関わる各専門職	

		の役割と機能について復習する。
第9回	各グループで倫理事例または地域事例の検討	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第10回	各グループで倫理事例または地域事例の検討	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第11回	倫理事例検討の続きと発表資料作成と発表方法の打合せ、グループにより当事者からサービスを受けた経験を聞く場合がある	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第12回	倫理事例検討の続きと発表資料作成と発表方法の打合せ、グループにより当事者からサービスを受けた経験を聞く場合がある	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第13回	倫理事例検討の続きと発表資料作成と発表方法の打合せ、グループにより当事者からサービスを受けた経験を聞く場合がある	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第14回	中グループで発表（倫理事例または地域事例）	発表の準備。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第15回	チーム医療福祉演習全体のまとめと振り返り	これまでの学習を振り返る。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（Q3・Q4）		
担当教員氏名	米倉裕希子、伊藤泰三、國定美香、志賀信夫、住居広士、田中聡子、手島洋、永野なおみ、松宮透高、湯川順子、吉田倫子		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	事前に予約してください。可能な限り対応します。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	全体での講義やグループワーク、少人数でのグループ学習や個別指導など授業日程にしたがい、実践的な技術等を指導する。		
単位数（時間数）	1.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	人間福祉学コース1年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	社会福祉士、実習指導、ソーシャルワーク実習		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>ソーシャルワーク実習の意義・目的について理解する。そのために、社会福祉士に求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を理解する。また、ソーシャルワークに係る知識と技術について総合的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。</p> <p>本授業は、2年次以降のソーシャルワーク実習に向けて導入的位置づけにある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ソーシャルワーク実習の意義について理解し説明できる。 2. ソーシャルワーク実習の対象となる施設・機関を理解し説明できる。 3. ソーシャルワーク実習の対象となる施設・機関を必要とする利用者を理解し説明できる。 4. ソーシャルワークに係る知識や技術について具体的かつ実際に理解し説明できる。 5. 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理について理解し説明できる。 6. ソーシャルワーク実習に向けての目標や達成課題を説明できる。 <p>カリキュラム上の位置づけ：専門領域特有の科目（ソーシャルワーク実践を修得する科目）</p>		
授業の内容	<p>講義やグループ学習、見学実習を通して実習分野に関する基本的な理解やソーシャルワークの技術、関連業務、守秘義務等について学ぶ。</p> <p>2、3年次の配属実習に先立って、主として学内においてソーシャルワーク実習の意義を学ぶ。担当教員の講義、視聴覚教材の活用やロールプレイ、福祉現場職員や当事者・家族からの報告を交え、また、見学等を通して社会福祉施設・機関の実際や専門援助技術の方法を学ぶとともに、主体的に課題を発見していく。</p>		
成績評価の方法	<p>(1) 授業への積極的な参加態度 40%</p> <p>・プレゼンテーション、ゲストスピーカーへのインタビュー など</p> <p>(2) 提出課題 60%</p> <p>・ワークシート、プレゼンテーションスライド など</p> <p>(1)(2)を総合的に判断する。</p>		
テキスト	<p>一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（2021）「ソーシャルワーク実習指導ソーシャルワーク実習〔社会専門〕」中央法規。</p> <p>※ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ通して使用する</p>		
参考文献	適宜授業内で紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> ・無断欠席禁止。 ・課題の提出期限厳守。 ・ソーシャルワーク実習を履修するための前提科目である。 		
授業計画	準備学習		
第1回	<p>[授業テーマ]</p> <p>実習の意義・目的 オリエンテーション</p> <p>[授業内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習とは ・ソーシャルワーカーに求められる役割 	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスを確認する。 ・テキスト序章、第1章を読む。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・実習及び実習指導の意義と目的 ・実習の構造 <p>[教科書該当部分] 序章 講義-演習-実習の循環 第1章 ソーシャルワーク実習の目的と構造</p>	
第2回	<p>[授業テーマ] 実習分野に関する基本的な理解</p> <p>[授業内容] ・情報収集の方法 ・ソーシャルワーク実習の分野と施設・機関の理解 ・現場体験学習および見学実習</p> <p>[教科書該当部分] 第2章 実習先決定に向けた準備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第2章を読む。 ・SW1_ワークシート(1) 見学実習の施設・機関について調べる。
第3回	<p>[授業テーマ] 見学実習の事前学習：見学施設に関する基本的な理解</p> <p>[授業内容] ・見学実習施設についての情報収集（現場体験学習の事前学習） ・計画の作成</p> <p>[教科書該当部分] 第2章 実習先決定に向けた準備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SW1_ワークシート(2)見学実習で学びたいことを整理する。
第4回	<p>[授業テーマ] 見学実習</p> <p>[授業内容] ・見学実習の実際</p> <p>[教科書該当部分] 第2章 実習先決定に向けた準備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SW1_ワークシート(1)(2)を復習する。
第5回	<p>[授業テーマ] 見学実習のふりかえりと課題の整理</p> <p>[授業内容] ・見学実習の振り返りを発表（スーパービジョン）</p> <p>[教科書該当部分] 第2章 実習先決定に向けた準備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SW1_ワークシート(3)見学実習での学びをまとめる。
第6回	<p>[授業テーマ] 実習分野に関する基本的な理解</p> <p>[授業内容] ・利用者理解 利用者本人の理解（ゲストスピーカー）</p> <p>[教科書該当部分] 第6章 実習の実際</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SW1_ワークシート(4)ゲストスピーカーへのインタビュー内容を整理しまとめる。
第7回	<p>[授業テーマ] 実習分野に関する基本的な理解</p> <p>[授業内容] ・利用者理解 家族の理解（ゲストスピーカー）</p> <p>[教科書該当部分] 第6章 実習の実際</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SW1_ワークシート(4)ゲストスピーカーへのインタビュー内容を整理しまとめる。

第8回	<p>[授業テーマ] 実習分野に関する基本的な理解</p> <p>[授業内容] ・利用者理解の振り返りと発表 ・個別面談</p> <p>[教科書該当部分] 第6章 実習の実際</p>	<p>・SW1_ワークシート(4) (5)を振り返り発表できるように準備をする。</p>
第9回	<p>[授業テーマ] 実習分野に関する基本的な理解</p> <p>[授業内容] ・個別面談</p> <p>[教科書該当部分] 第2章 実習先決定に向けた準備</p>	<p>・自己の関心や課題を整理し、実習希望調査を作成する。</p>
第10回	<p>[授業テーマ] 実習先での関連業務に関する基本的な理解</p> <p>[授業内容] ・実習報告会への参加</p> <p>[教科書該当部分] 第2章 実習先決定に向けた準備</p>	<p>・実習報告会の発表レジュメに目を通し、報告者への質問等を整理する。</p>
第11回	<p>[授業テーマ] 実習分野に関する基本的な理解 ：児童・家庭福祉分野と社会保障・貧困に対する支援分野</p> <p>[授業内容] ・利用者やその関係者等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係形成 ・利用者やその関係者との援助関係の形成 ・保育技術等の理解</p> <p>[教科書該当部分] 第6章 実習の実際</p>	<p>・SW1_ワークシート(6)保育技術等について調べまとめる。</p>
第12回	<p>[授業テーマ] 実習分野に関する基本的な理解 ：高齢者福祉分野と地域福祉と包括的支援体制分野</p> <p>[授業内容] ・利用者やその関係者等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係形成 ・利用者やその関係者との援助関係の形成 ・介護技術の理解</p> <p>[教科書該当部分] 第6章 実習の実際</p>	<p>・SW1_ワークシート(7)基本的な介護技術について調べまとめる。</p>
第13回	<p>[授業テーマ] 実習分野に関する基本的な理解 ：障害者福祉分野と保健医療分野</p> <p>[授業内容] ・利用者やその関係者等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係形成 ・利用者やその関係者との援助関係の形成 ・介護技術の理解</p> <p>[教科書該当部分] 第6章 実習の実際</p>	<p>・SW1_ワークシート(8)基本的なコミュニケーション技術について調べまとめる。</p>

第14回	<p>[授業テーマ] ソーシャルワークに係る知識と技術に関する理解</p> <p>[授業内容] ・実習の心がまえと社会福祉士の価値 現場で働くSWの講話（ゲストスピーカー）</p> <p>[教科書該当部分] 第6章 実習の実際</p>	<p>・SW1_ワークシート(9)社会福祉士の役割と業務について調べ、ゲストスピーカーへのインタビュー内容を整理しまとめる。</p>
第15回	<p>[授業テーマ] 個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解 実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解</p> <p>[授業内容] ・社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任 ・社会福祉士の倫理綱領と行動規範 ・ソーシャルワーク実習における個人情報の取り扱いに関するガイドラインに基づいた実習記録の記載について</p> <p>[教科書該当部分] 第6章 実習の実際</p>	<p>・SW1_ワークシート(10)社会福祉士の倫理綱領と行動機関について調べてまとめる。</p>
第16回	<p>[授業のテーマ] まとめ（総括）</p> <p>[授業内容] ・ソーシャルワーク実習指導Ⅰの学びの成果をまとめ発表する。 ・ソーシャルワーク実習Ⅰで学びたいことを整理し目標を立てる。</p>	<p>・ソーシャルワーク実習指導Ⅰでの学びを踏まえ、ソーシャルワーク実習Ⅰの目標をプレゼンできるよう準備する。</p>
授業計画		
シラバス備考	<p>・事前学習（ワークシート）をもとにした授業を展開する。</p> <p>・グループについては初回授業で確認する。</p> <p>・原則少人数によるグループ学習の形態だが、オリエンテーションや見学実習、ゲストスピーカーの講話、実習報告会などは合同授業で行うため、授業内容と教室を確認して出席する。</p> <p>・見学実習については、学外での授業のため、授業時間外で行い、現地集合・解散等もある。担当教員に十分確認する。</p> <p>・ソーシャルワーク実習Ⅰの実習希望調査票の提出は11月末ごろを予定している。</p>	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	精神保健福祉実習指導 I (Q3・Q4)		
担当教員氏名	澤田千恵・江本純子・金子努・越智あゆみ・大下由美・細羽竜也・勝見吉彰・吉田倫子		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィリアワー	メールで随時対応します。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。履修学生を2つのグループに分ける(1クラス20人以下)。一部、グループ討議を取り入れる。		
単位数(時間数)	1.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	人間福祉学科2年次対象		
免許等指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格にかかわる必修科目		
キーワード	精神保健福祉士、精神障害者、精神科病院、地域移行支援、地域生活支援		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>この授業では、履修学生の到達目標を以下のように設定する。</p> <p>〈知識・技能の観点〉</p> <p>①精神保健福祉現場実習の意義について説明できる。</p> <p>②精神保健福祉士という国家資格が社会的に要請された背景やその職域について説明できる。</p> <p>〈思考・判断・表現の観点〉</p> <p>①精神障害者の置かれている現状や、その生活の実態や生活上の困難について、歴史的な背景をふまえて説明できる。</p> <p>②精神保健福祉士が精神障害者の相談・支援や社会的復権に果たす役割について説明できる。</p> <p>〈主体性・協働性の観点〉</p> <p>①準備学習を行い、調べた内容についてまとめ、授業時にわかりやすく説明できる。</p> <p>②グループワークにおいて、時間配分に気を配りながら、参加者全員の発言に耳を傾け、グループの意見をまとめることができる。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉</p> <p>精神保健福祉士国家試験受験資格取得においての必修科目。3・4年次配当の精神保健福祉現場実習Ⅰ・Ⅱおよび精神保健福祉現場実習指導Ⅱ・Ⅲを履修するためには、精神保健福祉現場実習指導Ⅰを履修しなければならない。</p>		
授業の内容	この授業では、精神保健福祉士が要請されてきた社会的・歴史的背景について学ぶ。そして、精神保健福祉士が果たすべき役割や必要とされる職域について理解する。また、現場実習に必要な知識やマナーを身につけ、現場実習に臨むための基礎力を培い、実習への動機づけを高める。		
成績評価の方法	成績評価の方法：毎回のリアクション・ペーパー（授業内容をしっかりふまえた感想や質問であるかどうかで評価）と、授業時に提示する課題で総合的に評価する。授業時の課題に関しては、やむをえない事情がある場合のみ、提出期限の1週間後までは受け取る。ただし、提出期限後の提出分については減点の対象となる。		
テキスト	使用しない。資料を配布する。		
参考文献	『県立広島大学 精神保健福祉現場実習の手引き』、その他、授業中に適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	精神保健福祉士国家試験受験資格の取得を希望する学生は、必ず履修すること。 受講条件：夏休みの課題を提出期限厳守で提出すること。提出がない場合は授業を履修できない。 20分以上の遅刻は欠席扱いとします。 授業内容と関係ない私語を禁止します。		
授業計画	準備学習		
第1回	精神保健福祉現場実習で学ぶこと（実習指導の意義） +精神保健福祉士とは（精神保健福祉士の業務紹介） 担当教員：澤田・江本	精神保健福祉士には、どのような役割と機能を期待されているのかについて考えてくる。	
第2回	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解（事例学習） 実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解（個人情報保護法の理解を含む） 担当教員：江本	日本精神保健福祉士協会倫理綱領（実習の手引き）をよく読んでおくこと。	
第3回	精神保健福祉士はなぜ必要か（精神保健医療福祉の現状：精神科病院とは、制度変革とPSW）	以下の記事をインターネットでダウンロードして読み、自分の考えを発表できるよう準備して	

	担当教員：澤田	おくこと。ハートネットTV「60歳からの青春—精神科病院40年をへて—」(2014年6月10日放送)の番組まるごとテキスト https://www.nhk.or.jp/heart-net/article/4/
第4回	自己覚知はなぜ必要か(利用者のニーズを理解し、業務を実践するためのツール) 担当教員：勝見	事前配布資料を読み、自己覚知の必要性について自分なりの考えをまとめ、口頭で報告できるように準備しておくこと。
第5回	精神科医療機関における記録の方法とその留意点を学習したうえで、「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解を図る。 担当教員：金子	事前に配布された模擬実習記録をもとに課題レポートを提出する。
第6回	精神保健福祉士が働く実践現場について理解を深める 担当教員：越智	精神保健福祉士が働く実践現場について調べてみる。
第7回	実習指導者や他職種の援助者との円滑な実践的態度(学ぶ姿勢)、実習中のマナー(メール・お礼状の書き方、電話のかけ方) 担当教員：江本	事前配布資料を読んでくること。 ①現場実習のお礼状の書き方について、社会福祉の実習の授業で学んだことを復習する。その時の課題を持参すること。②模擬課題に取り組んでもらうので、各自、お礼状を書くための便箋と封筒を持参する。
第8回	実習ロールプレイ 担当教員：大下	初対面でのコミュニケーション過程で、自分が選択しやすい行動(緊張して顔が強張る、立ちすくんでしまうなど)について考察してくる。また、普段自分が使用している「非言語メッセージ」(表情、声の抑揚、高さ、大きさ、態度、立ち居振る舞いなど)について考察してくる。
第9回	地域で生活する当事者をお招きし、精神障害の当事者が地域で生活するうえでの苦労や楽しみ、生活の工夫や必要な支援などについて考える。 担当教員：澤田	外部講師が所属する事業所のホームページを見て、どのような事業を行っているか(例：法人の理念および運営している事業所の種類や特徴、地域とのつながりなど)を確認しておくこと。
第10回	精神保健福祉援助実習報告会の映像視聴(3・4年生の実習報告を聞き、現場実習の実際を知り、実習に向けての意識を高める) 澤田・江本	①実習に対する問題意識を深める重要な学びの機会であるという心構えを持つ。②積極的に質問すること。関心を持ったところやわからなかったところをメモしながら聞くことを心掛ける。
第11回	精神科医療の現状と利用者理解(精神科医療(主として病院)の状況と入院している利用者の状況、また利用者とのかかわり方) 担当教員：江本	精神科医療の現状と利用者理解(精神科医療(主として病院)の状況と入院している利用者の状況、また利用者とのかかわり方)について調べてみる。
第12回	現場実習オリエンテーション+見学実習・グループ発表の説明と準備 担当教員 実習オリエンテーション：金子・越智 見学実習・グループ発表：大下・江本・澤田・吉田	第1回授業時に配布している過去の実習報告書を読んでおくこと。
第13回	「精神保健福祉士が働く実践現場について理解を深める」感想レポートの振り返り 担当教員：越智	各自が作成した感想レポートを読んでおく。
第14回	精神実習の流れ(個別面談、三者協議、事前学習等)の説明+質疑応答(前半30分 越智) 実習記録の課題の振り返り(後半60分 金子)	12回目の授業時に返却した「実習記録の課題」の添削結果を確認し、当日持参すること。
第15回	外部講師による講義の振り返り 担当教員：澤田	提出した自分のレポートを振り返り、みんなで議論して深めたいテーマについて考えておく。

第16回	
授業計画	
シラバス備考	
URLリンク 1	
URLリンク 2	
URLリンク 3	

授業科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ (Q1～Q4)		
担当教員氏名	湯川 順子、伊藤 泰三、國定 美香、志賀 信夫、住居 広士、田中 聡子、手島 洋、永野 なおみ、松宮 透高、吉田 倫子、米倉 裕希子		
研究室の場所	学生便覧参照 (社会福祉実習担当教員)		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィシアワー	事前予約してください。可能な限り対応します。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	全体での講義やグループワーク、少人数でのグループ学習や個別指導など授業日程に従い、実践的な技術等を指導する。		
単位数 (時間数)	1.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	人間福祉学コース2年次対象、ソーシャルワーク実習指導Ⅰの単位を修得していること		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	社会福祉士、実習指導、ソーシャルワーク実習		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>本授業はソーシャルワーク実習 (職場及び職種を理解を深める配属実習) の事前事後学習を通して、実践的な技術や知識を体得するものである。</p> <p>1. ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識や技術について具体的かつ実際に理解し、表現できる。</p> <p>2. 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力について理解し、表現できる。</p> <p>3. 実習前から実習後までの一連の学習を通して、ソーシャルワーク実習で得た体験を振り返り、専門的知識及び技術として体系立てて理解し、表現できる。</p> <p>カリキュラム上の位置づけ：専門領域特有の科目 (ソーシャルワーク実践を修得する科目)</p>		
授業の内容	①ソーシャルワーク実習の目的と意義②社会福祉の対象者とその課題のとらえ方 (利用者理解) ③社会福祉施設・機関の種類と内容④社会福祉専門職の種類と業務内容⑤実習生個人票の作成、実習計画の作成⑥社会福祉専門職の倫理、個人のプライバシー保護と守秘義務・三者協議の留意点⑦実習記録の方法⑧相談援助実習において、社会人としてのマナーと利用者に対する接遇⑨実習の振り返り⑩実習報告書の作成⑪実習報告会でプレゼンテーション⑫3年生の実習報告会への参加。		
成績評価の方法	授業への積極的な参加態度20%、授業時に提示する課題40%、定期試験40%で総合的に評価する。		
テキスト	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編 (2021) 『ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習[社会専門] 最新社会福祉士養成講座』中央法規出版 県立広島大学 『ソーシャルワーク実習の手引き (2022年度版) 』		
参考文献	「社会福祉実習の手引き」に示す参考文献 その他、実習領域ごとに必要な基礎文献を担当教員より紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	本科目は「ソーシャルワーク実習Ⅰ」に連動するものであり、前期末に中間試験を実施する。 無断欠席禁止。また、課題の提出期限厳守。		

授業計画	準備学習
第1回 オリエンテーション ソーシャルワーク実習Ⅰの意義・目的	テキストの該当箇所を読む
第2回 実習施設と利用者の理解 (1)	テキストの該当箇所を読む 実習分野や利用者について調べ、ワークシートを作成する
第3回 施設見学	見学施設の概要について調べる
第4回 施設見学の振り返り・実習生個人票の作成	テキストの該当箇所を読む
第5回 実習施設と利用者の理解 (2)	テキストの該当箇所を読む
第6回 実習計画の作成 (1)	発表資料を作成し、発表の準備をする
第7回 実習計画の作成 (2)	テキストの該当箇所を読む

第8回	プライバシー保護と守秘義務・三者協議の留意点 実習記録の書き方	テキストの該当箇所を読む
第9回	利用者とのコミュニケーション（介護技術・実習生のマナー）	テキストの該当箇所を読む
第10回	事前学習報告会	発表資料を作成し、発表の準備をする
第11回	実習の振り返り（1）	実習日誌を読み返しておく
第12回	実習の振り返り（2）・実習報告書の作成	実習の振り返りシートを作成する
第13回	SW実習Ⅱガイダンス/希望調査票について（説明）/実習分野に関する基本的な理解（社会保障・貧困に対する支援分野）	テキストの該当箇所を読む
第14回	実習分野に関する基本的な理解（地域福祉と包括的支援体制分野/保健医療と福祉分野）	テキストの該当箇所を読む
第15回	実習報告会	実習報告会の資料を読む
第16回	3年生実習報告会への参加	実習報告会の資料を読む
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2022/05/30(月)11:56

授業科目名	キャリアビジョン（デベロップメント）3年生以上対象（集中講義）		
担当教員氏名	原田 淳		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	特に時間帯を定めない（事前にメールか電話で連絡し面談の予約をすること）。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	Zoomミーティングによるオンライン形式で実施する予定。授業日程に従って、講義形式と演習形式の授業を併用して進める。毎回の授業毎に受講レポートに要約、演習や実習による気づきを記すことを求める。		
単位数（時間数）	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科3年生以上対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア形成, ストレスマネジメント, マインドフルネス		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目の目標は、自分自身のキャリアを形成するうえで必要不可欠となる適切にストレスをコントロールする方法について理解することである。そして、心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を実習することにより、自分自身の身体感覚や呼吸に集中し、意識を“いま、ここ”に向けるマインドフルネスを習得する。		
授業の内容	心理・社会的なストレスの特徴について解説し、ストレスマネジメントの方向性について示す。対処法のひとつとして、心身相関的アプローチによる実践的なストレスマネジメントの技法を紹介する。また、ストレスとなる事象に直面したときに生じる心の動きについて説明し、過去の体験の振り返りをすることにより望ましい認知のあり方について考える。加えて、学内の教員が仕事におけるストレスとの向き合い方について講話する。		
成績評価の方法	講義中の演習50%、レポート課題20%、期末レポート30%で評価する。		
テキスト	テキスト（教科書）は特に指定しない。		
参考文献	参考文献は授業の進行に応じて適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	演習はグループワークを行うため（Zoomミーティングの際はブレイクアウトルームを用いる）、積極的な参加姿勢をもつことを期待する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 企業に勤務経験のある教員が、その経験をふまえて、社会や職場で必要となるストレスのコントロールについて解説する。		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション ・現代社会とストレス ・ストレスマネジメントの必要性 ・実習（呼吸を整える）		
第2回	ストレスとストレス反応 ・ストレスが身体におよぼす影響 ・ストレスが心におよぼす影響 ・ストレスが行動におよぼす影響 ・実習（微細な動きを意識する）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第3回	心理・社会的ストレスの特徴 ・心理・社会的ストレスのしくみ ・心理・社会的ストレスのパターン ・実習（ブリージング・エクササイズ）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第4回	瞑想的運動法 ・実習（ブリージングエクササイズ、アイソメトリック運動）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第5回	ストレスマネジメントの方向性 ・安定した心とは	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第6回	好き・嫌いの感情を克服する ・好き・嫌いが生じるしくみ ・『人間万事塞翁が馬』	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第7回	呼吸の意識化、呼吸法 ・実習（呼吸の意識化、呼吸法）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	

第8回	レジリエンス ・レジリエンスとは ・演習（ライフラインチャート）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第9回	環境調整の方法 ・実習（セクショナルブリージング、完全呼吸法）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第10回	“いま、ここ”を生きる ・マインドフルネス	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第11回	瞑想法 ・実習（リラクゼーション反応、ヴィパッサナー瞑想）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第12回	不安への対処 ・実習（オープンモニタリング瞑想）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第13回	執着・こだわりからの解放 ・実習（呼吸法、瞑想法）	講話に関するレポートを作成する。
第14回	仕事とストレス ・東洋思想の教える仕事への取り組み方	講話に関するレポートを作成する。
第15回	まとめ ・実習（アイソメトリック運動、呼吸法、瞑想法） ・授業評価アンケート ・受講レポート提出に関する説明	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	インターンシップ (Q1・Q2火曜ペア)		
担当教員氏名	学科教員		
研究室の場所	広島キャンパス		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィシアワー	随時 (アポを取ってください)		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、週1回の授業を、主に講義形式及び演習形式で実施する。実習は原則として夏期休業中に2週間行う。学生は、事前学習、実習、事後学習の欠席・遅刻・早退は認められない。すべての授業への参加と2週間の実習が義務づけられる。		
単位数(時間数)	2.0	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科2・3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析, 進路選択, 就業体験, 職業選択, 職業適性, ビジネスマナー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、将来職業に就くために、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめようとする学生を対象にして、就業体験をさせる。本科目の目標は、履修学生に、多様な職場や職業に対する関心を持たせるとともに、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えさせることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とすることができる。本科目は、全学共通教育科目のキャリア科目の一つとして位置づけられている。		
授業の内容	企業、行政機関、福祉施設、各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、自己目標を明確にするグループ別発表・討論を行う。実習は原則として夏期休業期間中の1週間以上とする。 事後学習では、就業体験の発表を、グループ別発表・討論として行うとともに、学内外に公開する全体報告会としても実施する。さらに、実習報告書を作成し、提出させる。		
成績評価の方法	事前学習及び事後学習における課題、授業及び実習の出席、実習受入先の評価、実習報告書等を総合して評価する。課題等については第1回の授業において提示する。課題、報告書等の提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。		
テキスト	a. 教科書 なし		
参考文献	b. 参考文献 第1回の授業において印刷資料として提示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。 履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。正当な理由なく、履修の途中での放棄、事前学習、実習、事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。実習において必要となる費用は、原則として学生の個人負担とする。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では、企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては、実践的な研修を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回	受講ガイダンス①(授業概要の説明、注意事項の伝達)	これまで学んできたことをふまえて、自分の将来について考えて整理する。	
第2回	受講ガイダンス②(企業の選択など) a) 前年度履修生報告会 b) 企業の選択など	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の候補をいくつか決める。	
第3回	受講ガイダンス③: 外部講師講話(概要) 仕事をするとは、社会・会社で働く(役割を果たす)とはどういうことかを考え、インターンシップ生として社会に飛び込む“心構え”を持つ。 講師: ジョータツ株式会社 代表取締役社長 竹田和憲	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の候補をいくつか決める。	
第4回	受講ガイダンス④(一次マッチングにかかる学内申し込み状況の説明と学内調整)	前回の資料を振り返り、インターンシップにおける自己目標などをまとめる。	

第5回	プレゼンテーション講座① 講師：公益財団法人マツダ財団 事務局長 魚谷滋己	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の企業について調べる。
第6回	プレゼンテーション講座② 講師：公益財団法人マツダ財団 事務局長 魚谷滋己	前回の資料を振り返り、プレゼンテーションの課題に取り組む。
第7回	プレゼンテーション講座③ 講師：公益財団法人マツダ財団 事務局長 魚谷滋己	前回の資料を振り返り、プレゼンテーションの課題に取り組む。
第8回	ビジネスマナー講座① 講師：広島秘書学院 学院長 平野敏子	前回の資料を振り返り、プレゼンテーションの課題に取り組む。
第9回	ビジネスマナー講座② 講師：広島秘書学院 学院長 平野敏子	前回の資料を振り返り、ビジネスマナーの課題に取り組む。
第10回	社会人入門講座 講師：県立広島大学 特任教授 山根英幸	前回の資料を振り返り、ビジネスマナーの課題に取り組む。
第11回	ビジネスマナー講座③ 講師：広島秘書学院 学院長 平野敏子	前回の資料を振り返り、社会人としての心構えをまとめる。
第12回	受入先業種別グループ発表会・討論会（概要）事前に受入先の業界や企業の業務内容・課題等を調べ、目的意識を明確にすること。そのうえで、実習にかかる自己目標を設定すること。	前回の資料を振り返り、ビジネスマナーの課題に取り組む。インターンシップ先の企業について研究し、自己目標などをまとめる。
第13回	最終調整と諸注意の伝達（概要）注意事項の伝達、事故・トラブル等の発生等の対応と連絡体制、実習要項の最終確認（誓約書の作成、日報・報告書・礼状の作成、提出方法等の連絡）	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の企業について研究し、自己目標などをまとめる。
第14回	受入先業種別グループ報告会（在学生、教職員に公開）	受入先業種別グループ報告会に向けた準備を行う。
第15回	合同報告会	合同報告会に向けた準備を行う。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	ひろしま理解 (Q2)		
担当教員氏名	鈴木 康之 (代表)		
研究室の場所	広島キャンパス 1912研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィシアワー	研究室に在室中は基本的に対応可。事前にメール等で連絡することが望ましい。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面による講義形式の授業。広島キャンパス発信の遠隔授業。		
単位数 (時間数)	2.0		学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目			
キーワード	広島県、地域、歴史、文化、地理、産業、呉、尾道、世羅、大崎上島、宮島		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>全学共通教育科目の地域課題に位置づける選択科目である。</p> <p>地域への理解を深めるための導入に相当する科目として、最も身近な地域である広島県域を取り上げ、この地域を知解するための初歩的・基本的事項を学修する。</p> <p>具体的には、この地域に特徴的な歴史・文化・地理・産業などの基本的事項を多様な視点から学修することにより、地域の現状を立体的に理解する。これにより、地域課題を発見し、その解決に取り組むための基礎的知識を修得する。</p>		
授業の内容	専門分野の異なる3名の教員が、それぞれの研究分野から広島県域を理解するための方法を提示する。第1～5回を鈴木康之、第6～10回を和田崇、第11～15回を大知徳子が担当する。		
成績評価の方法	各教員がそれぞれ提示した課題に対するレポートを作成し、レポート3本の平均点によって、総合的に評価する。		
テキスト	授業時間に指示する。		
参考文献	岸田裕之 (編) 『広島県の歴史』 山川出版社 その他、授業時間に指示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を活かした実践的な教育について】 この科目では、教育委員会で文化財保護行政、博物館開設・経営の経験を有する教員が、地域の文化資源を理解し、活用する方策について指導する。		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンスーひろしまとはどのような場所？ー	広島県地域とは、どのような特徴をもつ場所なのか考えておく。	
第2回	ひろしまの歴史ー原始・古代ー	原始・古代の広島県地域のあゆみについて調べておく	
第3回	ひろしまの歴史ー中世ー	中世の広島県地域のあゆみについて調べておく。	
第4回	ひろしまの歴史ー近世ー	近世の広島県地域のあゆみについて調べておく。	
第5回	ひろしまの歴史ー近現代そして未来ー	近現代の広島県地域のあゆみについて調べるとともに、未来への展望について考えておく。	
第6回	水の都・広島	太田川沿いを歩いて感じたことをまとめておこう。	
第7回	海軍とカレーの街・呉	呉海軍カレーを食べて感じたことをまとめておこう。	
第8回	映画の街・尾道	大林監督について調べておこう。	
第9回	駅伝の町・世羅	世羅高校陸上競技部について調べておこう。	
第10回	レモンの島・大崎上島	ひろしま夢ばらざなどで瀬戸内レモン商品をチェックしておこう。	
第11回	厳島と宮島	宮島に関する情報を宮島観光協会等のHPで調べておきましょう。 宮島観光協会 https://www.miyajima.or.jp/	

第12回	厳島神社の宝物	厳島神社の文化財について調べておきましょう。
第13回	描かれた宮島	宮島を描いた作品について調べておきましょう。
第14回	厳島神社の絵馬	宮島VRツアーズを利用して豊国神社（千畳閣）の絵馬を見ておきましょう。 宮島VRツアーズ http://www.hiroshima-jp.com/vt/miyajima/
第15回	宮島の祭	宮島で執り行われる祭りの種類を調べておきましょう。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	地域情報発信論（前期集中）		
担当教員氏名	広谷大助, 藤井宣彰, 吉田倫子, 伊藤俊 他 (広島キャンパス主担当 広谷大助)		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業（状況によってはオンライン（リアルタイム）で実施） 前期集中講義（4日間。2022年8月29日（月）～9月1日（木）の予定） サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む		
単位数（時間数）	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	地域創生学科, 国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 2～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, デイバート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。 本科目は, 全学共通教育「広島と世界」（旧課程）, 「地域課題」（新課程）に位置づけられる。		
授業の内容	新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み, 課題を設定した上で, 現地へ出向いて取材し, 意見交換を経て記事をまとめるなど, 地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに, グループで課題解決への提案をまとめ, ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。		
成績評価の方法	課題レポート（50%） グループ討議, ポスター発表を含む, 授業への参加度（50%） なお, 単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする		
テキスト	事前に配付される新聞を用いる		
参考文献	適宜紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は, 掲示により確認すること。 また, 本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため, 4日間全ての出席が必須となる。よって, 1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。 なお, フィールドワークにかかる費用及び試験期間中の新聞購読代金は自己負担となる。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により, 取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回			
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			

第15回	
第16回	
授業計画	<p>授業の流れは概ね次のとおり（一部変更の可能性あり）</p> <p>事前課題：試読期間（7月下旬）に配付された新聞を読み，記事を選んで概要をまとめ，意見を述べる</p> <p>第1日：オリエンテーション，事前課題の確認，新聞の読み方 第2日：取材計画，写真撮影・取材実習（フィールドワーク） 第3日：グループ討議，記事風レポート作成・発表 第4日：ポスター制作，ポスター発表，振り返り討議</p> <p>期間中の課題：翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む</p> <p>事後課題：授業で学び得たことを踏まえて，新たな課題を発見し，レポートをまとめる</p>
シラバス備考	
URLリンク1	
URLリンク2	
URLリンク3	

授業科目名	マーケティング概論 (Q3)		
担当教員氏名	粟島 浩二(Koji Awashima)		
研究室の場所	1 6 4 8 研究室		
連絡先電話番号	内線 9 8 3 6		
オフィリアワー	メールやTeamsのチャットにより適時		
E-mail/HP	awashima@pu-hiroshima.ac.jp		
授業の形式・方式	対面形式の授業になります。 授業の詳細につきましては、第1回目のイントロダクションで説明しますので、履修希望者は必ず出席してください。尚、理解度に応じてシラバスの一部を変更することがあります。UNIPAでの掲示を見落とさないようにしてください。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 地域創生学部地域創生学科(選択)
履修要件	地域創生学部地域創生学科1年生配当科目(学部学科共通科目)		
免許等指定科目			
キーワード	マーケティング・コンセプト, 顧客価値と顧客満足, 環境分析, マーケティング・マネジメント, 消費者心理, STP, ブランド戦略, サービス・マネジメント		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	マーケティングは、今日の企業の重要な活動として認知されています。しかし、一方でマーケティングが「リサーチ」や「広告・宣伝」に関する企業活動のことであるという誤解も散見されます。本講義では統合的マーケティングの本質を理論体系から理解するとともに、実際の企業活動としてのマーケティングが我々の生活と密接に関連していることを認識し、理解を深めてもらいたいと思います。経営学科では、経営系分野の初級編という位置づけです。2年生配当の流通システム論、3年生配当のマーケティング・リサーチ、商品・ブランド開発論と連動しています。		
授業の内容	モダン・マーケティング論の基礎を理解した上で、より実践的なマーケティング戦略の立案について事例をつかって解説します。基本的概念として、マーケティング・コンセプト、顧客価値と顧客満足、戦略計画、環境分析、消費者・購買者分析、競合分析、マーケティングのSTPとブランド戦略、コミュニケーション戦略、サービスなどを取り上げます。授業はテキストで整理してある理論の解説と身近な企業や商品によるケーススタディを組み合わせ理解を深めます。		
成績評価の方法	中間レポート30点、最終試験40点、毎時限「課題」を提出し、日常点30点とします。(合計100点満点) 成績評価は2/3以上の出席が条件です。最終試験は講義室で通常試験を実施します。(持ち込み不可) 出題の傾向や対策は講義中に適時指示を行ないますので、聞き逃さないようにしてください。尚、評価の基準については講義の開始時に詳細を説明いたします。また、毎時限の「課題」の未提出は欠席扱いとなります。		
テキスト	石井淳蔵、廣田章光、清水信年編著(2020)『1からのマーケティング第4版』硯学舎。		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>テキストは必ず『1からのマーケティング第4版』を用意してください。3版までの内容は全く異なります。授業の内容は、ほぼテキスト通りに進行しますので、あらかじめテキストを購入しておいてください。レポートは、授業内容に沿った事例を取り上げてまとめてもらいます。ネットからコピー&ペーストした安易なものは評価の対象となりません。レジュメは毎時配布します。試験やレポート対策として大事に保管してください。再発行はしません。</p> <p>【実戦経験を生かした実践的な教育について】 民間企業におけるマーケティング・マネジメントの実践経験のある教員が、その経験を生かして、豊富な事例からマーケティングの理論的フレームワークと活用を解説します。</p>		
授業計画	準備学習		
第1回	マーケティング発想の経営	テキストに目を通しておく	
第2回	マーケティング論の成り立ち	テキストに目を通しておく	
第3回	マーケティングの基本概念	「クラフトボス」の事例を理解しておく	
第4回	製品のマネジメント	日清「カレー飯」の事例を理解しておく	
第5回	価格のマネジメント	明治「ザ・チョコレート」の事例を理解しておく	

第6回	広告のマネジメント	P&G「ファブリーズ」の事例を理解しておく
第7回	チャンネルのマネジメント	資生堂「アネッサ」の事例を理解しておく
第8回	サプライチェーンのマネジメント	赤城乳業「ガリガリ君」の事例を理解しておく
第9回	営業のマネジメント	サントリーの営業の事例を理解しておく
第10回	顧客関係のマネジメント	「スノーピーク」の事例を理解しておく
第11回	ビジネスモデルのマネジメント	タニタの製品開発の事例を理解しておく
第12回	顧客理解のマネジメント	マツダ「CXシリーズ」の事例を理解しておく
第13回	ブランド構築のマネジメント	ネスレ「キットカット」の事例を理解しておく
第14回	ブランド組織のマネジメント	「コカ・コーラ」の事例を理解しておく
第15回	サービス・マーケティングのマネジメント マーケティング概論の総集編	・「TDRとUSJ」の事例を理解しておく ・ノートやレジュメの見直し、最終試験レポート対策
第16回		
授業計画		
シラバス備考	受講生の理解度や新型コロナの感染状況に応じてシラバスを変更する可能性があります。	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	基礎情報学入門 (Q4)		
担当教員氏名	小川 仁士		
研究室の場所	広島キャンパス 1548研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	質問等には随時対応する。 研究室へ来訪する場合は、メール等で事前に在室を確認すると良い。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	地域創生学部 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	デジタル, CPU, メモリ, OS, アルゴリズム, インターネット		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>本科目は、地域創生学部の学部学科共通科目に区分される科目である。</p> <p>情報学とは、情報によって世界に意味と秩序をもたらすとともに社会的価値を創造することを目的とし、情報の生成・探索・表現・蓄積・管理・認識・分析・変換・伝達に関わる原理と技術を探求する学問であると定義されている。情報学は裾野がとて広い学際的な学問分野であるため、情報学を学んでいく上で必要となるコンピュータ・プログラム・ネットワーク・情報システムに関する基礎知識の習得を目標とする。</p> <p>具体的には、以下のことができるようになることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの仕組みについて説明できる。 ・情報通信の仕組みについて説明できる。 ・情報システムの開発工程, セキュリティについて説明できる。 		
授業の内容	<p>情報一般の原理, コンピュータで処理される情報の原理, 情報を扱う機械および機構を設計し実現するための技術, 情報を扱う人間社会に関する理解, 社会において情報を扱うシステムを構築し活用するための技術・制度・組織について講義する。</p> <p>本講義では、特に情報学に初めて触れる人を対象に、基礎的事項を網羅的に解説する。具体的には、情報の概念およびコンピュータ上で情報がどのように表現され扱われているかについて、ハードウェアとソフトウェアの観点から講義する。また、情報システムの開発プロセス, ネットワークとセキュリティ, 情報システム運用におけるサービスマネジメントに関する基本事項についても講義する。</p>		
成績評価の方法	課題レポート50%, 定期試験50%の割合で評価する。		
テキスト	毎回資料を配布する。		
参考文献	井内善臣ほか 著 『情報科学の基礎 改訂版』 実教出版, 2010 その他, 必要に応じて紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	授業外での積極的な予習・復習に努めること。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 自動車部品メーカーの設計開発部門で勤務経験のある教員が、その経験を活かして、コンピュータ・プログラム・ネットワーク・情報システムなどに関する基礎知識について解説する。		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンス	情報学について調べておくこと。	
第2回	情報の概念 知識・情報・データ, アナログとデジタル, エントロピー	左記の事項について予習しておくこと。	
第3回	文字と数値の表現 符号化, 2進数, 補数, 浮動小数点	前回講義の課題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。	
第4回	論理回路 論理変数と論理演算, ド・モルガンの定理, 主加法標準形	前回講義の課題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。	
第5回	コンピュータの構成 CPU, アセンブラ, 主記憶, 補助記憶	前回講義の課題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。	
第6回	オペレーティングシステム プロセス管理, 記憶管理, ファイル管理, 入出力管理	前回講義の課題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。	
第7回	プログラムと開発言語 低水準言語と高水準言語, 手続き型プログラミング言	前回講義の課題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。	

	語	
第8回	アルゴリズム 順次処理, 選択処理, 繰り返し処理, フローチャート	前回講義の課題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第9回	システム開発プロセス 要件定義, 外部設計, 内部設計, システム開発モデル	前回講義の課題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第10回	データベース データモデル, 関係モデル, 正規化, 関係代数, SQL	前回講義の課題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第11回	コンピュータネットワーク クライアント・サーバ, LAN・WAN, 回線交換・パケット交換方式	前回講義の課題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第12回	インターネット TCP/IP, IPアドレス, MACアドレス, ルーティング, DNS, WWW	前回講義の課題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第13回	情報セキュリティと法制度 不正アクセス, マルウェア, 標的型攻撃, 暗号化, 個人情報保護	前回講義の課題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第14回	ITサービスマネジメント サービスデザイン, サービスオペレーション	前回講義の課題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第15回	まとめ	前回講義の課題に取組み復習しておくこと。
第16回	定期試験 第2回～第14回までの範囲から出題	第2回～第14回の講義で学んだ内容について復習しておくこと。
授業計画	希望があれば, WWLの科目等履修生向けの授業は火・木6限に設定する。 その場合, オンライン・リアルタイムで授業を行うので, 積極的に受講して欲しい。	
シラバス備考	授業の形式・方式についてはコロナウイルス感染症をめぐる社会情勢次第で変更する可能性がある。 変更する場合は, ポータル配信 (掲示登録) などで事前に通知する。	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	博物館概論 (Q3)		
担当教員氏名	鈴木 康之		
研究室の場所	広島キャンパス 1912研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィリアワー	研究室に在室中は基本的に対応可。事前にメール等で連絡することが望ましい。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業による講義形式。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	地域文化コース2年次対象		
免許等指定科目	学芸員資格に係る必修		
キーワード	博物館、学芸員、資料、展示、収集、保存、学習支援、法規		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	博物館学芸員資格取得のための必修科目。学芸員養成に関する諸科目の入門的な役割を果たす科目である。博物館の専門的業務に従事する学芸員をめざすうえで必要とされる、基礎的知識と能力を養う。 こうした授業の位置づけから、2年次で履修することが望ましい。		
授業の内容	博物館とは何か、学芸員はそこでどのような役割を担うのかを包括的に学習する。現在の博物館をとりまく状況を理解するなかから、自らのめざす学芸員像を思い描いて欲しい。 授業の中で、2～3本のレポート課題を提示する。実際に博物館・美術館・資料館などを見学し、その成果をレポートにまとめること。		
成績評価の方法	レポート(20%)と期末試験(80%)によって評価する。レポートによって自らのめざす学芸員像がイメージできているか、期末試験によって基礎知識の習得度を評価する。		
テキスト	特定のテキストは使用しない。プリントを配布する。		
参考文献	オノユウリ『美術館で働くということ』KADOKAWA/メディアファクトリー、倉田公裕ほか『博物館学』東京堂出版、神奈川県博物館協会編『学芸員の仕事』岩田書院、木下史青『博物館へ行こう』岩波書店		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	学芸員資格を取得するための入門に相当する授業です。 博物館について学ぶためには、まず博物館に行かなければ何も学べません。キャンパスメンバーズ制度を利用して、多くの博物館・美術館・資料館に行ってみてください。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 この科目では、公立博物館の開設・運営に関する実務経験を持つ教員が、博物館に関する基礎的な知識と、その専門職員である学芸員に求められる理論を実践的な事例にもとづいて指導する。		
授業計画	準備学習		
第1回	博物館学芸員とは	博物館において学芸員はどのような仕事をしているのかを考えてみる。	
第2回	博物館の歴史	現在のような博物館は、どのようにして形成されてきたのか、その歴史を考えてみる。	
第3回	博物館の定義と種類	動物園や水族館も博物館に含まれる。なぜだろう。どのような共通点があるのか。考えをまとめておく。	
第4回	博物館の目的と機能	博物館は何のために存在しているの、どのような役割を担っているのか、考えをまとめておく。	
第5回	博物館の組織と職員	博物館を機能させるためにはそのような運営組織が必要か、考えをまとめておく。	
第6回	博物館資料とその収集	魅力的な博物館のコレクションを形成するにはどうすればいいのか？考えをまとめておく。	
第7回	博物館資料の情報化	博物館と情報処理、どのような関係があるのか考えておく。	
第8回	展示	自分の行ったことのある博物館でどのような展示が行われていたかを思い出してみる。	
第9回	資料の保存	博物館資料はなぜ劣化するのか？それを防ぐためにはどうすればいいのか？考えをまとめておく。	

第10回	資料の取り扱い	博物館資料の取り扱いに際してどのような点に注意すべきか、考えをまとめておく。
第11回	学校教育と博物館	博物館は学校教育にどのような貢献ができるのか？考えをまとめておく。
第12回	生涯学習と博物館	教育と学習の違いについて考えをまとめておく。
第13回	地域社会とのコミュニケーション	博物館とそれが所在する地域とがどのような関係をもっているのか、考えをまとめておく。
第14回	博物館関連法規	博物館に関連する法律が果たす役割について考えておく。
第15回	空想展覧会（プレゼンテーション）	これまでの学習を踏まえ、自分が学芸員であったらどのような展覧会を企画・運営するのかをまとめておく。
第16回		
授業計画	博物館はなぜ存在するのか、そこではどのような事業が展開され、専門職員である学芸員はそのような役割を果たすのかを、新聞記事なども取り上げながら具体的に考察する。最終回の事業では、各自の学習成果を踏まえて、自分ならどのような展覧会や行事を企画するかを「空想展覧会」としてプレゼンテーションする。	
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2022/05/30(月)11:56

授業科目名	キャリアビジョン（デベロップメント）3年生以上対象（集中講義）		
担当教員氏名	原田 淳		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	特に時間帯を定めない（事前にメールか電話で連絡し面談の予約をすること）。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	Zoomミーティングによるオンライン形式で実施する予定。授業日程に従って、講義形式と演習形式の授業を併用して進める。毎回の授業毎に受講レポートに要約、演習や実習による気づきを記すことを求める。		
単位数（時間数）	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科3年生以上対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア形成, ストレスマネジメント, マインドフルネス		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目の目標は、自分自身のキャリアを形成するうえで必要不可欠となる適切にストレスをコントロールする方法について理解することである。そして、心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を実習することにより、自分自身の身体感覚や呼吸に集中し、意識を“いま、ここ”に向けるマインドフルネスを習得する。		
授業の内容	心理・社会的なストレスの特徴について解説し、ストレスマネジメントの方向性について示す。対処法のひとつとして、心身相関的アプローチによる実践的なストレスマネジメントの技法を紹介する。また、ストレスとなる事象に直面したときに生じる心の動きについて説明し、過去の体験の振り返りをすることにより望ましい認知のあり方について考える。加えて、学内の教員が仕事におけるストレスとの向き合い方について講話する。		
成績評価の方法	講義中の演習50%、レポート課題20%、期末レポート30%で評価する。		
テキスト	テキスト（教科書）は特に指定しない。		
参考文献	参考文献は授業の進行に応じて適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	演習はグループワークを行うため（Zoomミーティングの際はブレイクアウトルームを用いる）、積極的な参加姿勢をもつことを期待する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 企業に勤務経験のある教員が、その経験をふまえて、社会や職場で必要となるストレスのコントロールについて解説する。		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション ・現代社会とストレス ・ストレスマネジメントの必要性 ・実習（呼吸を整える）		
第2回	ストレスとストレス反応 ・ストレスが身体におよぼす影響 ・ストレスが心におよぼす影響 ・ストレスが行動におよぼす影響 ・実習（微細な動きを意識する）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第3回	心理・社会的ストレスの特徴 ・心理・社会的ストレスのしくみ ・心理・社会的ストレスのパターン ・実習（ブリージング・エクササイズ）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第4回	瞑想的運動法 ・実習（ブリージングエクササイズ、アイソメトリック運動）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第5回	ストレスマネジメントの方向性 ・安定した心とは	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第6回	好き・嫌いの感情を克服する ・好き・嫌いが生じるしくみ ・『人間万事塞翁が馬』	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第7回	呼吸の意識化、呼吸法 ・実習（呼吸の意識化、呼吸法）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	

第8回	レジリエンス ・レジリエンスとは ・演習（ライフラインチャート）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第9回	環境調整の方法 ・実習（セクショナルブリージング、完全呼吸法）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第10回	“いま、ここ”を生きる ・マインドフルネス	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第11回	瞑想法 ・実習（リラクゼーション反応、ヴィパッサナー瞑想）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第12回	不安への対処 ・実習（オープンモニタリング瞑想）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第13回	執着・こだわりからの解放 ・実習（呼吸法、瞑想法）	講話に関するレポートを作成する。
第14回	仕事とストレス ・東洋思想の教える仕事への取り組み方	講話に関するレポートを作成する。
第15回	まとめ ・実習（アイソメトリック運動、呼吸法、瞑想法） ・授業評価アンケート ・受講レポート提出に関する説明	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	インターンシップ (Q1・Q2火曜ペア)		
担当教員氏名	学科教員		
研究室の場所	広島キャンパス		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィシアワー	随時 (アポを取ってください)		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、週1回の授業を、主に講義形式及び演習形式で実施する。実習は原則として夏期休業中に2週間行う。学生は、事前学習、実習、事後学習の欠席・遅刻・早退は認められない。すべての授業への参加と2週間の実習が義務づけられる。		
単位数(時間数)	2.0	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科2・3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析, 進路選択, 就業体験, 職業選択, 職業適性, ビジネスマナー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、将来職業に就くために、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめようとする学生を対象にして、就業体験をさせる。本科目の目標は、履修学生に、多様な職場や職業に対する関心を持たせるとともに、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えさせることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とすることができる。本科目は、全学共通教育科目のキャリア科目の一つとして位置づけられている。		
授業の内容	企業、行政機関、福祉施設、各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、自己目標を明確にするグループ別発表・討論を行う。実習は原則として夏期休業期間中の1週間以上とする。 事後学習では、就業体験の発表を、グループ別発表・討論として行うとともに、学内外に公開する全体報告会としても実施する。さらに、実習報告書を作成し、提出させる。		
成績評価の方法	事前学習及び事後学習における課題、授業及び実習の出席、実習受入先の評価、実習報告書等を総合して評価する。課題等については第1回の授業において提示する。課題、報告書等の提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。		
テキスト	a. 教科書 なし		
参考文献	b. 参考文献 第1回の授業において印刷資料として提示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。 履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。正当な理由なく、履修の中途での放棄、事前学習、実習、事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。実習において必要となる費用は、原則として学生の個人負担とする。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では、企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては、実践的な研修を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回	受講ガイダンス①(授業概要の説明、注意事項の伝達)	これまで学んできたことをふまえて、自分の将来について考えて整理する。	
第2回	受講ガイダンス②(企業の選択など) a) 前年度履修生報告会 b) 企業の選択など	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の候補をいくつか決める。	
第3回	受講ガイダンス③: 外部講師講話(概要) 仕事をするとは、社会・会社で働く(役割を果たす)とはどういうことかを考え、インターンシップ生として社会に飛び込む“心構え”を持つ。 講師: ジョータツ株式会社 代表取締役社長 竹田和憲	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の候補をいくつか決める。	
第4回	受講ガイダンス④(一次マッチングにかかる学内申し込み状況の説明と学内調整)	前回の資料を振り返り、インターンシップにおける自己目標などをまとめる。	

第5回	プレゼンテーション講座① 講師：公益財団法人マツダ財団 事務局長 魚谷滋己	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の企業について調べる。
第6回	プレゼンテーション講座② 講師：公益財団法人マツダ財団 事務局長 魚谷滋己	前回の資料を振り返り、プレゼンテーションの課題に取り組む。
第7回	プレゼンテーション講座③ 講師：公益財団法人マツダ財団 事務局長 魚谷滋己	前回の資料を振り返り、プレゼンテーションの課題に取り組む。
第8回	ビジネスマナー講座① 講師：広島秘書学院 学院長 平野敏子	前回の資料を振り返り、プレゼンテーションの課題に取り組む。
第9回	ビジネスマナー講座② 講師：広島秘書学院 学院長 平野敏子	前回の資料を振り返り、ビジネスマナーの課題に取り組む。
第10回	社会人入門講座 講師：県立広島大学 特任教授 山根英幸	前回の資料を振り返り、ビジネスマナーの課題に取り組む。
第11回	ビジネスマナー講座③ 講師：広島秘書学院 学院長 平野敏子	前回の資料を振り返り、社会人としての心構えをまとめる。
第12回	受入先業種別グループ発表会・討論会（概要）事前に受入先の業界や企業の業務内容・課題等を調べ、目的意識を明確にすること。そのうえで、実習にかかる自己目標を設定すること。	前回の資料を振り返り、ビジネスマナーの課題に取り組む。インターンシップ先の企業について研究し、自己目標などをまとめる。
第13回	最終調整と諸注意の伝達（概要）注意事項の伝達、事故・トラブル等の発生等の対応と連絡体制、実習要項の最終確認（誓約書の作成、日報・報告書・礼状の作成、提出方法等の連絡）	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の企業について研究し、自己目標などをまとめる。
第14回	受入先業種別グループ報告会（在学生、教職員に公開）	受入先業種別グループ報告会に向けた準備を行う。
第15回	合同報告会	合同報告会に向けた準備を行う。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	ひろしま理解 (Q2)		
担当教員氏名	鈴木 康之 (代表)		
研究室の場所	広島キャンパス 1912研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィシアワー	研究室に在室中は基本的に対応可。事前にメール等で連絡することが望ましい。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面による講義形式の授業。広島キャンパス発信の遠隔授業。		
単位数 (時間数)	2.0		学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目			
キーワード	広島県、地域、歴史、文化、地理、産業、呉、尾道、世羅、大崎上島、宮島		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>全学共通教育科目の地域課題に位置づける選択科目である。</p> <p>地域への理解を深めるための導入に相当する科目として、最も身近な地域である広島県域を取り上げ、この地域を知解するための初歩的・基本的事項を学修する。</p> <p>具体的には、この地域に特徴的な歴史・文化・地理・産業などの基本的事項を多様な視点から学修することにより、地域の現状を立体的に理解する。これにより、地域課題を発見し、その解決に取り組むための基礎的知識を修得する。</p>		
授業の内容	専門分野の異なる3名の教員が、それぞれの研究分野から広島県域を理解するための方法を提示する。第1～5回を鈴木康之、第6～10回を和田崇、第11～15回を大知徳子が担当する。		
成績評価の方法	各教員がそれぞれ提示した課題に対するレポートを作成し、レポート3本の平均点によって、総合的に評価する。		
テキスト	授業時間に指示する。		
参考文献	岸田裕之 (編) 『広島県の歴史』 山川出版社 その他、授業時間に指示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を活かした実践的な教育について】 この科目では、教育委員会で文化財保護行政、博物館開設・経営の経験を有する教員が、地域の文化資源を理解し、活用する方策について指導する。		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンス—ひろしまとはどのような場所?—	広島県地域とは、どのような特徴をもつ場所なのか考えておく。	
第2回	ひろしまの歴史—原始・古代—	原始・古代の広島県地域のあゆみについて調べておく	
第3回	ひろしまの歴史—中世—	中世の広島県地域のあゆみについて調べておく。	
第4回	ひろしまの歴史—近世—	近世の広島県地域のあゆみについて調べておく。	
第5回	ひろしまの歴史—近現代そして未来—	近現代の広島県地域のあゆみについて調べるとともに、未来への展望について考えておく。	
第6回	水の都・広島	太田川沿いを歩いて感じたことをまとめておこう。	
第7回	海軍とカレーの街・呉	呉海軍カレーを食べて感じたことをまとめておこう。	
第8回	映画の街・尾道	大林監督について調べておこう。	
第9回	駅伝の町・世羅	世羅高校陸上競技部について調べておこう。	
第10回	レモンの島・大崎上島	ひろしま夢ばらざなどで瀬戸内レモン商品をチェックしておこう。	
第11回	厳島と宮島	宮島に関する情報を宮島観光協会等のHPで調べておきましょう。 宮島観光協会 https://www.miyajima.or.jp/	

第12回	厳島神社の宝物	厳島神社の文化財について調べておきましょう。
第13回	描かれた宮島	宮島を描いた作品について調べておきましょう。
第14回	厳島神社の絵馬	宮島VRツアーズを利用して豊国神社（千畳閣）の絵馬を見ておきましょう。 宮島VRツアーズ http://www.hiroshima-jp.com/vt/miyajima/
第15回	宮島の祭	宮島で執り行われる祭りの種類を調べておきましょう。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	地域情報発信論（前期集中）		
担当教員氏名	広谷大助, 藤井宣彰, 吉田倫子, 伊藤俊 他 (広島キャンパス主担当 広谷大助)		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業（状況によってはオンライン（リアルタイム）で実施） 前期集中講義（4日間。2022年8月29日（月）～9月1日（木）の予定） サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む		
単位数（時間数）	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	地域創生学科, 国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 2～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, デイバート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。 本科目は, 全学共通教育「広島と世界」(旧課程), 「地域課題」(新課程)に位置づけられる。		
授業の内容	新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み, 課題を設定した上で, 現地へ出向いて取材し, 意見交換を経て記事をまとめるなど, 地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに, グループで課題解決への提案をまとめ, ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。		
成績評価の方法	課題レポート(50%) グループ討議, ポスター発表を含む, 授業への参加度(50%) なお, 単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする		
テキスト	事前に配付される新聞を用いる		
参考文献	適宜紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は, 掲示により確認すること。 また, 本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため, 4日間全ての出席が必須となる。よって, 1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。 なお, フィールドワークにかかる費用及び試験期間中の新聞購読代金は自己負担となる。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により, 取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回			
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			

第15回	
第16回	
授業計画	<p>授業の流れは概ね次のとおり（一部変更の可能性あり）</p> <p>事前課題：試読期間（7月下旬）に配付された新聞を読み，記事を選んで概要をまとめ，意見を述べる</p> <p>第1日：オリエンテーション，事前課題の確認，新聞の読み方 第2日：取材計画，写真撮影・取材実習（フィールドワーク） 第3日：グループ討議，記事風レポート作成・発表 第4日：ポスター制作，ポスター発表，振り返り討議</p> <p>期間中の課題：翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む</p> <p>事後課題：授業で学び得たことを踏まえて，新たな課題を発見し，レポートをまとめる</p>
シラバス備考	
URLリンク1	
URLリンク2	
URLリンク3	

授業科目名	マーケティング概論 (Q3)		
担当教員氏名	粟島 浩二(Koji Awashima)		
研究室の場所	1 6 4 8 研究室		
連絡先電話番号	内線 9 8 3 6		
オフィリアワー	メールやTeamsのチャットにより適時		
E-mail/HP	awashima@pu-hiroshima.ac.jp		
授業の形式・方式	対面形式の授業になります。 授業の詳細につきましては、第1回目のイントロダクションで説明しますので、履修希望者は必ず出席してください。尚、理解度に応じてシラバスの一部を変更することがあります。UNIPAでの掲示を見落とさないようにしてください。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 地域創生学部地域創生学科(選択)
履修要件	地域創生学部地域創生学科1年生配当科目(学部学科共通科目)		
免許等指定科目			
キーワード	マーケティング・コンセプト, 顧客価値と顧客満足, 環境分析, マーケティング・マネジメント, 消費者心理, STP, ブランド戦略, サービス・マネジメント		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	マーケティングは、今日の企業の重要な活動として認知されています。しかし、一方でマーケティングが「リサーチ」や「広告・宣伝」に関する企業活動のことであるという誤解も散見されます。本講義では統合的マーケティングの本質を理論体系から理解するとともに、実際の企業活動としてのマーケティングが我々の生活と密接に関連していることを認識し、理解を深めてもらいたいと思います。経営学科では、経営系分野の初級編という位置づけです。2年生配当の流通システム論、3年生配当のマーケティング・リサーチ、商品・ブランド開発論と連動しています。		
授業の内容	モダン・マーケティング論の基礎を理解した上で、より実践的なマーケティング戦略の立案について事例をつかって解説します。基本的概念として、マーケティング・コンセプト、顧客価値と顧客満足、戦略計画、環境分析、消費者・購買者分析、競合分析、マーケティングのSTPとブランド戦略、コミュニケーション戦略、サービスなどを取り上げます。授業はテキストで整理してある理論の解説と身近な企業や商品によるケーススタディを組み合わせ理解を深めます。		
成績評価の方法	中間レポート30点、最終試験40点、毎時限「課題」を提出し、日常点30点とします。(合計100点満点)成績評価は2/3以上の出席が条件です。最終試験は講義室で通常試験を実施します。(持ち込み不可)出題の傾向や対策は講義中に適時指示を行ないますので、聞き逃さないようにしてください。尚、評価の基準については講義の開始時に詳細を説明いたします。また、毎時限の「課題」の未提出は欠席扱いとなります。		
テキスト	石井淳蔵、廣田章光、清水信年編著(2020)『1からのマーケティング第4版』硯学舎。		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>テキストは必ず『1からのマーケティング第4版』を用意してください。3版までの内容は全く異なります。授業の内容は、ほぼテキスト通りに進行しますので、あらかじめテキストを購入しておいてください。レポートは、授業内容に沿った事例を取り上げてまとめてもらいます。ネットからコピー&ペーストした安易なものは評価の対象となりません。レジュメは毎時配布します。試験やレポート対策として大事に保管してください。再発行はしません。</p> <p>【実戦経験を生かした実践的な教育について】 民間企業におけるマーケティング・マネジメントの実践経験のある教員が、その経験を生かして、豊富な事例からマーケティングの理論的フレームワークと活用を解説します。</p>		
授業計画	準備学習		
第1回	マーケティング発想の経営	テキストに目を通しておく	
第2回	マーケティング論の成り立ち	テキストに目を通しておく	
第3回	マーケティングの基本概念	「クラフトボス」の事例を理解しておく	
第4回	製品のマネジメント	日清「カレー飯」の事例を理解しておく	
第5回	価格のマネジメント	明治「ザ・チョコレート」の事例を理解しておく	

第6回	広告のマネジメント	P&G「ファブリーズ」の事例を理解しておく
第7回	チャンネルのマネジメント	資生堂「アネッサ」の事例を理解しておく
第8回	サプライチェーンのマネジメント	赤城乳業「ガリガリ君」の事例を理解しておく
第9回	営業のマネジメント	サントリーの営業の事例を理解しておく
第10回	顧客関係のマネジメント	「スノーピーク」の事例を理解しておく
第11回	ビジネスモデルのマネジメント	タニタの製品開発の事例を理解しておく
第12回	顧客理解のマネジメント	マツダ「CXシリーズ」の事例を理解しておく
第13回	ブランド構築のマネジメント	ネスレ「キットカット」の事例を理解しておく
第14回	ブランド組織のマネジメント	「コカ・コーラ」の事例を理解しておく
第15回	サービス・マーケティングのマネジメント マーケティング概論の総集編	・「TDRとUSJ」の事例を理解しておく ・ノートやレジュメの見直し、最終試験レポート対策
第16回		
授業計画		
シラバス備考	受講生の理解度や新型コロナの感染状況に応じてシラバスを変更する可能性があります。	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	基礎情報学入門 (Q4)		
担当教員氏名	小川 仁士		
研究室の場所	広島キャンパス 1548研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	質問等には随時対応する。 研究室へ来訪する場合は、メール等で事前に在室を確認すると良い。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	地域創生学部 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	デジタル, CPU, メモリ, OS, アルゴリズム, インターネット		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>本科目は、地域創生学部の学部学科共通科目に区分される科目である。</p> <p>情報学とは、情報によって世界に意味と秩序をもたらすとともに社会的価値を創造することを目的とし、情報の生成・探索・表現・蓄積・管理・認識・分析・変換・伝達に関わる原理と技術を探求する学問であると定義されている。情報学は裾野がとて広い学際的な学問分野であるため、情報学を学んでいく上で必要となるコンピュータ・プログラム・ネットワーク・情報システムに関する基礎知識の習得を目標とする。</p> <p>具体的には、以下のことができるようになることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの仕組みについて説明できる。 ・情報通信の仕組みについて説明できる。 ・情報システムの開発工程, セキュリティについて説明できる。 		
授業の内容	<p>情報一般の原理, コンピュータで処理される情報の原理, 情報を扱う機械および機構を設計し実現するための技術, 情報を扱う人間社会に関する理解, 社会において情報を扱うシステムを構築し活用するための技術・制度・組織について講義する。</p> <p>本講義では、特に情報学に初めて触れる人を対象に、基礎的事項を網羅的に解説する。具体的には、情報の概念およびコンピュータ上で情報がどのように表現され扱われているかについて、ハードウェアとソフトウェアの観点から講義する。また、情報システムの開発プロセス, ネットワークとセキュリティ, 情報システム運用におけるサービスマネジメントに関する基本事項についても講義する。</p>		
成績評価の方法	課題レポート50%, 定期試験50%の割合で評価する。		
テキスト	毎回資料を配布する。		
参考文献	井内善臣ほか 著 『情報科学の基礎 改訂版』 実教出版, 2010 その他, 必要に応じて紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	授業外での積極的な予習・復習に努めること。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 自動車部品メーカーの設計開発部門で勤務経験のある教員が、その経験を活かして、コンピュータ・プログラム・ネットワーク・情報システムなどに関する基礎知識について解説する。		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンス	情報学について調べておくこと。	
第2回	情報の概念 知識・情報・データ, アナログとデジタル, エントロピー	左記の事項について予習しておくこと。	
第3回	文字と数値の表現 符号化, 2進数, 補数, 浮動小数点	前回講義の課題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。	
第4回	論理回路 論理変数と論理演算, ド・モルガンの定理, 主加法標準形	前回講義の課題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。	
第5回	コンピュータの構成 CPU, アセンブラ, 主記憶, 補助記憶	前回講義の課題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。	
第6回	オペレーティングシステム プロセス管理, 記憶管理, ファイル管理, 入出力管理	前回講義の課題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。	
第7回	プログラムと開発言語 低水準言語と高水準言語, 手続き型プログラミング言	前回講義の課題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。	

	語	
第8回	アルゴリズム 順次処理, 選択処理, 繰り返し処理, フローチャート	前回講義の課題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第9回	システム開発プロセス 要件定義, 外部設計, 内部設計, システム開発モデル	前回講義の課題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第10回	データベース データモデル, 関係モデル, 正規化, 関係代数, SQL	前回講義の課題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第11回	コンピュータネットワーク クライアント・サーバ, LAN・WAN, 回線交換・パケット交換方式	前回講義の課題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第12回	インターネット TCP/IP, IPアドレス, MACアドレス, ルーティング, DNS, WWW	前回講義の課題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第13回	情報セキュリティと法制度 不正アクセス, マルウェア, 標的型攻撃, 暗号化, 個人情報保護	前回講義の課題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第14回	ITサービスマネジメント サービスデザイン, サービスオペレーション	前回講義の課題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第15回	まとめ	前回講義の課題に取組み復習しておくこと。
第16回	定期試験 第2回～第14回までの範囲から出題	第2回～第14回の講義で学んだ内容について復習しておくこと。
授業計画	希望があれば, WWLの科目等履修生向けの授業は火・木6限に設定する。 その場合, オンライン・リアルタイムで授業を行うので, 積極的に受講して欲しい。	
シラバス備考	授業の形式・方式についてはコロナウイルス感染症をめぐる社会情勢次第で変更する可能性がある。 変更する場合は, ポータル配信 (掲示登録) などで事前に通知する。	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	人的資源管理論 (Q4)		
担当教員氏名	平野 実		
研究室の場所	広島キャンパス 1646 研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィシアワー	随時 (メールで事前に予約をすること)		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	授業では、教科書を中心に、人的資源管理論の主要な概念および枠組みを事例を取り上げながら解説する。また、授業では、オンライン (リアルタイム) ZOOMによる講義と受講者のプレゼンテーションを中心に実施する (注: 状況によって、対面授業となることがあります)。		
単位数 (時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	地域創生学部地域創生学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア形成, 雇用管理, 目標管理制度, 専門職制度		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本講義の主要な目標は、受講者が企業で展開されている多様な人事制度を学習することによって、人的資源管理論に関する理解を深めることである。		
授業の内容	サービスの経済化・高齢化が進行するわが国の企業経営において、終身雇用制が大きく変貌するとともに、さまざまな雇用形態が登場し多様化している。講義では、このような経営組織の環境変化の中で、社員のキャリア形成と、経営組織の求める人材の確保のあり方について考察する。特に、社員のキャリア形成を達成すると同時に、新製品や新サービスの開発に必要な戦略的な人材を確保する、という視点から、社内公募制、目標管理制度、専門職制度、教育研修制度、および、給与・賞与などの報酬制度を中心とする総合的な人事制度について、日本企業の優れた事例を取り上げながら学習する。		
成績評価の方法	出席、授業態度、授業への参加度および課題発表60%、期末レポート40%の割合で総合的に評価する。		
テキスト	a.教科書 奥林康司編著『入門 人的資源管理』中央経済社、2003。 b.参考書 平野実『国際合併企業と知識創造』晃洋書房、2007。		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>1. 授業は、すべてオンライン (リアルタイム) ZOOMで行います。受講者には、オンラインでパワーポイントによるプレゼンテーションを行ってもらうため、PC、wifiなどを事前に用意しておいてください。</p> <p>2. 授業中は、常にビデオオン、マイクオフにしてください。発表時、および出席確認時は、ビデオオン、マイクオンにしてください。発表時、発表資料はZOOMの「画面共有」機能を使用します。また、授業は録画することがあります。 * Zoomでのミーティング中に自分の画面を共有したい場合の手順は以下の通りです。 (1) 画面内にある「画面共有」をクリック (2) 一覧の中から共有したい項目を選択 (3) 「画面の共有」をクリック</p> <p>3. 発表資料は、発表前日までに、県大ポータルに課題提出機能を使用して、アップロードしておいてください。</p> <p>4. ZOOMで表示される名前は、(氏名・学籍番号)としてください。 (画面下の「参加者」をクリックすると画面右側に参加者一覧が表示されるので、自分の名前にカーソルを合わせて「詳細」→「名前の変更」の順にクリックしてください。)</p> <p>5. ZOOMのミーティングルームへの入室 履修登録者に、県大ポータルからURL、ミーティングID、パスワードを連絡しますので、これらを用いて授業開始前までに入室しておいてください。履修登録をしていない場合、ZOOMのURL等送付できませんので注意してください。1回目のオリエンテーションも同様です。</p> <p>【実務経験を生かした実践的な教育について】 機械メーカーの本社海外部門、ドイツ、アメリカの海外現地法人で勤務経験のある教員が、その経験を活かして、人材マネジメントの主要な概念や枠組みを企業の事例を取り上げながら解説する。</p>		

授業計画		準備学習
第1回	イントロダクション オンライン (リアルタイム) ZOOM	初回授業までにシラバスを熟読し、授業の内容を理解しておくこと。
第2回	人的資源管理の生成 オンライン (リアルタイム) ZOOM	授業前日、もしくは、当日の日本経済新聞を精読しておくこと。
第3回	雇用管理 (1) オンライン (リアルタイム) ZOOM	授業前日、もしくは、当日の日本経済新聞を精読しておくこと。
第4回	雇用管理 (2) オンライン (リアルタイム) ZOOM	授業前日、もしくは、当日の日本経済新聞を精読しておくこと。
第5回	キャリア開発 オンライン (リアルタイム) ZOOM	授業前日、もしくは、当日の日本経済新聞を精読しておくこと。
第6回	課題発表前グループ・ワーク オンライン (リアルタイム) ZOOM *グループ・ワーク は、ZOOMのブレイクアウトルーム機能を使う予定です。	授業前日、もしくは、当日の日本経済新聞を精読しておくこと。
第7回	マツダエース株式会社 企業研究会 (講演者:業務本部 人事部 守田なつき氏) オンライン (リアルタイム) ZOOM 注:未確定	マツダエース社についての情報収集をしておくこと。
第8回	三井住友海上火災保険株式会社 企業研究会 (講演者:中国本部経理総務グループ大森名吏子氏) オンライン (リアルタイム) ZOOM 注:未確定	三井住友海上火災保険会社についての情報収集をしておくこと。
第9回	課題発表 (学生によるプレゼンテーション) オンライン (リアルタイム) ZOOM	発表者は、発表前日までに、発表資料を所定のフォルダーに事前に提出しておくこと。
第10回	課題発表 (学生によるプレゼンテーション) オンライン (リアルタイム) ZOOM	発表者は、発表前日までに、発表資料を所定のフォルダーに事前に提出しておくこと。
第11回	課題発表 (学生によるプレゼンテーション) オンライン (リアルタイム) ZOOM	発表者は、発表前日までに、発表資料を所定のフォルダーに事前に提出しておくこと。
第12回	課題発表 (学生によるプレゼンテーション) オンライン (リアルタイム) ZOOM	発表者は、発表前日までに、発表資料を所定のフォルダーに事前に提出しておくこと。
第13回	課題発表 (学生によるプレゼンテーション) オンライン (リアルタイム) ZOOM	発表者は、発表前日までに、発表資料を所定のフォルダーに事前に提出しておくこと。
第14回	課題発表 (学生によるプレゼンテーション) オンライン (リアルタイム) ZOOM	発表者は、発表前日までに、発表資料を所定のフォルダーに事前に提出しておくこと。
第15回	課題発表 (学生によるプレゼンテーション) オンライン (リアルタイム) ZOOM	発表者は、発表前日までに、発表資料を所定のフォルダーに事前に提出しておくこと。
第16回	期末レポート (期末試験の代わりに期末レポートを提出していただきます。期末試験は行いません。) 注:対面授業に変更になった場合は、期末試験を行うことがあります。	
授業計画		
シラバス備考	機械メーカーの本社海外部門、ドイツ、アメリカの海外現地法人で勤務経験のある教員が、その経験を活かして、人材マネジメントの主要な概念や枠組みを日本企業の事例を取り上げながら解説する。	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	画像情報処理 (Q2)		
担当教員氏名	肖 業貴		
研究室の場所	広島キャンパス 1563 研究室		
連絡先電話番号	電話：082-251-9731(直通)		
オフィシアワー	毎週月曜日9時から金曜日18時(在室のときはいつでも可)、場所は担当教員研究室		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業 授業日程に従って、主に下記の参考書および別途配布するプリント資料を用いて実施する。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 自由選択
履修要件	地域産業コース 3年次対象		
免許等指定科目	IoT・AI応用技術認定(中級)プログラム 選択科目		
キーワード	視覚情報処理, デジタル画像, 画像処理, 静止画, 動画, 3原色原理, カラー画像, 画像圧縮, Biometrics, 顔画像の処理, Matlab Programming		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目は、情報化において映像情報の活用が欠かせない現状を踏まえて、情報科学の重要な分野として、視覚情報処理・画像処理の基礎、特にデジタル画像に関する基礎知識を習得させるために実施するものである。デジタル画像の基礎知識を習得させるとともに、演習を通して画像処理の基本技法を体験する。		
授業の内容	デジタル画像情報は、生産、電気電子、機械、交通、気象、農水産業、宇宙といった様々な分野にとどまらず、我々の社会生活、日常生活においても活用されるようになっている。特に、IoT・AI応用技術の発展においてはその利活用が欠かせない。本科目をコースの基礎専門科目と位置づけ、デジタル画像情報処理の基礎知識や技術を身につけることを目的とする。具体的には、①デジタル画像の生成(空間サンプリング、量子化、CG生成)、②デジタル画像の基本処理技術(幾何学処理、各種空間フィルタリング)、③画像圧縮技術(静止画と動画の圧縮)、④画像処理基本技術演習、を主な授業内容とする。授業後半にMATLABを用いて演習を行い、画像情報の基本処理技術への理解を深める。		
成績評価の方法	4回以上の欠席は評価の対象外とする。演習課題と期末試験または最終レポートは70%、演習への取り組みは30%の割合で、出席状況も考慮して、総合的に評価する。		
テキスト	特に指定しないが、授業関係プリントをまとめて、TEAMSにてpdf配信する。		
参考文献	参考書：酒井『ディジタル画像処理入門』コロナ社、1997。平井『視覚と記憶の情報処理』倍風館、1995。藤岡 他『画像処理の基礎』昭晃堂、2002。田村『コンピュータ画像処理』オーム社、2002。谷口『画像処理工学』共立出版、1996。鳥脇『パターン認識と画像処理』朝倉書店、1997。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を活かした実践的な教育について】 大学教員になる前にIT業界で情報システムの開発に従事していた。特にコンピュータ配電自動化システムの開発プロジェクトに参加し、機能設計、プログラム設計、試験設計等に加え、プログラム作成や現地試験にも参加した。教員になってからも幾度も企業との共同研究開発を長年にわたって行った。そういった実務経験を授業に活かすためには、画像処理理論のみならずその実応用における活用現状、あり方、利用拡大の可能性等についても言及し、多くの実例や例題を通して学生の興味や自ら考える・学ぶ姿勢を引き出しながら授業内容への理解の深化を図ることにしている。		
授業計画	準備学習		
第1回	①授業計画の説明、②序論：人と計算機はどう違うか？なぜ人の情報処理を解明する必要があるか？	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと	
第2回	脳における情報処理：①大脳皮質における情報処理、②神経細胞の構造・機能、③神経インパルスの発生と伝達	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと	
第3回	①視覚情報処理の流れ、②網膜における情報処理、③受光細胞、④双極細胞、⑤神経細胞、	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと	
第4回	①デジタル画像処理の歴史、②デジタル画像処理の応用分野、③デジタル画像処理の基本課題	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと	

第5回	デジタル画像の基礎（1）： ①デジタル画像の生成（空間サンプリング、量子化）、②画像の空間解像度、③輝度分解能	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第6回	デジタル画像の基礎（2）： ①色彩の基本、②3原色原理、③カラー画像	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第7回	画像の基本処理（1）： ①画像の拡大・縮小、②画像の回転、③画像の濃度変換	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第8回	画像の基本処理（2）： ①空間フィルタリング手法、②平滑化フィルタ、③特徴抽出フィルタ、④鮮鋭化フィルタ	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第9回	静止画の圧縮： ①情報保存型圧縮（Huffman coding, ARによるPredictive coding）、②情報非保存型圧縮（直交変換2-D DCTなどを用いた圧縮、ベクトル量子化による圧縮（Vector quantization (VQ)）	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第10回	動画の圧縮： 動きベクトルの検出（Motion estimation）による圧縮	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第11回	画像処理演習（Matlab使用）準備： ①Matlabのコマンド、②Matlabプログラム形式、③Matlabでの画像読み込みと書き込み	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第12回	画像処理演習（1）： デジタル画像の拡大・縮小（プログラム作成と処理画像による確認）	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第13回	画像処理演習（2）： デジタル画像のフィルタリング（エッジ検出プログラムの作成とエッジ画像による確認）	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第14回	画像処理演習（3）： 静止画の圧縮（2-D DCTを用いた圧縮と画質の確認）	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第15回	①（時間があれば）顔画像による個人識別の技術、②授業統括（予備日）	ノートや参考書などを読んで講義内容を復習し、期末試験または最終レポート作成に向けて勉強すること。
第16回	期末試験か、最終レポート提出。	ノートや参考書などを読んで講義内容を復習し、期末試験または最終レポート作成に向けて勉強すること。
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2022/05/30(月)11:56

授業科目名	キャリアビジョン（デベロップメント）3年生以上対象（集中講義）		
担当教員氏名	原田 淳		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	特に時間帯を定めない（事前にメールか電話で連絡し面談の予約をすること）。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	Zoomミーティングによるオンライン形式で実施する予定。授業日程に従って、講義形式と演習形式の授業を併用して進める。毎回の授業毎に受講レポートに要約、演習や実習による気づきを記すことを求める。		
単位数（時間数）	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科3年生以上対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア形成, ストレスマネジメント, マインドフルネス		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目の目標は、自分自身のキャリアを形成するうえで必要不可欠となる適切にストレスをコントロールする方法について理解することである。そして、心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を実習することにより、自分自身の身体感覚や呼吸に集中し、意識を“いま、ここ”に向けるマインドフルネスを習得する。		
授業の内容	心理・社会的なストレスの特徴について解説し、ストレスマネジメントの方向性について示す。対処法のひとつとして、心身相関的アプローチによる実践的なストレスマネジメントの技法を紹介する。また、ストレスとなる事象に直面したときに生じる心の動きについて説明し、過去の体験の振り返りをすることにより望ましい認知のあり方について考える。加えて、学内の教員が仕事におけるストレスとの向き合い方について講話する。		
成績評価の方法	講義中の演習50%、レポート課題20%、期末レポート30%で評価する。		
テキスト	テキスト（教科書）は特に指定しない。		
参考文献	参考文献は授業の進行に応じて適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	演習はグループワークを行うため（Zoomミーティングの際はブレイクアウトルームを用いる）、積極的な参加姿勢をもつことを期待する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 企業に勤務経験のある教員が、その経験をふまえて、社会や職場で必要となるストレスのコントロールについて解説する。		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション ・現代社会とストレス ・ストレスマネジメントの必要性 ・実習（呼吸を整える）		
第2回	ストレスとストレス反応 ・ストレスが身体におよぼす影響 ・ストレスが心におよぼす影響 ・ストレスが行動におよぼす影響 ・実習（微細な動きを意識する）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第3回	心理・社会的ストレスの特徴 ・心理・社会的ストレスのしくみ ・心理・社会的ストレスのパターン ・実習（ブリージング・エクササイズ）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第4回	瞑想的運動法 ・実習（ブリージングエクササイズ、アイソメトリック運動）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第5回	ストレスマネジメントの方向性 ・安定した心とは	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第6回	好き・嫌いの感情を克服する ・好き・嫌いが生じるしくみ ・『人間万事塞翁が馬』	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第7回	呼吸の意識化、呼吸法 ・実習（呼吸の意識化、呼吸法）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	

第8回	レジリエンス ・レジリエンスとは ・演習（ライフラインチャート）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第9回	環境調整の方法 ・実習（セクショナルブリージング、完全呼吸法）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第10回	“いま、ここ”を生きる ・マインドフルネス	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第11回	瞑想法 ・実習（リラクゼーション反応、ヴィパッサナー瞑想）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第12回	不安への対処 ・実習（オープンモニタリング瞑想）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第13回	執着・こだわりからの解放 ・実習（呼吸法、瞑想法）	講話に関するレポートを作成する。
第14回	仕事とストレス ・東洋思想の教える仕事への取り組み方	講話に関するレポートを作成する。
第15回	まとめ ・実習（アイソメトリック運動、呼吸法、瞑想法） ・授業評価アンケート ・受講レポート提出に関する説明	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	インターンシップ (Q1・Q2火曜ペア)		
担当教員氏名	学科教員		
研究室の場所	広島キャンパス		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィシアワー	随時 (アポを取ってください)		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、週1回の授業を、主に講義形式及び演習形式で実施する。実習は原則として夏期休業中に2週間行う。学生は、事前学習、実習、事後学習の欠席・遅刻・早退は認められない。すべての授業への参加と2週間の実習が義務づけられる。		
単位数(時間数)	2.0	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科2・3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析, 進路選択, 就業体験, 職業選択, 職業適性, ビジネスマナー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、将来職業に就くために、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめようとする学生を対象にして、就業体験をさせる。本科目の目標は、履修学生に、多様な職場や職業に対する関心を持たせるとともに、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えさせることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とすることができる。本科目は、全学共通教育科目のキャリア科目の一つとして位置づけられている。		
授業の内容	企業、行政機関、福祉施設、各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、自己目標を明確にするグループ別発表・討論を行う。実習は原則として夏期休業期間中の1週間以上とする。 事後学習では、就業体験の発表を、グループ別発表・討論として行うとともに、学内外に公開する全体報告会としても実施する。さらに、実習報告書を作成し、提出させる。		
成績評価の方法	事前学習及び事後学習における課題、授業及び実習の出席、実習受入先の評価、実習報告書等を総合して評価する。課題等については第1回の授業において提示する。課題、報告書等の提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。		
テキスト	a. 教科書 なし		
参考文献	b. 参考文献 第1回の授業において印刷資料として提示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。 履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。正当な理由なく、履修の中途での放棄、事前学習、実習、事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。実習において必要となる費用は、原則として学生の個人負担とする。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では、企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては、実践的な研修を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回	受講ガイダンス①(授業概要の説明、注意事項の伝達)	これまで学んできたことをふまえて、自分の将来について考えて整理する。	
第2回	受講ガイダンス②(企業の選択など) a) 前年度履修生報告会 b) 企業の選択など	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の候補をいくつか決める。	
第3回	受講ガイダンス③: 外部講師講話(概要) 仕事をするとは、社会・会社で働く(役割を果たす)とはどういうことかを考え、インターンシップ生として社会に飛び込む“心構え”を持つ。 講師: ジョータツ株式会社 代表取締役社長 竹田和憲	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の候補をいくつか決める。	
第4回	受講ガイダンス④(一次マッチングにかかる学内申し込み状況の説明と学内調整)	前回の資料を振り返り、インターンシップにおける自己目標などをまとめる。	

第5回	プレゼンテーション講座① 講師：公益財団法人マツダ財団 事務局長 魚谷滋己	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の企業について調べる。
第6回	プレゼンテーション講座② 講師：公益財団法人マツダ財団 事務局長 魚谷滋己	前回の資料を振り返り、プレゼンテーションの課題に取り組む。
第7回	プレゼンテーション講座③ 講師：公益財団法人マツダ財団 事務局長 魚谷滋己	前回の資料を振り返り、プレゼンテーションの課題に取り組む。
第8回	ビジネスマナー講座① 講師：広島秘書学院 学院長 平野敏子	前回の資料を振り返り、プレゼンテーションの課題に取り組む。
第9回	ビジネスマナー講座② 講師：広島秘書学院 学院長 平野敏子	前回の資料を振り返り、ビジネスマナーの課題に取り組む。
第10回	社会人入門講座 講師：県立広島大学 特任教授 山根英幸	前回の資料を振り返り、ビジネスマナーの課題に取り組む。
第11回	ビジネスマナー講座③ 講師：広島秘書学院 学院長 平野敏子	前回の資料を振り返り、社会人としての心構えをまとめる。
第12回	受入先業種別グループ発表会・討論会（概要）事前に受入先の業界や企業の業務内容・課題等を調べ、目的意識を明確にすること。そのうえで、実習にかかる自己目標を設定すること。	前回の資料を振り返り、ビジネスマナーの課題に取り組む。インターンシップ先の企業について研究し、自己目標などをまとめる。
第13回	最終調整と諸注意の伝達（概要）注意事項の伝達、事故・トラブル等の発生等の対応と連絡体制、実習要項の最終確認（誓約書の作成、日報・報告書・礼状の作成、提出方法等の連絡）	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の企業について研究し、自己目標などをまとめる。
第14回	受入先業種別グループ報告会（在学生、教職員に公開）	受入先業種別グループ報告会に向けた準備を行う。
第15回	合同報告会	合同報告会に向けた準備を行う。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	ひろしま理解 (Q2)		
担当教員氏名	鈴木 康之 (代表)		
研究室の場所	広島キャンパス 1912研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィシアワー	研究室に在室中は基本的に対応可。事前にメール等で連絡することが望ましい。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面による講義形式の授業。広島キャンパス発信の遠隔授業。		
単位数 (時間数)	2.0		学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目			
キーワード	広島県、地域、歴史、文化、地理、産業、呉、尾道、世羅、大崎上島、宮島		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>全学共通教育科目の地域課題に位置づける選択科目である。</p> <p>地域への理解を深めるための導入に相当する科目として、最も身近な地域である広島県域を取り上げ、この地域を知解するための初歩的・基本的事項を学修する。</p> <p>具体的には、この地域に特徴的な歴史・文化・地理・産業などの基本的事項を多様な視点から学修することにより、地域の現状を立体的に理解する。これにより、地域課題を発見し、その解決に取り組むための基礎的知識を修得する。</p>		
授業の内容	専門分野の異なる3名の教員が、それぞれの研究分野から広島県域を理解するための方法を提示する。第1～5回を鈴木康之、第6～10回を和田崇、第11～15回を大知徳子が担当する。		
成績評価の方法	各教員がそれぞれ提示した課題に対するレポートを作成し、レポート3本の平均点によって、総合的に評価する。		
テキスト	授業時間に指示する。		
参考文献	岸田裕之 (編) 『広島県の歴史』 山川出版社 その他、授業時間に指示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を活かした実践的な教育について】 この科目では、教育委員会で文化財保護行政、博物館開設・経営の経験を有する教員が、地域の文化資源を理解し、活用する方策について指導する。		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンスーひろしまとはどのような場所？ー	広島県地域とは、どのような特徴をもつ場所なのか考えておく。	
第2回	ひろしまの歴史ー原始・古代ー	原始・古代の広島県地域のあゆみについて調べておく	
第3回	ひろしまの歴史ー中世ー	中世の広島県地域のあゆみについて調べておく。	
第4回	ひろしまの歴史ー近世ー	近世の広島県地域のあゆみについて調べておく。	
第5回	ひろしまの歴史ー近現代そして未来ー	近現代の広島県地域のあゆみについて調べるとともに、未来への展望について考えておく。	
第6回	水の都・広島	太田川沿いを歩いて感じたことをまとめておこう。	
第7回	海軍とカレーの街・呉	呉海軍カレーを食べて感じたことをまとめておこう。	
第8回	映画の街・尾道	大林監督について調べておこう。	
第9回	駅伝の町・世羅	世羅高校陸上競技部について調べておこう。	
第10回	レモンの島・大崎上島	ひろしま夢ばらざなどで瀬戸内レモン商品をチェックしておこう。	
第11回	厳島と宮島	宮島に関する情報を宮島観光協会等のHPで調べておきましょう。 宮島観光協会 https://www.miyajima.or.jp/	

第12回	厳島神社の宝物	厳島神社の文化財について調べておきましょう。
第13回	描かれた宮島	宮島を描いた作品について調べておきましょう。
第14回	厳島神社の絵馬	宮島VRツアーズを利用して豊国神社（千畳閣）の絵馬を見ておきましょう。 宮島VRツアーズ http://www.hiroshima-jp.com/vt/miyajima/
第15回	宮島の祭	宮島で執り行われる祭りの種類を調べておきましょう。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	地域情報発信論（前期集中）		
担当教員氏名	広谷大助, 藤井宣彰, 吉田倫子, 伊藤俊 他 (広島キャンパス主担当 広谷大助)		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業（状況によってはオンライン（リアルタイム）で実施） 前期集中講義（4日間。2022年8月29日（月）～9月1日（木）の予定） サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む		
単位数（時間数）	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	地域創生学科, 国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 2～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, デイバート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。 本科目は, 全学共通教育「広島と世界」（旧課程）, 「地域課題」（新課程）に位置づけられる。		
授業の内容	新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み, 課題を設定した上で, 現地へ出向いて取材し, 意見交換を経て記事をまとめるなど, 地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに, グループで課題解決への提案をまとめ, ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。		
成績評価の方法	課題レポート（50%） グループ討議, ポスター発表を含む, 授業への参加度（50%） なお, 単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする		
テキスト	事前に配付される新聞を用いる		
参考文献	適宜紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は, 掲示により確認すること。 また, 本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため, 4日間全ての出席が必須となる。よって, 1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。 なお, フィールドワークにかかる費用及び試験期間中の新聞購読代金は自己負担となる。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により, 取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回			
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			

第15回		
第16回		
授業計画	<p>授業の流れは概ね次のとおり（一部変更の可能性あり）</p> <p>事前課題：試読期間（7月下旬）に配付された新聞を読み，記事を選んで概要をまとめ，意見を述べる</p> <p>第1日：オリエンテーション，事前課題の確認，新聞の読み方 第2日：取材計画，写真撮影・取材実習（フィールドワーク） 第3日：グループ討議，記事風レポート作成・発表 第4日：ポスター制作，ポスター発表，振り返り討議</p> <p>期間中の課題：翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む</p> <p>事後課題：授業で学び得たことを踏まえて，新たな課題を発見し，レポートをまとめる</p>	
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	マーケティング概論 (Q3)		
担当教員氏名	粟島 浩二(Koji Awashima)		
研究室の場所	1 6 4 8 研究室		
連絡先電話番号	内線 9 8 3 6		
オフィリアワー	メールやTeamsのチャットにより適時		
E-mail/HP	awashima@pu-hiroshima.ac.jp		
授業の形式・方式	対面形式の授業になります。 授業の詳細につきましては、第1回目のイントロダクションで説明しますので、履修希望者は必ず出席してください。尚、理解度に応じてシラバスの一部を変更することがあります。UNIPAでの掲示を見落とさないようにしてください。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 地域創生学部地域創生学科(選択)
履修要件	地域創生学部地域創生学科1年生配当科目(学部学科共通科目)		
免許等指定科目			
キーワード	マーケティング・コンセプト, 顧客価値と顧客満足, 環境分析, マーケティング・マネジメント, 消費者心理, STP, ブランド戦略, サービス・マネジメント		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	マーケティングは、今日の企業の重要な活動として認知されています。しかし、一方でマーケティングが「リサーチ」や「広告・宣伝」に関する企業活動のことであるという誤解も散見されます。本講義では統合的マーケティングの本質を理論体系から理解するとともに、実際の企業活動としてのマーケティングが我々の生活と密接に関連していることを認識し、理解を深めてもらいたいと思います。経営学科では、経営系分野の初級編という位置づけです。2年生配当の流通システム論、3年生配当のマーケティング・リサーチ、商品・ブランド開発論と連動しています。		
授業の内容	モダン・マーケティング論の基礎を理解した上で、より実践的なマーケティング戦略の立案について事例をつかって解説します。基本的概念として、マーケティング・コンセプト、顧客価値と顧客満足、戦略計画、環境分析、消費者・購買者分析、競合分析、マーケティングのSTPとブランド戦略、コミュニケーション戦略、サービスなどを取り上げます。授業はテキストで整理してある理論の解説と身近な企業や商品によるケーススタディを組み合わせ理解を深めます。		
成績評価の方法	中間レポート30点、最終試験40点、毎時限「課題」を提出し、日常点30点とします。(合計100点満点) 成績評価は2/3以上の出席が条件です。最終試験は講義室で通常試験を実施します。(持ち込み不可) 出題の傾向や対策は講義中に適時指示を行ないますので、聞き逃さないようにしてください。尚、評価の基準については講義の開始時に詳細を説明いたします。また、毎時限の「課題」の未提出は欠席扱いとなります。		
テキスト	石井淳蔵、廣田章光、清水信年編著(2020)『1からのマーケティング第4版』硯学舎。		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>テキストは必ず『1からのマーケティング第4版』を用意してください。3版までの内容は全く異なります。授業の内容は、ほぼテキスト通りに進行しますので、あらかじめテキストを購入しておいてください。レポートは、授業内容に沿った事例を取り上げてまとめてもらいます。ネットからコピー&ペーストした安易なものは評価の対象となりません。レジュメは毎時配布します。試験やレポート対策として大事に保管してください。再発行はしません。</p> <p>【実戦経験を生かした実践的な教育について】 民間企業におけるマーケティング・マネジメントの実践経験のある教員が、その経験を生かして、豊富な事例からマーケティングの理論的フレームワークと活用を解説します。</p>		
授業計画	準備学習		
第1回	マーケティング発想の経営	テキストに目を通しておく	
第2回	マーケティング論の成り立ち	テキストに目を通しておく	
第3回	マーケティングの基本概念	「クラフトボス」の事例を理解しておく	
第4回	製品のマネジメント	日清「カレー飯」の事例を理解しておく	
第5回	価格のマネジメント	明治「ザ・チョコレート」の事例を理解しておく	

第6回	広告のマネジメント	P&G「ファブリーズ」の事例を理解しておく
第7回	チャンネルのマネジメント	資生堂「アネッサ」の事例を理解しておく
第8回	サプライチェーンのマネジメント	赤城乳業「ガリガリ君」の事例を理解しておく
第9回	営業のマネジメント	サントリーの営業の事例を理解しておく
第10回	顧客関係のマネジメント	「スノーピーク」の事例を理解しておく
第11回	ビジネスモデルのマネジメント	タニタの製品開発の事例を理解しておく
第12回	顧客理解のマネジメント	マツダ「CXシリーズ」の事例を理解しておく
第13回	ブランド構築のマネジメント	ネスレ「キットカット」の事例を理解しておく
第14回	ブランド組織のマネジメント	「コカ・コーラ」の事例を理解しておく
第15回	サービス・マーケティングのマネジメント マーケティング概論の総集編	・「TDRとUSJ」の事例を理解しておく ・ノートやレジュメの見直し、最終試験レポート対策
第16回		
授業計画		
シラバス備考	受講生の理解度や新型コロナの感染状況に応じてシラバスを変更する可能性があります。	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	基礎情報学入門 (Q4)		
担当教員氏名	小川 仁士		
研究室の場所	広島キャンパス 1548研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	質問等には随時対応する。 研究室へ来訪する場合は、メール等で事前に在室を確認すると良い。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	地域創生学部 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	デジタル, CPU, メモリ, OS, アルゴリズム, インターネット		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>本科目は、地域創生学部の学部学科共通科目に区分される科目である。</p> <p>情報学とは、情報によって世界に意味と秩序をもたらすとともに社会的価値を創造することを目的とし、情報の生成・探索・表現・蓄積・管理・認識・分析・変換・伝達に関わる原理と技術を探求する学問であると定義されている。情報学は裾野がとて広い学際的な学問分野であるため、情報学を学んでいく上で必要となるコンピュータ・プログラム・ネットワーク・情報システムに関する基礎知識の習得を目標とする。</p> <p>具体的には、以下のことができるようになることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの仕組みについて説明できる。 ・情報通信の仕組みについて説明できる。 ・情報システムの開発工程, セキュリティについて説明できる。 		
授業の内容	<p>情報一般の原理, コンピュータで処理される情報の原理, 情報を扱う機械および機構を設計し実現するための技術, 情報を扱う人間社会に関する理解, 社会において情報を扱うシステムを構築し活用するための技術・制度・組織について講義する。</p> <p>本講義では、特に情報学に初めて触れる人を対象に、基礎的事項を網羅的に解説する。具体的には、情報の概念およびコンピュータ上で情報がどのように表現され扱われているかについて、ハードウェアとソフトウェアの観点から講義する。また、情報システムの開発プロセス, ネットワークとセキュリティ, 情報システム運用におけるサービスマネジメントに関する基本事項についても講義する。</p>		
成績評価の方法	課題レポート50%, 定期試験50%の割合で評価する。		
テキスト	毎回資料を配布する。		
参考文献	井内善臣ほか 著 『情報科学の基礎 改訂版』 実教出版, 2010 その他, 必要に応じて紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	授業外での積極的な予習・復習に努めること。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 自動車部品メーカーの設計開発部門で勤務経験のある教員が、その経験を活かして、コンピュータ・プログラム・ネットワーク・情報システムなどに関する基礎知識について解説する。		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンス	情報学について調べておくこと。	
第2回	情報の概念 知識・情報・データ, アナログとデジタル, エントロピー	左記の事項について予習しておくこと。	
第3回	文字と数値の表現 符号化, 2進数, 補数, 浮動小数点	前回講義の課題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。	
第4回	論理回路 論理変数と論理演算, ド・モルガンの定理, 主加法標準形	前回講義の課題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。	
第5回	コンピュータの構成 CPU, アセンブラ, 主記憶, 補助記憶	前回講義の課題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。	
第6回	オペレーティングシステム プロセス管理, 記憶管理, ファイル管理, 入出力管理	前回講義の課題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。	
第7回	プログラムと開発言語 低水準言語と高水準言語, 手続き型プログラミング言	前回講義の課題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。	

	語	
第8回	アルゴリズム 順次処理, 選択処理, 繰り返し処理, フローチャート	前回講義の課題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第9回	システム開発プロセス 要件定義, 外部設計, 内部設計, システム開発モデル	前回講義の課題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第10回	データベース データモデル, 関係モデル, 正規化, 関係代数, SQL	前回講義の課題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第11回	コンピュータネットワーク クライアント・サーバ, LAN・WAN, 回線交換・パケット交換方式	前回講義の課題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第12回	インターネット TCP/IP, IPアドレス, MACアドレス, ルーティング, DNS, WWW	前回講義の課題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第13回	情報セキュリティと法制度 不正アクセス, マルウェア, 標的型攻撃, 暗号化, 個人情報保護	前回講義の課題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第14回	ITサービスマネジメント サービスデザイン, サービスオペレーション	前回講義の課題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第15回	まとめ	前回講義の課題に取組み復習しておくこと。
第16回	定期試験 第2回～第14回までの範囲から出題	第2回～第14回の講義で学んだ内容について復習しておくこと。
授業計画	希望があれば, WWLの科目等履修生向けの授業は火・木6限に設定する。 その場合, オンライン・リアルタイムで授業を行うので, 積極的に受講して欲しい。	
シラバス備考	授業の形式・方式についてはコロナウイルス感染症をめぐる社会情勢次第で変更する可能性がある。 変更する場合は, ポータル配信 (掲示登録) などで事前に通知する。	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	食品加工学 (Q3)		
担当教員氏名	谷本 昌太		
研究室の場所	広島キャンパス 1536研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィシアワー	特に定めていません。研究室に来て声をかけてみてください。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義形式で実施する。1回の講義(2時間)について、学生の自習4時間を想定した授業を行う。ワークシート・復習毎週コメントシート・レポートを課し、次週の授業開始時に提出させる。学生は、授業に出席し、上記課題を作成・提出すること、試験を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	健康科学コース 1年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	食品加工法, 食品の保存法, 加工食品の規格・表示		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	管理栄養士として必要となる食品加工の基礎的知識を身につけることを目的としている。また、本科目の目標は、下記の項目についてできることである。知識・技能の観点：(1)食品加工の目的について説明できる。(2)原料の食品加工特性や加工方法を説明できる。(3)食品の保存方法の原理について説明できる。(4)食品の規格・表示について説明できる。本科目は、健康科学コース科の専門科目・食の分野に区分されている。一方、管理栄養士養成施設のカリキュラムには、専門基礎分野の教育内容の一つとして「食べ物と健康」の規定があり、本科目は当該分野の主要な科目の一つとして位置づけられている。		
授業の内容	食品加工の目的、意義、原理、農産食品の加工、水畜産食品の加工、畜産食品の加工、油脂およびその加工品、発酵食品の製造、食品貯蔵の原理、包装、加工食品の表示・規格について解説する。		
成績評価の方法	期末試験(40%)、中間試験(40%)、ワークシート、コメントシート、レポート(20%)の結果に基づいて総合的に評価される。中間および期末試験は指定された試験日の授業時間(60分)内で実施する。		
テキスト	食品加工貯蔵学(新スタンダード栄養・食物シリーズ7) 東京化学同人 ISBN: 9784807916672 食品学-食品成分と機能性-第2版補訂 東京化学同人 ISBN: 9784807916061		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修者は、必ず予習・復習をして授業に臨むこと。授業に関する連絡は、正式には教学ポータルのお知らせ配信、教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。 【実務経験を活かした実践的な教育について】本授業は、公設の研究機関において、食品関係の中小企業を指導してきた教員がその経験を踏まえて、食品加工および保存の考え方について解説する。		
授業計画	準備学習		
第1回	授業のガイダンスをする。食品加工の目的、意義、原理について詳しく説明する。植物性食品の加工(p11-p15)について詳しく説明する。	テキストの該当する箇所の予習をし、あらかじめ配布したワークシートの穴埋めをして授業開始までに県立広島大学ポータルサイトの課題管理に提出する。授業後にわからないこと、授業の気づき、教科書の内容について復習しまとめたこと、さらに調べたことなどをコメントシート(Wordで500字以上、学籍番号、名前はヘッダーに)として提出する。尚、コメントシートにはサイエンスチャンネル THE MAKING http://sciencechannel.jst.go.jp/B980601/index.html の食品加工の番組を1つ以上視聴し、これについても記述する。コメントシートは、授業の行った次の週のまでに県立広島大学ポータルサイトの課題管理に提出する。授業中に穴埋めを行ったワークシートについても同様に提出する。ワークシートの提出は、プリントアウトしたワークシートに手書きで穴埋めを行いこれを写真に撮って提出も可とする。	

第2回	植物性食品の加工（p16-p26 2・2・2大豆の成分まで）について詳しく説明する。	テキストの該当する箇所の予習をし、あらかじめ配布したワークシートの穴埋めをして授業開始までに県立広島大学ポータルサイトの課題管理に提出する。授業後にわからないこと、授業の気づき、教科書の内容について復習しまとめたこと、さらに調べたことなどをコメントシート（Wordで500字以上、学籍番号、名前はヘッダーに）として提出する。尚、コメントシートにはサイエンスチャンネル THE MAKING http://sciencechannel.jst.go.jp/B980601/index.html の食品加工の番組を1つ以上視聴し、これについても記述する。コメントシートは、授業の行った次の週のまでに県立広島大学ポータルサイトの課題管理に提出する。授業中に穴埋めを行ったワークシートについても同様に提出する。ワークシートの提出は、プリントアウトしたワークシートに手書きで穴埋めを行いこれを写真に撮って提出も可とする。
第3回	植物性食品の加工（p26-p37）について詳しく説明する。	テキストの該当する箇所の予習をし、あらかじめ配布したワークシートの穴埋めをして授業開始までに県立広島大学ポータルサイトの課題管理に提出する。授業後にわからないこと、授業の気づき、教科書の内容について復習しまとめたこと、さらに調べたことなどをコメントシート（Wordで500字以上、学籍番号、名前はヘッダーに）として提出する。尚、コメントシートにはサイエンスチャンネル THE MAKING http://sciencechannel.jst.go.jp/B980601/index.html の食品加工の番組を1つ以上視聴し、これについても記述する。コメントシートは、授業の行った次の週のまでに県立広島大学ポータルサイトの課題管理に提出する。授業中に穴埋めを行ったワークシートについても同様に提出する。ワークシートの提出は、プリントアウトしたワークシートに手書きで穴埋めを行いこれを写真に撮って提出も可とする。
第4回	植物性食品の加工（p38-51）について詳しく説明する。	テキストの該当する箇所の予習をし、あらかじめ配布したワークシートの穴埋めをして授業開始までに県立広島大学ポータルサイトの課題管理に提出する。授業後にわからないこと、授業の気づき、教科書の内容について復習しまとめたこと、さらに調べたことなどをコメントシート（Wordで500字以上、学籍番号、名前はヘッダーに）として提出する。尚、コメントシートにはサイエンスチャンネル THE MAKING http://sciencechannel.jst.go.jp/B980601/index.html の食品加工の番組を1つ以上視聴し、これについても記述する。コメントシートは、授業の行った次の週のまでに県立広島大学ポータルサイトの課題管理に提出する。授業中に穴埋めを行ったワークシートについても同様に提出する。ワークシートの提出は、プリントアウトしたワークシートに手書きで穴埋めを行いこれを写真に撮って提出も可とする。
第5回	動物性食品の加工（p52-p64）について詳しく説明する。	テキストの該当する箇所の予習をし、あらかじめ配布したワークシートの穴埋めをして授業開始までに県立広島大学ポータルサイトの課題管理に提出する。授業後にわからないこと、授業の気づき、教科書の内容について復習しまとめたこと、さらに調べたことなどをコメントシート（Wordで500字以上、学籍番号、名前はヘッダーに）として提出する。尚、コメントシート

		にはサイエンス チャンネル THE MAKING http://sciencechannel.jst.go.jp/B980601/index.html の食品加工の番組を1つ以上視聴し、これについても記述する。コメントシートは、授業の行った次の週のまでに県立広島大学ポータルサイトの課題管理に提出する。授業中に穴埋めを行ったワークシートについても同様に提出する。ワークシートの提出は、プリントアウトしたワークシートに手書きで穴埋めを行いこれを写真に撮って提出も可とする。
第6回	動物性食品の加工 (p65-74) について詳しく説明する。	テキストの該当する箇所の予習をし、あらかじめ配布したワークシートの穴埋めをして授業開始までに県立広島大学ポータルサイトの課題管理に提出する。授業後にわからないこと、授業の気づき、教科書の内容について復習しまとめたこと、さらに調べたことなどをコメントシート (Wordで500字以上、学籍番号、名前はヘッダーに) として提出する。尚、コメントシートにはサイエンス チャンネル THE MAKING http://sciencechannel.jst.go.jp/B980601/index.html の食品加工の番組を1つ以上視聴し、これについても記述する。コメントシートは、授業の行った次の週のまでに県立広島大学ポータルサイトの課題管理に提出する。授業中に穴埋めを行ったワークシートについても同様に提出する。ワークシートの提出は、プリントアウトしたワークシートに手書きで穴埋めを行いこれを写真に撮って提出も可とする。
第7回	動物性食品の加工 (p75-85) について詳しく説明する。	テキストの該当する箇所の予習をし、あらかじめ配布したワークシートの穴埋めをして授業開始までに県立広島大学ポータルサイトの課題管理に提出する。授業後にわからないこと、授業の気づき、教科書の内容について復習しまとめたこと、さらに調べたことなどをコメントシート (Wordで500字以上、学籍番号、名前はヘッダーに) として提出する。尚、コメントシートにはサイエンス チャンネル THE MAKING http://sciencechannel.jst.go.jp/B980601/index.html の食品加工の番組を1つ以上視聴し、これについても記述する。コメントシートは、授業の行った次の週のまでに県立広島大学ポータルサイトの課題管理に提出する。授業中に穴埋めを行ったワークシートについても同様に提出する。ワークシートの提出は、プリントアウトしたワークシートに手書きで穴埋めを行いこれを写真に撮って提出も可とする。
第8回	中間試験。前半のまとめを行う。	テキストの該当する箇所の予習をし、あらかじめ配布したワークシートの穴埋めをして授業開始までに県立広島大学ポータルサイトの課題管理に提出する。授業後にわからないこと、授業の気づき、教科書の内容について復習しまとめたこと、さらに調べたことなどをコメントシート (Wordで500字以上、学籍番号、名前はヘッダーに) として提出する。尚、コメントシートにはサイエンス チャンネル THE MAKING http://sciencechannel.jst.go.jp/B980601/index.html の食品加工の番組を1つ以上視聴し、これについても記述する。コメントシートは、授業の行った次の週のまでに県立広島大学ポータルサイトの課題管理に提出する。授業中に穴埋めを行ったワークシートについても同様に提出する。ワークシートの提出は、プリントアウトしたワ

		ークシートに手書きで穴埋めを行いこれを写真に撮って提出も可とする。
第9回	油脂およびその加工品について詳しく説明する。	テキストの該当する箇所の予習をし、あらかじめ配布したワークシートの穴埋めをして授業開始までに県立広島大学ポータルサイトの課題管理に提出する。授業後にわからないこと、授業の気づき、教科書の内容について復習しまとめたこと、さらに調べたことなどをコメントシート（Wordで500字以上、学籍番号、名前はヘッダーに）として提出する。尚、コメントシートにはサイエンスチャンネル THE MAKING http://sciencechannel.jst.go.jp/B980601/index.html の食品加工の番組を1つ以上視聴し、これについても記述する。コメントシートは、授業の行った次の週のまでに県立広島大学ポータルサイトの課題管理に提出する。授業中に穴埋めを行ったワークシートについても同様に提出する。ワークシートの提出は、プリントアウトしたワークシートに手書きで穴埋めを行いこれを写真に撮って提出も可とする。
第10回	調味料、嗜好品について詳しく説明する。	テキストの該当する箇所の予習をし、あらかじめ配布したワークシートの穴埋めをして授業開始までに県立広島大学ポータルサイトの課題管理に提出する。授業後にわからないこと、授業の気づき、教科書の内容について復習しまとめたこと、さらに調べたことなどをコメントシート（Wordで500字以上、学籍番号、名前はヘッダーに）として提出する。尚、コメントシートにはサイエンスチャンネル THE MAKING http://sciencechannel.jst.go.jp/B980601/index.html の食品加工の番組を1つ以上視聴し、これについても記述する。コメントシートは、授業の行った次の週のまでに県立広島大学ポータルサイトの課題管理に提出する。授業中に穴埋めを行ったワークシートについても同様に提出する。ワークシートの提出は、プリントアウトしたワークシートに手書きで穴埋めを行いこれを写真に撮って提出も可とする。
第11回	貯蔵の劣化要因、貯蔵法各論（p 143 8・1・4 乾燥と食品成分の品質まで）について詳しく説明する。	テキストの該当する箇所の予習をし、あらかじめ配布したワークシートの穴埋めをして授業開始までに県立広島大学ポータルサイトの課題管理に提出する。授業後にわからないこと、授業の気づき、教科書の内容について復習しまとめたこと、さらに調べたことなどをコメントシート（Wordで500字以上、学籍番号、名前はヘッダーに）として提出する。尚、コメントシートにはサイエンスチャンネル THE MAKING http://sciencechannel.jst.go.jp/B980601/index.html の食品加工の番組を1つ以上視聴し、これについても記述する。コメントシートは、授業の行った次の週のまでに県立広島大学ポータルサイトの課題管理に提出する。授業中に穴埋めを行ったワークシートについても同様に提出する。ワークシートの提出は、プリントアウトしたワークシートに手書きで穴埋めを行いこれを写真に撮って提出も可とする。
第12回	貯蔵法各論（p 143-158）について詳しく説明する。	テキストの該当する箇所の予習をし、あらかじめ配布したワークシートの穴埋めをして授業開始までに県立広島大学ポータルサイトの課題管理に提出する。授業後にわからないこと、授業の気づき、教科書の内容について復習しまとめたこと、さらに調べたことなどをコメントシ

		ト（Wordで500字以上、学籍番号、名前はヘッダーに）として提出する。尚、コメントシートにはサイエンスチャンネル THE MAKING http://sciencechannel.jst.go.jp/B980601/index.html の食品加工の番組を1つ以上視聴し、これについても記述する。コメントシートは、授業の行った次の週のまでに県立広島大学ポータルサイトの課題管理に提出する。授業中に穴埋めを行ったワークシートについても同様に提出する。ワークシートの提出は、プリントアウトしたワークシートに手書きで穴埋めを行いこれを写真に撮って提出も可とする。
第13回	包装について詳しく説明する。	テキストの該当する箇所の予習をし、あらかじめ配布したワークシートの穴埋めをして授業開始までに県立広島大学ポータルサイトの課題管理に提出する。授業後にわからないこと、授業の気づき、教科書の内容について復習しまとめたこと、さらに調べたことなどをコメントシート（Wordで500字以上、学籍番号、名前はヘッダーに）として提出する。尚、コメントシートにはサイエンスチャンネル THE MAKING http://sciencechannel.jst.go.jp/B980601/index.html の食品加工の番組を1つ以上視聴し、これについても記述する。コメントシートは、授業の行った次の週のまでに県立広島大学ポータルサイトの課題管理に提出する。授業中に穴埋めを行ったワークシートについても同様に提出する。ワークシートの提出は、プリントアウトしたワークシートに手書きで穴埋めを行いこれを写真に撮って提出も可とする。
第14回	食品の表示と規格（p233-p245 16・5 栄養成分表示まで）について詳しく説明する。	テキストの該当する箇所の予習をし、あらかじめ配布したワークシートの穴埋めをして授業開始までに県立広島大学ポータルサイトの課題管理に提出する。授業後にわからないこと、授業の気づき、教科書の内容について復習しまとめたこと、さらに調べたことなどをコメントシート（Wordで500字以上、学籍番号、名前はヘッダーに）として提出する。尚、コメントシートにはサイエンスチャンネル THE MAKING http://sciencechannel.jst.go.jp/B980601/index.html の食品加工の番組を1つ以上視聴し、これについても記述する。コメントシートは、授業の行った次の週のまでに県立広島大学ポータルサイトの課題管理に提出する。授業中に穴埋めを行ったワークシートについても同様に提出する。ワークシートの提出は、プリントアウトしたワークシートに手書きで穴埋めを行いこれを写真に撮って提出も可とする。
第15回	食品の表示と規格（p245-p252）について詳しく説明する。	テキストの該当する箇所の予習をし、あらかじめ配布したワークシートの穴埋めをして授業開始までに県立広島大学ポータルサイトの課題管理に提出する。授業後にわからないこと、授業の気づき、教科書の内容について復習しまとめたこと、さらに調べたことなどをコメントシート（Wordで500字以上、学籍番号、名前はヘッダーに）として提出する。尚、コメントシートにはサイエンスチャンネル THE MAKING http://sciencechannel.jst.go.jp/B980601/index.html の食品加工の番組を1つ以上視聴し、これについても記述する。コメントシートは、授業の行った次の週のまでに県立広島大学ポータルサイトの課題管理に提出する。授業中に穴埋めを行

		ったワークシートについても同様に提出する。 ワークシートの提出は、プリントアウトしたワークシートに手書きで穴埋めを行いこれを写真に撮って提出も可とする。
第16回	期末試験。	しっかり勉強しておくこと。
授業計画		
シラバス備考	春休み期間中に希望者には工場見学を実施する。ワークシートは教学ポータルのお知らせ配信を通じてアップロードします。各自でダウンロード、プリントアウト等をしてください。	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2022/05/30(月)11:56

授業科目名	キャリアビジョン（デベロップメント）3年生以上対象（集中講義）		
担当教員氏名	原田 淳		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィシアワー	特に時間帯を定めない（事前にメールか電話で連絡し面談の予約をすること）。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	Zoomミーティングによるオンライン形式で実施する予定。授業日程に従って、講義形式と演習形式の授業を併用して進める。毎回の授業毎に受講レポートに要約、演習や実習による気づきを記すことを求める。		
単位数（時間数）	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科3年生以上対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア形成, ストレスマネジメント, マインドフルネス		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目の目標は、自分自身のキャリアを形成するうえで必要不可欠となる適切にストレスをコントロールする方法について理解することである。そして、心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を実習することにより、自分自身の身体感覚や呼吸に集中し、意識を“いま、ここ”に向けるマインドフルネスを習得する。		
授業の内容	心理・社会的なストレスの特徴について解説し、ストレスマネジメントの方向性について示す。対処法のひとつとして、心身相関的アプローチによる実践的なストレスマネジメントの技法を紹介する。また、ストレスとなる事象に直面したときに生じる心の動きについて説明し、過去の体験の振り返りをすることにより望ましい認知のあり方について考える。加えて、学内の教員が仕事におけるストレスとの向き合い方について講話する。		
成績評価の方法	講義中の演習50%、レポート課題20%、期末レポート30%で評価する。		
テキスト	テキスト（教科書）は特に指定しない。		
参考文献	参考文献は授業の進行に応じて適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	演習はグループワークを行うため（Zoomミーティングの際はブレイクアウトルームを用いる）、積極的な参加姿勢をもつことを期待する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 企業に勤務経験のある教員が、その経験をふまえて、社会や職場で必要となるストレスのコントロールについて解説する。		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション ・現代社会とストレス ・ストレスマネジメントの必要性 ・実習（呼吸を整える）		
第2回	ストレスとストレス反応 ・ストレスが身体におよぼす影響 ・ストレスが心におよぼす影響 ・ストレスが行動におよぼす影響 ・実習（微細な動きを意識する）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第3回	心理・社会的ストレスの特徴 ・心理・社会的ストレスのしくみ ・心理・社会的ストレスのパターン ・実習（ブリージング・エクササイズ）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第4回	瞑想的運動法 ・実習（ブリージングエクササイズ、アイソメトリック運動）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第5回	ストレスマネジメントの方向性 ・安定した心とは	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第6回	好き・嫌いの感情を克服する ・好き・嫌いが生じるしくみ ・『人間万事塞翁が馬』	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第7回	呼吸の意識化、呼吸法 ・実習（呼吸の意識化、呼吸法）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	

第8回	レジリエンス ・レジリエンスとは ・演習（ライフラインチャート）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第9回	環境調整の方法 ・実習（セクショナルブリージング、完全呼吸法）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第10回	“いま、ここ”を生きる ・マインドフルネス	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第11回	瞑想法 ・実習（リラクゼーション反応、ヴィパッサナー瞑想）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第12回	不安への対処 ・実習（オープンモニタリング瞑想）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第13回	執着・こだわりからの解放 ・実習（呼吸法、瞑想法）	講話に関するレポートを作成する。
第14回	仕事とストレス ・東洋思想の教える仕事への取り組み方	講話に関するレポートを作成する。
第15回	まとめ ・実習（アイソメトリック運動、呼吸法、瞑想法） ・授業評価アンケート ・受講レポート提出に関する説明	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	インターンシップ		
担当教員氏名	学部教員, 原田 淳 (大学教育実践センター/キャリアセンター)		
研究室の場所			
連絡先電話番号			
オフィシアワー			
E-mail/HP			
授業の形式・方式	対面授業。通年集中講義。 事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、主に講義形式及び演習形式で実施する。実習は原則として夏期休業中に行う。学生は、原則として、事前学習、実習、事後学習の欠席・遅刻・早退は認められない。すべての授業への参加と実習が義務づけられる。		
単位数(時間数)	2.0	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	知己資源開発学科, 生命環境学科 2・3・4年次対象 生命科学科, 環境科学科 2・3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析, 就業体験, 職業選択, 職業適性, ビジネスマナー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、将来職業に就くために、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめようとする学生を対象にして、就業体験をさせる。 本科目の目標は、履修学生に、多様な職場や職業に対して関心を持たせるとともに、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えさせることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とすることができる。 本科目は、全学共通教育科目の一つとして位置づけられている。また、学生の進路選択を支援する大学の学生支援プログラムの一部を担うものである。		
授業の内容	企業、行政機関、福祉施設、各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。 事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、自己目標を明確にするグループ別発表・討論等を行う。実習は原則として夏期休業期間中の2週間程度とする。 事後学習では、就業体験の発表を、グループ別発表・討論として行うとともに、全体報告会としても実施する。さらに、実習報告書を作成し、提出させる。		
成績評価の方法	事前学習及び事後学習における課題遂行、実習受入先の評価、実習報告書等を総合して評価する。課題等については第1回の授業において提示する。課題、報告書等の提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。		
テキスト	必要に応じて配布する。		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。 授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。正当な理由なく、履修の中途での放棄、事前学習、実習、事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では、企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては、実践的な研修を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンス	シラバス・コースカタログを事前に目とあわせること	
第2回	応募手続き等の説明	ガイダンスの内容をよく理解すること	
第3回	応募手続きとビジネスマナー等事前学習	前回の復習および就業体験に関する情報を収集すること	
第4回	事前学習、グループワーク	就業体験先企業等の情報を得ておくこと	
第5回	就業体験	就業体験先企業等について理解をはかり、これまでの復習をしておくこと	
第6回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと	

第7回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第8回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第9回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第10回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第11回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第12回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第13回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第14回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第15回	事後学習および成果発表準備	就業体験時の記録をまとめておくこと
第16回	事後学習および成果発表	就業体験時の記録をまとめておくこと
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	ひろしま理解 (Q2)		
担当教員氏名	鈴木 康之 (代表)		
研究室の場所	広島キャンパス 1912研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィリアワー	研究室に在室中は基本的に対応可。事前にメール等で連絡することが望ましい。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面による講義形式の授業。広島キャンパス発信の遠隔授業。		
単位数 (時間数)	2.0		学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目			
キーワード	広島県、地域、歴史、文化、地理、産業、呉、尾道、世羅、大崎上島、宮島		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	全学共通教育科目の地域課題に位置づける選択科目である。 地域への理解を深めるための導入に相当する科目として、最も身近な地域である広島県域を取り上げ、この地域を知解するための初歩的・基本的事項を学修する。 具体的には、この地域に特徴的な歴史・文化・地理・産業などの基本的事項を多様な視点から学修することにより、地域の現状を立体的に理解する。これにより、地域課題を発見し、その解決に取り組むための基礎的知識を修得する。		
授業の内容	専門分野の異なる3名の教員が、それぞれの研究分野から広島県域を理解するための方法を提示する。第1～5回を鈴木康之、第6～10回を和田崇、第11～15回を大知徳子が担当する。		
成績評価の方法	各教員がそれぞれ提示した課題に対するレポートを作成し、レポート3本の平均点によって、総合的に評価する。		
テキスト	授業時間に指示する。		
参考文献	岸田裕之 (編) 『広島県の歴史』 山川出版社 その他、授業時間に指示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を活かした実践的な教育について】 この科目では、教育委員会で文化財保護行政、博物館開設・経営の経験を有する教員が、地域の文化資源を理解し、活用する方策について指導する。		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンスーひろしまとはどのような場所？ー	広島県地域とは、どのような特徴をもつ場所なのか考えておく。	
第2回	ひろしまの歴史ー原始・古代ー	原始・古代の広島県地域のあゆみについて調べておく	
第3回	ひろしまの歴史ー中世ー	中世の広島県地域のあゆみについて調べておく。	
第4回	ひろしまの歴史ー近世ー	近世の広島県地域のあゆみについて調べておく。	
第5回	ひろしまの歴史ー近現代そして未来ー	近現代の広島県地域のあゆみについて調べるとともに、未来への展望について考えておく。	
第6回	水の都・広島	太田川沿いを歩いて感じたことをまとめておこう。	
第7回	海軍とカレーの街・呉	呉海軍カレーを食べて感じたことをまとめておこう。	
第8回	映画の街・尾道	大林監督について調べておこう。	
第9回	駅伝の町・世羅	世羅高校陸上競技部について調べておこう。	
第10回	レモンの島・大崎上島	ひろしま夢ばらざなどで瀬戸内レモン商品をチェックしておこう。	
第11回	厳島と宮島	宮島に関する情報を宮島観光協会等のHPで調べておきましょう。 宮島観光協会 https://www.miyajima.or.jp/	

第12回	厳島神社の宝物	厳島神社の文化財について調べておきましょう。
第13回	描かれた宮島	宮島を描いた作品について調べておきましょう。
第14回	厳島神社の絵馬	宮島VRツアーズを利用して豊国神社（千畳閣）の絵馬を見ておきましょう。 宮島VRツアーズ http://www.hiroshima-jp.com/vt/miyajima/
第15回	宮島の祭	宮島で執り行われる祭りの種類を調べておきましょう。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	地域情報発信論（前期集中）		
担当教員氏名	広谷大助, 藤井宣彰, 吉田倫子, 伊藤俊 他 (広島キャンパス主担当 広谷大助)		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業（状況によってはオンライン（リアルタイム）で実施） 前期集中講義（4日間。2022年8月29日（月）～9月1日（木）の予定） サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む		
単位数（時間数）	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	地域創生学科, 国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 2～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, デバート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。 本科目は, 全学共通教育「広島と世界」(旧課程), 「地域課題」(新課程)に位置づけられる。		
授業の内容	新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み, 課題を設定した上で, 現地へ向かって取材し, 意見交換を経て記事をまとめるなど, 地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに, グループで課題解決への提案をまとめ, ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。		
成績評価の方法	課題レポート(50%) グループ討議, ポスター発表を含む, 授業への参加度(50%) なお, 単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする		
テキスト	事前に配付される新聞を用いる		
参考文献	適宜紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は, 掲示により確認すること。 また, 本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため, 4日間全ての出席が必須となる。よって, 1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。 なお, フィールドワークにかかる費用及び試験期間中の新聞購読代金は自己負担となる。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により, 取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回			
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			

第15回	
第16回	
授業計画	<p>授業の流れは概ね次のとおり（一部変更の可能性あり）</p> <p>事前課題：試読期間（7月下旬）に配付された新聞を読み，記事を選んで概要をまとめ，意見を述べる</p> <p>第1日：オリエンテーション，事前課題の確認，新聞の読み方 第2日：取材計画，写真撮影・取材実習（フィールドワーク） 第3日：グループ討議，記事風レポート作成・発表 第4日：ポスター制作，ポスター発表，振り返り討議</p> <p>期間中の課題：翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む</p> <p>事後課題：授業で学び得たことを踏まえて，新たな課題を発見し，レポートをまとめる</p>
シラバス備考	
URLリンク1	
URLリンク2	
URLリンク3	

授業科目名	フィールド科学 Q3		
担当教員氏名	地域資源開発学科教員		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	<p>1回目から7回目は現在大講義室からの対面講義を予定している。期間限定でオンデマンド動画配信を行う場合は別途指示する。</p> <p>8回目は中間とりまとめと今後の取組み解説、9週目以降は対面授業およびTeams等を活用したディスカッションおよびグループワークを行い、最終的にグループ毎にプレゼンテーションを行う。</p> <p>実績として各回のFormsで収集した質問や提案を、講義後半で教材に活用して議論を深めると共に、庄原市役所をはじめとした外部講師の方々に「学生の声」として実際にフィードバックする仕組みを整備している。したがって各回を真剣に考えた積極的な回答が望まれる。</p>		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 学生便覧参照
履修要件	<p>地域資源開発学科(必修), 生命環境学科(選択) 1年次対象</p> <p>* 本科目は, 3, 4年次配当の地域課題解決型研究における生物資源科学部独自の履修要件として調整される予定である。</p>		
免許等指定科目			
キーワード	フィールド, 中山間地域, 地域振興, 地域資源, 地域自然, 食文化, 環境保全, 6次産業		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>専門教育科目の学科基礎(その他)であり, 入門的内容である。</p> <p>フィールド科学実習 I および II と共に地域社会の課題を学修することができる。</p> <p>授業の目標</p> <p>1.地域(特に備北地域)の行政, 自然, 文化, 産業等についての概要を説明できる。</p> <p>2.自らの得た知識を生かして地域課題解決のアイデアを提案できる。</p>		
授業の内容	別途掲示等で指示する。		
成績評価の方法	<p>原則として第1週から4週目(1-8回目)の講義に関しては, 毎回Formsで地域課題に対する考察を提出する(60%)。後半9回目以降は提出済みの考察から地域課題の解決方法をグループ毎に調査・KJ法等を活用して取りまとめ、プレゼンテーションで提案する(40%)。</p> <p>詳細は別途指示する。</p>		
テキスト	教科書は定めない。配信される動画等は本講義の学修のみに活用し, コピーや二次加工, 転送などはしないこと。		
参考文献	講義の中で随時紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>日頃より地域の自然に親しみ, 地域の文化や社会状況に関心を持つこと。</p> <p>地域との交流事業などに積極的に参加し, 地域理解に努めること。</p> <p>講義には積極的に参加すること。1, 2限連続した講義となるため, 出席には十分留意すること。</p> <p>地域資源開発学科の学生は, 本講義の単位修得が必須である。</p> <p>種々のアナウンスおよびレポート提出はWeb上で行うため, 配信されるメール連絡や掲示は必ず確認すること。</p> <p>【実務経験を活かした実践的な教育について】</p> <p>地域課題の解決にかかる研究を実施している本学の教員, または, 関連する地域の専門家, 行政担当者等を外部講師として講義を行う。また, 実際に地域の課題に対して解決手段を調査・考察・発表することにより, 地域課題解決の実践力をつけるための基礎を指導する。</p>		
授業計画			準備学習
第1回	ガイダンス(講義取りまとめ代表教員) 庄原市 全体について(外部講師1)		シラバス, コースカタログを熟読し, どういう科目なのかを理解して初回に臨むこと。

	1週目 1限	
第2回	庄原市 行政について（外部講師2） 1週目 2限 【対面】	ホームページで、庄原市についてみておくこと。
第3回	庄原市の産業に関する内容（外部講師3） 2週目 1限	庄原市の産業に関わること（商工会議所、他）、インターネットなどで調べてくること。
第4回	庄原市の産学官等の活動内容の紹介（外部講師4） 2週目 2限	産官学連携やスマート農業、6次産業等について調べてくること。
第5回	庄原（備北地域）の活性化に関する内容（外部講師5） 3週目 1限	地域活性化対策の例について調べてくること。
第6回	庄原（備北地域）の観光や自然環境に関する内容（外部講師6） 3週目 2限	庄原市観光協会や自然について調べてくること。
第7回	庄原（備北地域）に関する内容。OB/OG地方での起業（外部講師7） 4週目 1限	これまでの講義を参考に庄原（備北地域）について調べてくること。特に6回目の内容も考慮すること。別途指示する。
第8回	中間とりまとめおよび今後の説明（講義取りまとめ代表教員） 4週目 2限	これまでFormsで回答した全員分の質問や考察をフィードバックするので、これらを集計、取りまとめる。
第9回	実践実習（グループワーク1） 5週目 1限	これまでFormsで回答した全員分の質問や考察をフィードバックするので、これらを集計、取りまとめる。
第10回	実践実習（グループワーク2） 5週目 2限	これまでFormsで回答した全員分の質問や考察をフィードバックするので、これらを集計、取りまとめる。
第11回	実践実習（グループワーク3） 6週目 1限	グループ毎にプレゼンテーションを取りまとめて評価を行う。
第12回	実践実習（グループワーク4） 6週目 2限	グループ毎にプレゼンテーションを取りまとめて評価を行う。
第13回	フィールド実践実習（プレゼン発表） 7週目 1限 【対面】	各班で設定した地域課題に対して、その解決方法を提案するプレゼンテーションを行う。
第14回	フィールド実践実習（プレゼン発表） 7週目 2限 【対面】	各班で設定した地域課題に対して、その解決方法を提案するプレゼンテーションを行う。
第15回	フィールド科学の総まとめ 8週目 1限 【対面】	フィールド科学の講義内容を振り返ると共に、今後の地域課題解決型研究などについて考察する。
第16回		
授業計画		
シラバス備考	本講義は外部講師によるオムニバス形式を主としたものであるため、講師の人选や講義の詳細な内容、については、上記の授業計画から変更となる場合がある。 詳細は事前の掲示および1回目のガイダンスで説明するので、必ず出席すること。	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	フィールド科学実習Ⅱ		
担当教員氏名	地域資源開発学科教員		
研究室の場所			
連絡先電話番号			
オフィスアワー			
E-mail/HP			
授業の形式・方式	対面		
単位数(時間数)	3.0		学科または専攻毎の必修・選択の別 地域資源開発学科・必修
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目			
キーワード	フィールド, 地域資源, 地域産業, 6次産業, 栽培, 食品, マネジメント, イベント		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>本科目の目標は、「連携を通して、実践的な能力を身につける」ことである。</p> <p>本科目では、フィールド科学実習Ⅰを履修し、農業や食品加工、環境分析などを学んだ上に位置している。なお、カリキュラムでは学科専門基礎科目に位置し、今後の専門的な知識を身につけるための基盤になる。</p>		
授業の内容	<p>実習形式。</p> <p>地域の団体と連携を図りながら、地域課題の解決やイベントなどの企画・実行を実践的に学ぶ。</p> <p>それぞれの連携先とスケジュールを調整しながら通年で行う。</p> <p>最終的に、プレゼンテーションを行い、成果を発表する。</p>		
成績評価の方法	連携先への聞き取りやプレゼンテーションで評価する。		
テキスト	特になし。複写資料教材を授業時に無料で配布する場合がある。		
参考文献	特になし。複写資料教材を授業時に無料で配布する場合がある。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。学外との連携をするため、大学生としての節度をもって行動すること。		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション 連携テーマを説明する。 実習班や連携先を決定する。		県北地域の地理や産業について調べておくこと。
第2回	集合場所：各連携先等 担当：各教員 専門性の高い実習。各連携先や各教員の指示に従う。ただし、複数で指導する場合がある。		連携先と協議し、準備すること。
第3回	集合場所：各連携先等 担当：各教員 専門性の高い実習。各連携先や各教員の指示に従う。ただし、複数で指導する場合がある。		連携先と協議し、準備すること。
第4回	集合場所：各連携先等 担当：各教員 専門性の高い実習。各連携先や各教員の指示に従う。ただし、複数で指導する場合がある。		連携先と協議し、準備すること。
第5回	集合場所：各連携先等 担当：各教員 専門性の高い実習。各連携先や各教員の指示に従う。ただし、複数で指導する場合がある。		連携先と協議し、準備すること。
第6回	集合場所：各連携先等 担当：各教員 専門性の高い実習。各連携先や各教員の指示に従う。ただし、複数で指導する場合がある。		連携先と協議し、準備すること。
第7回	集合場所：各連携先等 担当：各教員 専門性の高い実習。各連携先や各教員の指示に従う。ただし、複数で指導する場合がある。		連携先と協議し、準備すること。

第8回	<p>集合場所：各連携先等 担当：各教員 専門性の高い実習。各連携先や各教員の指示に従う。ただし、複数で指導する場合がある。</p>	<p>連携先と協議し、準備すること。</p>
第9回	<p>集合場所：各連携先等 担当：各教員 専門性の高い実習。各連携先や各教員の指示に従う。ただし、複数で指導する場合がある。</p>	<p>連携先と協議し、準備すること。</p>
第10回	<p>集合場所：各連携先等 担当：各教員 専門性の高い実習。各連携先や各教員の指示に従う。ただし、複数で指導する場合がある。</p>	<p>連携先と協議し、準備すること。</p>
第11回	<p>集合場所：各連携先等 担当：各教員 専門性の高い実習。各連携先や各教員の指示に従う。ただし、複数で指導する場合がある。</p>	<p>連携先と協議し、準備すること。</p>
第12回	<p>集合場所：各連携先等 担当：各教員 専門性の高い実習。各連携先や各教員の指示に従う。ただし、複数で指導する場合がある。</p>	<p>連携先と協議し、準備すること。</p>
第13回	<p>集合場所：各連携先等 担当：各教員 専門性の高い実習。各連携先や各教員の指示に従う。ただし、複数で指導する場合がある。</p>	<p>連携先と協議し、準備すること。</p>
第14回	<p>集合場所：各連携先等 担当：各教員 専門性の高い実習。各連携先や各教員の指示に従う。ただし、複数で指導する場合がある。</p>	<p>連携先と協議し、準備すること。</p>
第15回	<p>プレゼンテーション 成果を報告する。</p>	<p>プレゼンテーション資料を作成すること。</p>
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2022/05/30(月)11:56

授業科目名	キャリアビジョン（デベロップメント）3年生以上対象（集中講義）		
担当教員氏名	原田 淳		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	特に時間帯を定めない（事前にメールか電話で連絡し面談の予約をすること）。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	Zoomミーティングによるオンライン形式で実施する予定。授業日程に従って、講義形式と演習形式の授業を併用して進める。毎回の授業毎に受講レポートに要約、演習や実習による気づきを記すことを求める。		
単位数（時間数）	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科3年生以上対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア形成, ストレスマネジメント, マインドフルネス		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目の目標は、自分自身のキャリアを形成するうえで必要不可欠となる適切にストレスをコントロールする方法について理解することである。そして、心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を実習することにより、自分自身の身体感覚や呼吸に集中し、意識を“いま、ここ”に向けるマインドフルネスを習得する。		
授業の内容	心理・社会的なストレスの特徴について解説し、ストレスマネジメントの方向性について示す。対処法のひとつとして、心身相関的アプローチによる実践的なストレスマネジメントの技法を紹介する。また、ストレスとなる事象に直面したときに生じる心の動きについて説明し、過去の体験の振り返りを行うことにより望ましい認知のあり方について考える。加えて、学内の教員が仕事におけるストレスとの向き合い方について講話する。		
成績評価の方法	講義中の演習50%、レポート課題20%、期末レポート30%で評価する。		
テキスト	テキスト（教科書）は特に指定しない。		
参考文献	参考文献は授業の進行に応じて適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	演習はグループワークを行うため（Zoomミーティングの際はブレイクアウトルームを用いる）、積極的な参加姿勢をもつことを期待する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 企業に勤務経験のある教員が、その経験をふまえて、社会や職場で必要となるストレスのコントロールについて解説する。		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション ・現代社会とストレス ・ストレスマネジメントの必要性 ・実習（呼吸を整える）		
第2回	ストレスとストレス反応 ・ストレスが身体におよぼす影響 ・ストレスが心におよぼす影響 ・ストレスが行動におよぼす影響 ・実習（微細な動きを意識する）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第3回	心理・社会的ストレスの特徴 ・心理・社会的ストレスのしくみ ・心理・社会的ストレスのパターン ・実習（ブリージング・エクササイズ）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第4回	瞑想的運動法 ・実習（ブリージングエクササイズ、アイソメトリック運動）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第5回	ストレスマネジメントの方向性 ・安定した心とは	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第6回	好き・嫌いの感情を克服する ・好き・嫌いが生じるしくみ ・『人間万事塞翁が馬』	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第7回	呼吸の意識化、呼吸法 ・実習（呼吸の意識化、呼吸法）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	

第8回	レジリエンス ・レジリエンスとは ・演習（ライフラインチャート）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第9回	環境調整の方法 ・実習（セクショナルブリージング、完全呼吸法）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第10回	“いま、ここ”を生きる ・マインドフルネス	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第11回	瞑想法 ・実習（リラクゼーション反応、ヴィパッサナー瞑想）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第12回	不安への対処 ・実習（オープンモニタリング瞑想）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第13回	執着・こだわりからの解放 ・実習（呼吸法、瞑想法）	講話に関するレポートを作成する。
第14回	仕事とストレス ・東洋思想の教える仕事への取り組み方	講話に関するレポートを作成する。
第15回	まとめ ・実習（アイソメトリック運動、呼吸法、瞑想法） ・授業評価アンケート ・受講レポート提出に関する説明	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	インターンシップ		
担当教員氏名	学部教員, 原田 淳 (大学教育実践センター/キャリアセンター)		
研究室の場所			
連絡先電話番号			
オフィシアワー			
E-mail/HP			
授業の形式・方式	対面授業。通年集中講義。 事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、主に講義形式及び演習形式で実施する。実習は原則として夏期休業中に行う。学生は、原則として、事前学習、実習、事後学習の欠席・遅刻・早退は認められない。すべての授業への参加と実習が義務づけられる。		
単位数(時間数)	2.0	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	知己資源開発学科, 生命環境学科 2・3・4年次対象 生命科学科, 環境科学科 2・3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析, 就業体験, 職業選択, 職業適性, ビジネスマナー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、将来職業に就くために、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめようとする学生を対象にして、就業体験をさせる。 本科目の目標は、履修学生に、多様な職場や職業に対して関心を持たせるとともに、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えさせることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とすることができる。 本科目は、全学共通教育科目の一つとして位置づけられている。また、学生の進路選択を支援する大学の学生支援プログラムの一部を担うものである。		
授業の内容	企業、行政機関、福祉施設、各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。 事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、自己目標を明確にするグループ別発表・討論等を行う。実習は原則として夏期休業期間中の2週間程度とする。 事後学習では、就業体験の発表を、グループ別発表・討論として行うとともに、全体報告会としても実施する。さらに、実習報告書を作成し、提出させる。		
成績評価の方法	事前学習及び事後学習における課題遂行、実習受入先の評価、実習報告書等を総合して評価する。課題等については第1回の授業において提示する。課題、報告書等の提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。		
テキスト	必要に応じて配布する。		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。 授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。正当な理由なく、履修の途中で放棄、事前学習、実習、事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では、企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては、実践的な研修を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンス	シラバス・コースカタログを事前に目とあわせること	
第2回	応募手続き等の説明	ガイダンスの内容をよく理解すること	
第3回	応募手続きとビジネスマナー等事前学習	前回の復習および就業体験に関する情報を収集すること	
第4回	事前学習、グループワーク	就業体験先企業等の情報を得ておくこと	
第5回	就業体験	就業体験先企業等について理解をはかり、これまでの復習をしておくこと	
第6回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと	

第7回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第8回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第9回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第10回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第11回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第12回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第13回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第14回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第15回	事後学習および成果発表準備	就業体験時の記録をまとめておくこと
第16回	事後学習および成果発表	就業体験時の記録をまとめておくこと
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	ひろしま理解 (Q2)		
担当教員氏名	鈴木 康之 (代表)		
研究室の場所	広島キャンパス 1912研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィシアワー	研究室に在室中は基本的に対応可。事前にメール等で連絡することが望ましい。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面による講義形式の授業。広島キャンパス発信の遠隔授業。		
単位数 (時間数)	2.0		学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目			
キーワード	広島県、地域、歴史、文化、地理、産業、呉、尾道、世羅、大崎上島、宮島		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>全学共通教育科目の地域課題に位置づける選択科目である。</p> <p>地域への理解を深めるための導入に相当する科目として、最も身近な地域である広島県域を取り上げ、この地域を知解するための初歩的・基本的事項を学修する。</p> <p>具体的には、この地域に特徴的な歴史・文化・地理・産業などの基本的事項を多様な視点から学修することにより、地域の現状を立体的に理解する。これにより、地域課題を発見し、その解決に取り組むための基礎的知識を修得する。</p>		
授業の内容	専門分野の異なる3名の教員が、それぞれの研究分野から広島県域を理解するための方法を提示する。第1～5回を鈴木康之、第6～10回を和田崇、第11～15回を大知徳子が担当する。		
成績評価の方法	各教員がそれぞれ提示した課題に対するレポートを作成し、レポート3本の平均点によって、総合的に評価する。		
テキスト	授業時間に指示する。		
参考文献	岸田裕之 (編) 『広島県の歴史』 山川出版社 その他、授業時間に指示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を活かした実践的な教育について】 この科目では、教育委員会で文化財保護行政、博物館開設・経営の経験を有する教員が、地域の文化資源を理解し、活用する方策について指導する。		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンス—ひろしまとはどのような場所?—	広島県地域とは、どのような特徴をもつ場所なのか考えておく。	
第2回	ひろしまの歴史—原始・古代—	原始・古代の広島県地域のあゆみについて調べておく	
第3回	ひろしまの歴史—中世—	中世の広島県地域のあゆみについて調べておく。	
第4回	ひろしまの歴史—近世—	近世の広島県地域のあゆみについて調べておく。	
第5回	ひろしまの歴史—近現代そして未来—	近現代の広島県地域のあゆみについて調べるとともに、未来への展望について考えておく。	
第6回	水の都・広島	太田川沿いを歩いて感じたことをまとめておこう。	
第7回	海軍とカレーの街・呉	呉海軍カレーを食べて感じたことをまとめておこう。	
第8回	映画の街・尾道	大林監督について調べておこう。	
第9回	駅伝の町・世羅	世羅高校陸上競技部について調べておこう。	
第10回	レモンの島・大崎上島	ひろしま夢ばらざなどで瀬戸内レモン商品をチェックしておこう。	
第11回	厳島と宮島	宮島に関する情報を宮島観光協会等のHPで調べておきましょう。 宮島観光協会 https://www.miyajima.or.jp/	

第12回	厳島神社の宝物	厳島神社の文化財について調べておきましょう。
第13回	描かれた宮島	宮島を描いた作品について調べておきましょう。
第14回	厳島神社の絵馬	宮島VRツアーズを利用して豊国神社（千畳閣）の絵馬を見ておきましょう。 宮島VRツアーズ http://www.hiroshima-jp.com/vt/miyajima/
第15回	宮島の祭	宮島で執り行われる祭りの種類を調べておきましょう。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	地域情報発信論（前期集中）		
担当教員氏名	広谷大助, 藤井宣彰, 吉田倫子, 伊藤俊 他 (広島キャンパス主担当 広谷大助)		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業（状況によってはオンライン（リアルタイム）で実施） 前期集中講義（4日間。2022年8月29日（月）～9月1日（木）の予定） サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む		
単位数（時間数）	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	地域創生学科, 国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 2～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, デイバート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。 本科目は, 全学共通教育「広島と世界」（旧課程）, 「地域課題」（新課程）に位置づけられる。		
授業の内容	新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み, 課題を設定した上で, 現地へ出向いて取材し, 意見交換を経て記事をまとめるなど, 地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに, グループで課題解決への提案をまとめ, ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。		
成績評価の方法	課題レポート（50%） グループ討議, ポスター発表を含む, 授業への参加度（50%） なお, 単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする		
テキスト	事前に配付される新聞を用いる		
参考文献	適宜紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は, 掲示により確認すること。 また, 本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため, 4日間全ての出席が必須となる。よって, 1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。 なお, フィールドワークにかかる費用及び試験期間中の新聞購読代金は自己負担となる。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により, 取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回			
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			

第15回	
第16回	
授業計画	<p>授業の流れは概ね次のとおり（一部変更の可能性あり）</p> <p>事前課題：試読期間（7月下旬）に配付された新聞を読み，記事を選んで概要をまとめ，意見を述べる</p> <p>第1日：オリエンテーション，事前課題の確認，新聞の読み方 第2日：取材計画，写真撮影・取材実習（フィールドワーク） 第3日：グループ討議，記事風レポート作成・発表 第4日：ポスター制作，ポスター発表，振り返り討議</p> <p>期間中の課題：翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む</p> <p>事後課題：授業で学び得たことを踏まえて，新たな課題を発見し，レポートをまとめる</p>
シラバス備考	
URLリンク1	
URLリンク2	
URLリンク3	

授業科目名	フィールド科学 Q3		
担当教員氏名	地域資源開発学科教員		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	<p>1回目から7回目は現在大講義室からの対面講義を予定している。期間限定でオンデマンド動画配信を行う場合は別途指示する。</p> <p>8回目は中間とりまとめと今後の取組み解説、9週目以降は対面授業およびTeams等を活用したディスカッションおよびグループワークを行い、最終的にグループ毎にプレゼンテーションを行う。</p> <p>実績として各回のFormsで収集した質問や提案を、講義後半で教材に活用して議論を深めると共に、庄原市役所をはじめとした外部講師の方々に「学生の声」として実際にフィードバックする仕組みを整備している。したがって各回を真剣に考えた積極的な回答が望まれる。</p>		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 学生便覧参照
履修要件	<p>地域資源開発学科(必修), 生命環境学科(選択) 1年次対象</p> <p>* 本科目は, 3, 4年次配当の地域課題解決型研究における生物資源科学部独自の履修要件として調整される予定である。</p>		
免許等指定科目			
キーワード	フィールド, 中山間地域, 地域振興, 地域資源, 地域自然, 食文化, 環境保全, 6次産業		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>専門教育科目の学科基礎(その他)であり, 入門的内容である。</p> <p>フィールド科学実習 I および II と共に地域社会の課題を学修することができる。</p> <p>授業の目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域(特に備北地域)の行政, 自然, 文化, 産業等についての概要を説明できる。 2. 自らの得た知識を生かして地域課題解決のアイデアを提案できる。 		
授業の内容	別途掲示等で指示する。		
成績評価の方法	<p>原則として第1週から4週目(1-8回目)の講義に関しては, 毎回Formsで地域課題に対する考察を提出する(60%)。後半9回目以降は提出済みの考察から地域課題の解決方法をグループ毎に調査・KJ法等を活用して取りまとめ、プレゼンテーションで提案する(40%)。</p> <p>詳細は別途指示する。</p>		
テキスト	教科書は定めない。配信される動画等は本講義の学修のみに活用し, コピーや二次加工, 転送などはしないこと。		
参考文献	講義の中で随時紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>日頃より地域の自然に親しみ, 地域の文化や社会状況に関心を持つこと。</p> <p>地域との交流事業などに積極的に参加し, 地域理解に努めること。</p> <p>講義には積極的に参加すること。1, 2限連続した講義となるため, 出席には十分留意すること。</p> <p>地域資源開発学科の学生は, 本講義の単位修得が必須である。</p> <p>種々のアナウンスおよびレポート提出はWeb上で行うため, 配信されるメール連絡や掲示は必ず確認すること。</p> <p>【実務経験を活かした実践的な教育について】</p> <p>地域課題の解決にかかる研究を実施している本学の教員, または, 関連する地域の専門家, 行政担当者等を外部講師として講義を行う。また, 実際に地域の課題に対して解決手段を調査・考察・発表することにより, 地域課題解決の実践力をつけるための基礎を指導する。</p>		
授業計画			準備学習
第1回	ガイダンス(講義取りまとめ代表教員) 庄原市 全体について(外部講師1)		シラバス, コースカタログを熟読し, どういう科目なのかを理解して初回に臨むこと。

	1週目 1限	
第2回	庄原市 行政について（外部講師 2） 1週目 2限 【対面】	ホームページで、庄原市についてみておくこと。
第3回	庄原市の産業に関する内容（外部講師 3） 2週目 1限	庄原市の産業に関わること（商工会議所、他）、インターネットなどで調べてくること。
第4回	庄原市の産学官等の活動内容の紹介（外部講師 4） 2週目 2限	産官学連携やスマート農業、6次産業等について調べてくること。
第5回	庄原（備北地域）の活性化に関する内容（外部講師 5） 3週目 1限	地域活性化対策の例について調べてくること。
第6回	庄原（備北地域）の観光や自然環境に関する内容（外部講師 6） 3週目 2限	庄原市観光協会や自然について調べてくること。
第7回	庄原（備北地域）に関する内容。OB/OG地方での起業（外部講師7） 4週目 1限	これまでの講義を参考に庄原（備北地域）について調べてくること。特に6回目の内容も考慮すること。別途指示する。
第8回	中間とりまとめおよび今後の説明（講義取りまとめ代表教員） 4週目 2限	これまでFormsで回答した全員分の質問や考察をフィードバックするので、これらを集計、取りまとめる。
第9回	実践実習（グループワーク 1） 5週目 1限	これまでFormsで回答した全員分の質問や考察をフィードバックするので、これらを集計、取りまとめる。
第10回	実践実習（グループワーク 2） 5週目 2限	これまでFormsで回答した全員分の質問や考察をフィードバックするので、これらを集計、取りまとめる。
第11回	実践実習（グループワーク 3） 6週目 1限	グループ毎にプレゼンテーションを取りまとめて評価を行う。
第12回	実践実習（グループワーク 4） 6週目 2限	グループ毎にプレゼンテーションを取りまとめて評価を行う。
第13回	フィールド実践実習（プレゼン発表） 7週目 1限 【対面】	各班で設定した地域課題に対して、その解決方法を提案するプレゼンテーションを行う。
第14回	フィールド実践実習（プレゼン発表） 7週目 2限 【対面】	各班で設定した地域課題に対して、その解決方法を提案するプレゼンテーションを行う。
第15回	フィールド科学の総まとめ 8週目 1限 【対面】	フィールド科学の講義内容を振り返ると共に、今後の地域課題解決型研究などについて考察する。
第16回		
授業計画		
シラバス備考	本講義は外部講師によるオムニバス形式を主としたものであるため、講師の人选や講義の詳細な内容、については、上記の授業計画から変更となる場合がある。 詳細は事前の掲示および1回目のガイダンスで説明するので、必ず出席すること。	
URLリンク 1		
URLリンク 2		
URLリンク 3		

授業科目名	細胞・生体機能学 Q3 (2019以前生体機能学読替)		
担当教員氏名	齋藤 靖和, 長尾 則男		
研究室の場所	庄原キャンパス 齋藤 (3601) 長尾 (4504) 研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィシアワー	随時 (事前にメールで予約することが望ましい)		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	<p>対面授業</p> <p>ただし、新型コロナウイルスの流行状況によってオンライン等に移行する場合がある。授業形式の変更については、ポータル等でアナウンスするので、確認しておくこと。</p> <p>詳細は各担当者 (齋藤・長尾) のそれぞれの担当初回にて説明を行う (あるいは文書等で示す)。</p> <p>授業及び資料配布、レポートのやりとり等は必要に応じて、大学ポータルあるいはOffice365Teams等を介して行うことがある。</p>		
単位数 (時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択 (生命環境学科)
履修要件	生命環境学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	細胞, 組織, ホルモン, 成長, 代謝, 細胞情報伝達, 細胞死, 免疫, 疾患, 老化, ストレス, バイオテクノロジー, ゲノム, 遺伝子操作, 医療, 健康, 食品		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>(前半: 齋藤担当回)</p> <p>本科目は、3年半までに学んできた生命科学における基礎知識を基盤に、生命現象を分子レベルでより詳細に理解することを目的とする。ライフサイエンスに対する興味を広げ、より広く、深く学ぶことにより3年次以降のより高度かつ専門的な学習への橋渡しとなる科目として位置づけられる。本科目では、1.細胞の基本的性質とその役割, 2.生体機能と細胞の関係, 3.生体機能と疾患, 4.生体機能と老化などについて理解し、適切なキーワードを使いながら説明できることを到達目標とする。</p> <p>(後半: 長尾担当回)</p> <p>齋藤先生担当の前半で学ぶ生命現象、特に細胞について、それらを利用応用する技法技術について理解することを目的とする。前半で学ぶ理論や考え方とそれらを組み合わせるバイオ産業について理解を深めて、さらに問題解決能力も身につくように講義を進めていく。</p>		
授業の内容	<p>(前半: 齋藤担当 第1~8回)</p> <p>生体、特に細胞レベルでの基本的機能である細胞の増殖、運動、代謝、細胞死などを中心に、遺伝子、タンパク質レベルでの制御の仕組み、それら機能異常と疾患との関わりや、その制御による創薬への応用について学ぶ。より体系的な知識の習得や興味喚起を狙いとして、疾患や老化といった比較的身近で具体的な話題を例に挙げ、細胞生化学の面からその発症、進展背景についても解説する。なお、新しい話題も積極的に取り上げるため、授業計画が変更となる場合がある。</p> <p>(後半: 長尾担当 第9~15回, 16回目に長尾担当分の試験実施)</p> <p>細胞の仕組みを利用する技術について、キートピックとして、動物実験代替法、人工培養肉、抗体医薬、DIYバイオ等を取り上げる。なお、新しい話題も積極的に取り上げるため、授業計画が変更となる場合がある。</p>		
成績評価の方法	<p>授業での発表, レポート, テスト等で評価 (100%) する。</p> <p>評価の詳細については授業内で案内する。</p>		
テキスト	<p>必要な資料は、プリント配布する。参考図書は、講義中に紹介する。</p>		
参考文献	<p>参考文献は必要に応じて紹介する。</p>		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>(1)履修者は、授業記憶がフレッシュなうちに復習を充分に行なうと共に、主だった次回の授業内容の要点を把握して授業に臨むこと。特に、高等学校で生物を修得していない学生は、十分な予習・復習を行い、授業内容の理解に努めること。</p> <p>(2)授業に関する連絡は、教学課の掲示板に掲示するか、講義中に口頭あるいは文書あるいはポータル配信等で指示する。</p> <p>(3)講義中の携帯電話の取り扱い (メールを含む) を禁止する。他の受講生の迷惑行為 (私語等) がある場合には、退出を命じる。</p> <p>(4)レポート、試験等において、本学で規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則 (学則) に基づいて対応する。</p> <p>【実務経験を活かした実践的な教育について】</p> <p>企業研究所において医薬品等の研究開発経験を持つ教員が、生体機能のしくみの解明やその応用事例および世界の研究動向などを題材に、科学的なものの考え方や多面的なものの捉え方の重要性につい</p>		

	ても指導する（第1～15回）。
--	-----------------

授業計画		準備学習
第1回	履修の判断材料とするための情報を提供する。本授業の目標、カリキュラム上の位置づけ、授業内容と進め方、成績評価の方法などについて説明を行う。必要に応じて最近のトピックスを紹介する。 (齋藤靖和)	コースカタログ、シラバスで授業内容を理解しておく。
第2回	生命現象を支える臓器と栄養素わたしたちの体を構成しているいろいろな種類の細胞は、それぞれ集まって組織や臓器を形成している。そしてこれらが、互いに調和を保ちながら個体を形成している。まずはより広い視野で生命の営みについて理解するとともに細胞の素晴らしさについて考えてみる。 (齋藤靖和)	授業内容に関連する事前レポートを課すので、教員の指示に従うこと。提出レポートは評価対象となる。
第3回	細胞の種類や機能、互いの関わり合いについて学ぶとともに細胞が我々の体の中でどのような働きをしているのかを知り、我々の体の成長や健康、疾患との関わりを考えてみる。 (齋藤靖和)	授業内容に関連する事前レポートを課すので、教員の指示に従うこと。提出レポートは評価対象となる。
第4回	生体機能とホルモンの関係について学習し、それが我々の体の成長や健康、疾患にどのように関わっているのか考えてみる。 (齋藤靖和)	授業内容に関連する事前レポートを課すので、教員の指示に従うこと。提出レポートは評価対象となる。
第5回	生体機能と免疫の関係について学習し、それが我々の体の成長や健康、疾患にどのように関わっているのか考えてみる。 (齋藤靖和)	授業内容に関連する事前レポートを課すので、教員の指示に従うこと。提出レポートは評価対象となる。
第6回	健康とは何か、現代社会での健康問題の現状について学び、社会のしくみとの関連性について考えてみる。 (齋藤靖和)	授業内容に関連する事前レポートを課すので、教員の指示に従うこと。提出レポートは評価対象となる。
第7回	バイオメティクスについて学習し、それが我々の生活や健康、疾患にどのように関わっているのか、その可能性についても考えてみる。 (齋藤靖和)	授業内容に関連する事前レポートを課すので、教員の指示に従うこと。提出レポートは評価対象となる。
第8回	これまでのふりかえり (齋藤靖和) 第1～7回目までの学習内容について復習を行い、到達度を確認する。	ここまで学んだ内容についてよく復習しておくこと。
第9回	(長尾担当回1) ヒト由来細胞が培養しはじめた頃のエピソードを紹介し、細胞培養をめぐる倫理問題等について考える。	コースカタログ・シラバスで授業の概要を学習しておく。
第10回	(長尾担当回2) 細胞を調べる方法や技術について学ぶ。 関連レポート課題を課す。	前回の授業の復習と今回の授業内容について自分なりに調べる。
第11回	(長尾担当回3) 動物実験代替法について解説し、動物倫理について考える。	前回の授業の復習と今回の授業内容について自分なりに調べる。
第12回	(長尾担当回4) 多能性幹細胞の細胞工学 (ES細胞, iPS細胞, STAP細胞) について学び、再生医療、生命倫理、研究倫理について考える。	前回の授業の復習と今回の授業内容について自分なりに調べる。
第13回	(長尾担当回5) モノクローナル抗体、抗体医薬について学び、その可能性や問題点について考える。	前回の授業の復習と今回の授業内容について自分なりに調べる。
第14回	(長尾担当回6) 人工培養肉、DIYバイオについて解説する。	前回の授業の復習と今回の授業内容について自分なりに調べる。
第15回	(長尾担当回7) 学んだ内容について総括を行う。	これまで学んだことを見直すこと。
第16回	長尾担当分についての試験実施。	授業で分からなかった点は調べたり、質問した

りして不明点を解決しておくこと。
試験に備え、今までの復習を行うこと。

授業計画

シラバス備考

URLリンク1

URLリンク2

URLリンク3

授業科目名	高分子化学 Q1 (2019以前機能性物質化学読替)		
担当教員氏名	青柳 充		
研究室の場所	庄原キャンパス 4401研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィリアワー	随時対応。ただし、事前に必ず電子メールでアポイントメントを取ってください。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	<p>対面講義形式で実施します。</p> <p>(1) 授業内容に対する毎回の質問 (授業外学修/タイムラグディスカッション)</p> <p>(2) 小テスト課題</p> <p>(3) 最終試験により成績を判定します。</p> <p>一部、1回ほどレポート課題を課することがあります。</p> <p>COVID19の影響によりオンライン授業となる場合には以下のように対応を変更します。 授業日程に従い、pdf配布 (UNIPA) 資料に基づいてリアルタイムの講義をおこないます。 授業はTeamsを利用します。授業開始までにアナウンスします。 講義内容によっては、一部、オンデマンド方式を採用することがあります。</p>		
単位数 (時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	【26年度以降入学生】環境科学科 2年次対象		
免許等指定科目	中一種免 (理科), 高一種免 (理科), 食品衛生		
キーワード	高分子化合物, ポリマー, 樹脂, プラスチック, 立体構造, ゴム・ガラス, 熱的性質, ガラス転移点, 環境応答ポリマー, 環境適合ポリマー, 植物バイオマス, 天然由来高分子		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>高分子化学 (化学) の基本的かつ基礎的な内容を扱います。主に石油を原料とし、化学反応により合成される高分子化合物 (プラスチック) は20世紀から21世紀にかけて材料において革命をもたらしました。生産性が高く、自在に性能を制御し、清潔で軽量、安価で豊富な種類を誇り、現在の私たちの生活において不可欠な機能性の高い物質です。また天然の高分子であるセルロース (紙, 綿など), タンパク質なども不可欠な材料として用いられています。多くの高分子は「リサイクル」が可能ですが、実際には特定の高分子を除き様々な制約が存在します。そして一般に石油系高分子はリサイクルすると性能が低下するという課題があります。リサイクルのコストが製造コストを超える場合、埋め立て処分や焼却処分されています。その一部は河川や湖沼・海洋に漏出し、近年深刻な環境問題として注目されている「マイクロプラスチック」問題等を生み出しています。このように高分子という機能性物質は環境問題に深くかかわっています。本講義ではこの物質の化学的な解釈を行います。</p> <p>(A) 化学構造や分子の高次構造に基づいて機能を発揮する物質群に対する幅広い知識を獲得し整理できること。(B) 環境問題ともかかわりの深い「モノ」を構成する有機物である「プラスチック」や「生体構成物質」などの素材についての化学的知識を得ること。また、講義の目標は以下の4点です:</p> <p>(1) 高分子化合物の成り立ちや製造法, 使用状況を化学的に理解すること, (2) 高分子の種類と合成法, 性質との関係を科学的に理解できる, (3) 化学構造と物性のかかわりを理解する, (4) 高分子のリサイクルや資源循環の知識を整理すること。</p>		
授業の内容	<p>以下の内容を世界的な環境問題の一つになった「海洋プラスチック汚染」問題, 「マイクロプラスチック汚染」問題をプラスチック (高分子材料) のメリットや現在の状況と比較しながら, その原因や問題の本質などについて化学的に考えていきます。</p> <p>高分子材料は工学的・生化学的分野で器具・道具や研究対象として広く使用されている素材です。取り上げる高分子は現在, 社会で広く用いられている基本的かつ実用的なものです。教科書の流れに沿って, 基本トピックを講義します。講義では基本的な有機化学・物理化学の知識を確認しながら, 化学構造・集合状態・強度などの物性など特徴を理解できるように構成します。そして「どのようにして環境問題としてとらえる必要があるか」を考えることをゴールとしてすえます。</p> <p>高分子を含む化学は「暗記」の学問ではありません。何がどうなって, 目の前の現象が生じているのか? それほどのような原理に基づいているのか? それらを考えていきます。いくつかのデモンストレーションも講義の中で行います。人数に応じてアクティブラーニングの要素を加えた講義進行を実施します。教科書の指定範囲の精読は予習として必ず行ってください。読んできたものとして講義が進行します。</p> <p>専門外の学生も対象とした入門的な高分子物質・素材・材料に関する内容を講義します。講義の内容はシラバスを参考にしますが状況に応じて進捗を変更させます。</p>		
成績評価の方法	<p>「小テスト課題30%」+「質問票20%」+「最終試験50%」で評価する。</p> <p>レポートを課した場合, 最終試験を40%+レポート10%で配分する。</p>		

	<p>授業内容に対する質問（授業外学修／タイムラグディスカッション） オンラインの小テスト課題（Forms等） 最終課題（UNIPA提出）により成績を判定します。</p> <p>期末試験は指定された試験日に学則に従って実施します。 また、試験に関する不正行為は同様に学則に従い対応します。</p>
テキスト	【教科書】井上和人ほか著「基礎からわかる高分子材料」森北出版（2015）
参考文献	高分子「化学」について：北野博巳，功刀滋編「高分子の化学」三共出版(株)（2008） 高分子「科学」について：高分子学会編「基礎高分子科学」(株)東京化学同人（2006）
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修者は講義の前に指定された教科書該当箇所「精読」し，前回講義のキーワード・キーフレーズを振り返ったうえで講義に臨んでください。「目を通す」のではなく「読んで」来てください。講義外の学修としては予習は30分，復習30分，質問票を含めた「勉強」30分を推奨します。特に予習は有効です。

授業計画		準備学習
第1回	1. 高分子物質とは？（概論：考え方と「化学」との関係）+高分子化学／科学の歴史+普及の歴史（生活）身近な高分子化合物を見つける	シラバス・コースカタログを把握しておいてください。
第2回	2. 高分子化合物の合成法（1）線状高分子・連鎖重合／縮合重合	教科書指定範囲を精読すること／前回のキーワード・キーフレーズを振り返り受講すること
第3回	3. 高分子化合物の合成法（2）網目状高分子	教科書指定範囲を精読すること／前回のキーワード・キーフレーズを振り返り受講すること
第4回	4. 合成まとめ／進度調整回	教科書指定範囲を精読すること／前回のキーワード・キーフレーズを振り返り受講すること
第5回	5. 高分子化合物の性質と応用（1）（力学的性質／電気的性質）「○○だからここで使われている」	教科書指定範囲を精読すること／前回のキーワード・キーフレーズを振り返り受講すること
第6回	6. 高分子化合物の性質と応用（2）（熱的性質）「○○だからここでは使えない」	教科書指定範囲を精読すること／前回のキーワード・キーフレーズを振り返り受講すること
第7回	7. 高分子化合物の性質と応用（3）（様々な性質／溶解性・気体透過性など）「○○の性質を活用して」	教科書指定範囲を精読すること／前回のキーワード・キーフレーズを振り返り受講すること
第8回	8. 高分子化合物の表面の性質「物質と触れるところ」	教科書指定範囲を精読すること／前回のキーワード・キーフレーズを振り返り受講すること
第9回	9. 高分子の種類と用途（1）『プラスチック』としての利用	教科書指定範囲を精読すること／前回のキーワード・キーフレーズを振り返り受講すること
第10回	10. 高分子の種類と用途（2）ゴム・合成繊維・接着剤	教科書指定範囲を精読すること／前回のキーワード・キーフレーズを振り返り受講すること
第11回	11. 高分子の種類と用途（3）特殊用途（生体医療材料・高吸水性材料・分離膜）	教科書指定範囲を精読すること／前回のキーワード・キーフレーズを振り返り受講すること
第12回	12・天然高分子（1）生体高分子ほか	教科書指定範囲を精読すること／前回のキーワード・キーフレーズを振り返り受講すること
第13回	13. 天然高分子（2）セルロース・デンプン・リグニン	教科書指定範囲を精読すること／前回のキーワード・キーフレーズを振り返り受講すること
第14回	14. 高分子材料：成型加工・添加剤（高分子の材料特性の制御）	教科書指定範囲を精読すること／前回のキーワード・キーフレーズを振り返り受講すること
第15回	15. 進度調整：ふりかえり（高性能高分子材料の紹介）	これまでのキーワード・キーフレーズを振り返り受講すること
第16回		

授業計画	
シラバス備考	【実務経験を活かした実践的な教育について】 本講義の講師は高分子加工・プラスチックリサイクル・プラスチックの製品化に関する民間企業での7年間の実務経験を有する。これらの背景を踏まえて、知識・情報と実践のかかわりを含めて解説する。

URLリンク1	
URLリンク2	
URLリンク3	

授業科目名	水循環管理学 Q1 (2019以前水環境管理工学読替)		
担当教員氏名	西村 和之		
研究室の場所	庄原キャンパス 5503研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィシアワー	事前連絡の上で適宜実施。場所は担当教員研究室。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	<p>面接授業を主体とするが、状況によってはリアルタイム配信を取り入れたハイブリット型授業で講義する。</p> <p>授業日程に従って、配布資料を用いた講義形式で実施する。</p> <p>1回の講義は、授業時間と予備スライド等を活用した同等の自習時間を含めたものとする。</p> <p>毎回、ミニツツペーパーの提出を求め、また、必要に応じて課題レポートを課す。</p> <p>学生は、ミニツツペーパーの提出状況、必要に応じて課したレポートと期末試験の成績で評価される。</p> <p>なお、質問等は、ミニツツペーパーやE-mailで受け付ける。</p>		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	環境科学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	水環境, 水資源管理, 水質管理, 上水道, 下水道, 生活排水処理, 環境基準, 公害防止管理者(水質), 技術士補・士(衛生工学部門, 上下水道部門, 環境部門)		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>この科目では、水質管理と水資源管理について十分に学習していない学生を対象にして各種水処理技術や水資源管理等の基本的内容を講述する。</p> <p>本科目の目標は、履修学生に各種水処理技術や水資源確保の為の概念等の基礎的内容を理解させることである。これによって、水資源利用や水環境管理に関する専門的内容を理解するための素地を身に付けることができる。</p> <p>本科目は、環境科学科の専門科目・環境修復・保全学分野に区分される。</p>		
授業の内容	<p>水は生命活動に欠くことのできないものであり、水環境管理は、健全な水循環系を構築し、限りある水資源を確保する上で重要である。</p> <p>本講義では、水循環系の人工的な構成単位である上下排水処理システムの役割や水環境保全を担う各種単位プロセスについて最新の技術開発動向を踏まえて論述する。また、水環境の健全性を評価する手法や環境基準について講義する。</p>		
成績評価の方法	<p>成績評価は、単元に応じて課す課題(30%)ミニツツペーパーの提出状況(10%)と中間試験(60%)なお、学則に従って、講義日数の1/3を超える日数を欠席した者は、各試験の受験資格が失われる。</p> <p>授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示とポータル配信や授業時間内での連絡によって行う。</p>		
テキスト	<p>特に教科書は指定しない。</p> <p>複写資料教材を授業開始時に毎回、配布する。</p> <p>学内アカウントのOffice365等のweb領域に複写資料教材と予備スライドを閲覧可能な状態で配置する。</p> <p>なお、オンデマンド講義では、その都度ポータル配信や講義時間内で配信元の情報連絡する。</p>		
参考文献	<p>松尾友則編「水環境工学」オーム社出版局(1999) 丹保憲仁・丸山俊朗著「水文大循環と地域水代謝」(2003)</p> <p>北海道大学衛生工学科編「健康と環境の工学」技報堂出版(1996)</p>		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>公害防止管理者の資格取得を目指すのであれば受講を強く推奨する。</p> <p>本講義の内容には、環境水理学、環境工学、環境衛生学と分析化学系の講義が密接に関係している。</p> <p>また、講義内容の実際を理解する上で、水環境工学実験の受講を強く推奨する。</p> <p>授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示とポータル配信、学生に対する授業内での連絡によって行う。</p> <p>試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。</p> <p>不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。</p>		
授業計画	準備学習		
第1回	<p>本講義で扱う内容の説明を行う。</p> <p>講義概要は次の通りである。</p> <p>水資源の概要, 水文学, 水理学, 水環境の現状と課題</p>	<p>コースカタログやシラバスを熟読し、履修の有無を考えること</p>	
第2回	<p>水環境保全に関する工学的なアプローチの一つは「利</p>	<p>履修者には、Office365上のSharePointに作成す</p>	

	水」であることから、我が国の水環境衛生・保全施設に関する概要を説明する。 ここでは、我が国の水利用形態を概説すると共に上水処理施設の役割と上水処理施設計画について説明する。	る講義サイトに対するアクセスする権限を付与する。 予備スライドビデオ、同資料や講義資料は、SharePoint上で閲覧可能になる。 受講者には、教学課を通して講義ファイルを配布するので熟読して受講すること。
第3回	水の循環利用における上流側システムである上水道システムについて説明する。 特に取水と急速ろ過システムについて解説する。	履修者には、Office365上のSharePointに作成する講義サイトに対するアクセスする権限を付与する。 予備スライドビデオ、同資料や講義資料は、SharePoint上で閲覧可能になる。 受講者には、教学課を通して講義ファイルを配布するので熟読して受講すること。
第4回	引き続き凝集沈殿・急速ろ過システムについて説明する。	履修者には、Office365上のSharePointに作成する講義サイトに対するアクセスする権限を付与する。 予備スライドビデオ、同資料や講義資料は、SharePoint上で閲覧可能になる。 受講者には、教学課を通して講義ファイルを配布するので熟読して受講すること。
第5回	引き続き上水処理プロセスについて説明する。 ここでは、消毒処理プロセスについて解説する。	履修者には、Office365上のSharePointに作成する講義サイトに対するアクセスする権限を付与する。 予備スライドビデオ、同資料や講義資料は、SharePoint上で閲覧可能になる。 受講者には、教学課を通して講義ファイルを配布するので熟読して受講すること。
第6回	水の循環利用における下流側システムである生活排水処理システムについて説明する。 特にここでは、下水道システムの概要を解説する。	履修者には、Office365上のSharePointに作成する講義サイトに対するアクセスする権限を付与する。 予備スライドビデオ、同資料や講義資料は、SharePoint上で閲覧可能になる。 受講者には、教学課を通して講義ファイルを配布するので熟読して受講すること。
第7回	下水道及び生活排水処理計画について説明する。	履修者には、Office365上のSharePointに作成する講義サイトに対するアクセスする権限を付与する。 予備スライドビデオ、同資料や講義資料は、SharePoint上で閲覧可能になる。 受講者には、教学課を通して講義ファイルを配布するので熟読して受講すること。
第8回	下水及び生活排水処理システムの中の主要な処理プロセスである活性汚泥法について説明する。	履修者には、Office365上のSharePointに作成する講義サイトに対するアクセスする権限を付与する。 予備スライドビデオ、同資料や講義資料は、SharePoint上で閲覧可能になる。 受講者には、教学課を通して講義ファイルを配布するので熟読して受講すること。
第9回	下水及び生活排水処理システムの中の主要な処理プロセスである生物膜法について説明する。 生物処理プロセスの高度処理化として、生物学的脱窒素処理プロセスについて説明する。	履修者には、Office365上のSharePointに作成する講義サイトに対するアクセスする権限を付与する。 予備スライドビデオ、同資料や講義資料は、SharePoint上で閲覧可能になる。 受講者には、教学課を通して講義ファイルを配布するので熟読して受講すること。
第10回	生物処理プロセスの高度処理化として、生物学的脱りんプロセス及び膜分離型生物処理プロセスについて説明する。	履修者には、Office365上のSharePointに作成する講義サイトに対するアクセスする権限を付与する。 予備スライドビデオ、同資料や講義資料は、SharePoint上で閲覧可能になる。

		受講者には、教学課を通して講義ファイルを配布するので熟読して受講すること。
第11回	水の循環利用に置いて重要な、様々な処理プロセスの中で、これまでの講義で取り上げて来なかった処理技術について説明する。 具体的には、ストリッピング、吸着、化学的処理プロセスと汚泥処理プロセスを対象とする。	履修者には、Office365上のSharePointに作成する講義サイトに対するアクセスする権限を付与する。 予備スライドビデオ、同資料や講義資料は、SharePoint上で閲覧可能になる。 受講者には、教学課を通して講義ファイルを配布するので熟読して受講すること。
第12回	「新環境基本計画」を受けて、各河川では「流域を単位とした水循環計画」を策定することが求められている。 中国地方で河川水質ワースト1の芦田川水系における水利用計画を参照しながら、水環境管理策定に当たっての必要な知識内容を解説する。 ここでは、主として「水量確保」に焦点を当てる。	履修者には、Office365上のSharePointに作成する講義サイトに対するアクセスする権限を付与する。 予備スライドビデオ、同資料や講義資料は、SharePoint上で閲覧可能になる。 受講者には、教学課を通して講義ファイルを配布するので熟読して受講すること。
第13回	前回は引き続き、中国地方で河川水質ワースト1の芦田川水系における水利用計画を参照しながら、水環境管理策定に当たっての必要な知識内容を解説する。ここでは、主として「水害対策」に焦点を当てる。	履修者には、Office365上のSharePointに作成する講義サイトに対するアクセスする権限を付与する。 予備スライドビデオ、同資料や講義資料は、SharePoint上で閲覧可能になる。 受講者には、教学課を通して講義ファイルを配布するので熟読して受講すること。
第14回	前回は引き続き、中国地方で河川水質ワースト1の芦田川水系における水利用計画を参照しながら、水環境管理策定に当たっての必要な知識内容を解説する。ここでは、主として「水質保全」に焦点を当てる	履修者には、Office365上のSharePointに作成する講義サイトに対するアクセスする権限を付与する。 予備スライドビデオ、同資料や講義資料は、SharePoint上で閲覧可能になる。 受講者には、教学課を通して講義ファイルを配布するので熟読して受講すること。
第15回	全講義のまとめと定期試験	全ての単元について復習をしておくこと
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	機能材料化学 Q2		
担当教員氏名	大竹 才人		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時		
E-mail/HP	https://www.pu-hiroshima.ac.jp/p/ohtake/		
授業の形式・方式	オンライン授業。授業日程に従って、講義形式で実施する。1回の講義は、授業時間2時間（1回）と学生の自習4時間を想定した授業を行う。		
単位数（時間数）	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	【26年度以降入学生】環境科学科 3年次対象		
免許等指定科目	中一種免（理科），高一種免（理科） ※29年度以降入学の環境科学科が対象		
キーワード	結晶構造，電子構造，バンド理論，波動関数，強相関電子系，半導体，磁性体，誘電体，発光体		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	機能の発現には材料の電子物性が深く関わっており，固体中での電子の振る舞いの理解が機能材料を理解するための第一歩である。最近注目されている強相関電子系などはその代表であり，超伝導体に見られる金属-絶縁体転移や，磁界により電気抵抗が大きく変化する巨大磁気抵抗など多彩で魅惑的な物性は，電子が相互に強く関わり合いながら発現する。本講義では機能材料を理解するために，電子の振る舞いに基づいて初歩から解説し，その理解と修得を目標とする。		
授業の内容	機能材料として，電気的性質として半導体，磁気的性質として磁性体，光学的性質として発光体，扱う。またこれらの物性の起源として，それぞれの電子状態を学んでいく。更には，固体中での電子の振る舞いを電子の波動性に着目した波動関数に基づいて理解する。一方で電子の粒子としての振る舞いに着目して，スピン/電荷/軌道の3つの自由度の相互作用に基づいた強相関電子材料について学び，材料の多彩な機能を理解する。		
成績評価の方法	期末試験(オンライン)により評価する。適宜，小テストやレポートを課す。		
テキスト	なし		
参考文献	初學者向け： 量子化学基礎からのアプローチ 真船文隆 化学同人 一般向け： 量子化学 上巻 原田義也 裳華房		
備考(履修上のアドバース・禁止行為等)			
授業計画	準備学習		
第1回	材料がもつ特徴的な機能は、組成や構造、電子状態などの要因が影響を与え合い発現される。その多様な性質は、化学の視点から観察することで系統的に理解することができる。具体的な機能材料をいくつか紹介し、その一端に触れることにする。オンライン(リアルタイム)	原子の電子配置について、周期表に基づいて理解しておくこと。	
第2回	結晶構造を理解する基本として、4種類の単位格子に7種類の結晶系を適用した14種類のブラベー格子を学ぶ。オンライン(オンデマンド)	結晶構造、特にブラベー格子について予習しておくこと。	
第3回	金属結晶とイオン結晶を学ぶ。1種類の元素の繰り返し構造である金属結晶と2種類の元素からなるイオン結晶について結晶構造を解説する。特にイオン結晶では、2種類のイオン半径比が陽イオンの配位数を決定して結晶構造を与えることを理解する。オンライン(オンデマンド)	金属結合又はイオン結合からなる物質の結晶系を予習しておくこと。	
第4回	共有結合結晶としてダイヤモンド構造を学ぶ。またイオン結合性や共有結合性が見られるペロブスカイト構造を取り上げ、AサイトおよびBサイトの働きやそれらのイオン半径から導き出される許容因子、更にポーリングの法則についても解説する。オンライン(オンデマンド)	代表的な共有結合結晶について予習しておくこと。	
第5回	固体の物性を理解するために、分子軌道法により固体の電子構造を定性的に学ぶ。このとき、エネルギーバンド図を用いた禁制帯幅を指標として金属・半導体・絶縁体の電気伝導特性を理解する。オンライン(オンデマンド)	分子軌道法について予習しておくこと。	
第6回	定量的に理解するため、シュレーディンガーの波動方程式を	シュレーディンガーの波動方程式について予習してお	

	学ぶ。これは電子の振る舞いを定常波と捉え、ド・ブロイの式を用いて1次元保存則を利用し導出される。この解である波動関数が確率波を与え、絶対値の2乗が物理的意味を持つことを学ぶ。ワライ(ワテマツ)	くこと。
第7回	最も単純化された一次元井戸型ポテンシャル中における電子の振る舞いを扱う。シュレディンガーの波動方程式を解くことにより、波動関数から電子の確率密度と、固有値から量子化されたエネルギーを求め、量子化学の基礎を理解する。ワライ(ワテマツ)	自由電子近似理論について予習しておくこと。
第8回	一次元系の内容に引き続き、三次元系に拡張した箱の中の自由電子近似モデルを取り上げる。このとき単位体積当たり、かつ単位エネルギー当たりのエネルギー状態数を状態密度と定義し、その状態密度関数を利用してフェルミ準位を求める。ワライ(ワテマツ)	状態密度関数について予習しておくこと。
第9回	バンド理論を学習する。E vs k プロットにより、固体の電子状態はバンド構造をとることを理解する。またフェルミ・ディラックの分布関数を解説し、状態密度関数を利用して電子密度を求める。ワライ(ワテマツ)	バンド理論及びフェルミ・ディラック分布関数を予習しておくこと。
第10回	真性半導体、p型半導体、n型半導体のエネルギーバンド図を解説して、それぞれの状態密度、フェルミ・ディラック分布から電子または正孔のキャリア密度を導出することで、半導体物性の理解を深める。ワライ(ワテマツ)	半導体中のキャリア密度分布について予習しておくこと。
第11回	電子遷移を伴う可視光領域の吸収と発光を学ぶ。半導体のバンドギャップは、おおよそ可視光領域のエネルギーに相当するため、励起による光吸収と、緩和による可視光の発光が可能となる。これらについて解説する。ワライ(ワテマツ)	光の透過と吸収、及び発光を予習しておくこと。
第12回	強相関電子系材料として第一遷移金属酸化物を取り上げ、強相関電子とモット絶縁体及び電荷ギャップについて解説する。ワライ(ワテマツ)	モット・ハバードモデルについて予習しておくこと
第13回	強相関電子の波動性と粒子性は電子の局在（絶縁体）と非局在（金属）の相転移として現れる。この金属-絶縁体転移について、バンド幅制御及びフィリング制御を解説する。ワライ(ワテマツ)	モット転移について予習しておくこと。
第14回	強相関電子にはスピン・電荷・軌道の3つの自由度があり、これらの結合により多彩な電子相が競合して、突然巨大な応答を示す要因となっている。巨大磁気抵抗を例に挙げてこれらを解説する。ワライ(ワテマツ)	スピン・電荷・軌道の交差相関について予習しておくこと。
第15回	ペロブスカイト型マンガン酸化物は、伝導電子が局在スピンと軌道自由度に結合して多彩な電子相を作る。この様なスピンと軌道の結合や、軌道と電荷の結合について解説する。ワライ(ワテマツ)	ペロブスカイト酸化物における強相関電子系相転移として、CE型・A型・C型を予習しておくこと。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2022/05/30(月)11:56

授業科目名	キャリアビジョン（デベロップメント）3年生以上対象（集中講義）		
担当教員氏名	原田 淳		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	特に時間帯を定めない（事前にメールか電話で連絡し面談の予約をすること）。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	Zoomミーティングによるオンライン形式で実施する予定。授業日程に従って、講義形式と演習形式の授業を併用して進める。毎回の授業毎に受講レポートに要約、演習や実習による気づきを記すことを求める。		
単位数（時間数）	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科3年生以上対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア形成, ストレスマネジメント, マインドフルネス		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目の目標は、自分自身のキャリアを形成するうえで必要不可欠となる適切にストレスをコントロールする方法について理解することである。そして、心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を実習することにより、自分自身の身体感覚や呼吸に集中し、意識を“いま、ここ”に向けるマインドフルネスを習得する。		
授業の内容	心理・社会的なストレスの特徴について解説し、ストレスマネジメントの方向性について示す。対処法のひとつとして、心身相関的アプローチによる実践的なストレスマネジメントの技法を紹介する。また、ストレスとなる事象に直面したときに生じる心の動きについて説明し、過去の体験の振り返りをすることにより望ましい認知のあり方について考える。加えて、学内の教員が仕事におけるストレスとの向き合い方について講話する。		
成績評価の方法	講義中の演習50%、レポート課題20%、期末レポート30%で評価する。		
テキスト	テキスト（教科書）は特に指定しない。		
参考文献	参考文献は授業の進行に応じて適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	演習はグループワークを行うため（Zoomミーティングの際はブレイクアウトルームを用いる）、積極的な参加姿勢をもつことを期待する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 企業に勤務経験のある教員が、その経験をふまえて、社会や職場で必要となるストレスのコントロールについて解説する。		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション ・現代社会とストレス ・ストレスマネジメントの必要性 ・実習（呼吸を整える）		
第2回	ストレスとストレス反応 ・ストレスが身体におよぼす影響 ・ストレスが心におよぼす影響 ・ストレスが行動におよぼす影響 ・実習（微細な動きを意識する）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第3回	心理・社会的ストレスの特徴 ・心理・社会的ストレスのしくみ ・心理・社会的ストレスのパターン ・実習（ブリージング・エクササイズ）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第4回	瞑想的運動法 ・実習（ブリージングエクササイズ、アイソメトリック運動）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第5回	ストレスマネジメントの方向性 ・安定した心とは	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第6回	好き・嫌いの感情を克服する ・好き・嫌いが生じるしくみ ・『人間万事塞翁が馬』	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第7回	呼吸の意識化、呼吸法 ・実習（呼吸の意識化、呼吸法）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	

第8回	レジリエンス ・レジリエンスとは ・演習（ライフラインチャート）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第9回	環境調整の方法 ・実習（セクショナルブリージング、完全呼吸法）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第10回	“いま、ここ”を生きる ・マインドフルネス	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第11回	瞑想法 ・実習（リラクゼーション反応、ヴィパッサナー瞑想）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第12回	不安への対処 ・実習（オープンモニタリング瞑想）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第13回	執着・こだわりからの解放 ・実習（呼吸法、瞑想法）	講話に関するレポートを作成する。
第14回	仕事とストレス ・東洋思想の教える仕事への取り組み方	講話に関するレポートを作成する。
第15回	まとめ ・実習（アイソメトリック運動、呼吸法、瞑想法） ・授業評価アンケート ・受講レポート提出に関する説明	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	インターンシップ (Q4)		
担当教員氏名	学部教員, 原田淳 (大学教育実践センター/キャリアセンター)		
研究室の場所	広島キャンパス キャリアセンター		
連絡先電話番号			
オフィシアワー			
E-mail/HP			
授業の形式・方式	対面授業。通年集中講義。 事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、主に講義形式及び演習形式で実施する。実習は原則として夏期休業中に行う。学生は、原則として、事前学習、実習、事後学習の欠席・遅刻・早退は認められない。すべての授業への参加と実習が義務づけられる。		
単位数(時間数)	2.0	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	保健福祉学科2年次対象 保健福祉学部3年生対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析, 就業体験, 職業選択, 職業適性, ビジネスマナー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、将来職業に就くために、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめようとする学生を対象にして、就業体験をさせる。 本科目の目標は、履修学生に、多様な職場や職業に対して関心を持たせるとともに、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えさせることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とすることができる。 本科目は、全学共通教育科目の一つとして位置づけられている。また、学生の進路選択を支援する大学の学生支援プログラムの一部を担うものである。		
授業の内容	企業、行政機関、福祉施設、各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。 事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、自己目標を明確にするグループ別発表・討論等を行う。実習は原則として夏期休業期間中の2週間程度とする。 事後学習では、就業体験の発表を、グループ別発表・討論として行うとともに、全体報告会としても実施する。さらに、実習報告書を作成し、提出させる。		
成績評価の方法	事前学習及び事後学習における課題遂行、実習受入先の評価、実習報告書等を総合して評価する。課題等については第1回の授業において提示する。課題、報告書等の提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。		
テキスト	必要に応じて配布する。		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。 授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。正当な理由なく、履修の途中で放棄、事前学習、実習、事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では、企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては、実践的な研修を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンス	シラバス・コースカタログを事前に目とあわせること	
第2回	応募手続き等の説明	ガイダンスの内容をよく理解すること	
第3回	応募手続きとビジネスマナー等事前学習	前回の復習および就業体験に関する情報を収集すること	
第4回	事前学習、グループワーク	就業体験先企業等の情報を得ておくこと	
第5回	就業体験	就業体験先企業等について理解をはかり、これまでの復習をしておくこと	

第6回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第7回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第8回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第9回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第10回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第11回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第12回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第13回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第14回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第15回	事後学習および成果発表準備	就業体験時の記録をまとめておくこと
第16回	事後学習および成果発表	就業体験時の記録をまとめておくこと
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	ひろしま理解 (Q2)		
担当教員氏名	鈴木 康之 (代表)		
研究室の場所	広島キャンパス 1912研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィリアワー	研究室に在室中は基本的に対応可。事前にメール等で連絡することが望ましい。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面による講義形式の授業。広島キャンパス発信の遠隔授業。		
単位数 (時間数)	2.0		学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目			
キーワード	広島県、地域、歴史、文化、地理、産業、呉、尾道、世羅、大崎上島、宮島		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>全学共通教育科目の地域課題に位置づける選択科目である。</p> <p>地域への理解を深めるための導入に相当する科目として、最も身近な地域である広島県域を取り上げ、この地域を知解するための初歩的・基本的事項を学修する。</p> <p>具体的には、この地域に特徴的な歴史・文化・地理・産業などの基本的事項を多様な視点から学修することにより、地域の現状を立体的に理解する。これにより、地域課題を発見し、その解決に取り組むための基礎的知識を修得する。</p>		
授業の内容	専門分野の異なる3名の教員が、それぞれの研究分野から広島県域を理解するための方法を提示する。第1～5回を鈴木康之、第6～10回を和田崇、第11～15回を大知徳子が担当する。		
成績評価の方法	各教員がそれぞれ提示した課題に対するレポートを作成し、レポート3本の平均点によって、総合的に評価する。		
テキスト	授業時間に指示する。		
参考文献	岸田裕之 (編) 『広島県の歴史』 山川出版社 その他、授業時間に指示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を活かした実践的な教育について】 この科目では、教育委員会で文化財保護行政、博物館開設・経営の経験を有する教員が、地域の文化資源を理解し、活用する方策について指導する。		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンスーひろしまとはどのような場所？ー	広島県地域とは、どのような特徴をもつ場所なのか考えておく。	
第2回	ひろしまの歴史ー原始・古代ー	原始・古代の広島県地域のあゆみについて調べておく	
第3回	ひろしまの歴史ー中世ー	中世の広島県地域のあゆみについて調べておく。	
第4回	ひろしまの歴史ー近世ー	近世の広島県地域のあゆみについて調べておく。	
第5回	ひろしまの歴史ー近現代そして未来ー	近現代の広島県地域のあゆみについて調べるとともに、未来への展望について考えておく。	
第6回	水の都・広島	太田川沿いを歩いて感じたことをまとめておこう。	
第7回	海軍とカレーの街・呉	呉海軍カレーを食べて感じたことをまとめておこう。	
第8回	映画の街・尾道	大林監督について調べておこう。	
第9回	駅伝の町・世羅	世羅高校陸上競技部について調べておこう。	
第10回	レモンの島・大崎上島	ひろしま夢ばらざなどで瀬戸内レモン商品をチェックしておこう。	
第11回	厳島と宮島	宮島に関する情報を宮島観光協会等のHPで調べておきましょう。 宮島観光協会 https://www.miyajima.or.jp/	

第12回	厳島神社の宝物	厳島神社の文化財について調べておきましょう。
第13回	描かれた宮島	宮島を描いた作品について調べておきましょう。
第14回	厳島神社の絵馬	宮島VRツアーズを利用して豊国神社（千畳閣）の絵馬を見ておきましょう。 宮島VRツアーズ http://www.hiroshima-jp.com/vt/miyajima/
第15回	宮島の祭	宮島で執り行われる祭りの種類を調べておきましょう。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	地域情報発信論（前期集中）		
担当教員氏名	広谷大助, 藤井宣彰, 吉田倫子, 伊藤俊 他 (広島キャンパス主担当 広谷大助)		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業（状況によってはオンライン（リアルタイム）で実施） 前期集中講義（4日間。2022年8月29日（月）～9月1日（木）の予定） サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む		
単位数（時間数）	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	地域創生学科, 国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 2～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, デイバート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。 本科目は, 全学共通教育「広島と世界」（旧課程）, 「地域課題」（新課程）に位置づけられる。		
授業の内容	新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み, 課題を設定した上で, 現地へ出向いて取材し, 意見交換を経て記事をまとめるなど, 地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに, グループで課題解決への提案をまとめ, ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。		
成績評価の方法	課題レポート（50%） グループ討議, ポスター発表を含む, 授業への参加度（50%） なお, 単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする		
テキスト	事前に配付される新聞を用いる		
参考文献	適宜紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は, 掲示により確認すること。 また, 本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため, 4日間全ての出席が必須となる。よって, 1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。 なお, フィールドワークにかかる費用及び試験期間中の新聞購読代金は自己負担となる。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により, 取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回			
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			

第15回	
第16回	
授業計画	<p>授業の流れは概ね次のとおり（一部変更の可能性あり）</p> <p>事前課題：試読期間（7月下旬）に配付された新聞を読み，記事を選んで概要をまとめ，意見を述べる</p> <p>第1日：オリエンテーション，事前課題の確認，新聞の読み方 第2日：取材計画，写真撮影・取材実習（フィールドワーク） 第3日：グループ討議，記事風レポート作成・発表 第4日：ポスター制作，ポスター発表，振り返り討議</p> <p>期間中の課題：翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む</p> <p>事後課題：授業で学び得たことを踏まえて，新たな課題を発見し，レポートをまとめる</p>
シラバス備考	
URLリンク1	
URLリンク2	
URLリンク3	

授業科目名	チーム医療福祉論 (Q2)		
担当教員氏名	吉川ひろみ, 黒田寿美恵, 島谷康司, 坊岡峰子, 永野なおみ		
研究室の場所	吉川 (3404), 黒田 (3509), 島谷 (4429), 坊岡 (2514), 永野 (4524)		
連絡先電話番号	学生便覧を参照		
オフィスアワー	月曜日5限		
E-mail/HP	吉川<yosikawa@pu-hiroshima.ac.jp>, 黒田<kuroda@pu-hiroshima.ac.jp>, 島谷<shimatani@pu-hiroshima.ac.jp>, 坊岡<bouoka@pu-hiroshima.ac.jp>, 永野<nagano@pu-hiroshima.ac.jp> ,		
授業の形式・方式	対面授業, グループワーク		
単位数 (時間数)	1.0	15	学科または専攻毎の必修・選択の別 全コース必修
履修要件	1年次必修科目		
免許等指定科目			
キーワード	ヘルスケア専門職, ヘルスサポーターマインド, チームアプローチ, 患者中心医療, 利用者主体のサービス, リハビリテーション, 倫理		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>【授業の目標】</p> <p>異なる専門領域の学生が共に学ぶ機会を得ることにより, お互いを尊重する姿勢を学ぶ。ケアチームの概念, チームワークの難しさと効果, リーダーシップ, 組織管理について学習する。事例を通して連携の方法論とグループダイナミクスについて考察する。将来よりよいチームアプローチを実践するための基礎を培う。</p> <p>【科目の位置づけ】</p> <p>「地域包括ケアシステムを発展させる科目」群に位置づけられている。</p>		
授業の内容	学科横断的に編成するグループで, チーム医療福祉の事例についてディスカッションする。医療福祉における効果的なチームのあり方について学修する。		
成績評価の方法	発表20%, クイズ30%, レポート50%の割合で評価する。欠席遅刻は減点対象とする。		
テキスト	吉川ひろみ, 上野哲『倫理でスッキリ医療従事者のモヤモヤ解消法』(シービーアール)		
参考文献	別途指示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>コース選択枠で入学した学生は, 必ず履修すること</p> <p>【実務経験を生かした実践的な教育について】</p> <p>医療福祉現場において実務経験を有する教員が, 多職種連携アプローチの実際について紹介し, 学生はよりよいチーム医療福祉について考える。</p>		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第2回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第3回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第4回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第5回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第6回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第7回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第8回	まとめ	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			

第15回		
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク 1		
URLリンク 2		
URLリンク 3		

授業科目名	チーム医療福祉演習（登録用）		
担当教員氏名	古山 千佳子 ほか		
研究室の場所	三原キャンパス 3405研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	担当教員ごとに後日指定する。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	各学科の横断的小グループによる演習形式の授業。講義、小グループでのディスカッション、資料の作成および発表。状況に応じてグループディスカッションおよび発表をオンライン（リアルタイム）で行う場合がある。		
単位数（時間数）	1.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	全学科4年次対象		
免許等指定科目	看護師・保健師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	主体的学習, 討論, 学習方法		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	これまでで学んできた専門知識・技術や実習での経験にもとづき、学科横断的な小グループにより事例を中心に多面的に討論検討する。これを通して各専門職がどのように連携しチーム医療を支えるべきか、専門職としての役割は何かを考えるとともに患者・障害者のための保健医療およびチーム医療のあり方を理解し、説明することができる。 尚、本科目は地域包括ケアシステムを発展させる科目の必須科目として位置づけられており、これまで学んできた専門知識や技術にもとづき、学生主導で行われる。		
授業の内容	学内・現場実習終了後の学生を対象として、学科横断的に編成するチームによって、ロールプレイを用いて具体的なチームによるアプローチを経験する。専門職種相互の理解を深め、相互の専門性を認め、共通の専門用語を駆使して、患者の要求に応えることのできる専門職を養成することを目的とする。 尚、本科目は地域包括ケアシステムを発展させる科目の必須科目として位置づけられており、これまで学んできた専門知識や技術にもとづき、学生主導で行われる。		
成績評価の方法	参加、学習態度、提出物を総合して評価する。		
テキスト	吉川ひろみ, 上野 哲 著『倫理ですっきり 医療従事者のモヤモヤ解消法』（シービーアール）2020		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を生かした実践的な教育について】 学生は、具体的な事例について多職種連携アプローチをディスカッションし、考える。医療福祉現場の実務経験を有する教員が指導する。 これまでの講義、学内実験・実習、臨床実習で学んだことを思い起こし、グループでよく議論すること。 初日に手引きを配布するので、そのスケジュールに従って行動する。		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション3事例（医学的事例）の紹介	所属学科の特性について復習する。	
第2回	各グループ（G）で医学的事例（3事例）の情報をしっかり読み込む。授業時間中（12時前後）に各班の担当事例が公表される	所属学科の特性について復習する。	
第3回	各学科実習室で、見学・説明とデモンストレーション	デモンストレーションの準備。チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する	
第4回	各学科実習室で、見学・説明とデモンストレーション	デモンストレーションの準備。チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する	
第5回	各グループで事例検討	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第6回	各グループで事例検討および発表資料作成	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第7回	各グループで事例検討および発表資料作成	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第8回	中グループで発表（医学的事例）	発表の準備。チーム医療福祉に関わる各専門職	

		の役割と機能について復習する。
第9回	各グループで倫理事例または地域事例の検討	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第10回	各グループで倫理事例または地域事例の検討	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第11回	倫理事例検討の続きと発表資料作成と発表方法の打合せ、グループにより当事者からサービスを受けた経験を聞く場合がある	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第12回	倫理事例検討の続きと発表資料作成と発表方法の打合せ、グループにより当事者からサービスを受けた経験を聞く場合がある	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第13回	倫理事例検討の続きと発表資料作成と発表方法の打合せ、グループにより当事者からサービスを受けた経験を聞く場合がある	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第14回	中グループで発表（倫理事例または地域事例）	発表の準備。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第15回	チーム医療福祉演習全体のまとめと振り返り	これまでの学習を振り返る。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	基礎看護実習Ⅱ (Q4)		
担当教員氏名	吉田 和美, 三宅由希子, 青井聡美, 池田ひろみ		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時 (要予約)		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	臨地実習		
単位数 (時間数)	2.0	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	看護学コース2年次対象		
免許等指定科目	看護師・保健師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	援助的人間関係 健康障害をもつ対象者の看護 看護過程 看護診断 看護計画 看護援助 SOAP 記録 個人情報保護 守秘義務 プライバシーの保護 健康状態のアセスメント バイタルサイン測定		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	取り巻く環境との相互作用をもちながら生活者として生きている, 健康障害がある対象の全体像を理解し, 看護過程にそって計画, 実施, 評価することを通して, 根拠に基づいた看護を計画的に提供する基礎的能力および態度を養う。		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> 健康障害をもつ対象の多様な価値観や生活背景を尊重しながら, 看護者として必要とされる倫理的態度と姿勢に基づき, 対象の気持ちに寄り添い, 信頼関係を形成し援助的人間関係を築くよう関わることができる。 健康障害をもち治療や検査を受ける対象の身体および, 心理社会的側面の全体像を理解し, 対象の看護上の問題の解決に向けて, 看護過程にそって計画, 実施, 評価することを通して, 根拠ある看護実践をおこなうことができる。 安全なケア環境の提供をめざして, チームの一員として協働できる。 看護専門職として学修し続け成長していくために適切な姿勢・態度で行動できる。 対象に提供した自らの看護を振り返り, より良い看護の実現に向けて, 看護の専門性を考察し, 専門職としての成長していくための自己の課題を明らかにできる。 		
成績評価の方法	基礎看護実習Ⅱルーブリックに基づき評価する。目標への到達度 (90%), レポート (10%) とする。		
テキスト	臨地実習要綱, 基礎看護実習Ⅱ実習要綱		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>【実務経験を活かした実践的な教育について】看護師経験のある教員が臨地において病棟看護師と連携し看護実践の指導を行う。</p> <p>看護学概論, 日常生活援助方法論Ⅰ・Ⅱ, 診療に伴う看護方法論, フィジカルアセスメント, 看護理論と実践, 慢性期看護論, 急性期看護論で学修した内容を復習して実習に臨むこと。</p> <p>基礎看護実習技術ノートに手順等を記載し持参すること。</p> <p>実習日数が不足した場合は記録提出にかかわらず再履修となるので, 健康管理には十分留意すること。</p> <p>インフルエンザ感染症流行期であるため, 実習前に必ずワクチンを接種し, 実習に臨むこと。</p>		
授業計画	準備学習		
第1回	「基礎看護実習Ⅱ」実習要綱参照		
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			

第13回		
第14回		
第15回		
第16回		
第17回		
第18回		
第19回		
第20回		
第21回		
第22回		
第23回		
第24回		
第25回		
第26回		
第27回		
第28回		
第29回		
第30回		
第31回		
第32回		
授業計画	基礎看護実習Ⅱ実習要綱参照	
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2022/05/30(月)11:56

授業科目名	キャリアビジョン（デベロップメント）3年生以上対象（集中講義）		
担当教員氏名	原田 淳		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィシアワー	特に時間帯を定めない（事前にメールか電話で連絡し面談の予約をすること）。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	Zoomミーティングによるオンライン形式で実施する予定。授業日程に従って、講義形式と演習形式の授業を併用して進める。毎回の授業毎に受講レポートに要約、演習や実習による気づきを記すことを求める。		
単位数（時間数）	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科3年生以上対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア形成, ストレスマネジメント, マインドフルネス		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目の目標は、自分自身のキャリアを形成するうえで必要不可欠となる適切にストレスをコントロールする方法について理解することである。そして、心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を実習することにより、自分自身の身体感覚や呼吸に集中し、意識を“いま、ここ”に向けるマインドフルネスを習得する。		
授業の内容	心理・社会的なストレスの特徴について解説し、ストレスマネジメントの方向性について示す。対処法のひとつとして、心身相関的アプローチによる実践的なストレスマネジメントの技法を紹介する。また、ストレスとなる事象に直面したときに生じる心の動きについて説明し、過去の体験の振り返りをすることにより望ましい認知のあり方について考える。加えて、学内の教員が仕事におけるストレスとの向き合い方について講話する。		
成績評価の方法	講義中の演習50%、レポート課題20%、期末レポート30%で評価する。		
テキスト	テキスト（教科書）は特に指定しない。		
参考文献	参考文献は授業の進行に応じて適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	演習はグループワークを行うため（Zoomミーティングの際はブレイクアウトルームを用いる）、積極的な参加姿勢をもつことを期待する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 企業に勤務経験のある教員が、その経験をふまえて、社会や職場で必要となるストレスのコントロールについて解説する。		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション ・現代社会とストレス ・ストレスマネジメントの必要性 ・実習（呼吸を整える）		
第2回	ストレスとストレス反応 ・ストレスが身体におよぼす影響 ・ストレスが心におよぼす影響 ・ストレスが行動におよぼす影響 ・実習（微細な動きを意識する）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第3回	心理・社会的ストレスの特徴 ・心理・社会的ストレスのしくみ ・心理・社会的ストレスのパターン ・実習（ブリージング・エクササイズ）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第4回	瞑想的運動法 ・実習（ブリージングエクササイズ、アイソメトリック運動）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第5回	ストレスマネジメントの方向性 ・安定した心とは	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第6回	好き・嫌いの感情を克服する ・好き・嫌いが生じるしくみ ・『人間万事塞翁が馬』	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第7回	呼吸の意識化、呼吸法 ・実習（呼吸の意識化、呼吸法）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	

第8回	レジリエンス ・レジリエンスとは ・演習（ライフラインチャート）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第9回	環境調整の方法 ・実習（セクショナルブリージング、完全呼吸法）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第10回	“いま、ここ”を生きる ・マインドフルネス	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第11回	瞑想法 ・実習（リラクゼーション反応、ヴィパッサナー瞑想）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第12回	不安への対処 ・実習（オープンモニタリング瞑想）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第13回	執着・こだわりからの解放 ・実習（呼吸法、瞑想法）	講話に関するレポートを作成する。
第14回	仕事とストレス ・東洋思想の教える仕事への取り組み方	講話に関するレポートを作成する。
第15回	まとめ ・実習（アイソメトリック運動、呼吸法、瞑想法） ・授業評価アンケート ・受講レポート提出に関する説明	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	インターンシップ (Q4)		
担当教員氏名	学部教員, 原田淳 (大学教育実践センター/キャリアセンター)		
研究室の場所	広島キャンパス キャリアセンター		
連絡先電話番号			
オフィシアワー			
E-mail/HP			
授業の形式・方式	対面授業。通年集中講義。 事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、主に講義形式及び演習形式で実施する。実習は原則として夏期休業中に行う。学生は、原則として、事前学習、実習、事後学習の欠席・遅刻・早退は認められない。すべての授業への参加と実習が義務づけられる。		
単位数(時間数)	2.0	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	保健福祉学科2年次対象 保健福祉学部3年生対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析, 就業体験, 職業選択, 職業適性, ビジネスマナー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、将来職業に就くために、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめようとする学生を対象にして、就業体験をさせる。 本科目の目標は、履修学生に、多様な職場や職業に対して関心を持たせるとともに、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えさせることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とすることができる。 本科目は、全学共通教育科目の一つとして位置づけられている。また、学生の進路選択を支援する大学の学生支援プログラムの一部を担うものである。		
授業の内容	企業、行政機関、福祉施設、各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。 事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、自己目標を明確にするグループ別発表・討論等を行う。実習は原則として夏期休業期間中の2週間程度とする。 事後学習では、就業体験の発表を、グループ別発表・討論として行うとともに、全体報告会としても実施する。さらに、実習報告書を作成し、提出させる。		
成績評価の方法	事前学習及び事後学習における課題遂行、実習受入先の評価、実習報告書等を総合して評価する。課題等については第1回の授業において提示する。課題、報告書等の提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。		
テキスト	必要に応じて配布する。		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。 授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。正当な理由なく、履修の途中で放棄、事前学習、実習、事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では、企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては、実践的な研修を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンス	シラバス・コースカタログを事前に目とのおすこと	
第2回	応募手続き等の説明	ガイダンスの内容をよく理解すること	
第3回	応募手続きとビジネスマナー等事前学習	前回の復習および就業体験に関する情報を収集すること	
第4回	事前学習、グループワーク	就業体験先企業等の情報を得ておくこと	
第5回	就業体験	就業体験先企業等について理解をはかり、これまでの復習をしておくこと	

第6回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第7回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第8回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第9回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第10回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第11回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第12回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第13回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第14回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第15回	事後学習および成果発表準備	就業体験時の記録をまとめておくこと
第16回	事後学習および成果発表	就業体験時の記録をまとめておくこと
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	ひろしま理解 (Q2)		
担当教員氏名	鈴木 康之 (代表)		
研究室の場所	広島キャンパス 1912研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィシアワー	研究室に在室中は基本的に対応可。事前にメール等で連絡することが望ましい。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面による講義形式の授業。広島キャンパス発信の遠隔授業。		
単位数 (時間数)	2.0		学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目			
キーワード	広島県、地域、歴史、文化、地理、産業、呉、尾道、世羅、大崎上島、宮島		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>全学共通教育科目の地域課題に位置づける選択科目である。</p> <p>地域への理解を深めるための導入に相当する科目として、最も身近な地域である広島県域を取り上げ、この地域を知解するための初歩的・基本的事項を学修する。</p> <p>具体的には、この地域に特徴的な歴史・文化・地理・産業などの基本的事項を多様な視点から学修することにより、地域の現状を立体的に理解する。これにより、地域課題を発見し、その解決に取り組むための基礎的知識を修得する。</p>		
授業の内容	専門分野の異なる3名の教員が、それぞれの研究分野から広島県域を理解するための方法を提示する。第1～5回を鈴木康之、第6～10回を和田崇、第11～15回を大知徳子が担当する。		
成績評価の方法	各教員がそれぞれ提示した課題に対するレポートを作成し、レポート3本の平均点によって、総合的に評価する。		
テキスト	授業時間に指示する。		
参考文献	岸田裕之 (編) 『広島県の歴史』 山川出版社 その他、授業時間に指示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を活かした実践的な教育について】 この科目では、教育委員会で文化財保護行政、博物館開設・経営の経験を有する教員が、地域の文化資源を理解し、活用する方策について指導する。		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンスーひろしまとはどのような場所？ー	広島県地域とは、どのような特徴をもつ場所なのか考えておく。	
第2回	ひろしまの歴史ー原始・古代ー	原始・古代の広島県地域のあゆみについて調べておく	
第3回	ひろしまの歴史ー中世ー	中世の広島県地域のあゆみについて調べておく。	
第4回	ひろしまの歴史ー近世ー	近世の広島県地域のあゆみについて調べておく。	
第5回	ひろしまの歴史ー近現代そして未来ー	近現代の広島県地域のあゆみについて調べるとともに、未来への展望について考えておく。	
第6回	水の都・広島	太田川沿いを歩いて感じたことをまとめておこう。	
第7回	海軍とカレーの街・呉	呉海軍カレーを食べて感じたことをまとめておこう。	
第8回	映画の街・尾道	大林監督について調べておこう。	
第9回	駅伝の町・世羅	世羅高校陸上競技部について調べておこう。	
第10回	レモンの島・大崎上島	ひろしま夢ばらざなどで瀬戸内レモン商品をチェックしておこう。	
第11回	厳島と宮島	宮島に関する情報を宮島観光協会等のHPで調べておきましょう。 宮島観光協会 https://www.miyajima.or.jp/	

第12回	厳島神社の宝物	厳島神社の文化財について調べておきましょう。
第13回	描かれた宮島	宮島を描いた作品について調べておきましょう。
第14回	厳島神社の絵馬	宮島VRツアーズを利用して豊国神社（千畳閣）の絵馬を見ておきましょう。 宮島VRツアーズ http://www.hiroshima-jp.com/vt/miyajima/
第15回	宮島の祭	宮島で執り行われる祭りの種類を調べておきましょう。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	地域情報発信論（前期集中）		
担当教員氏名	広谷大助, 藤井宣彰, 吉田倫子, 伊藤俊 他 (広島キャンパス主担当 広谷大助)		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業（状況によってはオンライン（リアルタイム）で実施） 前期集中講義（4日間。2022年8月29日（月）～9月1日（木）の予定） サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む		
単位数（時間数）	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	地域創生学科, 国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 2～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, デイバート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。 本科目は, 全学共通教育「広島と世界」（旧課程）, 「地域課題」（新課程）に位置づけられる。		
授業の内容	新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み, 課題を設定した上で, 現地へ出向いて取材し, 意見交換を経て記事をまとめるなど, 地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに, グループで課題解決への提案をまとめ, ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。		
成績評価の方法	課題レポート（50%） グループ討議, ポスター発表を含む, 授業への参加度（50%） なお, 単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする		
テキスト	事前に配付される新聞を用いる		
参考文献	適宜紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は, 掲示により確認すること。 また, 本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため, 4日間全ての出席が必須となる。よって, 1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。 なお, フィールドワークにかかる費用及び試験期間中の新聞購読代金は自己負担となる。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により, 取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回			
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			

第15回	
第16回	
授業計画	<p>授業の流れは概ね次のとおり（一部変更の可能性あり）</p> <p>事前課題：試読期間（7月下旬）に配付された新聞を読み，記事を選んで概要をまとめ，意見を述べる</p> <p>第1日：オリエンテーション，事前課題の確認，新聞の読み方 第2日：取材計画，写真撮影・取材実習（フィールドワーク） 第3日：グループ討議，記事風レポート作成・発表 第4日：ポスター制作，ポスター発表，振り返り討議</p> <p>期間中の課題：翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む</p> <p>事後課題：授業で学び得たことを踏まえて，新たな課題を発見し，レポートをまとめる</p>
シラバス備考	
URLリンク1	
URLリンク2	
URLリンク3	

授業科目名	チーム医療福祉論 (Q2)		
担当教員氏名	吉川ひろみ, 黒田寿美恵, 島谷康司, 坊岡峰子, 永野なおみ		
研究室の場所	吉川 (3404), 黒田 (3509), 島谷 (4429), 坊岡 (2514), 永野 (4524)		
連絡先電話番号	学生便覧を参照		
オフィスアワー	月曜日5限		
E-mail/HP	吉川<yosikawa@pu-hiroshima.ac.jp>, 黒田<kuroda@pu-hiroshima.ac.jp>, 島谷<shimatani@pu-hiroshima.ac.jp>, 坊岡<bouoka@pu-hiroshima.ac.jp>, 永野<nagano@pu-hiroshima.ac.jp> ,		
授業の形式・方式	対面授業, グループワーク		
単位数 (時間数)	1.0	15	学科または専攻毎の必修・選択の別 全コース必修
履修要件	1年次必修科目		
免許等指定科目			
キーワード	ヘルスケア専門職, ヘルスサポーターマインド, チームアプローチ, 患者中心医療, 利用者主体のサービス, リハビリテーション, 倫理		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>【授業の目標】 異なる専門領域の学生が共に学ぶ機会を得ることにより, お互いを尊重する姿勢を学ぶ。ケアチームの概念, チームワークの難しさと効果, リーダーシップ, 組織管理について学習する。事例を通して連携の方法論とグループダイナミクスについて考察する。将来よりよいチームアプローチを実践するための基礎を培う。</p> <p>【科目の位置づけ】 「地域包括ケアシステムを発展させる科目」群に位置づけられている。</p>		
授業の内容	学科横断的に編成するグループで, チーム医療福祉の事例についてディスカッションする。医療福祉における効果的なチームのあり方について学修する。		
成績評価の方法	発表20%, クイズ30%, レポート50%の割合で評価する。欠席遅刻は減点対象とする。		
テキスト	吉川ひろみ, 上野哲『倫理でスッキリ医療従事者のモヤモヤ解消法』 (シービーアール)		
参考文献	別途指示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>コース選択枠で入学した学生は, 必ず履修すること</p> <p>【実務経験を生かした実践的な教育について】 医療福祉現場において実務経験を有する教員が, 多職種連携アプローチの実際について紹介し, 学生はよりよいチーム医療福祉について考える。</p>		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第2回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第3回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第4回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第5回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第6回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第7回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第8回	まとめ	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			

第15回		
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	チーム医療福祉演習（登録用）		
担当教員氏名	古山 千佳子 ほか		
研究室の場所	三原キャンパス 3405研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	担当教員ごとに後日指定する。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	各学科の横断的小グループによる演習形式の授業。講義、小グループでのディスカッション、資料の作成および発表。状況に応じてグループディスカッションおよび発表をオンライン（リアルタイム）で行う場合がある。		
単位数（時間数）	1.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	全学科4年次対象		
免許等指定科目	看護師・保健師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	主体的学習, 討論, 学習方法		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>これまでに学んできた専門知識・技術や実習での経験にもとづき、学科横断的な小グループにより事例を中心に多面的に討論検討する。これを通して各専門職がどのように連携しチーム医療を支えるべきか、専門職としての役割は何かを考えるとともに患者・障害者のための保健医療およびチーム医療のあり方を理解し、説明することができる。</p> <p>尚、本科目は地域包括ケアシステムを発展させる科目の必須科目として位置づけられており、これまで学んできた専門知識や技術にもとづき、学生主導で行われる。</p>		
授業の内容	<p>学内・現場実習終了後の学生を対象として、学科横断的に編成するチームによって、ロールプレイを用いて具体的なチームによるアプローチを経験する。専門職種相互の理解を深め、相互の専門性を認め、共通の専門用語を駆使して、患者の要求に応えることのできる専門職を養成することを目的とする。</p> <p>尚、本科目は地域包括ケアシステムを発展させる科目の必須科目として位置づけられており、これまで学んできた専門知識や技術にもとづき、学生主導で行われる。</p>		
成績評価の方法	参加, 学習態度, 提出物を総合して評価する。		
テキスト	吉川ひろみ, 上野 哲 著『倫理ですっきり 医療従事者のモヤモヤ解消法』（シービーアール）2020		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>【実務経験を生かした実践的な教育について】</p> <p>学生は、具体的な事例について多職種連携アプローチをディスカッションし、考える。医療福祉現場の実務経験を有する教員が指導する。</p> <p>これまでの講義、学内実験・実習、臨床実習で学んだことを思い起こし、グループでよく議論すること。</p> <p>初日に手引きを配布するので、そのスケジュールに従って行動する。</p>		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション3事例（医学的事例）の紹介	所属学科の特性について復習する。	
第2回	各グループ（G）で医学的事例（3事例）の情報をしっかり読み込む。授業時間中（12時前後）に各班の担当事例が公表される	所属学科の特性について復習する。	
第3回	各学科実習室で、見学・説明とデモンストレーション	デモンストレーションの準備。チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する	
第4回	各学科実習室で、見学・説明とデモンストレーション	デモンストレーションの準備。チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する	
第5回	各グループで事例検討	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第6回	各グループで事例検討および発表資料作成	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第7回	各グループで事例検討および発表資料作成	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第8回	中グループで発表（医学的事例）	発表の準備。チーム医療福祉に関わる各専門職	

		の役割と機能について復習する。
第9回	各グループで倫理事例または地域事例の検討	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第10回	各グループで倫理事例または地域事例の検討	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第11回	倫理事例検討の続きと発表資料作成と発表方法の打合せ、グループにより当事者からサービスを受けた経験を聞く場合がある	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第12回	倫理事例検討の続きと発表資料作成と発表方法の打合せ、グループにより当事者からサービスを受けた経験を聞く場合がある	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第13回	倫理事例検討の続きと発表資料作成と発表方法の打合せ、グループにより当事者からサービスを受けた経験を聞く場合がある	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第14回	中グループで発表（倫理事例または地域事例）	発表の準備。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第15回	チーム医療福祉演習全体のまとめと振り返り	これまでの学習を振り返る。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	基礎臨床実習 I (理学) (Q2)		
担当教員氏名	島谷康司, 西上智彦, 長谷川正哉, 積山和加子, 佐藤勇太, 岡村和典, 小野武也, 梅井凡子, 金井秀作, 田中聡, 高宮尚美, 金指美帆		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号			
オフィスパワー	各教員により異なるので事前に調整し予約をすること。		
E-mail/HP			
授業の形式・方式	学外臨床実習施設の臨床実習指導者の指導下での臨床実習を実施する。 新型コロナウイルス感染拡大防止のために学内実習もしくはオンライン実習に変更する場合があります。		
単位数(時間数)	1.0	45	学科または専攻毎の必修・選択の別 理学療法学コース必修
履修要件	理学療法学コース2年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	総合リハビリテーション, 医学的リハビリテーション, リハビリテーション医学, チーム医療, 理学療法士, 運動療法, 物理療法		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	基礎臨床実習 I では, 医療現場における理学療法の位置付けと理学療法業務の概要を実際の臨床場面を見学させることによって把握させる。また, 実習指導者の指導・監督の下で, 患者とのコミュニケーションを図ったり, 患者の移動を補助的に行ったりすることで医療人としての責任感の育成や動機付けの向上を目指す。 理学療法学コース専門領域特有の科目であり, 臨床実習に位置付けられる。		
授業の内容	臨床実習施設にて5日間, 実習指導者の下で臨床実習を実施する。 以下の内容を実習目標とする。 1) 実習施設の概要を理解する。2) 他の医療職の臨床を見学し, 理学療法部門を含めたチーム医療としての各部門の位置付けを理解する。3) 処方から退院までの理学療法業務の流れを理解する。4) 情報収集の実践を行い, 処方箋, カルテの読み方から問診の取り方, 関節可動域測定法などを理解する。5) 実習指導者の指導や他部門からの情報収集, 患者への問診などを通じ医療人としての適切な倫理観と態度を身に付ける。		
成績評価の方法	実習指導者の評価と出席状況, 実習後に課す実習レポートの提出と内容によって総合的に評価する。 無断欠席を行うとその時点で実習が中止になることがある。正当な理由なく欠席が実習日数の1/5を超えた場合は, 評価の対象とみなさない。		
テキスト			
参考文献	実習地での経験に応じ, 各自が他の教科の教科書や参考文献を用意すること。 豊田輝/編『症例動画でわかる理学療法臨床推論 統合と解釈実践テキスト』(羊土社) 鶴見隆正編『標準理学療法学・臨床実習とケーススタディー・第3版』(医学書院)		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を活かした実践的な教育について】 理学療法士として必要な基礎的能力を身に付けるため, 理学療法の臨床現場において実際に理学療法を実施している場面を医療機関等にて見学する。理学療法士としての経験が5年以上である実習指導者の指導の下, 対象者からの情報収集を経験する。		
授業計画	準備学習		
第1回	基礎臨床実習 I では, 医療現場における理学療法の位置付けと理学療法業務の概要を, 実際の臨床場面を見学させることによって把握させる。また, 実習指導者の指導・監督の下で, 患者とのコミュニケーションを図ったり, 患者の移動を補助的に行ったりすることで, 医療人としての責任感の育成や動機付けの向上を目指す。		学内で学修した事項を整理しておくこと。 臨床実習施設の概要について確認しておくこと。 体調管理に努めること。
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			

第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		
第16回		
第17回		
第18回		
第19回		
第20回		
第21回		
第22回		
第23回		
第24回		
第25回		
第26回		
第27回		
第28回		
第29回		
第30回		
第31回		
第32回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	基礎臨床実習Ⅱ (Q4)		
担当教員氏名	梅井凡子, 金井秀作, 小野武也, 田中聡, 島谷康司, 西上智彦, 長谷川正哉, 積山和加子, 高宮尚美, 金指美帆, 佐藤勇太, 岡村和典, 飯田忠行		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号			
オフィスパワー	各教員により異なるので事前に調整し予約をすること。		
E-mail/HP			
授業の形式・方式	学外臨床実習施設の臨床実習指導者の指導下での臨床実習を実施する。 新型コロナウイルス感染拡大防止のために学内実習もしくはオンライン実習に変更する場合があります。		
単位数(時間数)	4.0	180	学科または専攻毎の必修・選択の別 理学療法学科必修
履修要件	理学療法学科3年次生対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	総合リハビリテーション, 医学的リハビリテーション, リハビリテーション医学, チーム医療, 理学療法士, 運動療法, 物理療法。		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	基礎臨床実習Ⅱでは、臨床実習場面で実習指導者の指導・監督の下に、とくに理学療法評価に関する実習を行います。学内での講義や実技実習で学んだ各種の評価手技を対象の方(患者)に適用する場合の注意点や反応の実際について学びます。 理学療法学科専門領域特有の科目であり、臨床実習に位置付けられる。		
授業の内容	基礎臨床実習Ⅱの実習は、同一の臨床実習施設において20日間以上行われます。 その内容は、各施設における実習指導者の指導・監督の下、実際の対象の方(患者)に対して理学療法評価を行い、その結果の解釈・統合・検証、さらに治療計画の立案までを経験するものです。 学内においては実習前オリエンテーションを、実習終了後には報告会を行い、次の総合臨床実習に繋がっていきます。		
成績評価の方法	実習前の知識・技能評価、出席と実習指導者による報告書、実習後の課題等により総合的に評定する。無断欠席を行うとその時点で実習が中止になることがある。 正当な理由なく欠席が実習日数の1/5を超えた場合は、評価の対象とみなさない。		
テキスト	鶴見隆正編『標準理学療法学・臨床実習とケーススタディー・第2版』(医学書院)		
参考文献	実習地で担当した症例に応じ、各自が他の教科の教科書や参考文献を用意すること。 豊田輝/編『症例動画でわかる理学療法臨床推論 統合と解釈実践テキスト』(羊土社)		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を活かした実践的な教育について】 学外臨床実習施設において理学療法士としての実務経験が5年以上かつ臨床実習指導者要件を満たしている臨床実習指導者のもとで理学療法業務を経験する。基礎臨床実習Ⅱにおいては理学療法プロセスにおける検査測定を中心とした実際の理学療法を経験する。		
授業計画	準備学習		
第1回	基礎臨床実習Ⅱでは、臨床実習場面で実習指導者の指導・監督の下に、特に理学療法評価に関する実習を行う。学内の講義・実習で学んだ各種の評価手技を患者に適用する場合の注意点や患者の反応の実際について学ぶ。		
第2回	学内で学修した事項を整理しておくこと。 臨床実習施設の概要について確認しておくこと。 体調管理に努めること。		
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			

第14回		
第15回		
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	地域臨床実習 (Q4)		
担当教員氏名	島谷康司, 西上智彦, 長谷川正哉, 積山和加子, 岡村和典, 佐藤勇太, 梅井凡子, 田中聡, 小野武也, 金井秀作, 高宮尚美, 金指美帆		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号			
オフィシアワー	各教員により異なるので事前相談し予約をすること		
E-mail/HP			
授業の形式・方式	学外臨床実習施設の臨床実習指導者の指導下での臨床実習を実施する。 新型コロナウイルス感染拡大防止のために学内実習もしくはオンライン実習に変更する場合があります。		
単位数(時間数)	1.0	45	学科または専攻毎の必修・選択の別 理学療法学科必修
履修要件	理学療法学科3年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	総合リハビリテーション, 医学的リハビリテーション, リハビリテーション医学, チーム医療, 理学療法士, 運動療法, 物理療法, 地域理学療法		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域臨床実習では, 理学療法対象者に対する理学療法アプローチの見学, 一部を補助・体験することを目的とします。 実際には, 通所リハビリテーション, 訪問リハビリテーション利用者に対する理学療法やケアプランの立案過程を見学します。 本実習を通して, 対象者が地域で生活するために, 「活動」と「参加」の結びつきを基軸とした「心身機能」「背景因子」も含めた包括的な理学療法の学修を目指しています。 本科目は理学療法学科専門領域特有の科目であり臨床実習に位置付けられます。		
授業の内容	実習施設にて5日間, 臨床実習指導者の下で臨床実習を実施する。 以下の内容を実習目標とする。 1) 施設および通所・訪問リハビリテーション等の概要を理解する。2) 主治医の指示書やケアプラン等の各種記録物の閲覧, 本人・家族や関連職種から可能な範囲で必要な情報を聴取し, 情報収集の必要性を理解する。3) バイタルサインの測定, 心身機能の評価, 自覚症状の訴え等, 通所・訪問リハビリテーションを実施する上で必要なリスク管理に関する評価方法の習得と対応の重要性を理解する。4) 急変時の連絡・連携方法, 理学療法士が行うべき救急処置等を理解する。5) 通所・訪問リハビリテーション利用者に対する理学療法やケアプランの立案過程を理解する。6) 対象者の生活に根ざした包括的な理学療法を理解する。7) 一連の体験を通じ, 理学療法士としての適切な倫理観と態度を身に付ける。		
成績評価の方法	実習指導者の評価と出席状況, 実習後に課す実習レポートの提出と内容によって総合的に評価する。 無断欠席を行うとその時点で実習が中止になることがある。 正当な理由なく欠席が実習日数の1/5を超えた場合は, 評価の対象とみなさない。		
テキスト	細田多穂/監『シンプル理学療法学シリーズ地域リハビリテーション学テキスト』(南江堂)		
参考文献	実習地での経験に応じ, 各自が他の教科の教科書や参考文献を用意すること。 鶴見隆正/編『標準理学療法学・臨床実習とケーススタディー・第2版』(医学書院) 豊田輝/編『症例動画でわかる理学療法臨床推論 統合と解釈実践テキスト』(羊土社)		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を活かした実践的な教育について】 理学療法士として必要な基礎的能力を身に付けるため, 理学療法の臨床現場において実際に理学療法を実施している場面を医療機関等にて見学する。理学療法士としての経験が5年以上である実習指導者の指導の下, 対象者からの情報収集を経験する。		
授業計画	準備学習		
第1回	地域臨床実習では, 通所・訪問リハビリテーションにおける理学療法の位置付けと理学療法業務の概要を, 実際の臨床場面を見学・一部補助や体験させることによって把握させる。また, 実習指導者の指導・監督の下で, 対象者とのコミュニケーションを図ったり, 対象者の移動を補助的に行ったりすることで, 医療人としての責任感の育成や動機づけの向上を目指す。	学内で学修した事項を整理しておくこと。 臨床実習施設の概要について確認しておくこと。 体調管理に努めること。	

第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		
第16回		
第17回		
第18回		
第19回		
第20回		
第21回		
第22回		
第23回		
第24回		
第25回		
第26回		
第27回		
第28回		
第29回		
第30回		
第31回		
第32回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2022/05/30(月)11:56

授業科目名	キャリアビジョン（デベロップメント）3年生以上対象（集中講義）		
担当教員氏名	原田 淳		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	特に時間帯を定めない（事前にメールか電話で連絡し面談の予約をすること）。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	Zoomミーティングによるオンライン形式で実施する予定。授業日程に従って、講義形式と演習形式の授業を併用して進める。毎回の授業毎に受講レポートに要約、演習や実習による気づきを記すことを求める。		
単位数（時間数）	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科3年生以上対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア形成, ストレスマネジメント, マインドフルネス		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目の目標は、自分自身のキャリアを形成するうえで必要不可欠となる適切にストレスをコントロールする方法について理解することである。そして、心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を実習することにより、自分自身の身体感覚や呼吸に集中し、意識を“いま、ここ”に向けるマインドフルネスを習得する。		
授業の内容	心理・社会的なストレスの特徴について解説し、ストレスマネジメントの方向性について示す。対処法のひとつとして、心身相関的アプローチによる実践的なストレスマネジメントの技法を紹介する。また、ストレスとなる事象に直面したときに生じる心の動きについて説明し、過去の体験の振り返りを行うことにより望ましい認知のあり方について考える。加えて、学内の教員が仕事におけるストレスとの向き合い方について講話する。		
成績評価の方法	講義中の演習50%、レポート課題20%、期末レポート30%で評価する。		
テキスト	テキスト（教科書）は特に指定しない。		
参考文献	参考文献は授業の進行に応じて適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	演習はグループワークを行うため（Zoomミーティングの際はブレイクアウトルームを用いる）、積極的な参加姿勢をもつことを期待する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 企業に勤務経験のある教員が、その経験をふまえて、社会や職場で必要となるストレスのコントロールについて解説する。		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション ・現代社会とストレス ・ストレスマネジメントの必要性 ・実習（呼吸を整える）		
第2回	ストレスとストレス反応 ・ストレスが身体におよぼす影響 ・ストレスが心におよぼす影響 ・ストレスが行動におよぼす影響 ・実習（微細な動きを意識する）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第3回	心理・社会的ストレスの特徴 ・心理・社会的ストレスのしくみ ・心理・社会的ストレスのパターン ・実習（ブリージング・エクササイズ）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第4回	瞑想的運動法 ・実習（ブリージングエクササイズ、アイソメトリック運動）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第5回	ストレスマネジメントの方向性 ・安定した心とは	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第6回	好き・嫌いの感情を克服する ・好き・嫌いが生じるしくみ ・『人間万事塞翁が馬』	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第7回	呼吸の意識化、呼吸法 ・実習（呼吸の意識化、呼吸法）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	

第8回	レジリエンス ・レジリエンスとは ・演習（ライフラインチャート）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第9回	環境調整の方法 ・実習（セクショナルブリージング、完全呼吸法）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第10回	“いま、ここ”を生きる ・マインドフルネス	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第11回	瞑想法 ・実習（リラクゼーション反応、ヴィパッサナー瞑想）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第12回	不安への対処 ・実習（オープンモニタリング瞑想）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第13回	執着・こだわりからの解放 ・実習（呼吸法、瞑想法）	講話に関するレポートを作成する。
第14回	仕事とストレス ・東洋思想の教える仕事への取り組み方	講話に関するレポートを作成する。
第15回	まとめ ・実習（アイソメトリック運動、呼吸法、瞑想法） ・授業評価アンケート ・受講レポート提出に関する説明	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	インターンシップ (Q4)		
担当教員氏名	学部教員, 原田淳 (大学教育実践センター/キャリアセンター)		
研究室の場所	広島キャンパス キャリアセンター		
連絡先電話番号			
オフィシアワー			
E-mail/HP			
授業の形式・方式	対面授業。通年集中講義。 事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、主に講義形式及び演習形式で実施する。実習は原則として夏期休業中に行う。学生は、原則として、事前学習、実習、事後学習の欠席・遅刻・早退は認められない。すべての授業への参加と実習が義務づけられる。		
単位数(時間数)	2.0	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	保健福祉学科2年次対象 保健福祉学部3年生対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析, 就業体験, 職業選択, 職業適性, ビジネスマナー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、将来職業に就くために、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめようとする学生を対象にして、就業体験をさせる。 本科目の目標は、履修学生に、多様な職場や職業に対して関心を持たせるとともに、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えさせることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とすることができる。 本科目は、全学共通教育科目の一つとして位置づけられている。また、学生の進路選択を支援する大学の学生支援プログラムの一部を担うものである。		
授業の内容	企業、行政機関、福祉施設、各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。 事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、自己目標を明確にするグループ別発表・討論等を行う。実習は原則として夏期休業期間中の2週間程度とする。 事後学習では、就業体験の発表を、グループ別発表・討論として行うとともに、全体報告会としても実施する。さらに、実習報告書を作成し、提出させる。		
成績評価の方法	事前学習及び事後学習における課題遂行、実習受入先の評価、実習報告書等を総合して評価する。課題等については第1回の授業において提示する。課題、報告書等の提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。		
テキスト	必要に応じて配布する。		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。 授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。正当な理由なく、履修の途中で放棄、事前学習、実習、事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では、企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては、実践的な研修を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンス	シラバス・コースカタログを事前に目とのおすこと	
第2回	応募手続き等の説明	ガイダンスの内容をよく理解すること	
第3回	応募手続きとビジネスマナー等事前学習	前回の復習および就業体験に関する情報を収集すること	
第4回	事前学習、グループワーク	就業体験先企業等の情報を得ておくこと	
第5回	就業体験	就業体験先企業等について理解をはかり、これまでの復習をしておくこと	

第6回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第7回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第8回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第9回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第10回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第11回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第12回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第13回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第14回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第15回	事後学習および成果発表準備	就業体験時の記録をまとめておくこと
第16回	事後学習および成果発表	就業体験時の記録をまとめておくこと
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	ひろしま理解 (Q2)		
担当教員氏名	鈴木 康之 (代表)		
研究室の場所	広島キャンパス 1912研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィシアワー	研究室に在室中は基本的に対応可。事前にメール等で連絡することが望ましい。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面による講義形式の授業。広島キャンパス発信の遠隔授業。		
単位数 (時間数)	2.0		学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目			
キーワード	広島県、地域、歴史、文化、地理、産業、呉、尾道、世羅、大崎上島、宮島		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>全学共通教育科目の地域課題に位置づける選択科目である。</p> <p>地域への理解を深めるための導入に相当する科目として、最も身近な地域である広島県域を取り上げ、この地域を知解するための初歩的・基本的事項を学修する。</p> <p>具体的には、この地域に特徴的な歴史・文化・地理・産業などの基本的事項を多様な視点から学修することにより、地域の現状を立体的に理解する。これにより、地域課題を発見し、その解決に取り組むための基礎的知識を修得する。</p>		
授業の内容	専門分野の異なる3名の教員が、それぞれの研究分野から広島県域を理解するための方法を提示する。第1～5回を鈴木康之、第6～10回を和田崇、第11～15回を大知徳子が担当する。		
成績評価の方法	各教員がそれぞれ提示した課題に対するレポートを作成し、レポート3本の平均点によって、総合的に評価する。		
テキスト	授業時間に指示する。		
参考文献	岸田裕之 (編) 『広島県の歴史』 山川出版社 その他、授業時間に指示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を活かした実践的な教育について】 この科目では、教育委員会で文化財保護行政、博物館開設・経営の経験を有する教員が、地域の文化資源を理解し、活用する方策について指導する。		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンス—ひろしまとはどのような場所?—	広島県地域とは、どのような特徴をもつ場所なのか考えておく。	
第2回	ひろしまの歴史—原始・古代—	原始・古代の広島県地域のあゆみについて調べておく	
第3回	ひろしまの歴史—中世—	中世の広島県地域のあゆみについて調べておく。	
第4回	ひろしまの歴史—近世—	近世の広島県地域のあゆみについて調べておく。	
第5回	ひろしまの歴史—近現代そして未来—	近現代の広島県地域のあゆみについて調べるとともに、未来への展望について考えておく。	
第6回	水の都・広島	太田川沿いを歩いて感じたことをまとめておこう。	
第7回	海軍とカレーの街・呉	呉海軍カレーを食べて感じたことをまとめておこう。	
第8回	映画の街・尾道	大林監督について調べておこう。	
第9回	駅伝の町・世羅	世羅高校陸上競技部について調べておこう。	
第10回	レモンの島・大崎上島	ひろしま夢ばらざなどで瀬戸内レモン商品をチェックしておこう。	
第11回	厳島と宮島	宮島に関する情報を宮島観光協会等のHPで調べておきましょう。 宮島観光協会 https://www.miyajima.or.jp/	

第12回	厳島神社の宝物	厳島神社の文化財について調べておきましょう。
第13回	描かれた宮島	宮島を描いた作品について調べておきましょう。
第14回	厳島神社の絵馬	宮島VRツアーズを利用して豊国神社（千畳閣）の絵馬を見ておきましょう。 宮島VRツアーズ http://www.hiroshima-jp.com/vt/miyajima/
第15回	宮島の祭	宮島で執り行われる祭りの種類を調べておきましょう。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	地域情報発信論（前期集中）		
担当教員氏名	広谷大助, 藤井宣彰, 吉田倫子, 伊藤俊 他 (広島キャンパス主担当 広谷大助)		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業（状況によってはオンライン（リアルタイム）で実施） 前期集中講義（4日間。2022年8月29日（月）～9月1日（木）の予定） サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む		
単位数（時間数）	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	地域創生学科, 国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 2～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, デイバート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。 本科目は, 全学共通教育「広島と世界」(旧課程), 「地域課題」(新課程)に位置づけられる。		
授業の内容	新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み, 課題を設定した上で, 現地へ出向いて取材し, 意見交換を経て記事をまとめるなど, 地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに, グループで課題解決への提案をまとめ, ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。		
成績評価の方法	課題レポート(50%) グループ討議, ポスター発表を含む, 授業への参加度(50%) なお, 単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする		
テキスト	事前に配付される新聞を用いる		
参考文献	適宜紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は, 掲示により確認すること。 また, 本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため, 4日間全ての出席が必須となる。よって, 1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。 なお, フィールドワークにかかる費用及び試験期間中の新聞購読代金は自己負担となる。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により, 取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回			
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			

第15回	
第16回	
授業計画	<p>授業の流れは概ね次のとおり（一部変更の可能性あり）</p> <p>事前課題：試読期間（7月下旬）に配付された新聞を読み，記事を選んで概要をまとめ，意見を述べる</p> <p>第1日：オリエンテーション，事前課題の確認，新聞の読み方 第2日：取材計画，写真撮影・取材実習（フィールドワーク） 第3日：グループ討議，記事風レポート作成・発表 第4日：ポスター制作，ポスター発表，振り返り討議</p> <p>期間中の課題：翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む</p> <p>事後課題：授業で学び得たことを踏まえて，新たな課題を発見し，レポートをまとめる</p>
シラバス備考	
URLリンク1	
URLリンク2	
URLリンク3	

授業科目名	チーム医療福祉論 (Q2)		
担当教員氏名	吉川ひろみ, 黒田寿美恵, 島谷康司, 坊岡峰子, 永野なおみ		
研究室の場所	吉川 (3404), 黒田 (3509), 島谷 (4429), 坊岡 (2514), 永野 (4524)		
連絡先電話番号	学生便覧を参照		
オフィスアワー	月曜日5限		
E-mail/HP	吉川<yosikawa@pu-hiroshima.ac.jp>, 黒田<kuroda@pu-hiroshima.ac.jp>, 島谷<shimatani@pu-hiroshima.ac.jp>, 坊岡<bouoka@pu-hiroshima.ac.jp>, 永野<nagano@pu-hiroshima.ac.jp> ,		
授業の形式・方式	対面授業, グループワーク		
単位数 (時間数)	1.0	15	学科または専攻毎の必修・選択の別 全コース必修
履修要件	1年次必修科目		
免許等指定科目			
キーワード	ヘルスケア専門職, ヘルスサポーターマインド, チームアプローチ, 患者中心医療, 利用者主体のサービス, リハビリテーション, 倫理		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>【授業の目標】</p> <p>異なる専門領域の学生が共に学ぶ機会を得ることにより, お互いを尊重する姿勢を学ぶ。ケアチームの概念, チームワークの難しさと効果, リーダーシップ, 組織管理について学習する。事例を通して連携の方法論とグループダイナミクスについて考察する。将来よりよいチームアプローチを実践するための基礎を培う。</p> <p>【科目の位置づけ】</p> <p>「地域包括ケアシステムを発展させる科目」群に位置づけられている。</p>		
授業の内容	学科横断的に編成するグループで, チーム医療福祉の事例についてディスカッションする。医療福祉における効果的なチームのあり方について学修する。		
成績評価の方法	発表20%, クイズ30%, レポート50%の割合で評価する。欠席遅刻は減点対象とする。		
テキスト	吉川ひろみ, 上野哲『倫理でスッキリ医療従事者のモヤモヤ解消法』 (シービーアール)		
参考文献	別途指示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>コース選択枠で入学した学生は, 必ず履修すること</p> <p>【実務経験を生かした実践的な教育について】</p> <p>医療福祉現場において実務経験を有する教員が, 多職種連携アプローチの実際について紹介し, 学生はよりよいチーム医療福祉について考える。</p>		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第2回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第3回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第4回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第5回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第6回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第7回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第8回	まとめ	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			

第15回		
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	チーム医療福祉演習（登録用）		
担当教員氏名	古山 千佳子 ほか		
研究室の場所	三原キャンパス 3405研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	担当教員ごとに後日指定する。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	各学科の横断的小グループによる演習形式の授業。講義、小グループでのディスカッション、資料の作成および発表。状況に応じてグループディスカッションおよび発表をオンライン（リアルタイム）で行う場合がある。		
単位数（時間数）	1.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	全学科4年次対象		
免許等指定科目	看護師・保健師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	主体的学習, 討論, 学習方法		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	これまでで学んできた専門知識・技術や実習での経験にもとづき、学科横断的な小グループにより事例を中心に多面的に討論検討する。これを通して各専門職がどのように連携しチーム医療を支えるべきか、専門職としての役割は何かを考えるとともに患者・障害者のための保健医療およびチーム医療のあり方を理解し、説明することができる。 尚、本科目は地域包括ケアシステムを発展させる科目の必須科目として位置づけられており、これまで学んできた専門知識や技術にもとづき、学生主導で行われる。		
授業の内容	学内・現場実習終了後の学生を対象として、学科横断的に編成するチームによって、ロールプレイを用いて具体的なチームによるアプローチを経験する。専門職種相互の理解を深め、相互の専門性を認め、共通の専門用語を駆使して、患者の要求に応えることのできる専門職を養成することを目的とする。 尚、本科目は地域包括ケアシステムを発展させる科目の必須科目として位置づけられており、これまで学んできた専門知識や技術にもとづき、学生主導で行われる。		
成績評価の方法	参加、学習態度、提出物を総合して評価する。		
テキスト	吉川ひろみ, 上野 哲 著『倫理ですっきり 医療従事者のモヤモヤ解消法』（シービーアール）2020		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を生かした実践的な教育について】 学生は、具体的な事例について多職種連携アプローチをディスカッションし、考える。医療福祉現場の実務経験を有する教員が指導する。 これまでの講義、学内実験・実習、臨床実習で学んだことを思い起こし、グループでよく議論すること。 初日に手引きを配布するので、そのスケジュールに従って行動する。		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション3事例（医学的事例）の紹介	所属学科の特性について復習する。	
第2回	各グループ（G）で医学的事例（3事例）の情報をしっかり読み込む。授業時間中（12時前後）に各班の担当事例が公表される	所属学科の特性について復習する。	
第3回	各学科実習室で、見学・説明とデモンストレーション	デモンストレーションの準備。チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する	
第4回	各学科実習室で、見学・説明とデモンストレーション	デモンストレーションの準備。チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する	
第5回	各グループで事例検討	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第6回	各グループで事例検討および発表資料作成	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第7回	各グループで事例検討および発表資料作成	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第8回	中グループで発表（医学的事例）	発表の準備。チーム医療福祉に関わる各専門職	

		の役割と機能について復習する。
第9回	各グループで倫理事例または地域事例の検討	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第10回	各グループで倫理事例または地域事例の検討	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第11回	倫理事例検討の続きと発表資料作成と発表方法の打合せ、グループにより当事者からサービスを受けた経験を聞く場合がある	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第12回	倫理事例検討の続きと発表資料作成と発表方法の打合せ、グループにより当事者からサービスを受けた経験を聞く場合がある	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第13回	倫理事例検討の続きと発表資料作成と発表方法の打合せ、グループにより当事者からサービスを受けた経験を聞く場合がある	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第14回	中グループで発表（倫理事例または地域事例）	発表の準備。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第15回	チーム医療福祉演習全体のまとめと振り返り	これまでの学習を振り返る。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	総合臨床実習Ⅰ（作業）		
担当教員氏名	小池好久, 田中睦英, 久野真矢, 織田靖史, 西田征治, 吉川ひろみ, 古山千佳子, 高木雅之, 助川文子, 池内克馬, 坂本千晶, 増田久美子		
研究室の場所	3406助教室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー			
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	臨床実習施設における実習。作業療法士の臨床実習指導者の下で9週間の臨床実習を行う。実習終了後、学内において事例報告書作成および発表を行う。※状況によって学外実習の代替として学内演習・オンラインで行う場合がある。		
単位数（時間数）	9.0	405	学科または専攻毎の必修・選択の別 必須
履修要件	作業療法学科4年次生対象		
免許等指定科目	作業療法士国家試験の受験資格に係る必修科目		
キーワード	臨床実習, 診療（作業療法）参加型実習, 作業療法評価, 作業療法計画立案, 作業療法介入, 事例報告		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>【目的】 総合臨床実習では、評価により収集した情報から適切な作業療法計画を立案し、実施した結果を再評価によって確認するという作業療法過程を経験し、クライアントを中心としたチームアプローチの中で作業療法士の役割を理解することを目的とする。</p> <p>【一般目標】 臨床実習指導者の指導・監督のもとで、典型的な障害特性を呈するクライアントに対して、以下のことができるようになることを一般目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.作業療法士としての倫理観や基本的態度を身につける。 2.許容される臨床技能を実践できる。 3.臨床実習指導者の作業療法の臨床思考過程（クリニカルリーズニング）を説明し、作業療法の計画立案ができる。 <p>【カリキュラム上の位置付け】 「専門領域特有の科目」の「臨床実習」に位置する。</p> <p>【実務経験を活かした実践的な教育について】 学外の臨床実習施設において作業療法士としての実務経験が5年以上の実習指導者のもとで診療（作業療法）参加型実習形態に基づいて実践的教育を行う。また、科目担当教員も作業療法士としての実務経験が5年以上であり、臨床実習指導者と連携する。実習終了後は事例報告書および発表に関して実践的教育を行う。</p>		
授業の内容	医療機関等に身を置き、診療（作業療法）参加型実習に基づいた臨床実習指導者の指導のもとでクライアントに接し、学内で学んだ作業療法理論に関する知識と技能および態度を身につける。実習終了後、学内において事例報告書を作成し、実習セミナーにおいて発表する。 ※新型コロナウイルス感染状況に関連して、学内臨床演習による実施方法をとる場合がある。		
成績評価の方法	総合臨床実習報告書, 臨床実習録（デイレート）, 事例報告書（または経験報告書）, 自己学習ポートフォリオ, 実習セミナーにおける出席・報告, その他の提出課題に対して総合的に評価する。		
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県立広島大学保健福祉学部作業療法学科：総合臨床実習の手引き。 ・ 吉川ひろみ, 齋藤さわ子：作業療法がわかるCOPM・AMPS実践ガイド。医学書院, 2014。 		
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本作業療法士協会：作業療法臨床実習指針（2018）・作業療法臨床実習の手引き（2018）。 		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>実習施設では職員の一員という心構えで臨むことと、社会人としての対応に逸脱がないよう真摯に実習に取り組むことが必要である。</p> <p>実習中は、守秘義務を遵守すること。また、自己の健康管理にも十分に配慮すること。</p> <p>何かあった場合には、施設担当教員または科目担当教員に連絡を取るようすること。</p> <p>※実習の領域は1期・2期で合わせて検討し配置決めをしている。</p>		
授業計画	準備学習		
第1回	臨床実習ガイダンス（学内）【対面、場合によってはオンライン】	3年次までに学習した専門基礎科目, 専門科目の復習を行っておくこと。	
第2回	第1週目	臨床実習指導者より提示された課題について学	

	作業療法過程を診療（作業療法）・参加型実習により学ぶ（学外：臨床実習施設） ※場合によって学内・オンラインに変更	修すること。
第3回	第2週目 作業療法過程を診療（作業療法）・参加型実習により学ぶ（学外：臨床実習施設） ※場合によって学内・オンラインに変更	実習を通して経験できたこと、学んだこと、調べたことをディリーノート、ポートフォリオとして作成してゆくこと。
第4回	第3週目 作業療法過程を診療（作業療法）・参加型実習により学ぶ（学外：臨床実習施設） ※場合によって学内・オンラインに変更	実習を通して経験できたこと、学んだこと、調べたことをディリーノート、ポートフォリオとして作成してゆくこと。
第5回	第4週目 作業療法過程を診療（作業療法）・参加型実習により学ぶ（学外：臨床実習施設） ※場合によって学内・オンラインに変更	実習を通して経験できたこと、学んだこと、調べたことをディリーノート、ポートフォリオとして作成してゆくこと。
第6回	第5週目 作業療法過程を診療（作業療法）・参加型実習により学ぶ（学外：臨床実習施設） ※場合によって学内・オンラインに変更	実習を通して経験できたこと、学んだこと、調べたことをディリーノート、ポートフォリオとして作成してゆくこと。
第7回	第6週目 作業療法過程を診療（作業療法）・参加型実習により学ぶ（学外：臨床実習施設） ※場合によって学内・オンラインに変更	実習を通して経験できたこと、学んだこと、調べたことをディリーノート、ポートフォリオとして作成してゆくこと。
第8回	第7週目 作業療法過程を診療（作業療法）・参加型実習により学ぶ（学外：臨床実習施設） ※場合によって学内・オンラインに変更	実習を通して経験できたこと、学んだこと、調べたことをディリーノート、ポートフォリオとして作成してゆくこと。
第9回	第8週目 作業療法過程を診療（作業療法）・参加型実習により学ぶ（学外：臨床実習施設） ※場合によって学内・オンラインに変更	実習を通して経験できたこと、学んだこと、調べたことをディリーノート、ポートフォリオとして作成してゆくこと。
第10回	第9週目 作業療法過程を診療（作業療法）・参加型実習により学ぶ（学外：臨床実習施設） ※場合によって学内・オンラインに変更	実習を通して経験できたこと、学んだこと、調べたことをディリーノート、ポートフォリオとして作成してゆくこと。
第11回	10週目 その1 施設担当教員の指導のもと事例報告書（レジュメ）を作成する（学内） ※場合によってオンラインで行う	実習を通して経過を追うことができた事例を選択し、ディリーノート、ポートフォリオから事例の情報をまとめておくこと。 また、実習の手引きに掲載されている事例報告書作成指針やサンプルを読んでおくこと。
第12回	10週目 その2 パワーポイント使用・口述発表による事例報告を行う（学内：実習後セミナー） ※場合によってオンラインで行う	事例発表に関する規定を順守してパワーポイントや口述発表の準備を行っていくこと。
第13回		
第14回		
第15回		
第16回		
第17回		
第18回		
第19回		
第20回		
第21回		
第22回		
第23回		
第24回		
第25回		
第26回		

第27回		
第28回		
第29回		
第30回		
第31回		
第32回		
授業計画	<p>臨床実習施設における実施期間：9週間</p> <p>※実習前のオリエンテーションやガイダンス、実習後のセミナー発表等は、本科目に含まれる内容であるので、必ず出席・発表すること。</p> <p>※実習期間中は、実習施設の勤務体系に合わせた臨床実習を行う。</p>	
シラバス備考		
URLリンク1	<p>日本作業療法士協会：作業療法臨床実習指針（2018）・作業療法臨床実習の手引き（2018）<http://www.jaot.or.jp/wp-content/uploads/2013/12/shishin-tebiki20181.pdf></p>	
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	キャリアビジョン（デベロップメント）3年生以上対象（集中講義）		
担当教員氏名	原田 淳		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	特に時間帯を定めない（事前にメールか電話で連絡し面談の予約をすること）。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	Zoomミーティングによるオンライン形式で実施する予定。授業日程に従って、講義形式と演習形式の授業を併用して進める。毎回の授業毎に受講レポートに要約、演習や実習による気づきを記すことを求める。		
単位数（時間数）	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科3年生以上対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア形成, ストレスマネジメント, マインドフルネス		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目の目標は、自分自身のキャリアを形成するうえで必要不可欠となる適切にストレスをコントロールする方法について理解することである。そして、心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を実習することにより、自分自身の身体感覚や呼吸に集中し、意識を“いま、ここ”に向けるマインドフルネスを習得する。		
授業の内容	心理・社会的なストレスの特徴について解説し、ストレスマネジメントの方向性について示す。対処法のひとつとして、心身相関的アプローチによる実践的なストレスマネジメントの技法を紹介する。また、ストレスとなる事象に直面したときに生じる心の動きについて説明し、過去の体験の振り返りをすることにより望ましい認知のあり方について考える。加えて、学内の教員が仕事におけるストレスとの向き合い方について講話する。		
成績評価の方法	講義中の演習50%、レポート課題20%、期末レポート30%で評価する。		
テキスト	テキスト（教科書）は特に指定しない。		
参考文献	参考文献は授業の進行に応じて適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	演習はグループワークを行うため（Zoomミーティングの際はブレイクアウトルームを用いる）、積極的な参加姿勢をもつことを期待する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 企業に勤務経験のある教員が、その経験をふまえて、社会や職場で必要となるストレスのコントロールについて解説する。		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション ・現代社会とストレス ・ストレスマネジメントの必要性 ・実習（呼吸を整える）		
第2回	ストレスとストレス反応 ・ストレスが身体におよぼす影響 ・ストレスが心におよぼす影響 ・ストレスが行動におよぼす影響 ・実習（微細な動きを意識する）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第3回	心理・社会的ストレスの特徴 ・心理・社会的ストレスのしくみ ・心理・社会的ストレスのパターン ・実習（ブリージング・エクササイズ）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第4回	瞑想的運動法 ・実習（ブリージングエクササイズ、アイソメトリック運動）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第5回	ストレスマネジメントの方向性 ・安定した心とは	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第6回	好き・嫌いの感情を克服する ・好き・嫌いが生じるしくみ ・『人間万事塞翁が馬』	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第7回	呼吸の意識化、呼吸法 ・実習（呼吸の意識化、呼吸法）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	

第8回	レジリエンス ・レジリエンスとは ・演習（ライフラインチャート）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第9回	環境調整の方法 ・実習（セクショナルブリージング、完全呼吸法）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第10回	“いま、ここ”を生きる ・マインドフルネス	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第11回	瞑想法 ・実習（リラクゼーション反応、ヴィパッサナー瞑想）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第12回	不安への対処 ・実習（オープンモニタリング瞑想）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第13回	執着・こだわりからの解放 ・実習（呼吸法、瞑想法）	講話に関するレポートを作成する。
第14回	仕事とストレス ・東洋思想の教える仕事への取り組み方	講話に関するレポートを作成する。
第15回	まとめ ・実習（アイソメトリック運動、呼吸法、瞑想法） ・授業評価アンケート ・受講レポート提出に関する説明	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	インターンシップ (Q4)		
担当教員氏名	学部教員, 原田淳 (大学教育実践センター/キャリアセンター)		
研究室の場所	広島キャンパス キャリアセンター		
連絡先電話番号			
オフィシアワー			
E-mail/HP			
授業の形式・方式	対面授業。通年集中講義。 事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、主に講義形式及び演習形式で実施する。実習は原則として夏期休業中に行う。学生は、原則として、事前学習、実習、事後学習の欠席・遅刻・早退は認められない。すべての授業への参加と実習が義務づけられる。		
単位数(時間数)	2.0	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	保健福祉学科2年次対象 保健福祉学部3年生対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析, 就業体験, 職業選択, 職業適性, ビジネスマナー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、将来職業に就くために、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめようとする学生を対象にして、就業体験をさせる。 本科目の目標は、履修学生に、多様な職場や職業に対して関心を持たせるとともに、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えさせることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とすることができる。 本科目は、全学共通教育科目の一つとして位置づけられている。また、学生の進路選択を支援する大学の学生支援プログラムの一部を担うものである。		
授業の内容	企業、行政機関、福祉施設、各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。 事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、自己目標を明確にするグループ別発表・討論等を行う。実習は原則として夏期休業期間中の2週間程度とする。 事後学習では、就業体験の発表を、グループ別発表・討論として行うとともに、全体報告会としても実施する。さらに、実習報告書を作成し、提出させる。		
成績評価の方法	事前学習及び事後学習における課題遂行、実習受入先の評価、実習報告書等を総合して評価する。課題等については第1回の授業において提示する。課題、報告書等の提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。		
テキスト	必要に応じて配布する。		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。 授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。正当な理由なく、履修の途中で放棄、事前学習、実習、事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では、企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては、実践的な研修を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンス	シラバス・コースカタログを事前に目とのおすこと	
第2回	応募手続き等の説明	ガイダンスの内容をよく理解すること	
第3回	応募手続きとビジネスマナー等事前学習	前回の復習および就業体験に関する情報を収集すること	
第4回	事前学習、グループワーク	就業体験先企業等の情報を得ておくこと	
第5回	就業体験	就業体験先企業等について理解をはかり、これまでの復習をしておくこと	

第6回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第7回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第8回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第9回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第10回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第11回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第12回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第13回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第14回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第15回	事後学習および成果発表準備	就業体験時の記録をまとめておくこと
第16回	事後学習および成果発表	就業体験時の記録をまとめておくこと
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	ひろしま理解 (Q2)		
担当教員氏名	鈴木 康之 (代表)		
研究室の場所	広島キャンパス 1912研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィシアワー	研究室に在室中は基本的に対応可。事前にメール等で連絡することが望ましい。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面による講義形式の授業。広島キャンパス発信の遠隔授業。		
単位数 (時間数)	2.0		学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目			
キーワード	広島県、地域、歴史、文化、地理、産業、呉、尾道、世羅、大崎上島、宮島		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>全学共通教育科目の地域課題に位置づける選択科目である。</p> <p>地域への理解を深めるための導入に相当する科目として、最も身近な地域である広島県域を取り上げ、この地域を知解するための初歩的・基本的事項を学修する。</p> <p>具体的には、この地域に特徴的な歴史・文化・地理・産業などの基本的事項を多様な視点から学修することにより、地域の現状を立体的に理解する。これにより、地域課題を発見し、その解決に取り組むための基礎的知識を修得する。</p>		
授業の内容	専門分野の異なる3名の教員が、それぞれの研究分野から広島県域を理解するための方法を提示する。第1～5回を鈴木康之、第6～10回を和田崇、第11～15回を大知徳子が担当する。		
成績評価の方法	各教員がそれぞれ提示した課題に対するレポートを作成し、レポート3本の平均点によって、総合的に評価する。		
テキスト	授業時間に指示する。		
参考文献	岸田裕之 (編) 『広島県の歴史』 山川出版社 その他、授業時間に指示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を活かした実践的な教育について】 この科目では、教育委員会で文化財保護行政、博物館開設・経営の経験を有する教員が、地域の文化資源を理解し、活用する方策について指導する。		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンスーひろしまとはどのような場所？ー	広島県地域とは、どのような特徴をもつ場所なのか考えておく。	
第2回	ひろしまの歴史ー原始・古代ー	原始・古代の広島県地域のあゆみについて調べておく	
第3回	ひろしまの歴史ー中世ー	中世の広島県地域のあゆみについて調べておく。	
第4回	ひろしまの歴史ー近世ー	近世の広島県地域のあゆみについて調べておく。	
第5回	ひろしまの歴史ー近現代そして未来ー	近現代の広島県地域のあゆみについて調べるとともに、未来への展望について考えておく。	
第6回	水の都・広島	太田川沿いを歩いて感じたことをまとめておこう。	
第7回	海軍とカレーの街・呉	呉海軍カレーを食べて感じたことをまとめておこう。	
第8回	映画の街・尾道	大林監督について調べておこう。	
第9回	駅伝の町・世羅	世羅高校陸上競技部について調べておこう。	
第10回	レモンの島・大崎上島	ひろしま夢ばらざなどで瀬戸内レモン商品をチェックしておこう。	
第11回	厳島と宮島	宮島に関する情報を宮島観光協会等のHPで調べておきましょう。 宮島観光協会 https://www.miyajima.or.jp/	

第12回	厳島神社の宝物	厳島神社の文化財について調べておきましょう。
第13回	描かれた宮島	宮島を描いた作品について調べておきましょう。
第14回	厳島神社の絵馬	宮島VRツアーズを利用して豊国神社（千畳閣）の絵馬を見ておきましょう。 宮島VRツアーズ http://www.hiroshima-jp.com/vt/miyajima/
第15回	宮島の祭	宮島で執り行われる祭りの種類を調べておきましょう。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	地域情報発信論（前期集中）		
担当教員氏名	広谷大助, 藤井宣彰, 吉田倫子, 伊藤俊 他 (広島キャンパス主担当 広谷大助)		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業（状況によってはオンライン（リアルタイム）で実施） 前期集中講義（4日間。2022年8月29日（月）～9月1日（木）の予定） サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む		
単位数（時間数）	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	地域創生学科, 国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 2～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, デイバート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。 本科目は, 全学共通教育「広島と世界」(旧課程), 「地域課題」(新課程)に位置づけられる。		
授業の内容	新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み, 課題を設定した上で, 現地へ出向いて取材し, 意見交換を経て記事をまとめるなど, 地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに, グループで課題解決への提案をまとめ, ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。		
成績評価の方法	課題レポート(50%) グループ討議, ポスター発表を含む, 授業への参加度(50%) なお, 単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする		
テキスト	事前に配付される新聞を用いる		
参考文献	適宜紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は, 掲示により確認すること。 また, 本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため, 4日間全ての出席が必須となる。よって, 1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。 なお, フィールドワークにかかる費用及び試験期間中の新聞購読代金は自己負担となる。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により, 取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回			
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			

第15回	
第16回	
授業計画	<p>授業の流れは概ね次のとおり（一部変更の可能性あり）</p> <p>事前課題：試読期間（7月下旬）に配付された新聞を読み，記事を選んで概要をまとめ，意見を述べる</p> <p>第1日：オリエンテーション，事前課題の確認，新聞の読み方 第2日：取材計画，写真撮影・取材実習（フィールドワーク） 第3日：グループ討議，記事風レポート作成・発表 第4日：ポスター制作，ポスター発表，振り返り討議</p> <p>期間中の課題：翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む</p> <p>事後課題：授業で学び得たことを踏まえて，新たな課題を発見し，レポートをまとめる</p>
シラバス備考	
URLリンク1	
URLリンク2	
URLリンク3	

授業科目名	チーム医療福祉論 (Q2)		
担当教員氏名	吉川ひろみ, 黒田寿美恵, 島谷康司, 坊岡峰子, 永野なおみ		
研究室の場所	吉川 (3404), 黒田 (3509), 島谷 (4429), 坊岡 (2514), 永野 (4524)		
連絡先電話番号	学生便覧を参照		
オフィスアワー	月曜日5限		
E-mail/HP	吉川<yosikawa@pu-hiroshima.ac.jp>, 黒田<kuroda@pu-hiroshima.ac.jp>, 島谷<shimatani@pu-hiroshima.ac.jp>, 坊岡<bouoka@pu-hiroshima.ac.jp>, 永野<nagano@pu-hiroshima.ac.jp> ,		
授業の形式・方式	対面授業, グループワーク		
単位数 (時間数)	1.0	15	学科または専攻毎の必修・選択の別 全コース必修
履修要件	1年次必修科目		
免許等指定科目			
キーワード	ヘルスケア専門職, ヘルスサポーターマインド, チームアプローチ, 患者中心医療, 利用者主体のサービス, リハビリテーション, 倫理		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>【授業の目標】</p> <p>異なる専門領域の学生が共に学ぶ機会を得ることにより, お互いを尊重する姿勢を学ぶ。ケアチームの概念, チームワークの難しさと効果, リーダーシップ, 組織管理について学習する。事例を通して連携の方法論とグループダイナミクスについて考察する。将来よりよいチームアプローチを実践するための基礎を培う。</p> <p>【科目の位置づけ】</p> <p>「地域包括ケアシステムを発展させる科目」群に位置づけられている。</p>		
授業の内容	学科横断的に編成するグループで, チーム医療福祉の事例についてディスカッションする。医療福祉における効果的なチームのあり方について学修する。		
成績評価の方法	発表20%, クイズ30%, レポート50%の割合で評価する。欠席遅刻は減点対象とする。		
テキスト	吉川ひろみ, 上野哲『倫理でスッキリ医療従事者のモヤモヤ解消法』(シービーアール)		
参考文献	別途指示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>コース選択枠で入学した学生は, 必ず履修すること</p> <p>【実務経験を生かした実践的な教育について】</p> <p>医療福祉現場において実務経験を有する教員が, 多職種連携アプローチの実際について紹介し, 学生はよりよいチーム医療福祉について考える。</p>		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第2回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第3回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第4回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第5回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第6回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第7回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第8回	まとめ	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			

第15回		
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	チーム医療福祉演習（登録用）		
担当教員氏名	古山 千佳子 ほか		
研究室の場所	三原キャンパス 3405研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	担当教員ごとに後日指定する。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	各学科の横断的小グループによる演習形式の授業。講義、小グループでのディスカッション、資料の作成および発表。状況に応じてグループディスカッションおよび発表をオンライン（リアルタイム）で行う場合がある。		
単位数（時間数）	1.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	全学科4年次対象		
免許等指定科目	看護師・保健師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	主体的学習, 討論, 学習方法		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	これまでで学んできた専門知識・技術や実習での経験にもとづき、学科横断的な小グループにより事例を中心に多面的に討論検討する。これを通して各専門職がどのように連携しチーム医療を支えるべきか、専門職としての役割は何かを考えるとともに患者・障害者のための保健医療およびチーム医療のあり方を理解し、説明することができる。 尚、本科目は地域包括ケアシステムを発展させる科目の必須科目として位置づけられており、これまで学んできた専門知識や技術にもとづき、学生主導で行われる。		
授業の内容	学内・現場実習終了後の学生を対象として、学科横断的に編成するチームによって、ロールプレイを用いて具体的なチームによるアプローチを経験する。専門職種相互の理解を深め、相互の専門性を認め、共通の専門用語を駆使して、患者の要求に応えることのできる専門職を養成することを目的とする。 尚、本科目は地域包括ケアシステムを発展させる科目の必須科目として位置づけられており、これまで学んできた専門知識や技術にもとづき、学生主導で行われる。		
成績評価の方法	参加、学習態度、提出物を総合して評価する。		
テキスト	吉川ひろみ, 上野 哲 著『倫理ですっきり 医療従事者のモヤモヤ解消法』（シービーアール）2020		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を生かした実践的な教育について】 学生は、具体的な事例について多職種連携アプローチをディスカッションし、考える。医療福祉現場の実務経験を有する教員が指導する。 これまでの講義、学内実験・実習、臨床実習で学んだことを思い起こし、グループでよく議論すること。 初日に手引きを配布するので、そのスケジュールに従って行動する。		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション3事例（医学的事例）の紹介	所属学科の特性について復習する。	
第2回	各グループ（G）で医学的事例（3事例）の情報をしっかり読み込む。授業時間中（12時前後）に各班の担当事例が公表される	所属学科の特性について復習する。	
第3回	各学科実習室で、見学・説明とデモンストレーション	デモンストレーションの準備。チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する	
第4回	各学科実習室で、見学・説明とデモンストレーション	デモンストレーションの準備。チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する	
第5回	各グループで事例検討	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第6回	各グループで事例検討および発表資料作成	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第7回	各グループで事例検討および発表資料作成	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第8回	中グループで発表（医学的事例）	発表の準備。チーム医療福祉に関わる各専門職	

		の役割と機能について復習する。
第9回	各グループで倫理事例または地域事例の検討	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第10回	各グループで倫理事例または地域事例の検討	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第11回	倫理事例検討の続きと発表資料作成と発表方法の打合せ、グループにより当事者からサービスを受けた経験を聞く場合がある	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第12回	倫理事例検討の続きと発表資料作成と発表方法の打合せ、グループにより当事者からサービスを受けた経験を聞く場合がある	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第13回	倫理事例検討の続きと発表資料作成と発表方法の打合せ、グループにより当事者からサービスを受けた経験を聞く場合がある	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第14回	中グループで発表（倫理事例または地域事例）	発表の準備。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第15回	チーム医療福祉演習全体のまとめと振り返り	これまでの学習を振り返る。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	臨床実習Ⅲ（コミュ）		
担当教員氏名	坊岡 峰子ほか		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	各担当教員と要予約		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	集中実習		
単位数（時間数）	4.0	160	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	コミュニケーション障害学科4年次対象		
免許等指定科目	言語聴覚士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	言語聴覚療法、言語聴覚士の役割、臨床体験、チームアプローチ		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	臨床実習Ⅰ・Ⅱで学んだコミュニケーション障害の臨床に関する知識や技能を臨床のなかで実践し、応用するための総合的な能力を身につけることを目標とする。コミュニケーション障害をもつ人を、一人の人として全人的にとらえ対応する能力を身につける。コミュニケーション障害の臨床や関連する領域の臨床業務を理解し、保健・福祉・医療を担う一員としての言語聴覚士の機能や役割を認識し、コミュニケーション障害の臨床を行う能力を身につける。		
授業の内容	本学学内の附属診療センターおよび学外の種類の異なる医療施設や福祉施設において、実習指導者の指導監督のもとに、言語聴覚療法の現場でしか学べない内容を深め、さらに言語聴覚士のあり方も考えていく。 さらに、附属診療センターでの診察場面の見学も含め、関連職種との連携や患者さん本人、ご家族なども含むチーム・アプローチの実際も学ぶ。		
成績評価の方法	実習指導者の報告、実習レポート、実習報告会の発表等により総合的に評価する。		
テキスト	実習指導者の指示に従う。		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	臨床実習の総まとめとして、能動的に学習してほしい。出席日数が不足した場合は単位認定ができないため、健康管理に注意してほしい。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 言語聴覚士としての実務経験を有する教員および学外医療福祉施設指導者が担当中のケースを対象とした臨床実習（見学、検査、評価、訓練計画立案、訓練実施）を計画し、言語聴覚療法の実践について学修する。		
授業計画	準備学習		
第1回	これまでの学習の整理および、3年次の臨床実習の見直しなどにより準備をすすめる。	事前開催する臨床実習オリエンテーションにおいて、実習に対する心構や準備について理解する。 学外実習にむけて、これまでの学習内容の整理、検査実施練習も行っておく。	
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

第16回	
授業計画	臨床実習に関する資料を配布し、講義および演習によるオリエンテーションを行ったうえで、学内実習、学外実習を実施する。コミュニケーション障害学科「臨床実習の手引き」参照。 準備学習については、各実習指導者の指示を仰ぐこと。
シラバス備考	
URLリンク1	
URLリンク2	
URLリンク3	

2022/05/30(月)11:56

授業科目名	キャリアビジョン（デベロップメント）3年生以上対象（集中講義）		
担当教員氏名	原田 淳		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	特に時間帯を定めない（事前にメールか電話で連絡し面談の予約をすること）。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	Zoomミーティングによるオンライン形式で実施する予定。授業日程に従って、講義形式と演習形式の授業を併用して進める。毎回の授業毎に受講レポートに要約、演習や実習による気づきを記すことを求める。		
単位数（時間数）	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科3年生以上対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア形成, ストレスマネジメント, マインドフルネス		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目の目標は、自分自身のキャリアを形成するうえで必要不可欠となる適切にストレスをコントロールする方法について理解することである。そして、心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を実習することにより、自分自身の身体感覚や呼吸に集中し、意識を“いま、ここ”に向けるマインドフルネスを習得する。		
授業の内容	心理・社会的なストレスの特徴について解説し、ストレスマネジメントの方向性について示す。対処法のひとつとして、心身相関的アプローチによる実践的なストレスマネジメントの技法を紹介する。また、ストレスとなる事象に直面したときに生じる心の動きについて説明し、過去の体験の振り返りをすることにより望ましい認知のあり方について考える。加えて、学内の教員が仕事におけるストレスとの向き合い方について講話する。		
成績評価の方法	講義中の演習50%、レポート課題20%、期末レポート30%で評価する。		
テキスト	テキスト（教科書）は特に指定しない。		
参考文献	参考文献は授業の進行に応じて適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	演習はグループワークを行うため（Zoomミーティングの際はブレイクアウトルームを用いる）、積極的な参加姿勢をもつことを期待する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 企業に勤務経験のある教員が、その経験をふまえて、社会や職場で必要となるストレスのコントロールについて解説する。		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション ・現代社会とストレス ・ストレスマネジメントの必要性 ・実習（呼吸を整える）		
第2回	ストレスとストレス反応 ・ストレスが身体におよぼす影響 ・ストレスが心におよぼす影響 ・ストレスが行動におよぼす影響 ・実習（微細な動きを意識する）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第3回	心理・社会的ストレスの特徴 ・心理・社会的ストレスのしくみ ・心理・社会的ストレスのパターン ・実習（ブリージング・エクササイズ）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第4回	瞑想的運動法 ・実習（ブリージングエクササイズ、アイソメトリック運動）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第5回	ストレスマネジメントの方向性 ・安定した心とは	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第6回	好き・嫌いの感情を克服する ・好き・嫌いが生じるしくみ ・『人間万事塞翁が馬』	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	
第7回	呼吸の意識化、呼吸法 ・実習（呼吸の意識化、呼吸法）	前回の資料を読み、振り返りをしておく。	

第8回	レジリエンス ・レジリエンスとは ・演習（ライフラインチャート）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第9回	環境調整の方法 ・実習（セクショナルブリージング、完全呼吸法）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第10回	“いま、ここ”を生きる ・マインドフルネス	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第11回	瞑想法 ・実習（リラクゼーション反応、ヴィパッサナー瞑想）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第12回	不安への対処 ・実習（オープンモニタリング瞑想）	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第13回	執着・こだわりからの解放 ・実習（呼吸法、瞑想法）	講話に関するレポートを作成する。
第14回	仕事とストレス ・東洋思想の教える仕事への取り組み方	講話に関するレポートを作成する。
第15回	まとめ ・実習（アイソメトリック運動、呼吸法、瞑想法） ・授業評価アンケート ・受講レポート提出に関する説明	前回の資料を読み、振り返りしておく。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	インターンシップ (Q4)		
担当教員氏名	学部教員, 原田淳 (大学教育実践センター/キャリアセンター)		
研究室の場所	広島キャンパス キャリアセンター		
連絡先電話番号			
オフィシアワー			
E-mail/HP			
授業の形式・方式	対面授業。通年集中講義。 事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、主に講義形式及び演習形式で実施する。実習は原則として夏期休業中に行う。学生は、原則として、事前学習、実習、事後学習の欠席・遅刻・早退は認められない。すべての授業への参加と実習が義務づけられる。		
単位数(時間数)	2.0	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	保健福祉学科2年次対象 保健福祉学部3年生対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析, 就業体験, 職業選択, 職業適性, ビジネスマナー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、将来職業に就くために、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめようとする学生を対象にして、就業体験をさせる。 本科目の目標は、履修学生に、多様な職場や職業に対して関心を持たせるとともに、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えさせることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とすることができる。 本科目は、全学共通教育科目の一つとして位置づけられている。また、学生の進路選択を支援する大学の学生支援プログラムの一部を担うものである。		
授業の内容	企業、行政機関、福祉施設、各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。 事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、自己目標を明確にするグループ別発表・討論等を行う。実習は原則として夏期休業期間中の2週間程度とする。 事後学習では、就業体験の発表を、グループ別発表・討論として行うとともに、全体報告会としても実施する。さらに、実習報告書を作成し、提出させる。		
成績評価の方法	事前学習及び事後学習における課題遂行、実習受入先の評価、実習報告書等を総合して評価する。課題等については第1回の授業において提示する。課題、報告書等の提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。		
テキスト	必要に応じて配布する。		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。 授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。正当な理由なく、履修の途中で放棄、事前学習、実習、事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では、企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては、実践的な研修を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンス	シラバス・コースカタログを事前に目とのおすこと	
第2回	応募手続き等の説明	ガイダンスの内容をよく理解すること	
第3回	応募手続きとビジネスマナー等事前学習	前回の復習および就業体験に関する情報を収集すること	
第4回	事前学習、グループワーク	就業体験先企業等の情報を得ておくこと	
第5回	就業体験	就業体験先企業等について理解をはかり、これまでの復習をしておくこと	

第6回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第7回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第8回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第9回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第10回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第11回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第12回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第13回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第14回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第15回	事後学習および成果発表準備	就業体験時の記録をまとめておくこと
第16回	事後学習および成果発表	就業体験時の記録をまとめておくこと
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	ひろしま理解 (Q2)		
担当教員氏名	鈴木 康之 (代表)		
研究室の場所	広島キャンパス 1912研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィリアワー	研究室に在室中は基本的に対応可。事前にメール等で連絡することが望ましい。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面による講義形式の授業。広島キャンパス発信の遠隔授業。		
単位数 (時間数)	2.0		学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	学生便覧参照		
免許等指定科目			
キーワード	広島県、地域、歴史、文化、地理、産業、呉、尾道、世羅、大崎上島、宮島		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>全学共通教育科目の地域課題に位置づける選択科目である。</p> <p>地域への理解を深めるための導入に相当する科目として、最も身近な地域である広島県域を取り上げ、この地域を知解するための初歩的・基本的事項を学修する。</p> <p>具体的には、この地域に特徴的な歴史・文化・地理・産業などの基本的事項を多様な視点から学修することにより、地域の現状を立体的に理解する。これにより、地域課題を発見し、その解決に取り組むための基礎的知識を修得する。</p>		
授業の内容	専門分野の異なる3名の教員が、それぞれの研究分野から広島県域を理解するための方法を提示する。第1～5回を鈴木康之、第6～10回を和田崇、第11～15回を大知徳子が担当する。		
成績評価の方法	各教員がそれぞれ提示した課題に対するレポートを作成し、レポート3本の平均点によって、総合的に評価する。		
テキスト	授業時間に指示する。		
参考文献	岸田裕之 (編) 『広島県の歴史』 山川出版社 その他、授業時間に指示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を活かした実践的な教育について】 この科目では、教育委員会で文化財保護行政、博物館開設・経営の経験を有する教員が、地域の文化資源を理解し、活用する方策について指導する。		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンスーひろしまとはどのような場所？ー	広島県地域とは、どのような特徴をもつ場所なのか考えておく。	
第2回	ひろしまの歴史ー原始・古代ー	原始・古代の広島県地域のあゆみについて調べておく	
第3回	ひろしまの歴史ー中世ー	中世の広島県地域のあゆみについて調べておく。	
第4回	ひろしまの歴史ー近世ー	近世の広島県地域のあゆみについて調べておく。	
第5回	ひろしまの歴史ー近現代そして未来ー	近現代の広島県地域のあゆみについて調べるとともに、未来への展望について考えておく。	
第6回	水の都・広島	太田川沿いを歩いて感じたことをまとめておこう。	
第7回	海軍とカレーの街・呉	呉海軍カレーを食べて感じたことをまとめておこう。	
第8回	映画の街・尾道	大林監督について調べておこう。	
第9回	駅伝の町・世羅	世羅高校陸上競技部について調べておこう。	
第10回	レモンの島・大崎上島	ひろしま夢ばらざなどで瀬戸内レモン商品をチェックしておこう。	
第11回	厳島と宮島	宮島に関する情報を宮島観光協会等のHPで調べておきましょう。 宮島観光協会 https://www.miyajima.or.jp/	

第12回	厳島神社の宝物	厳島神社の文化財について調べておきましょう。
第13回	描かれた宮島	宮島を描いた作品について調べておきましょう。
第14回	厳島神社の絵馬	宮島VRツアーズを利用して豊国神社（千畳閣）の絵馬を見ておきましょう。 宮島VRツアーズ http://www.hiroshima-jp.com/vt/miyajima/
第15回	宮島の祭	宮島で執り行われる祭りの種類を調べておきましょう。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	地域情報発信論（前期集中）		
担当教員氏名	広谷大助, 藤井宣彰, 吉田倫子, 伊藤俊 他 (広島キャンパス主担当 広谷大助)		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業（状況によってはオンライン（リアルタイム）で実施） 前期集中講義（4日間。2022年8月29日（月）～9月1日（木）の予定） サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む		
単位数（時間数）	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	地域創生学科, 国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 2～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, デイバート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。 本科目は, 全学共通教育「広島と世界」（旧課程）, 「地域課題」（新課程）に位置づけられる。		
授業の内容	新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み, 課題を設定した上で, 現地へ出向いて取材し, 意見交換を経て記事をまとめるなど, 地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに, グループで課題解決への提案をまとめ, ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。		
成績評価の方法	課題レポート（50%） グループ討議, ポスター発表を含む, 授業への参加度（50%） なお, 単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする		
テキスト	事前に配付される新聞を用いる		
参考文献	適宜紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は, 掲示により確認すること。 また, 本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため, 4日間全ての出席が必須となる。よって, 1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。 なお, フィールドワークにかかる費用及び試験期間中の新聞購読代金は自己負担となる。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により, 取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回			
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			

第15回	
第16回	
授業計画	<p>授業の流れは概ね次のとおり（一部変更の可能性あり）</p> <p>事前課題：試読期間（7月下旬）に配付された新聞を読み，記事を選んで概要をまとめ，意見を述べる</p> <p>第1日：オリエンテーション，事前課題の確認，新聞の読み方 第2日：取材計画，写真撮影・取材実習（フィールドワーク） 第3日：グループ討議，記事風レポート作成・発表 第4日：ポスター制作，ポスター発表，振り返り討議</p> <p>期間中の課題：翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む</p> <p>事後課題：授業で学び得たことを踏まえて，新たな課題を発見し，レポートをまとめる</p>
シラバス備考	
URLリンク1	
URLリンク2	
URLリンク3	

授業科目名	チーム医療福祉論 (Q2)		
担当教員氏名	吉川ひろみ, 黒田寿美恵, 島谷康司, 坊岡峰子, 永野なおみ		
研究室の場所	吉川 (3404), 黒田 (3509), 島谷 (4429), 坊岡 (2514), 永野 (4524)		
連絡先電話番号	学生便覧を参照		
オフィスアワー	月曜日5限		
E-mail/HP	吉川<yosikawa@pu-hiroshima.ac.jp>, 黒田<kuroda@pu-hiroshima.ac.jp>, 島谷<shimatani@pu-hiroshima.ac.jp>, 坊岡<bouoka@pu-hiroshima.ac.jp>, 永野<nagano@pu-hiroshima.ac.jp> ,		
授業の形式・方式	対面授業, グループワーク		
単位数 (時間数)	1.0	15	学科または専攻毎の必修・選択の別 全コース必修
履修要件	1年次必修科目		
免許等指定科目			
キーワード	ヘルスケア専門職, ヘルスサポーターマインド, チームアプローチ, 患者中心医療, 利用者主体のサービス, リハビリテーション, 倫理		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>【授業の目標】</p> <p>異なる専門領域の学生が共に学ぶ機会を得ることにより, お互いを尊重する姿勢を学ぶ。ケアチームの概念, チームワークの難しさと効果, リーダーシップ, 組織管理について学習する。事例を通して連携の方法論とグループダイナミクスについて考察する。将来よりよいチームアプローチを実践するための基礎を培う。</p> <p>【科目の位置づけ】</p> <p>「地域包括ケアシステムを発展させる科目」群に位置づけられている。</p>		
授業の内容	学科横断的に編成するグループで, チーム医療福祉の事例についてディスカッションする。医療福祉における効果的なチームのあり方について学修する。		
成績評価の方法	発表20%, クイズ30%, レポート50%の割合で評価する。欠席遅刻は減点対象とする。		
テキスト	吉川ひろみ, 上野哲『倫理でスッキリ医療従事者のモヤモヤ解消法』 (シービーアール)		
参考文献	別途指示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>コース選択枠で入学した学生は, 必ず履修すること</p> <p>【実務経験を生かした実践的な教育について】</p> <p>医療福祉現場において実務経験を有する教員が, 多職種連携アプローチの実際について紹介し, 学生はよりよいチーム医療福祉について考える。</p>		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第2回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第3回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第4回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第5回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第6回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第7回	チーム医療福祉の理論と実践 グループディスカッション	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第8回	まとめ	テキストや資料を読んで考えをまとめる。	
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			

第15回		
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク 1		
URLリンク 2		
URLリンク 3		

授業科目名	チーム医療福祉演習（登録用）		
担当教員氏名	古山 千佳子 ほか		
研究室の場所	三原キャンパス 3405研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	担当教員ごとに後日指定する。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	各学科の横断的小グループによる演習形式の授業。講義、小グループでのディスカッション、資料の作成および発表。状況に応じてグループディスカッションおよび発表をオンライン（リアルタイム）で行う場合がある。		
単位数（時間数）	1.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	全学科4年次対象		
免許等指定科目	看護師・保健師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	主体的学習, 討論, 学習方法		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>これまでに学んできた専門知識・技術や実習での経験にもとづき、学科横断的な小グループにより事例を中心に多面的に討論検討する。これを通して各専門職がどのように連携しチーム医療を支えるべきか、専門職としての役割は何かを考えるとともに患者・障害者のための保健医療およびチーム医療のあり方を理解し、説明することができる。</p> <p>尚、本科目は地域包括ケアシステムを発展させる科目の必須科目として位置づけられており、これまで学んできた専門知識や技術にもとづき、学生主導で行われる。</p>		
授業の内容	<p>学内・現場実習終了後の学生を対象として、学科横断的に編成するチームによって、ロールプレイを用いて具体的なチームによるアプローチを経験する。専門職種相互の理解を深め、相互の専門性を認め、共通の専門用語を駆使して、患者の要求に応えることのできる専門職を養成することを目的とする。</p> <p>尚、本科目は地域包括ケアシステムを発展させる科目の必須科目として位置づけられており、これまで学んできた専門知識や技術にもとづき、学生主導で行われる。</p>		
成績評価の方法	参加、学習態度、提出物を総合して評価する。		
テキスト	吉川ひろみ, 上野 哲 著『倫理ですっきり 医療従事者のモヤモヤ解消法』（シービーアール）2020		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>【実務経験を生かした実践的な教育について】</p> <p>学生は、具体的な事例について多職種連携アプローチをディスカッションし、考える。医療福祉現場の実務経験を有する教員が指導する。</p> <p>これまでの講義、学内実験・実習、臨床実習で学んだことを思い起こし、グループでよく議論すること。</p> <p>初日に手引きを配布するので、そのスケジュールに従って行動する。</p>		
授業計画	準備学習		
第1回	オリエンテーション3事例（医学的事例）の紹介	所属学科の特性について復習する。	
第2回	各グループ（G）で医学的事例（3事例）の情報をしっかり読み込む。授業時間中（12時前後）に各班の担当事例が公表される	所属学科の特性について復習する。	
第3回	各学科実習室で、見学・説明とデモンストレーション	デモンストレーションの準備。チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する	
第4回	各学科実習室で、見学・説明とデモンストレーション	デモンストレーションの準備。チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する	
第5回	各グループで事例検討	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第6回	各グループで事例検討および発表資料作成	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第7回	各グループで事例検討および発表資料作成	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する。	
第8回	中グループで発表（医学的事例）	発表の準備。チーム医療福祉に関わる各専門職	

		の役割と機能について復習する。
第9回	各グループで倫理事例または地域事例の検討	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第10回	各グループで倫理事例または地域事例の検討	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第11回	倫理的事例検討の続きと発表資料作成と発表方法の打合せ、グループにより当事者からサービスを受けた経験を聞く場合がある	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第12回	倫理的事例検討の続きと発表資料作成と発表方法の打合せ、グループにより当事者からサービスを受けた経験を聞く場合がある	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第13回	倫理的事例検討の続きと発表資料作成と発表方法の打合せ、グループにより当事者からサービスを受けた経験を聞く場合がある	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第14回	中グループで発表（倫理的事例または地域事例）	発表の準備。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第15回	チーム医療福祉演習全体のまとめと振り返り	これまでの学習を振り返る。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（Q3・Q4）		
担当教員氏名	米倉裕希子、伊藤泰三、國定美香、志賀信夫、住居広士、田中聡子、手島洋、永野なおみ、松宮透高、湯川順子、吉田倫子		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	事前に予約してください。可能な限り対応します。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	全体での講義やグループワーク、少人数でのグループ学習や個別指導など授業日程にしたがい、実践的な技術等を指導する。		
単位数（時間数）	1.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	人間福祉学コース1年次対象		
免許等指定科目	社会福祉士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	社会福祉士、実習指導、ソーシャルワーク実習		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>ソーシャルワーク実習の意義・目的について理解する。そのために、社会福祉士に求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を理解する。また、ソーシャルワークに係る知識と技術について総合的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。</p> <p>本授業は、2年次以降のソーシャルワーク実習に向けて導入的位置づけにある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ソーシャルワーク実習の意義について理解し説明できる。 2. ソーシャルワーク実習の対象となる施設・機関を理解し説明できる。 3. ソーシャルワーク実習の対象となる施設・機関を必要とする利用者を理解し説明できる。 4. ソーシャルワークに係る知識や技術について具体的かつ実際に理解し説明できる。 5. 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理について理解し説明できる。 6. ソーシャルワーク実習に向けての目標や達成課題を説明できる。 <p>カリキュラム上の位置づけ：専門領域特有の科目（ソーシャルワーク実践を修得する科目）</p>		
授業の内容	<p>講義やグループ学習、見学実習を通して実習分野に関する基本的な理解やソーシャルワークの技術、関連業務、守秘義務等について学ぶ。</p> <p>2、3年次の配属実習に先立って、主として学内においてソーシャルワーク実習の意義を学ぶ。担当教員の講義、視聴覚教材の活用やロールプレイ、福祉現場職員や当事者・家族からの報告を交え、また、見学等を通して社会福祉施設・機関の実際や専門援助技術の方法を学ぶとともに、主体的に課題を発見していく。</p>		
成績評価の方法	<p>(1) 授業への積極的な参加態度 40%</p> <p>・プレゼンテーション、ゲストスピーカーへのインタビュー など</p> <p>(2) 提出課題 60%</p> <p>・ワークシート、プレゼンテーションスライド など</p> <p>(1)(2)を総合的に判断する。</p>		
テキスト	<p>一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（2021）「ソーシャルワーク実習指導ソーシャルワーク実習〔社会専門〕」中央法規。</p> <p>※ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ通して使用する</p>		
参考文献	適宜授業内で紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> ・無断欠席禁止。 ・課題の提出期限厳守。 ・ソーシャルワーク実習を履修するための前提科目である。 		
授業計画	準備学習		
第1回	<p>[授業テーマ]</p> <p>実習の意義・目的 オリエンテーション</p> <p>[授業内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習とは ・ソーシャルワーカーに求められる役割 	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスを確認する。 ・テキスト序章、第1章を読む。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・実習及び実習指導の意義と目的 ・実習の構造 <p>[教科書該当部分] 序章 講義-演習-実習の循環 第1章 ソーシャルワーク実習の目的と構造</p>	
第2回	<p>[授業テーマ] 実習分野に関する基本的な理解</p> <p>[授業内容] ・情報収集の方法 ・ソーシャルワーク実習の分野と施設・機関の理解 ・現場体験学習および見学実習</p> <p>[教科書該当部分] 第2章 実習先決定に向けた準備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第2章を読む。 ・SW1_ワークシート(1) 見学実習の施設・機関について調べる。
第3回	<p>[授業テーマ] 見学実習の事前学習：見学施設に関する基本的な理解</p> <p>[授業内容] ・見学実習施設についての情報収集（現場体験学習の事前学習） ・計画の作成</p> <p>[教科書該当部分] 第2章 実習先決定に向けた準備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SW1_ワークシート(2)見学実習で学びたいことを整理する。
第4回	<p>[授業テーマ] 見学実習</p> <p>[授業内容] ・見学実習の実際</p> <p>[教科書該当部分] 第2章 実習先決定に向けた準備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SW1_ワークシート(1)(2)を復習する。
第5回	<p>[授業テーマ] 見学実習のふりかえりと課題の整理</p> <p>[授業内容] ・見学実習の振り返りを発表（スーパービジョン）</p> <p>[教科書該当部分] 第2章 実習先決定に向けた準備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SW1_ワークシート(3)見学実習での学びをまとめる。
第6回	<p>[授業テーマ] 実習分野に関する基本的な理解</p> <p>[授業内容] ・利用者理解 利用者本人の理解（ゲストスピーカー）</p> <p>[教科書該当部分] 第6章 実習の実際</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SW1_ワークシート(4)ゲストスピーカーへのインタビュー内容を整理しまとめる。
第7回	<p>[授業テーマ] 実習分野に関する基本的な理解</p> <p>[授業内容] ・利用者理解 家族の理解（ゲストスピーカー）</p> <p>[教科書該当部分] 第6章 実習の実際</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SW1_ワークシート(4)ゲストスピーカーへのインタビュー内容を整理しまとめる。

第8回	<p>[授業テーマ] 実習分野に関する基本的な理解</p> <p>[授業内容] ・利用者理解の振り返りと発表 ・個別面談</p> <p>[教科書該当部分] 第6章 実習の実際</p>	<p>・SW1_ワークシート(4) (5)を振り返り発表できるように準備をする。</p>
第9回	<p>[授業テーマ] 実習分野に関する基本的な理解</p> <p>[授業内容] ・個別面談</p> <p>[教科書該当部分] 第2章 実習先決定に向けた準備</p>	<p>・自己の関心や課題を整理し、実習希望調査を作成する。</p>
第10回	<p>[授業テーマ] 実習先での関連業務に関する基本的な理解</p> <p>[授業内容] ・実習報告会への参加</p> <p>[教科書該当部分] 第2章 実習先決定に向けた準備</p>	<p>・実習報告会の発表レジュメに目を通し、報告者への質問等を整理する。</p>
第11回	<p>[授業テーマ] 実習分野に関する基本的な理解 ：児童・家庭福祉分野と社会保障・貧困に対する支援分野</p> <p>[授業内容] ・利用者やその関係者等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係形成 ・利用者やその関係者との援助関係の形成 ・保育技術等の理解</p> <p>[教科書該当部分] 第6章 実習の実際</p>	<p>・SW1_ワークシート(6)保育技術等について調べまとめる。</p>
第12回	<p>[授業テーマ] 実習分野に関する基本的な理解 ：高齢者福祉分野と地域福祉と包括的支援体制分野</p> <p>[授業内容] ・利用者やその関係者等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係形成 ・利用者やその関係者との援助関係の形成 ・介護技術の理解</p> <p>[教科書該当部分] 第6章 実習の実際</p>	<p>・SW1_ワークシート(7)基本的な介護技術について調べまとめる。</p>
第13回	<p>[授業テーマ] 実習分野に関する基本的な理解 ：障害者福祉分野と保健医療分野</p> <p>[授業内容] ・利用者やその関係者等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係形成 ・利用者やその関係者との援助関係の形成 ・介護技術の理解</p> <p>[教科書該当部分] 第6章 実習の実際</p>	<p>・SW1_ワークシート(8)基本的なコミュニケーション技術について調べまとめる。</p>

第14回	<p>[授業テーマ] ソーシャルワークに係る知識と技術に関する理解</p> <p>[授業内容] ・実習の心がまえと社会福祉士の価値 現場で働くSWの講話（ゲストスピーカー）</p> <p>[教科書該当部分] 第6章 実習の実際</p>	<p>・SW1_ワークシート(9)社会福祉士の役割と業務について調べ、ゲストスピーカーへのインタビュー内容を整理しまとめる。</p>
第15回	<p>[授業テーマ] 個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解 実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解</p> <p>[授業内容] ・社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任 ・社会福祉士の倫理綱領と行動規範 ・ソーシャルワーク実習における個人情報の取り扱いに関するガイドラインに基づいた実習記録の記載について</p> <p>[教科書該当部分] 第6章 実習の実際</p>	<p>・SW1_ワークシート(10)社会福祉士の倫理綱領と行動機関について調べてまとめる。</p>
第16回	<p>[授業のテーマ] まとめ（総括）</p> <p>[授業内容] ・ソーシャルワーク実習指導Ⅰの学びの成果をまとめ発表する。 ・ソーシャルワーク実習Ⅰで学びたいことを整理し目標を立てる。</p>	<p>・ソーシャルワーク実習指導Ⅰでの学びを踏まえ、ソーシャルワーク実習Ⅰの目標をプレゼンできるよう準備する。</p>
授業計画		
シラバス備考	<p>・事前学習（ワークシート）をもとにした授業を展開する。</p> <p>・グループについては初回授業で確認する。</p> <p>・原則少人数によるグループ学習の形態だが、オリエンテーションや見学実習、ゲストスピーカーの講話、実習報告会などは合同授業で行うため、授業内容と教室を確認して出席する。</p> <p>・見学実習については、学外での授業のため、授業時間外で行い、現地集合・解散等もある。担当教員に十分確認する。</p> <p>・ソーシャルワーク実習Ⅰの実習希望調査票の提出は11月末ごろを予定している。</p>	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	精神保健福祉実習指導 I (Q3・Q4)		
担当教員氏名	澤田千恵・江本純子・金子努・越智あゆみ・大下由美・細羽竜也・勝見吉彰・吉田倫子		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィリアワー	メールで随時対応します。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。履修学生を2つのグループに分ける(1クラス20人以下)。一部、グループ討議を取り入れる。		
単位数(時間数)	1.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	人間福祉学科2年次対象		
免許等指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格にかかわる必修科目		
キーワード	精神保健福祉士、精神障害者、精神科病院、地域移行支援、地域生活支援		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>この授業では、履修学生の到達目標を以下のように設定する。</p> <p>〈知識・技能の観点〉</p> <p>①精神保健福祉現場実習の意義について説明できる。</p> <p>②精神保健福祉士という国家資格が社会的に要請された背景やその職域について説明できる。</p> <p>〈思考・判断・表現の観点〉</p> <p>①精神障害者の置かれている現状や、その生活の実態や生活上の困難について、歴史的な背景をふまえて説明できる。</p> <p>②精神保健福祉士が精神障害者の相談・支援や社会的復権に果たす役割について説明できる。</p> <p>〈主体性・協働性の観点〉</p> <p>①準備学習を行い、調べた内容についてまとめ、授業時にわかりやすく説明できる。</p> <p>②グループワークにおいて、時間配分に気を配りながら、参加者全員の発言に耳を傾け、グループの意見をまとめることができる。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉</p> <p>精神保健福祉士国家試験受験資格取得においての必修科目。3・4年次配当の精神保健福祉現場実習Ⅰ・Ⅱおよび精神保健福祉現場実習指導Ⅱ・Ⅲを履修するためには、精神保健福祉現場実習指導Ⅰを履修しなければならない。</p>		
授業の内容	この授業では、精神保健福祉士が要請されてきた社会的・歴史的背景について学ぶ。そして、精神保健福祉士が果たすべき役割や必要とされる職域について理解する。また、現場実習に必要な知識やマナーを身につけ、現場実習に臨むための基礎力を培い、実習への動機づけを高める。		
成績評価の方法	成績評価の方法：毎回のリアクション・ペーパー（授業内容をしっかりふまえた感想や質問であるかどうかで評価）と、授業時に提示する課題で総合的に評価する。授業時の課題に関しては、やむをえない事情がある場合のみ、提出期限の1週間後までは受け取る。ただし、提出期限後の提出分については減点の対象となる。		
テキスト	使用しない。資料を配布する。		
参考文献	『県立広島大学 精神保健福祉現場実習の手引き』、その他、授業中に適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	精神保健福祉士国家試験受験資格の取得を希望する学生は、必ず履修すること。 受講条件：夏休みの課題を提出期限厳守で提出すること。提出がない場合は授業を履修できない。 20分以上の遅刻は欠席扱いとします。 授業内容と関係ない私語を禁止します。		
授業計画	準備学習		
第1回	精神保健福祉現場実習で学ぶこと(実習指導の意義) +精神保健福祉士とは(精神保健福祉士の業務紹介) 担当教員：澤田・江本	精神保健福祉士には、どのような役割と機能を期待されているのかについて考えてくる。	
第2回	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解(事例学習) 実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解(個人情報保護法の理解を含む) 担当教員：江本	日本精神保健福祉士協会倫理綱領(実習の手引き)をよく読んでおくこと。	
第3回	精神保健福祉士はなぜ必要か(精神保健医療福祉の現状：精神科病院とは、制度変革とPSW)	以下の記事をインターネットでダウンロードして読み、自分の考えを発表できるよう準備して	

	担当教員：澤田	おくこと。ハートネットTV「60歳からの青春—精神科病院40年をへて—」(2014年6月10日放送)の番組まるごとテキスト https://www.nhk.or.jp/heart-net/article/4/
第4回	自己覚知はなぜ必要か(利用者のニーズを理解し、業務を実践するためのツール) 担当教員：勝見	事前配布資料を読み、自己覚知の必要性について自分なりの考えをまとめ、口頭で報告できるように準備しておくこと。
第5回	精神科医療機関における記録の方法とその留意点を学習したうえで、「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解を図る。 担当教員：金子	事前に配布された模擬実習記録をもとに課題レポートを提出する。
第6回	精神保健福祉士が働く実践現場について理解を深める 担当教員：越智	精神保健福祉士が働く実践現場について調べてみる。
第7回	実習指導者や他職種の援助者との円滑な実践的態度(学ぶ姿勢)、実習中のマナー(メール・お礼状の書き方、電話のかけ方) 担当教員：江本	事前配布資料を読んでくること。 ①現場実習のお礼状の書き方について、社会福祉の実習の授業で学んだことを復習する。その時の課題を持参すること。②模擬課題に取り組んでもらうので、各自、お礼状を書くための便箋と封筒を持参する。
第8回	実習ロールプレイ 担当教員：大下	初対面でのコミュニケーション過程で、自分が選択しやすい行動(緊張して顔が強張る、立ちすくんでしまうなど)について考察してくる。また、普段自分が使用している「非言語メッセージ」(表情、声の抑揚、高さ、大きさ、態度、立ち居振る舞いなど)について考察してくる。
第9回	地域で生活する当事者をお招きし、精神障害の当事者が地域で生活するうえでの苦労や楽しみ、生活の工夫や必要な支援などについて考える。 担当教員：澤田	外部講師が所属する事業所のホームページを見て、どのような事業を行っているか(例：法人の理念および運営している事業所の種類や特徴、地域とのつながりなど)を確認しておくこと。
第10回	精神保健福祉援助実習報告会の映像視聴(3・4年生の実習報告を聞き、現場実習の実際を知り、実習に向けての意識を高める) 澤田・江本	①実習に対する問題意識を深める重要な学びの機会であるという心構えを持つ。②積極的に質問すること。関心を持ったところやわからなかったところをメモしながら聞くことを心掛ける。
第11回	精神科医療の現状と利用者理解(精神科医療(主として病院)の状況と入院している利用者の状況、また利用者とのかかわり方) 担当教員：江本	精神科医療の現状と利用者理解(精神科医療(主として病院)の状況と入院している利用者の状況、また利用者とのかかわり方)について調べてみる。
第12回	現場実習オリエンテーション+見学実習・グループ発表の説明と準備 担当教員 実習オリエンテーション：金子・越智 見学実習・グループ発表：大下・江本・澤田・吉田	第1回授業時に配布している過去の実習報告書を読んでおくこと。
第13回	「精神保健福祉士が働く実践現場について理解を深める」感想レポートの振り返り 担当教員：越智	各自が作成した感想レポートを読んでおく。
第14回	精神実習の流れ(個別面談、三者協議、事前学習等)の説明+質疑応答(前半30分 越智) 実習記録の課題の振り返り(後半60分 金子)	12回目の授業時に返却した「実習記録の課題」の添削結果を確認し、当日持参すること。
第15回	外部講師による講義の振り返り 担当教員：澤田	提出した自分のレポートを振り返り、みんなで議論して深めたいテーマについて考えておく。

第16回	
授業計画	
シラバス備考	
URLリンク 1	
URLリンク 2	
URLリンク 3	

授業科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ (Q1～Q4)		
担当教員氏名	湯川 順子、伊藤 泰三、國定 美香、志賀 信夫、住居 広士、田中 聡子、手島 洋、永野 なおみ、松宮 透高、吉田 倫子、米倉 裕希子		
研究室の場所	学生便覧参照 (社会福祉実習担当教員)		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィリアワー	事前予約してください。可能な限り対応します。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	全体での講義やグループワーク、少人数でのグループ学習や個別指導など授業日程に従い、実践的な技術等を指導する。		
単位数 (時間数)	1.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	人間福祉学コース2年次対象、ソーシャルワーク実習指導Ⅰの単位を修得していること		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	社会福祉士、実習指導、ソーシャルワーク実習		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>本授業はソーシャルワーク実習 (職場及び職種を理解を深める配属実習) の事前事後学習を通して、実践的な技術や知識を体得するものである。</p> <p>1. ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識や技術について具体的かつ実際に理解し、表現できる。</p> <p>2. 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力について理解し、表現できる。</p> <p>3. 実習前から実習後までの一連の学習を通して、ソーシャルワーク実習で得た体験を振り返り、専門的知識及び技術として体系立てて理解し、表現できる。</p> <p>カリキュラム上の位置づけ：専門領域特有の科目 (ソーシャルワーク実践を修得する科目)</p>		
授業の内容	①ソーシャルワーク実習の目的と意義②社会福祉の対象者とその課題のとらえ方 (利用者理解) ③社会福祉施設・機関の種類と内容④社会福祉専門職の種類と業務内容⑤実習生個人票の作成、実習計画の作成⑥社会福祉専門職の倫理、個人のプライバシー保護と守秘義務・三者協議の留意点⑦実習記録の方法⑧相談援助実習において、社会人としてのマナーと利用者に対する接遇⑨実習の振り返り⑩実習報告書の作成⑪実習報告会でプレゼンテーション⑫3年生の実習報告会への参加。		
成績評価の方法	授業への積極的な参加態度20%、授業時に提示する課題40%、定期試験40%で総合的に評価する。		
テキスト	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編 (2021) 『ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習[社会専門] 最新社会福祉士養成講座』中央法規出版 県立広島大学 『ソーシャルワーク実習の手引き (2022年度版) 』		
参考文献	「社会福祉実習の手引き」に示す参考文献 その他、実習領域ごとに必要な基礎文献を担当教員より紹介する		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	本科目は「ソーシャルワーク実習Ⅰ」に連動するものであり、前期末に中間試験を実施する。 無断欠席禁止。また、課題の提出期限厳守。		

授業計画	準備学習
第1回 オリエンテーション ソーシャルワーク実習Ⅰの意義・目的	テキストの該当箇所を読む
第2回 実習施設と利用者の理解 (1)	テキストの該当箇所を読む 実習分野や利用者について調べ、ワークシートを作成する
第3回 施設見学	見学施設の概要について調べる
第4回 施設見学の振り返り・実習生個人票の作成	テキストの該当箇所を読む
第5回 実習施設と利用者の理解 (2)	テキストの該当箇所を読む
第6回 実習計画の作成 (1)	発表資料を作成し、発表の準備をする
第7回 実習計画の作成 (2)	テキストの該当箇所を読む

第8回	プライバシー保護と守秘義務・三者協議の留意点 実習記録の書き方	テキストの該当箇所を読む
第9回	利用者とのコミュニケーション（介護技術・実習生のマナー）	テキストの該当箇所を読む
第10回	事前学習報告会	発表資料を作成し、発表の準備をする
第11回	実習の振り返り（1）	実習日誌を読み返しておく
第12回	実習の振り返り（2）・実習報告書の作成	実習の振り返りシートを作成する
第13回	SW実習Ⅱガイダンス/希望調査票について（説明）/実習分野に関する基本的な理解（社会保障・貧困に対する支援分野）	テキストの該当箇所を読む
第14回	実習分野に関する基本的な理解（地域福祉と包括的支援体制分野/保健医療と福祉分野）	テキストの該当箇所を読む
第15回	実習報告会	実習報告会の資料を読む
第16回	3年生実習報告会への参加	実習報告会の資料を読む
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		